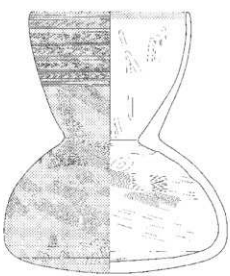
金沢市文化財紀要２９４

石川県 金沢市

直江北遺跡

―金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―



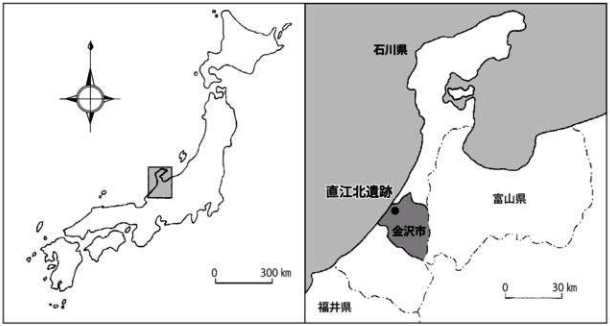
平成２６年３月
（２０１４年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

石川県 金沢市

直江北遺跡

―金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―



平成２６年３月
（２０１４年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

例　言

1．本書『直江北遺跡』は、石川県金沢市直江町地内に所在する直江北遺跡（新発見のため遺跡番号なし）の発掘調査を扱った報告書である。

2．本調査は金沢市副都心北部直江土地区画整理組合による土地区画整理事業に伴い、平成19年度から22年度にかけて金沢市が発掘調査を実施したものである。

3．現地調査は金沢市埋蔵文化財調査委員会（会長　橋本澄夫氏　谷内尾晉司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、平成19年度は谷口宗治（文化財保護課主査）、新出敬子（文化財保護課主査）、向井裕知（文化財保護課主任主事）が、平成20年度は新出、向井が平成21年度は前田雪恵（文化財保護課主任主事）、向井が、平成22年度は向井が担当した。

4．本書の執筆・編集は谷口、新出、向井と楠正勝（文化財保護課担当課長）が担当し、文責は目次および報文中に記した。第5章については(株)パレオ・ラボに分析を委託し、報文を得ている。写真撮影は遺物を景山和也（文化財保護課主査）が行い、遺構を各調査担当者、航空写真を(株)テクノマップ、日本海航測(株)が行った。

5．本書の各図及び写真図版の指示は以下のとおりである。

（1）方位は全て座標北である。座標は世界測地系（第Ⅶ系）に基づき設定している。

（2）各図の縮尺は、遺物は1/2・1/4・1/6、遺構は1/60が主であるが、各図に指示しているとおりである。

（3）遺物実測図の番号は図版単位に番号を付した。

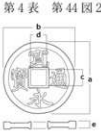
（4）遺構名の略号は、ＳＢ＝掘立柱建物、ＳＡ＝柵あるいは柱穴列、ＳＥ＝井戸跡、ＳＫ＝土坑跡、ＳＤ＝溝・川跡、ＳＸ＝落ち込み、などである。

（5）土器については「壺」・「甕」・「高杯」・「器台」などと表記するが、用途を示すのではなく、形態による分類で、「壺形土器」などの略称である。

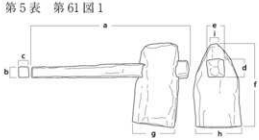
6．遺物観察表のうち下記遺物の法量測定箇所凡例は以下のとおりである。

第3表　第55図1

第4表　第44図24



第5表　第61図1



7．本調査での出土遺物、記録資料は金沢市埋蔵文化財センターで保管している。

目　次

第１章　報告の経緯

第１節　調査に至る経緯……1
第２節　発掘調査の経緯……2
発掘日誌抄……2

第２章　位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境……3
第２節　歴史的環境……（以上、新出）3

第３章　検出遺構

第１節　概要……9
第２節　平成 19 年度（2007 年）調査分の遺構について……9
第３節　平成 20 年度（2008 年）調査分の遺構について……18
第４節　平成 21 年度（2009 年）調査分の遺構について……21
第５節　平成 22 年度（2010 年）調査分の遺構について……（以上、谷口）24

第４章　出土遺物

第１節　平成 19 年度（2007 年）調査分……61
第２節　平成 20 年度（2008 年）調査分……66
第３節　平成 21 年度（2009 年）調査分……70
第４節　平成 22 年度（2010 年）調査分……（以上、楠・谷口・新出）73

第５章　自然科学分析

第１節　直江遺跡群出土木製品の樹種……174
第２節　鳥帽子および漆器皿の塗膜分析……176
第３節　木製品の樹種同定……180

第６章　総括……182

遺構平面図……189

写真図版

第１章　報告の経緯

第１節　調査に至る経緯

直江遺跡群は金沢市副都心北部直江土地区画整理事業（以下、直江土地区画整理事業）に伴いみつかった遺跡で、直江北遺跡、直江中遺跡、直江南遺跡、直江ボンノシロ遺跡、直江ニシヤ遺跡、直江西遺跡からなる。調査は平成 19 年～平成 22 年までの４カ年を要し、調査面積は 22,580㎡に及ぶ。これまでに３冊の報告書を刊行しており、今回の直江北遺跡で第４冊目となる。

遺跡の発見から発掘調査へ至るまでの経緯は以下のとおりである。

平成 17 年 10 月 21 日付け文書にて区画整理課長から同年 11 月 9 日開催の直江土地区画整理事業設立に向けた説明会への出席が依頼された。そこでは、大まかなスケジュール案が提示され、平成 18 年度の秋に埋蔵文化財試掘調査を実施し、範囲の確定と調査経費の積算を行い、本発掘調査は平成 19 年度からお願いしたいとのことであった。

平成 17 年 12 月 6 日に区画整理組合の設立準備会より埋蔵文化財の調査依頼が提出された。平成 18 年 4 月 11 日には区画整理課より同様の依頼があり、耕作が終了した 10 月からの着手を希望してきた。平成 18 年 10 月 12 日～同 26 日に試掘調査を実施した。この試掘調査によって、大半の対象地が終了し、直江北遺跡、直江中遺跡、直江西遺跡が確認されたが、一部未実施地区と詳細試掘調査が必要な箇所が残った。翌年の平成 19 年 10 月 15 日～同 16 日に試掘調査を実施し、直江ボンノシロ遺跡が新たに見つかった。その翌年の平成 20 年 10 月 14 日～同 15 日の試掘調査で、直江西、直江ニシヤ、直江ボンノシロ、直江南の各遺跡の範囲が確定した。

試掘調査の結果、明らかになった遺跡に関して、街路や仮設水路等の工事によって遺跡が損壊もしくは損壊と同等の状態になる箇所について、平成 19 年度から順次発掘調査を実施している。

なお、直江ニシヤ遺跡の東側は畑として利用されていたので、試掘調査は未実施である。

表１　直江遺跡群における発掘調査と報告書刊行の経緯

年次	遺跡名	発掘期間	原因	面積	担当者	報告書
平成 19 年度（2007 年）	直江北遺跡	2007.7.12～2007.12.6	区画整理	9,500㎡	谷口（宗）向井・新出	本書
平成 20 年度（2008 年）	直江北遺跡	2008.9.16～2008.12.19	区画整理	3,170㎡	向井 新出	本書
	直江中遺跡	2008.7.30～2008.12.8		2,830㎡		H23.3 刊行
平成 21 年度（2009 年）	直江北遺跡	2009.7.28～2009.12.9 2010.3.8～2010.3.17	区画整理	1,300㎡	前田 向井	本書
	直江中遺跡	2009.10.26～2009.12.9		1,680㎡		H23.3 刊行
	直江南遺跡	2009.7.7～2009.12.9		200㎡	向井	H24.3 刊行
	直江ボンノシロ遺跡	2009.7.13～2009.12.9		450㎡	前田 向井	
	直江ニシヤ遺跡	2009.7.14～2009.12.9		700㎡		
	直江西遺跡	2009.7.14～2009.12.9		300㎡		
平成 22 年度（2010 年）	直江北遺跡	2010.7.20～2010.10.18	区画整理	800㎡	向井	本書
	直江ボンノシロ遺跡	2010.10.15～2010.11.26		750㎡		H24.3 刊行
		2010.11.29～2010.12.24	公民館建設	900㎡		

（刊行済の報告書）

「直江中遺跡　金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ」　金沢市文化財紀要 266　金沢市　2011 年

「直江南遺跡・直江ボンノシロ遺跡・直江ニシヤ遺跡・直江西遺跡　金沢市副都心北部直江土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ」　金沢市文化財紀要 277　金沢市　2012 年

「直江ボンノシロ遺跡―鞍月文化会館くらら建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―」　金沢市文化財紀要 278　金沢市　2012 年

第２節　発掘調査の経緯

【発掘日誌抄】

平成19年度

7月12日　表土掘削開始（西側区　7/19まで）
7月24日　現地調査開始
8月　6日　表土掘削開始（東側区　8/8まで）
8月29日　第１回航空測量実施（西側区）
9月26日　表土掘削開始（支線区　10/11まで）
10月23日　第２回航空測量実施（西側区・東側区・支線区一部）
11月12日　埋蔵文化財調査委員会委員現場視察
11月29日　第３回航空測量実施（支線区）
12月　6日　撤収等、現地調査完了

平成20年度

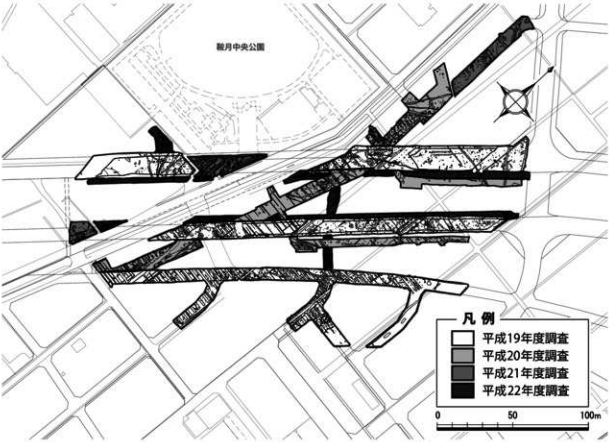
9月16日　表土掘削開始（東仮溝区　9/25まで）
9月18日　現地調査開始
10月　1日　表土掘削開始（仮水北区・西仮溝区）
10月　2日　表土掘削開始（仮水中区　10/6まで）
10月　7日　東仮溝調査終了・埋戻作業（10/8まで）
10月　8日　表土掘削開始（仮水南区　10/15まで）
10月20日　西仮溝区完掘・埋戻
11月12日　仮水北区　鳥帽子出土
11月27日　第１回航空測量実施　（仮水北区・仮水中区一部）
12月11日　第２回航空測量実施　（仮水中区・仮水南区）
12月19日　撤収等、現地調査完了

平成21年度

7月28日　調査区整備等作業（7/30まで）
8月　3日　表土掘削開始（1・2区　8/7まで）
8月17日　現地調査開始
10月　7日　第１回航空測量実施（1区）
10月10日　現地説明会開催
10月20日　埋戻（1区）
10月29日　表土掘削開始（3区　10/30まで）
11月13日　第２回航空測量実施（2・3区）
12月　9日　撤収
3月　8日　表土掘削開始（4区）
3月15日　遺構写真測量ポール撮影実施
3月17日　撤収等、現地調査完了

平成22年度

7月20日　表土掘削開始（5～8区　7/23まで）
7月27日　現地調査開始
8月23日　表土掘削開始（9・10区）
8月24日　表土掘削開始（11・18区）
8月31日　表土掘削開始（15区　9/7まで）
9月　7日　表土掘削開始（13・14区）
9月10日　埋戻（5・7区）、13区完掘
9月22日　表土掘削開始（16区　9/24まで）
9月27日　15区完掘
9月29日　埋戻（15区）
10月　1日　埋戻（9・10区）
10月　7日　12区完掘
10月18日　11区完掘、現地調査終了



第１図　年度別調査区割図

第２章　位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

石川県は南北に細長い県で、能登と加賀の地域から成り立っている。北と西は日本海に面し、東は富山県、南西は福井県、南東は岐阜県と接している。

金沢市は石川県の中央部に位置し、東は富山県小矢部市・南砺市に接し、西は日本海、南は石川県白山市・野々市市、北は河北郡内灘町・津幡町に接する。地形は犀川源流域にある標高1,644mの奈良岳や富山県と接する標高939mの医王山などの山地から、丘陵部を経て金沢平野の北部に広がり日本海に面している。また、市の北部には、かつて石川県最大の面積であった河北潟がある。（現在では、2／3が干拓され農地となっている。）

金沢平野は犀川を境として北部平野と南部平野に分けられる。北部平野は犀川、浅野川などによって形成された沖積平野で、一般に低湿で傾斜が緩やかであるため、古くから自噴地下水が各地でみられる地域となっている。一方、南部平野は手取川の扇状地北東端部にあたり起伏の多い地形となっている。

今回報告する直江北遺跡は北部平野の北西部にあり、海岸線から南東に約３㎞、大野川から南に約１㎞、浅野川から西に約800mの場所に位置する。土壌は湧水があり粘性が強い。遺跡周辺はかつて所々に地下水が自噴する環境に恵まれた地域で古くから集落形成に適しており、市内でも有数の遺跡密集地帯となっている。

第２節　歴史的環境

縄文時代　直江北遺跡の川跡から晩期の遺物がまとまって出土しているほか、直江中遺跡、直江ボンノシロ遺跡でも遺物が確認されている。

弥生時代　前期の遺跡数は少ないが、戸水Ｃ遺跡や南新保三枚田遺跡から土器が確認された。中期の遺跡としては直江北遺跡で土坑や溝から土器が出土している。直江ボンノシロ遺跡や直江西遺跡では川跡から遺物がまとまって出土しており、大友Ｅ遺跡からも川跡から遺物がみつかっている。平地式建物が検出された寺中Ｂ遺跡、戸水Ｂ遺跡のほか畝田遺跡もある。畝田西遺跡群では中期後半の土坑や井戸が広範囲でみつかった。また、西部地区の拠点的集落ともいえる西念・南新保遺跡では竪穴建物や掘立柱建物、土坑墓などが検出され、古墳時代初頭まで継続する。後期の遺跡としては直江北遺跡で溝の最深部から遺物がみつかっている。周溝を持つ平地式建物がみつかった桂町南遺跡、後期～古墳時代初頭にかけての多数の掘立柱建物や竪穴建物がみつかった大友西遺跡と戸水ホコダ遺跡があり、終末期に入ると遺跡の数は増加する。代表的な遺跡は、双頭龍文鏡と銅鏃が出土した無量寺Ｂ遺跡、終末期～古墳時代にかけての大溝から多くの土器や木製品とともに弧文板と玉杖形木製品が出土した畝田遺跡、南新保Ｄ遺跡がある。直江北遺跡、直江ボンノシロ遺跡や直江西遺跡でも弥生時代終末～古墳時代にかけての遺構や遺物が確認されている。

古墳時代　古墳時代初頭の遺跡では直江北遺跡でも遺物が出土しているほか、玉作り関連と考えられる集落がみつかった大友Ｆ遺跡がある。直江北遺跡や直江ボンノシロ遺跡、大友Ｅ遺跡では前期～中期にかけての集落跡が確認されている。直江西遺跡では前期の土坑、直江ニシヤ遺跡では中期の遺物が出土しており、畝田西遺跡群では溝で区画された複数の遺構群で構成される集落が検出された。戸水Ｃ遺跡ではこれまでに前方後方墳や方墳が30基もみつかり、今はほぼ消滅した金沢平野の古墳を考える上で重要な発見といえる。大友西遺跡からは匏貫円盤が出土しており、玉作りに関係した遺跡

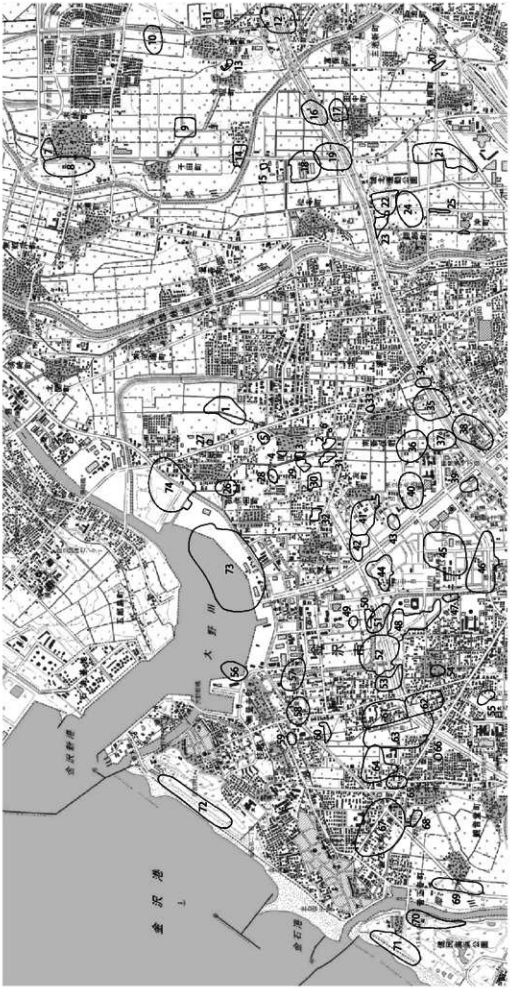
と推測される。中後期にかけては畝田西遺跡群がある。竪穴系建物や掘立柱建物群と倉庫や井戸、区画溝などが検出され、大量の土器、木製品などが出土した。西部地区における古墳時代中後期の中心的な集落といえる。

奈良・平安時代　8世紀代の直江北遺跡周辺は越前国加賀郡に属していた。海岸部の金石本町遺跡からは3×9間の大型建物や木簡、墨書土器が出土し、畝田・寺中遺跡では倉庫と考えられる建物群や川跡から袋文字の「人」をはじめとして「津」の墨書土器が大量に出土するなど、官衙的な港湾施設が想定される。9世紀に入り加賀国が立国すると官衙的な港湾施設が想定される戸水C遺跡をはじめ「宿家」の墨書土器が出土した戸水大西遺跡、「伯庄」「庄」などの墨書土器が出土した大友西遺跡など荘園関連と考えられる遺跡が増加する。直江北遺跡・直江ボンノシロ遺跡・直江西遺跡・直江ニシヤ遺跡からも遺物がみつかっている。大友E遺跡からは総柱建物跡がみつかったほか、川跡から大量の墨書土器（「井」、「依」、「大」など）が出土し、石帯や皇朝銭も出土していることから、公的な施設があったと考えられている。畝田ナベタ遺跡からは渤海との関係が窺われる帯金具が出土している。

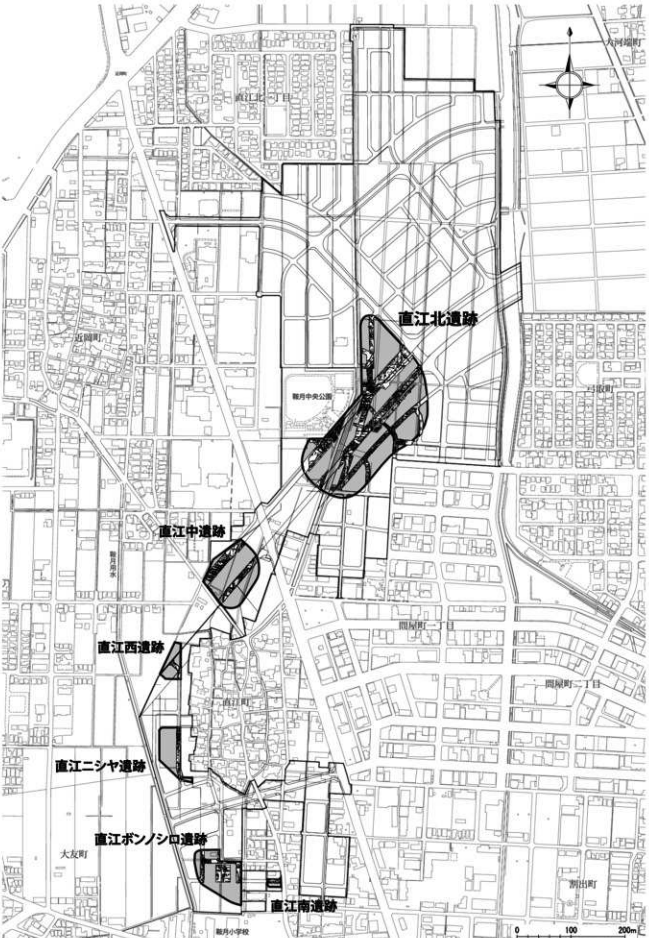
中世　中世では海岸部の普正寺遺跡があげられる。五輪塔や柿経、貿易陶磁が出土し、港湾施設が存在したと考えられる。畝田西遺跡群や畝田・寺中遺跡からは条里溝とその区画内に多数の掘立柱建物や井戸が検出され注目を集めている。直江北遺跡からは建物跡や烏帽子が出土した。直江南遺跡では13世紀前半～14世紀前半頃の井戸や竪穴遺構がみつかっている。直江ボンノシロ遺跡では川跡から遺物が出土しており、直江ニシヤ遺跡では鎌倉時代の井戸がみつかっている。直江西遺跡では鎌倉時代から南北朝時代頃の掘立柱建物、井戸、土坑、川などが、大友E遺跡では総柱建物跡と井戸がみつかっており、烏帽子も出土した。

〈参考文献〉

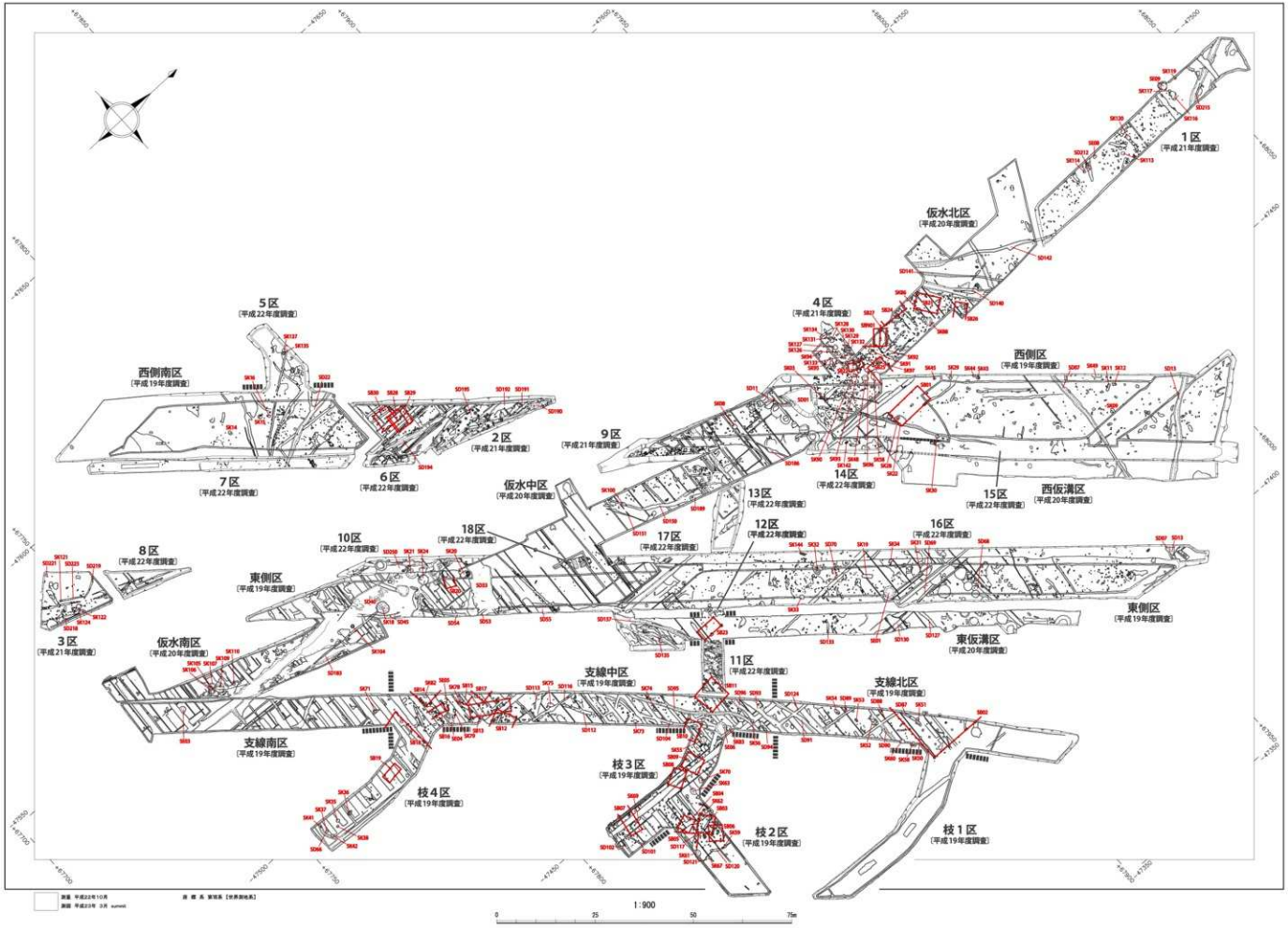
『金沢市史　資料編19　考古』1999　金沢市
『直江中遺跡』2011　金沢市埋蔵文化財センター
『直江南遺跡・直江ボンノシロ遺跡・直江ニシヤ遺跡・直江西遺跡』2012　金沢市埋蔵文化財センター
「桂遺跡」『石川県立埋蔵文化財センター年報　第5号』1985　石川県立埋蔵文化財センター
『金沢市寺中B遺跡』1991　石川県立埋蔵文化財センター
『畝田遺跡』1991　石川県立埋蔵文化財センター
『金沢市戸水B遺跡』1994　石川県立埋蔵文化財センター
『戸水C遺跡・戸水古墳群（第9次・10次）』2000　石川県立埋蔵文化財センター
『金沢市畝田西遺跡群Ⅲ』2006　石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』2006　石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
『金沢市畝田西遺跡群Ⅴ』2006　石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター



第２図　位置と周辺の遺跡（S=1/30,000）



第３図　金沢市副都心北部直江土地区画整理事業施工図と遺跡の範囲、調査位置図（S=1/7,000）



第4図　直江北遺跡　調査区全体図（S=1/900）

第３章　検出遺構

第１節　概要

本遺跡は４カ年かけて調査を実施している。調査の都合上、調査年度毎に遺構番号を設けてあるため、遺跡全体として通して番号は付与していない。同じ遺構番号が重複するため、調査年度毎に「建物・ピット」、「井戸・土坑」、「溝・川」と項目を立てて報告することとする。建物については「SB」・「SBN」、井戸及び土坑については「SE」・「SK」・「SX」、溝及び川跡については「SD」とそれぞれ表記した。なお、第４図に調査地点の名称と調査実施年度、および主要な遺構について図示した。

第２節　平成19年度（2007年）調査分の遺構について

平成19年度の調査は４カ年の調査のうち、調査面積が最も広範囲に及ぶ。将来高規格道路が予定されている部分の両側にある市道予定地点と緑地帯の西の道路部分の道路路線３本について調査を実施した。各調査区とも遺構は中央部分で密度が高く、東西の端にゆくにつれ希薄化する。支線北、中、南及び枝２区、３区は多数の遺構を検出し、総数は群を抜いて多い。東側区と西側区では南北方向で遺構が希薄であり、遺跡の縁辺を想起させるものであった。

(1)掘立柱建物・ピット

ＳＢ01（第５図）　西側区中央にて検出。梁行２間×桁行４間の総柱建物である。南側にSK22が切り合う。南側のP102とP109は綺麗に並ばないため、P103とP110を結ぶ線が建物の南に相当するとみることもできる。近隣の遺構が希薄であり、詳細な内容は不明である。なお、SB01は西側区で確認した唯一の建物跡である。

ＳＢ02（第６図）　支線北区にて検出。検出部位で５間×６間となる総柱建物である。P196からP212を結ぶ東側の柱列はもう一列内側のものと間隔がわずかに異なるため、庇である可能性が高い。北西部分が調査区外であるため、全体は不明であるが、堅田Ｂ遺跡のSB01のような中世の居館跡である可能性が高い。P208より白磁の梅瓶が出土している。

ＳＢ03（第５図）　枝２区にて検出。亀甲型を呈する布掘建物である。SB03よりSB11までは検出地点が近接し、ほかの溝や土坑なども多く確認されるなど、遺構が集中する地点であり、集落の中心域と想定される。調査時に西側柱列を柱列として認識し調査を行っているが、東側の柱列の様相から独立した柱ではなく、溝状に地山を掘り込む建物であることがわかる。調査時点で地山と掘削が可能である部分との見極めが困難であるほど、覆土は地山の影響を受けていたことがうかがわれる。P321およびP223は棟持柱とみなされる。弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての月影式期から白江式期の遺跡に類例をみることができる。

ＳＢ04（第７図）　枝２区にて検出。梁行２間×桁行２間の正方形状の建物である。西列であるP553、P238、P231の掘方が大きく、東列がやや小ぶりであるが、柱穴の深さは30cmから40cmとかなり深くまで掘られている。SB03と切合い、SB05・SB06なども近傍で確認されているほか、周囲に土坑や溝が集中する。正方形状の建物は弥生時代から古墳時代にかけての時期のほか、古代でも確認される建物であるが、近隣の遺物の出土状況から古墳時代前期の建物の可能性が高い。

ＳＢ05（第７図）　枝２区にて検出。P386とP185で直角が得られないが、梁行１間×桁行２間の側柱建物とみられる。P263とP185からは柱根の残欠が検出されており、腐食の状況が類似している。

ＳＢ06（第８図）　枝２区にて検出。２間×２間の正方形状の建物あるいは北東方向に更に伸びる側

柱建物である。P268 では先端がかなり腐食し細くなった柱根が残欠し、P257 では断面中に柱根の痕跡を見ることができる。SB03 と切合う。SB04 と規模が類似している。

ＳＢ07（第８図）　枝２区にて検出。梁行１間×桁行３間以上の側柱建物である。建物の軸線は東西にほぼ一致し、後述する SB08 などと軸線が大きく異なるほか、周辺の遺構も密度は高いものではない。枝２区の東側はゆるい落ち込みと化し、遺構は確認されていないため、遺跡あるいは集落の東限とみられる。柱穴の大きさと深さがばらばらで、北西角の柱が未検出であり、一見建物と判定し難い様相を呈する。P518 に柱根が残欠しており、P260 や P358 はかつて柱が存在ことを物語るような掘方を呈している。P518 は断面中に柱根の痕跡を見ることができる。SB05 と規模が近い。

ＳＢ08（第９図）　枝３区にて検出。梁行１間×桁行２間の側柱建物である。柱穴の上面形態は不定形であるが、大きく掘り込み、P556、P269、P506 で柱根が残存する。側柱建物とみなしたが、桁と梁の距離に大きな差異はなく、正方形状の建物に類する可能性がある建物と言える。

ＳＢ09（第９図）　枝３区にて検出。梁行２間×桁行３間の側柱建物である。SB08 の北西に位置し、建物の軸線もほぼ同じである。柱の掘方は SB08 同様かなりしっかりとした掘方を呈している。支線区中で確認された建物のうち、規模の大きな部類と言える。

ＳＢ10（第10図）　枝３区にて検出。梁行１間×桁行３間の側柱建物である。東の柱列のうち、２穴を欠く。

ＳＢ11（第10図）　支線中区及び 11 区にて検出。19 年度調査の時点で、検出された部位から、梁行２間×桁行３間の側柱建物と推定していたが、22 年度調査の図面をあわせて確認したところ、北西の柱列を確認した。４間×４間とかなり大きな規模の建物である。枝３区より 11 区に至る区間で SB08 から SB11 までの建物が列をなすように確認されている。これらの建物の軸線は磁北よりやや西に向きを持ち、非常に類似したものとなっている。また、この列の両側、特に支線中区では建物が全く確認されていないことから、この集落における建物の配置を想起させるものとなっている。周辺で出土する遺物は古墳時代前期初頭の土師器類が殆どを占めることから、これらの建物の帰属時期も当該時期であると推察される。

ＳＢ12（第11図）　支線中区にて検出。建物の南西角を検出しているものとみられる。検出部位では梁行１間以上×桁行３間以上となる。P285 及び P294 の断面中に柱根の跡が確認できる。建物の軸線は SB07 と同じく東西方向に有する。

ＳＢ13（第12図）　支線中区にて検出。梁行１間×桁行３間の側柱建物である。梁側が 2.1m であるのに対し、桁側が 7m と見た目が非常に細長い建物である。建物の軸線は北東方向に向きを持つため、19 年度に検出された建物のうち、同じようなものはない。SB12 から SB17 までは集中して分布しており、先に述べた SB08 をはじめとする建物群とは異なる一群を形成している。

ＳＢ14（第11図）　支線中区にて検出。南東角の３穴を確認している。建物の殆どが調査区外である。

ＳＢ15（第13図）　支線中区にて検出。南東角の４穴を確認している。P434 と P440 の成す角度は直角ではなく、ややひろがることから、亀甲型建物と類推される。

ＳＢ16（第13図）　支線中区にて検出。梁行１間×桁行２間以上の側柱建物とみられる。南側の桁部分の検出が不明瞭であるが、SB14 や SB17 と軸線がほぼ同一である。

ＳＢ17（第13図）　支線中区にて検出。南東角の３穴を確認している。柱穴の規模は大きく、規模の大きな建物の一部を検出したものとみることができる。柱穴の掘方は隅丸方形を呈し、SK76 では柱根の基部跡とみられる円形の落ち込みを確認している。古代の建物の柱穴の様相と非常に類似する

ものであるが、近隣では古代の遺物の出土が極めて希薄であるため、正確なところはわからない。

ＳＢ18（第14図）　支線中区と枝４区の交点にて検出。P141 から P247 に至る長さ７ｍの側柱建物とみられる。P247 と P262 で直角が得られないため、柵列の可能性がある。

ＳＢ19（第15図）　枝４区にて検出。梁行１間×桁行２間の側柱建物である。確認された掘立柱建物のうち最も南側に相当する建物である。軸線はほぼ真北をむき、支線中区で確認された建物群よりやや離れた位置にある。柱穴の掘方は小ぶりなもので、断面図中にも柱痕が確認されないため、様相がやや異なる建物である。

ＳＢ20（第15図）　東側区の南方にて検出。SD40 や SD33 などの規模の大きな河川に挟まれた地点で確認した。当初 SD36 と SD38 の個別の溝として調査を実施したが、溝の掘削過程で円形に落ち込み、異なる土色の土砂が混入することなどから、布掘建物の掘方と溝の掘方が重複しているものと判断し、土層にて確認を行い、建物であることがわかった。SB03 と比較すると小ぶりな布掘建物である。

(2)井戸・土坑

ＳＥ01（第15図）　東側区の北寄りにて検出。長軸３ｍ、短軸2.8ｍ、深さ0.8ｍを測る略円形を呈する土坑である。土層は大きく４層に分かれ、ほぼ水平堆積の様相を呈する。井戸枠等を用いない、比較的浅い自然湧水による井戸の一種とみられる。類例として畝田・寺中遺跡の SE020 などがある。

ＳＥ03（第15図）　東側区南側にて検出。長軸1.8ｍ、短軸1.5ｍ、深さ0.7ｍを測る略円形を呈する土坑である。土層は大きく３層に分かれ、うち、第１層の貫入の度合いが大きい。薄く炭化物層を挟む。

ＳＥ05（第16図）　支線中区にて検出。長軸1.4ｍ、短軸1.3ｍ、完堀時の深さ1.0ｍを測る円形を呈する土坑である。縦板組の井戸枠を有する。掘方は円筒形に掘られ、井戸の枠の規模と合致する。

ＳＥ06（第16図）　東側区南側にて検出。SK83 と切合う。SK83 を含む長軸4.0ｍ、短軸3.5ｍ、深さは1.5ｍまで確認した、掘方の規模が大きい不定形を呈する土坑である。半裁した刳り貫きの井戸枠材２点からなる井戸枠を有し、２段埋められている。枠内の土砂は単層であるのに対し、枠外の土砂の堆積状況から、掘削が数次にわたっていることがわかる。土坑の東側に見られる水平堆積は SE01 の堆積状況に酷似しており、これに対して西側は大きく単層に掘り込まれている。状況から見る限りでは、井戸枠が設けられる以前は広く大きな自然湧水の井戸として利用されていたものと考えられ、次いで枠を設ける井戸に改修を行ったものであろう。

ＳＫ03（第17図）　西側区中央にて検出。上面形態は略円形で、長軸1.5ｍ、短軸1.4ｍ、深さ0.9ｍを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒色シルトの単層で、覆土中から平安時代の須恵器瓶類がまとまって出土している。

ＳＫ08（第17図）　西側区中央にて検出。長軸1.4ｍ、短軸1.2ｍ、深さ0.3ｍを測る略円形を呈する土坑である。覆土は黒色砂質土の単層で、土坑底に起伏がある。

ＳＫ09（第17図）　西側区中央にて検出。上面形態は楕円形で、長軸1.2ｍ、短軸0.9ｍ、深さ0.2ｍを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土を主堆積とする。

ＳＫ11（第17図）　西側区中央にて検出。上面形態は南北に長い長楕円形で、長軸2.1ｍ、短軸0.7ｍ、深さ0.4ｍを測る、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土とこれが地山と混ざり合う２層である。

ＳＫ12（第17図）　西側区中央にて検出。上面形態は歪んだ楕円形で、長軸1.2ｍ、短軸0.6ｍ、深

さ0.5mを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は2層に分かれ、炭化物を多く含む。

ＳＫ14（第17図）　西側南区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸0.8m、深さ0.7mを測る。断面形態が上部は浅い皿型で、下部が円筒形を呈する土坑である。覆土は5層に分かれ、第1層は炭化物を多く含む黒褐色シルトである。円筒形の掘方は、井戸に類似している。

ＳＫ15（第17図）　西側南区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.1m、深さ0.2mを測る土坑である。覆土は灰褐色粘質土の単層である。土坑の底に小さな落ち込みが残っている。

ＳＫ16（第17図）　西側南区にて検出。上面形態は三角形に近い楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が非常に浅い皿形を呈する土坑である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＫ18（第17図）　東側区南にて検出。上面形態は東西に長い楕円形を呈し、長軸3.5m、短軸3.0m、深さ0.6mを測り、断面形態が皿形を呈する土坑である。大型の土坑で、覆土はおおむね3層で、間層として砂質土が2層ほど確認できる。黒褐色粘質土及び同じ成分の砂質土中に土器が含まれる。SD40と切合う。SE01と内容が非常に類似している。

ＳＫ19（第17図）　東側区中央にて検出。上面形態は細長い長方形を呈し、長軸2.8m、短軸0.9m、深さ0.2mを測り、非常に浅い。断面形態が皿形を呈する土坑である。覆土は黄灰色粘質土と炭化物を含む黒褐色粘質土の2層である。

ＳＫ20（第18図）　東側区中央にて検出。上面形態が長楕円形を呈し、長軸2.5m、短軸1.7m、深さ1.1mを測る断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸枠が確認されている。井戸枠の下に礎板状に板材が四角くなるように並べられていた。土坑の中心より北側によった位置にある。覆土は上の3層の比率が高く、上より浅黄色粘質土、明緑灰色粘質土、緑灰色粘質土の順となる。

ＳＫ21（第18図）　東側区中央にて検出。半分が調査区外となる。上面形態が略円形を呈し、長軸3.0m、短軸は検出部位で1.5m、深さ0.8mを測り、断面形態が深い皿形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土で、掘方は箱形に近い逆台形を呈する。

ＳＫ22・ＳＫ28（第18図）　西側区にて検出。上面形態は歪んだ楕円形を呈し長軸3.0m、短軸2.2m、深さ0.2mを測り、断面形態が浅い皿型を呈する土坑である。覆土は黄灰色シルトと黒色シルトで構成される。SK18やSK21などと開口部の規模は同じであるが、深さに関してはSK09やSK19など小型の土坑の深さとほぼ等しい。SK28は切合う小型の土坑とみられる。

ＳＫ31（第18図）　東側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.3mを測る断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と地山が混入するものに区分される。

ＳＫ32（第18図）　東側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.6mを測る断面形態がやや深い逆台形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土と灰色粘質土とに区分される。

ＳＫ33（第18図）　東側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.3mを測る断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土は3層に区分され、上層より黒灰色粘質土、暗赤灰色粘質土、オリーブ黒色粘質土である。

ＳＫ35（第18図）　枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.5mを測る、断面形態が箱型を呈する土抗である。覆土は褐灰色粘質土とにぶい黄橙色粘質土で構成され、炭化物と縄文土器を含む特徴から枝4区中でも古い時期に帰属する土坑である。

ＳＫ36（第18図）　枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.6

mを測る。断面形態は上面が浅く皿形を呈し、下3分の2は円筒形を呈する土坑である。上面に炭化物を含む灰黄褐色粘質土が堆積する。下の覆土も灰黄褐色粘質土であるが炭化物はみられない。

ＳＫ37（第18図）　枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い箱型を呈する土坑である。覆土はにぶい黄橙色粘質土の単層である。

ＳＫ42（第19図）　枝4区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は灰黄褐色粘質土の単層である。

ＳＫ43（第19図）　西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土が土坑の中心を占め、土坑の周囲になるほど地山を多く含む傾向がある。

ＳＫ44（第19図）　西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は略円形を呈するとみられるが、切合いのため全体はわからない。長軸0.9m、短軸0.9m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土と灰黄褐色粘質土の2層で、土坑の周囲になるほど地山を多く含む傾向がある。SK43と内容が類似する。

ＳＫ45（第19図）　西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は歪んだ楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒褐色粘質土とこれに地山が混入するものとの2層に分かれる。

ＳＫ46（第19図）　西側区中央よりやや南側にて検出。上面形態は「くの字」に屈曲する長方形を呈し、土坑というより溝に近い形態である。長軸1.9m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。SD76と切合い、覆土は黒色粘質土の単層である。

ＳＫ47（第19図）　西側区中央よりやや南側にて検出。上面形態はいびつな輪郭を呈し、長軸1.3m、短軸0.7m、深さ0.2mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土の2層に分かれる。

ＳＫ48（第19図）　西側区中央にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.7m、短軸1.5m、深さ1.1mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は4層に分かれ、上部の黒色シルトは炭化物を多く含み、下部の黒色シルトでは植物遺体が多く観察される。土砂の堆積状況はほぼ水平堆積であり、先に述べた井戸の堆積状況と類似する。

ＳＫ50（第19図）　西側区中央よりやや北側にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.5m、深さ0.1mを測り、断面形態が箱型を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土と明黄褐色粘質土が縞状に堆積する様子が確認できた。

ＳＫ51（第19図）　支線北区にて検出。土坑というより溝に近い形態を呈し、長軸2.2m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る、断面形態が皿形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土とにぶい黄橙色粘砂質土の2層である。

ＳＫ52（第19図）　支線北区にて検出。上面形態はいびつな輪郭を呈し、長軸1.9m、短軸0.9m、深さ0.2mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土と浅黄橙色粘質土の2層に分かれる。

ＳＫ53（第19図）　支線北区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.5m、深さは東西でピークがありそれぞれ0.4mを測る。覆土は土器及び炭化物を含む褐灰色粘質土と西側の底に浅黄橙色粘質土に区分できる。

ＳＫ54（第19図）　支線北区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.7m、短軸0.9m、深さ0.1mを測り、断面形態が非常に浅い皿型を呈する土坑である。覆土は炭化物を多く含む黒褐色粘質土と

土坑底で地山を含む２層に区分される。

ＳＫ55（第19図）　支線北区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.6m、深さ1.0mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸とみられ、覆土は４層に分かれる。上面の炭化物を含む黒褐色粘質土の割合が高い。

ＳＫ56（第19図）　支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.4mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

ＳＫ58（第20図）　支線北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.5mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は暗褐色粘質土と炭化物を含む黒褐色粘質土の２層である。上部の堆積と下部の堆積状況が異なっている。

ＳＫ59（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は溝状を呈し、長軸2.5m、短軸0.5m、深さ0.2mを測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土を主とする。

ＳＫ60（第20図）　支線北区にて検出。上面形態は歪んだ楕円形を呈し、長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.7mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土が複雑に絡み合う。

ＳＫ61（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.6m、深さ1.3mを測る断面形態が円筒形を呈する土坑である。井戸とみられる。

ＳＫ62（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は歪んだ略円形を呈し、長軸1.2m、短軸1.0m、深さ0.3mを測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は炭化物を含む黒色粘質土を主とする。

ＳＫ63（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は長楕円形を呈し、長軸1.9m、短軸1.4m、深さ0.8mを測る。断面形態が上部は広く皿形を呈し、下部は円筒形を呈する土坑である。井戸の一種と考えられる。覆土はレンズ状に堆積し、４層に分かれる。上面の黒色粘質土は炭化物を多く含む。

ＳＫ64（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は歪んだ長楕円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る。断面形態は上段で浅い皿形、下段で箱形を呈する土坑である。覆土は２層に分かれ、下部は地山である褐灰色粘質土の影響が生じている。

ＳＫ67（第20図）　枝２区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る、断面形態が逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土に区分される。

ＳＫ69（第20図）　枝３区にて検出。上面形態は方形に近い略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る、断面形態が浅い箱形を呈する土坑である。覆土は４層に区分される。

ＳＫ71（第20図）　支線南区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.8m、深さ0.3mを測る、断面形態が箱形を呈する土坑である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＫ73（第20図）　支線中区にて検出。上面形態は歪んだ略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る、断面形態が非常に浅い皿形を呈する土坑である。覆土は土器を含む黒色粘質土と地山にこれが混入したものの２層に分かれる。

ＳＫ74（第20図）　支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸は検出部位で0.6m、深さ0.2mを測る。断面形態は上面が浅い皿形、下方は椀形を呈する土坑である。覆土は黒色粘質土が椀形の部分を占め、浅い方では３層に区分される。

ＳＫ75（第20図）　支線中区にて検出。上面形態は歪んだ楕円形を呈し、長軸1.8m、短軸1.0m、深さ0.2mを測り、断面形態が浅い箱形を呈する土坑である。東側は切合いにより失われている。覆土は灰黄褐色粘砂質土の単層である。

ＳＫ77（第20図）　支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.6

mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は3層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の7割を占める。

ＳＫ78（第21図）　支線中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.7mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。覆土は3層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の5割を占める。

ＳＫ79（第21図）　支線南区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.6mを測る、断面形態が円筒形を呈する土坑である。SK78と類似する小型の井戸とみられる。覆土は黒色粘質土に浅黄橙色粘質土の混じる単層である。

ＳＸ02（第21図）　西側区中央にて検出。長方形を呈する規模の大きな土坑あるいは落ち込み状の遺構で、竪穴建物の可能性がある。長軸3.2m、短軸2.5m、深さ0.3mを測る。底面に柱穴は見られない。覆土は3層に区分される。

ＳＸ03（第21図）　西側区南にて検出。三角形状に広がりを見せる大きな落ち込みである。長軸2.8m、短軸1.8m、深さ0.3mを測る。覆土は3層に区分される。

ＳＸ04（第21図）　西側区南にて検出。三角形状に広がりを見せる大きな落ち込みである。長軸3.4m、短軸3.0m、深さ0.2mを測る。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質土とこれに地山が混入するものの2層に区分される。SX03と類似する。

ＳＸ06（第21図）　東側区北にて検出。いびつな形状を呈する浅い土坑である。土坑底に小さな穴が数カ所あるが、土坑に由来するものかわからない。覆土は黒褐色粘質土に地山の混入で二分される。

(3)溝・川

ＳＤ07（第25図）　西側区中央北にて検出。東西に展開する溝である。断面は逆台形を呈し、覆土は4層から5層に区分される。上面では黒色粘質土が堆積し、中程では炭化物を含む黄灰色シルトがあり、弥生時代中期後半の遺物を含む。集落の周囲に設けられた区画溝の一種とみられる。

ＳＤ08（第25図）　西側区中央北にて検出。断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

ＳＤ11（第25図）　西側区中央南にて検出。幅0.7m、深さ0.3mを測る、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は3層に区分される。

ＳＤ12（第25図）　西側区中央南にて検出。幅2.5m、深さ0.4mを測る、断面形態が椀形を呈する東西溝である。覆土は6層に区分される。

ＳＤ13（第25図）　西側区北にて検出。遺跡の北東端に位置する溝である。幅2.2m、深さ0.4mを測る東西溝である。覆土はオリーブ黒色シルトと黒褐色粘質土に炭化物と地山の混入の度合いにより11層に区分される。

ＳＤ15（第25図）　西側区中央南にて検出。SD16と切合い、中程で同化している。断面形態が箱形を呈し、覆土は2層に区分されるが、上層である黒色粘質土がSD15、下層の黒褐色粘質土がSD16の覆土とみられる。

ＳＤ18（第25図）　西側区北にて検出。幅0.5m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い三角形を呈する規模の小さな溝である。

ＳＤ22（第25図）　西側南区にて検出。幅1.2m、深さ0.2mを測る。断面形態が浅い皿形を呈する緩く蛇行する南北溝である。北側でSD23が分流する。

ＳＤ24（第25図）　西側南区にて検出。直角に曲がる幅0.5m、深さ0.1mを測る断面形態が皿形を

呈する区画溝とみられる。

ＳＤ25（第25図）　西側南区にて検出。幅は地点により異なるが、概ね0.3mから0.5m、深さ0.2mを測り、緩く円弧を描く小規模な溝である。溝底に小さな穴が列をなしている。平地式建物の壁溝である可能性が高い。

ＳＤ26Ａ（第25図）　西側南区にて検出。幅0.6m、深さ0.1mを測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は地山の混入する黒褐色粘質土の単層である。

ＳＤ26Ｂ（第25図）　西側南区にて検出。幅0.5m、深さ0.3mを測る、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は５層に区分される。

ＳＤ27Ａ（第25図）　西側南区にて検出。幅0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する東西溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒色粘質土が地点により異なって検出されている。

ＳＤ27Ｂ（第25図）　西側南区にて検出。幅0.3m、深さ0.1mを測り、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は地山の混入する黒色粘質土の単層である。

ＳＤ28（第25図）　西側南区にて検出。幅0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い箱型を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰色粘質土と褐灰色粘質土及び地山の混入する３層に区分される。

ＳＤ29（第25図）　西側南区にて検出。幅0.2m、深さ0.1mを測り、断面形態が逆台形を呈する非常に小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＤ30（第25図）　西側南区にて検出。幅0.6m、深さ0.2mを測り、断面形態が椀形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰色粘質土とこれに地山が混入する２層である。

ＳＤ33（第25図）　東側区にて検出。幅5.5m、深さ0.7mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の大きな溝である。東西方向にあるとみられるが、支線区や６区で延長部分は確認されていない。覆土は流域中央で５層に区分される。

ＳＤ40（第27図）　西側南区にて検出。幅約15m、深さ0.8mを測る規模の大きな川である。19年度調査では、調査区の端から端まで大きく落ち込み、南北方向に流れるとみられた。20年度調査の仮水南区で上流部分が確認され、幅約８mの河川であることが分かり、19年度調査地点は川が広がる部分であることが明らかとなった。遺構検出時は黒色粘質土と地山の混ざる範囲が著しく広く、地山が汚れているような感があった。上層面検出段階で縄文土器や古墳時代前期の土師器が露出し、遺物の量が相当あるものとみられた。最下層では湧水が激しく、川が埋没した現在でも水脈として機能していた。縄文土器は下層から多く出土する傾向にあった。

ＳＤ41（第25図）　西側南区にて検出。幅0.6m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒色粘質土の単層である。

ＳＤ42（第25図）　東側区北にて検出。幅0.4m、深さ0.2mを測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

ＳＤ43（第25図）　東側区北にて検出。幅0.4m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土とこれに地山が混入する２層である。

ＳＤ45・ＳＤ46（第26図）　東側区南にて検出。SD45にSD46が切合う。覆土はあわせて８層に区分される。

ＳＤ53（第26図）　東側区南にて検出。幅0.5m、深さ0.3mを測り、断面形態がやや深い箱形を呈する小規模な溝である。覆土は灰黄褐色粘質土、黒色粘質土、褐灰色粘質土の３層に区分される。

ＳＤ54（第26図）　東側区南にて検出。地点により幅や深さが異なる溝である。最も深い地点では幅0.7m、深さ0.6mを測り、断面形態が逆台形を呈する。覆土は５層に区分される。

ＳＤ55（第26図）　東側区南にて検出。地点により幅や深さが異なる溝である。最も深い地点では幅0.7m、深さ0.5mを測り、断面形態は上層面で浅い箱型を呈し、下は円筒形に深い。覆土は4層に区分される。うち3層は上層面の浅い部分に水平堆積している。

ＳＤ66（第26図）　枝4区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土に炭化物の含有量で2層に区分される。

ＳＤ69（第26図）　東側区北にて検出。幅0.6m、深さ0.2mを測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は暗褐色粘質土の単層である。

ＳＤ70（第26図）　東側区北にて検出。幅1.0m、深さ0.2mを測り、断面形態が浅い逆台形を呈する溝である。覆土は赤灰色粘質土の単層である。

ＳＤ75（第26図）　西側区中央南にて検出。幅0.6m、深さ0.2mを測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒色砂質土の2層に区分される。

ＳＤ84（第26図）　支線北区にて検出。幅1.0m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土に炭化物の含有量によって8層に区分される。

ＳＤ85（第26図）　支線北区にて検出。幅0.6m、深さ0.2mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色シルトと灰黄褐色砂礫土の2層に区分される。

ＳＤ86（第26図）　支線北区にて検出。幅0.2m、深さ0.1mを測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＤ87（第26図）　支線北区にて検出。幅0.5m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は土器を含むにぶい黄褐色粘質土の単層である。

ＳＤ88（第26図）　支線北区にて検出。幅0.6m、深さ0.3mを測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色シルトに炭化物の含有量によって2層に区分される。

ＳＤ89（第26図）　支線北区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土と黒褐色粘質土の2層に区分される。

ＳＤ90（第26図）　支線北区にて検出。SD88と交差する。幅1.2m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色シルト、灰黄褐色砂質土、黒褐色シルトの3層に区分される。黒褐色シルトは炭化物の含有量によってさらに分層される。

ＳＤ91（第26図）　支線北区にて検出。幅1.4m、深さ0.3mを測り、断面形態が箱形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土が3層に区分される。

ＳＤ92（第26図）　支線北区にて検出。幅0.2m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトの単層である。

ＳＤ93（第26図）　支線中区にて検出。幅約5m、深さ0.4mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の大きな溝である。覆土は黒色粘質土、暗褐色粘質土、灰黄褐色粘質土など7層に区分される。

ＳＤ95（第27図）　支線中区にて検出。幅0.7m、深さ0.5mを測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＤ97（第27図）　支線中区にて検出。幅1.2m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層で、SD98・SD104と切合う。

ＳＤ98（第27図）　支線中区にて検出。幅0.5m、深さ0.3mを測り、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

ＳＤ101（第27図）　枝3区にて検出。幅0.3m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルト、黄灰色シルトの2層に区分される。

ＳＤ102（第27図）　枝３区にて検出。幅0.3m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトとこれに地山が混入するものの２層に区分される。

ＳＤ104（第27図）　支線中区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土、褐灰色粘質土の２層である。

ＳＤ111（第27図）　支線中区にて検出。幅0.5m、深さ0.2mを測り、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒色粘質土とこれに地山が混入するものにより２層に区分される。

ＳＤ112（第27図）　支線中区にて検出。幅1.0m、深さ0.3mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は地点により様相が異なるが、黒色粘質土、黒褐色粘質土などがある。

ＳＤ113（第27図）　支線中区にて検出。幅1.1m、深さ0.1mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒色粘質土と灰黄褐色粘質土に地山が混入するものにより２層に区分される。

ＳＤ74（ＳＤ115）（第27図）　支線南区にて検出。幅0.4m、深さ0.1mを測り、断面形態が椀形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土の単層である。

ＳＤ116（第27図）　支線中区にて検出。幅0.8m、深さ0.2mを測り、断面形態が箱形を呈する規模の小さな溝である。覆土は褐灰色粘質土とこれに地山が混入するものにより２層に区分される。

ＳＤ122・ＳＤ123（第27図）　支線中区と枝３区にまたがる地点にて検出。幅の大きなSD123にSD122が切合う。幅1.2m、深さ0.3mを測り、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土はSD122が黒褐色シルト、SD123が黒褐色シルトに炭化物が混入する。

第３節　平成20年度（2008年）調査分の遺構について

平成20年度の調査は19年度の調査地点に対して交差するような形となっている。主に道路予定地点に対する埋蔵文化財調査であることから調査区の形状は長方形を呈している。19年度の調査地点をまたぐことから、大きく３ヶ所に分かれることとなり、北から順に「仮水北区」「仮水中区」「仮水南区」とした。仮水南区は遺構密度が高く、前年度調査した支線に隣接する地点は前年同様かなりの密度となっている。仮水北区と仮水南区では遺構が希薄である。

(1)掘立柱建物・ピット

ＳＢ21（第28図）　仮水北区にて検出。梁行２間×桁行３間の側柱建物である。東にSB26が位置する。東西方向に軸を有する建物でこれより北側で建物は確認されていない。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていなかった。

ＳＢ22（第28図）　仮水北区にて検出。梁行１間×桁行２間の側柱建物である。東の柱列はやや小ぶりな掘方を呈しているが、西側は掘方が大きい。P678・P595・P695には柱痕が土坑底に観察でき、P595の上面形態は隅丸方形を呈している。

ＳＢ23（第29図）　仮水北区にて検出。調査区端にて確認した梁行１間×桁行３間の側柱建物である。東側の柱列は大きく、くずれた隅丸方形に近い様相を呈する。深さも0.3mと浅く、柱痕や礎板等は見られない。P568では柱根が残っていたが柱列よりやや外側にある。梁幅に対し桁幅が長く、南北に細長い建物となっている。

ＳＢ24（第29図）　仮水北区にて検出。SB21とSBN01の間に位置する。建物西側は調査区外で、東の柱列を３間にわたり確認した。柱穴の掘方は略円形を呈し、深さは0.5mを測り、ほぼ均等である。P583では土層断面中に柱痕とみられる落ち込みを確認できる。

ＳＢ25（第29図）　仮水北区にて検出。建物の東側は調査区外であるが、梁行２間×桁行２間以上

の側柱建物である。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていなかった。

ＳＢ26（第30図）　仮水北区にて検出。建物の南側は調査区外であるが、梁行１間×桁行２間以上の側柱建物、あるいは正方形状の建物とみられる。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小があり、礎板、柱根は残っていなかった。

ＳＢ27（第30図）　仮水北区にて検出。建物の西側は調査区外であるが、梁行１間以上×桁行２間以上の側柱建物である。柱穴の形状は略円形を呈し、掘方、深さに大小がある。

ＳＢＮ01（第30図）　仮水北区にて検出。SB27と切合う。東側の柱列は全体が調査できたため、約4mの桁行をもつ建物とみられる。覆土は黒色粘質土と地山の塊が絡み合い、複雑な様相を呈している。

(2)井戸・土坑

ＳＫ86（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.5m、短軸1.3m、深さ0.4mを測り、断面形態が箱形を呈する土坑である。土坑上面と底面で幅に差がある。覆土はおおむね２層に区分され、上層が黒褐色シルト、下層に黒色砂質土、下層に黒褐色シルトが堆積している。

ＳＫ87（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は略方形を呈し、長軸1.4m、短軸1.1m、深さ0.4mを測り、断面形態が逆台形を呈する土坑である。土坑底に凹凸がある。覆土は黒色粘質土に灰黄色砂質土が混入する単層である。

ＳＫ88（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は楕円形を呈し、長軸2.0m、短軸1.6m、深さ0.5mを測り、断面形態が椀形を呈する土坑である。覆土は４層に区分され、上層である黒色粘質土が全体の５割を占める。下層は灰黄色粗砂に地山が混入するもので区分される。

ＳＫ89（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は東西に細長い長楕円形を呈し、長軸2.9m、短軸1.1m、深さ0.1mを測り、断面形態がきわめて浅い皿形を呈する土坑である。落ち込みの一種とみられる。覆土は５層に区分され、２層である黒褐色シルトには炭化物が多く混入している。

ＳＫ90（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸1.0m、深さ0.9mを測る。断面形態が上層で椀形を呈し、土坑中程より円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒褐色粘質土と黒色シルトによりおおむね２層に区分される。

ＳＫ91（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.6mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒褐色シルトとこれに地山が混入するものにより２層に区分される。

ＳＫ92（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は長方形を呈し、長軸3.0m、短軸1.5m、深さ0.6mを測り、断面形態が箱形を呈する大型の土坑である。土坑の北と西の肩部分に段差があり、北側では縦板が残っていた。縦板はほぼ垂直に埋まっている。井戸枠と見ることもできるが、板で四周を囲った浅い水溜場かもしれない。覆土は上層に灰黄褐色粘質土、下層に黒褐色砂質土が堆積する。堆積状況は場所により起伏がある。

ＳＫ93（第31図）　仮水北区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.7mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。小型の井戸とみられる。覆土は黒色粘質土、黒色シルト、灰色シルトの３層に区分される。

ＳＫ100（第31図）　仮水中区にて検出。上面形態は略円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.6mを測り、断面形態が円筒形を呈する土坑である。SK78と類似する小型の井戸とみられる。覆

土は4層に区分されるが、上層に炭化物を含む黒褐色粘質土が薄く堆積し、下層は黒色粘質土である。

ＳＫ104（第31図）　仮水南区にて検出。上面形態は円形を呈し、長軸、短軸ともに0.7m、深さ0.3mを測り、断面形態がいびつで凹凸のある逆台形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土とこれに炭化物を含むものの2層に区分される。

ＳＫ105・106・107・108・109（第32図）　仮水南区にて検出。円形の土坑が集中する。輪郭が判明しているものはSK106・SK107・SK109で、調査区の南東壁に接しているため規模がわからないものとしてSK105・SK108がある。この土坑群周辺の土壌はSD40に合流するSD183の埋没域にあり、砂を多く含むため、土坑に堆積した粘質土やシルト質の覆土を際立たせている。SK107とSK108ではSK107が古いことが土層の切合いにより確認できる。SK105は最下層が椀形に落ち込み、おおむね3層に区分される。SK106は深い椀形を呈し、覆土も中心がやや深く円錐状に堆積する傾向がある。SK107は深く箱型に落ち込み、覆土は複雑な様相を呈している。SK108は上層2層が薄い皿形を呈し、下層が厚く堆積している。SK109はこの土坑が集中する一角にあるもののうち、最も規模が大きい。上面形態は略円形を呈し、大きく箱形に落ち込み、起伏の少ないほぼ水平堆積に近い状況を呈している。覆土は炭化物の混入やシルト、砂などがそれぞれに影響し合い、細かく細分される。縄文時代の土坑の機能としては廃棄・動物の捕獲・堅果類の貯蔵などが知られているが、今回検出した土坑は前述の機能と合致、あるいはその痕跡をとどめるものがなく、SK108の上層のように水が一定期間滞留して土砂が堆積したものや、SK106のように井戸の堆積状況と類似する様相などから、水を得るために開口させた井戸のような機能を有する土坑とみることができる。

(3)溝・川

ＳＤ40（第33図）　仮水南区にて検出。南北に流れる河川である。19年度調査の東側区で検出したSD40の上流部分である。北の下流側では幅が大きく広がるが上流側の南では幅が狭くなっている。調査区西壁方向よりSD137が合流している。覆土のうち、灰黄褐色粘質土の層は縄文土器を多量に含むため、縄文時代にはすでに開口していたと考えられる。川の左岸側に土器類が多く出土する傾向がある。

ＳＤ135（第33図）　東仮溝区にて検出。19年度調査の東側区と支線中区の間に設けた調査区に位置する。この調査区は東西溝が複数流れており、SD135はその中で中心に位置する溝である。19年度調査のSD93あるいはSD124と同一の可能性がある。幅は広い地点で3.0m、深さ0.4mを測り、断面形態は皿形を呈する。覆土は黒褐色粘質土、黄灰色シルトとこれに地山が混入するものにより3層から5層に区分される。

ＳＤ137（第33図）　東仮溝区にて検出。SD135と同じような方向に流れる東西溝である。幅1.0m、深さ0.5mを測り、断面形態が逆台形を呈する。覆土は黒褐色粘質土とこれに炭化物を含むもの、黒色粘質土、地山の混入するものなどにより3層から5層に区分される。

ＳＤ140（第33図）　仮水北区にて検出。SD140より北にSD141・SD132と並んで検出している。幅は広い地点で4.5m、深さ0.4mを測る断面形態が箱形を呈する溝である。覆土は5層から7層に区分される。部分的に再掘削の痕跡が確認できる地点もあった。

ＳＤ141（第33図）　仮水北区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測る、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土と暗灰黄色粘質土の2層に区分される。

ＳＤ142（第33図）　仮水北区にて検出。幅1.3m、深さ0.3mを測る、断面形態が椀形を呈する溝である。覆土は黄灰色粘質土を主堆積とする3層に区分される。

ＳＤ143（第33図）　仮水北区にて検出。幅1.2m、深さ0.6mを測り、断面形態は上部が広く、下部が逆台形を呈する。覆土は上部が3層に区分され、下部は黒色シルトを主堆積とする4層に区分される。

ＳＤ150（第33図）　仮水中区にて検出。南西から北東方向にかけて蛇行する幅3.0m、深さ0.5mを測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒色粘質土と黒褐色粘質土とこれに地山の含有率により分層されるもので5層に区分される。

ＳＤ151（第33図）　仮水中区にて検出。幅0.5m、深さ0.1mを測る、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰黄褐色粘質土とにぶい黄橙色粘質土の2層に区分される。

ＳＤ152（第33図）　仮水中区にて検出。幅1.3m、深さ0.2mを測る、断面形態が浅い皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は灰黄褐色粘質土とにぶい黄橙色粘質土の2層に区分される。

ＳＤ183（第22図）　仮水南区にて検出。幅2.4m、深さ0.3mを測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。断面図から川底は2箇所に分かれていることが確認できるため、再掘削を行っているとみられる。覆土は褐灰色粘質土と灰黄褐色砂質土により3層に区分される

第4節　平成21年度（2009年）調査分の遺構について

平成21年度の調査は、水路の付け替えが予定されている箇所及び区画道路地点に対して実施した。1区から4区までの調査区を設定した。1区は平成20年度の仮水北区のさらに北側へ延びる調査区となり、水路及び道路部分が該当する。2区は平成19年度の西側南区の北部分で、鞍月運動公園の駐車場入り口部分に相当する。3区は平成19年度東側区からさらに南に離れた地点である。2区、3区とも市道が予定されている地点である。4区は平成19年度の西側区に接する地点で水路が予定されている地点である。

(1)掘立柱建物・ピット

ＳＢ28（第34図）　2区にて検出。梁行2間×桁行2間の正方形状建物である。柱穴の掘方は略円形を呈し、大きさにばらつきがある。南側の柱列のうち、南西角のピットと隣接するピットの土層断面では柱痕が確認できる。調査時点ではSB05としていたものである。

ＳＢ29（第34図）　2区にて検出。梁行2間×桁行2間の正方形状建物である。SB28と同じ地点であり、かつ規模や軸線も同じであることから両者は建て替えの関係にあるとみられる。P7の土層断面では柱痕が確認できる。相違点としてSB29にはSB28には見られない建物中心の柱がある。調査時点ではSB06としていたものである。

ＳＢ30（第34図）　2区にて検出。梁行2間×桁行2間の正方形状建物である。SB28・SB29と切合い、かつ規模や軸線も前者と類似する。事後の図面調査により判明した建物である。

(2)井戸・土坑

ＳＥ08（第35図）　1区にて検出。長軸1m、短軸0.7m、深さ0.4mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は2層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、円筒形に掘り込む形態から、井戸と判断した。

ＳＥ09（第35図）　1区にて検出。調査区の端で見つかったため、調査箇所を拡張したものである。長軸1.8m、短軸1.5m、深さ0.7mを測る円形を呈する土坑である。掘方は上段が広がりを見せるが、ほぼ円筒形に掘られ、覆土は2層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、SE08と同様に

円筒形に掘り込む形態から、井戸と判断した。

ＳＫ111（第35図）　２区にて検出。長軸0.7m、短軸0.6m、深さ0.2mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は浅く円筒形に掘られ、覆土は２層に分かれる。黒褐色粘質土に炭化物を含む。

ＳＫ112（第37図）　２区にて検出。長軸0.5m、短軸0.5mを測る、上面形態が略円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は２層に分かれる。

ＳＫ113（第35図）　１区にて検出。長軸0.9m、短軸0.8m、深さ0.1mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は２層に分かれる。黒色粘質土及び黒褐色粘質土に地山の混入が確認される。

ＳＫ114（第35図）　１区にて検出。長軸0.7m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は逆三角形に掘られ、覆土は３層に分かれる。逆三角形型の掘り込みを有する土坑はほかになく、第１層及び第２層の灰褐色粘質土に炭化物を含むなどの特徴がある。

ＳＫ115（第35図）　１区にて検出。長軸0.9m、短軸0.6m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く皿形に掘られ、覆土は２層に分かれるが、粗砂の混入と地山の混入割合で区分しており、本来的には単層と考えられる。

ＳＫ116（第35図）　１区にて検出。SE 09の東側に位置する。長軸2.5m、短軸1.5m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な長楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く皿形に掘られ、覆土は地山の小塊及び炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

ＳＫ117（第35図）　２区にて検出。長軸0.8m、短軸0.7m、深さ0.3mを測る、上面形態略方形を呈する土坑である。掘方は箱形に掘られ、覆土は黒色粘質土の単層である。

ＳＫ119（第35図）　１区にて検出。長軸0.7m、短軸0.4m、深さ0.2mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑であるとみられるが、半分が調査区外のため、詳しい形態はわからない。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は２層に分かれる。第１層の黒色粘質土及びには炭化物を含む特徴がある。

ＳＫ120（第35図）　１区にて検出。長軸1.5m、短軸１m、深さ0.2mを測る、上面形態長方形を呈する土坑である。掘方は浅く皿形に掘られ、覆土は２層に分かれる。黒色粘質土及び黒褐色粘質土に地山の混入が確認される。

ＳＫ121（第35図）　３区にて検出。長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.3mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は溝と切り合うため本来の形はわからないが、円筒形に掘られていたとみられる。覆土は下層の部分を確認しており、黒色粘質土に地山の混入が確認された。

ＳＫ122（第35図）　３区にて検出。長軸1.8m、短軸0.9m、深さ0.4mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑であるとみられるが、半分が調査区外のため、詳しい形態はわからない。掘方は箱形に掘られ、覆土は２層に分かれる。第１層の黒褐色粘質土に地山の混入が確認される部分を第２層とした。

ＳＫ123（第35図）　３区にて検出。長軸4.5m、短軸1.2m、深さ0.1mを測る、上面形態不定形な長楕円形を呈する土坑である。掘方はきわめて浅く、溝に近い形態を呈する。中央部分で１段落ち込みがある。覆土は地山の小塊及び炭化物を含む黒色粘質土の単層である。

ＳＫ124（第35図）　３区にて検出。溝状に延伸する部分も含めた長軸2.6m、短軸は溝状の部分で0.4m、円形の土坑部分で1.3m、深さは溝状の部分で0.2m、土坑部分で0.6mを測る。土坑部分の掘方は円筒形に掘られ、覆土は４層に分かれる。

ＳＫ126（第35図）　４区にて検出。長軸1.1m、短軸0.7m、深さ0.5mを測る、上面形態楕円形を呈する土坑である。掘方は上段が広がりを見せ、最下段は１段段差があり、覆土は３層に分かれるが、

本来は黒褐色砂質土と暗灰黄色細砂の２層から構成され、最下層は地山に相当するものと思われる。

ＳＫ127（第35図）　４区にて検出。長軸1.3m、短軸1.2m、深さ0.5mを測る、上面形態略円形を呈する土坑である。掘方は円筒形に掘られ、覆土は３層に分かれる。井戸枠等は確認されていないが、円筒形に掘り込む形態から、SE08やSK128などと共に井戸と考えられる。

ＳＫ128（第35図）　４区にて検出。長軸1.3m、短軸１m、深さ0.7mを測る、上面形態略円形を半分に割ったような形状を呈する土坑である。掘方は深く円筒形に掘られ、覆土は３層に分かれる。黒色シルト及び灰褐色砂の互層を呈している。

(3)溝・川

ＳＤ190・ＳＤ191（第36図）　２区にて検出。南北方向に流れる溝であるが、SD190は調査区の外に広がりをみせる。SD190はSD191およびSD192、SD195と切合い、複数の溝が錯綜する状況を呈している。SD190は断面形態が深い逆台形の掘方を呈し、炭化物を含む黒褐色粘質土を中心とした溝で、部分的に砂を含む細層がみられる。SD191はSD190に比べやや小ぶりな溝で、断面形態は浅い逆台形を呈し、覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土の上下に区分され、ともに炭化物を含む。両者の新古は土層の確認によりSD190の上部をSD191の上層が切っているため、SD190廃絶後にSD191が機能したと考えられる。

ＳＤ192（第36図）　２区にて検出。SD191やSD195と重複する川あるいは浅い落ち込みと考えられる遺構である。比較的浅い川で深さは最深部で0.3m程度を測る。覆土は地点により様相が異なるが、黒褐色砂質土に炭化物と砂の含有量で区分される。SD195と合流する地点の土層観察では両者の覆土が同一で、区分できないことから、SD192がSD195の支流の可能性がある。

ＳＤ194（第36図）　２区にて検出。調査区を斜めに横断する溝であるが、ほぼ南北の軸線に沿うため、SD195とは角度が異なる。SD195と重複する。川幅が約1.5mを測り、断面形態は地点によって浅い逆台形と皿形を呈するなど一様ではない。深さは最深部で0.3m程度を測る。覆土は地点により様相が異なるが、黒褐色粘質土と灰褐色粘質土に区分され、それぞれ炭化物を含む。

ＳＤ195（第36図）　２区にて検出。調査区を斜め方向に横断する、川幅が約４mを測る川である。断面形態が深い逆台形の掘方を呈し、最深部は0.6mを測る。覆土は黒褐色粘質土及び黄灰色粘質土を基本とし、その中に含まれる炭化物と砂の含有量で区分される。SD190やSD192と切合っており、SD192とは合流が考えられ、SD190とは新古の関係でSD190が古いことが土層の観察によりうかがわれる。また、調査区の南端で、炭化物が集中している地点が確認されている。

ＳＤ204・ＳＤ205（第37図）　２区にて検出。調査区の西壁より現れ、SD194に直角に合流する溝である。SD203を横断するところから同化して一つの溝となっている。SD194とあわせ、方位に沿った区画溝とみられる。

ＳＤ207（第37図）　２区にて検出。調査区の南端に位置し、方位に沿った小規模な溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は２層に区分される。

ＳＤ211（第37図）　１区にて検出。調査区の最南端に位置し、平成20年度調査で確認したSD142の延長部分となる溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は２層に区分される。

ＳＤ212（第37図）　１区にて検出。調査区の西壁より現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。断面形態はきわめて浅い皿形を呈し、覆土は２層に区分される。

ＳＤ213（第37図）　１区にて検出。SK210と隣接し、溝というよりは細長い土坑といえる。断面形態はきわめて浅い箱形を呈し、覆土は２層に区分される。

ＳＤ214（第37図）　1区にて検出。調査区中央を横断する溝で、断面形態は浅い箱形を呈し、覆土は2層に区分される。東西の方位と合致する。

ＳＤ215（第37図）　1区にて検出。調査区の最も北に位置し、当遺跡の北限にあたる溝である。溝幅が約1.5m、断面形態は逆台形を呈し、最深部は0.5mを測る。かなりしっかりと掘削している。

ＳＤ216（第37図）　1区にて検出。調査区の西壁から現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。図中ではSD215に隣接し、合流しない様相を呈するが、断面で確認すると非常にわずかではあるが合流が確認される。

ＳＤ217（第37図）　1区にて検出。溝幅が約0.8m、断面形態は箱形を呈し、深さは0.1mを測る溝である。

ＳＤ218（第37図）　3区にて検出。調査区の最も南に位置する溝である。溝幅が約1m、断面形態は浅い皿形を呈し、最深部は0.25mを測る。

ＳＤ219（第37図）　3区にて検出。調査区の北壁から緩く円弧を描いている。溝幅が約0.4m、断面形態は箱形を呈し、深さは0.1mを測る。

ＳＤ220（第37図）　3区にて検出。調査区の北壁から現れ、中程で深さがなくなり、地表面と同化する小規模な溝である。溝幅が約1m、断面形態は浅い皿形を呈し、深さは0.2mを測る。

ＳＤ221（第37図）　3区にて検出。調査区の南西角で一部分を確認している。溝幅が約0.4m、断面形態は浅い箱形を呈し、最深部は0.1mを測る。

ＳＤ222（第37図）　3区にて検出。調査区の南壁から現れ、調査区中程で地山と同化する溝である。SD223と併行し、SD219の延長である可能性がある。溝幅が約0.4m、断面形態は浅い皿形を呈し、深さは0.1mを測る。

ＳＤ223（第37図）　3区にて検出。約6mの長さしか持たない小規模な溝である。溝幅が約0.4m、断面形態は浅い箱形を呈し、最深部は0.1mを測る。

第5節　平成22年度（2010年）調査分の遺構について

平成22年度の調査は、道路工事の際に影響が生じる恐れのある箇所について調査を実施したものである。側道部分に予定されている工事は盛土工事の後に道路築造が行われるため、盛土の袖部分について発掘調査が必要と判断されたため、調査を追加した。調査箇所は前年度調査区に番号を付したものを踏襲し、5区から18区まで設定した。

(1)井戸・土坑

ＳＫ135（第38図）　5区にて検出。SK137に隣接する。上面形態は楕円形を呈し、長軸1m、短軸0.8m、深さ0.6mを測る、掘方が逆台形を呈する土坑である。覆土は5層に分かれる。

ＳＫ136（第38図）　6区にて検出。調査区端で半分を確認している。長軸1.5m、短軸0.4m、深さ0.6mを測る、掘方が逆台形を呈する土坑である。覆土は2層に分かれ、円筒形に掘り込む井戸状の遺構と考えられる。

ＳＫ142（第38図）　14区にて検出。長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.5mを測る、掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土、これに地山の含有量により3層に区分される。

ＳＫ144（第38図）　16区にて検出。長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.3mを測る、掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土と黒色粘質土、これに地山の含有量により3層に区分される。

ＳＫ145（第38図）　11区にて検出。P967に切られる。長軸1.0m、短軸0.8m、深さ0.2mを測る、

掘方が箱形を呈する土坑である。覆土は黒褐色粘質土の単層で、P967の覆土は黒色粘質土を基本とし、地山の含有量により2層に区分される。

(2)溝・川

ＳＤ07・ＳＤ13（第38図）　16区にて検出。調査区の東端に位置する。19年度調査で確認したSD07とSD13が交差する地点である。幅2.2m、深さ0.4mを測る断面形態が皿形を呈する溝となっている。覆土は黒褐色シルト、黒褐色砂質土、黄灰色シルトの3層に区分される。

ＳＤ226（第38図）　5区にて検出。幅0.6m、深さ0.3mを測る、断面形態が逆台形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

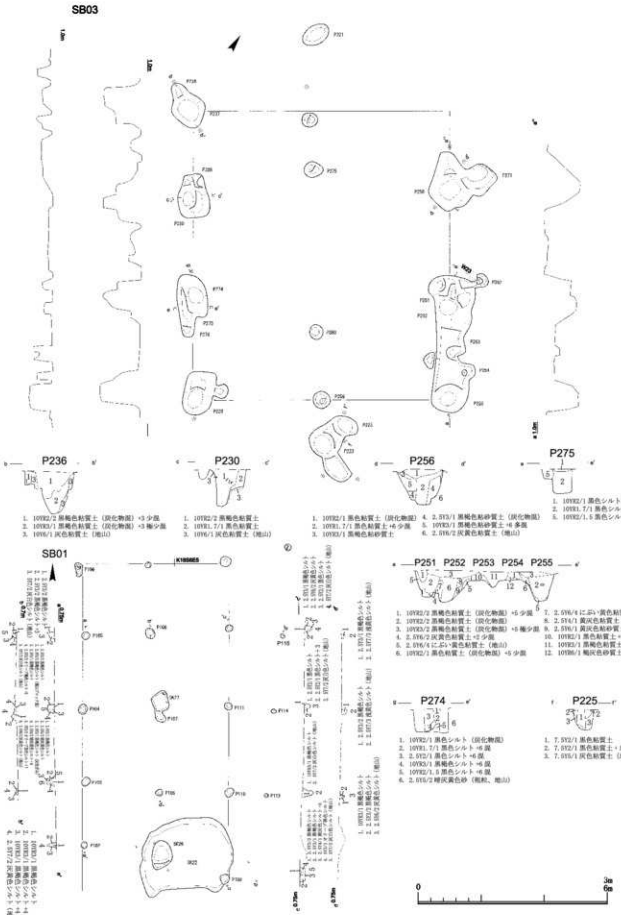
ＳＤ227（第38図）　5区にて検出。幅0.4m、深さ0.1mを測る、断面形態が皿形を呈する規模の小さな溝である。覆土は黒褐色シルトを基本とし、含有する地山の量により2層に区分される。

ＳＤ228・ＳＤ230（第38図）　16区にて検出。幅0.7m、深さ0.2mを測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色砂質土、黒褐色シルト、暗灰黄色砂質土の3層に区分される。

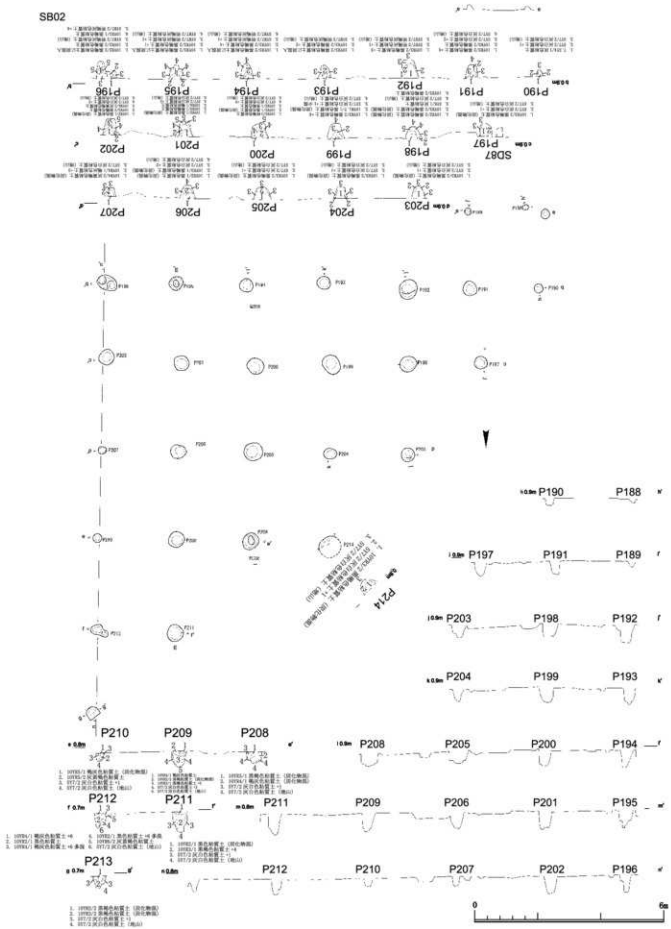
ＳＤ255（第38図）　16区にて検出。幅1.2m、深さ0.2mを測る、断面形態が浅い皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色粘質土の単層である。

ＳＤ260（第38図）　11区にて検出。溝の肩幅が浅く広い特徴を有する。幅3.8m、深さ0.5mを測る、断面形態が皿形を呈する溝である。覆土は黒褐色シルト、灰黄褐色シルト、黒褐色砂質土の3層に区分される。

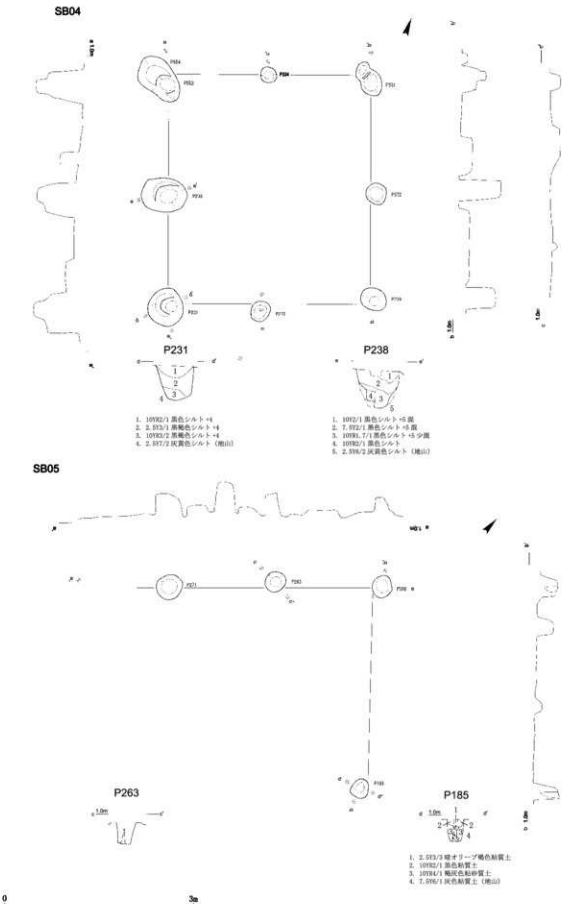
ＳＤ261（第38図）　11区にて検出。幅2.0m、深さ0.3mを測り、断面形態は上層が浅い皿形を呈し、下層が逆台形を呈する溝である。覆土は黒褐色シルト、黒褐色砂質土とこれに炭化物を含むもの、灰黄褐色シルトの4層に区分される。



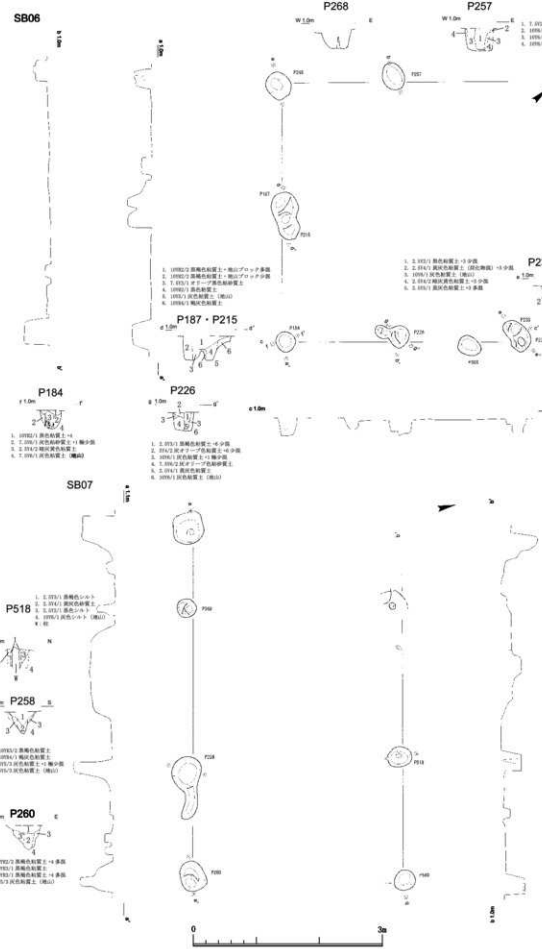
第５図　SB01（S=1/120）、03（S=1/60）



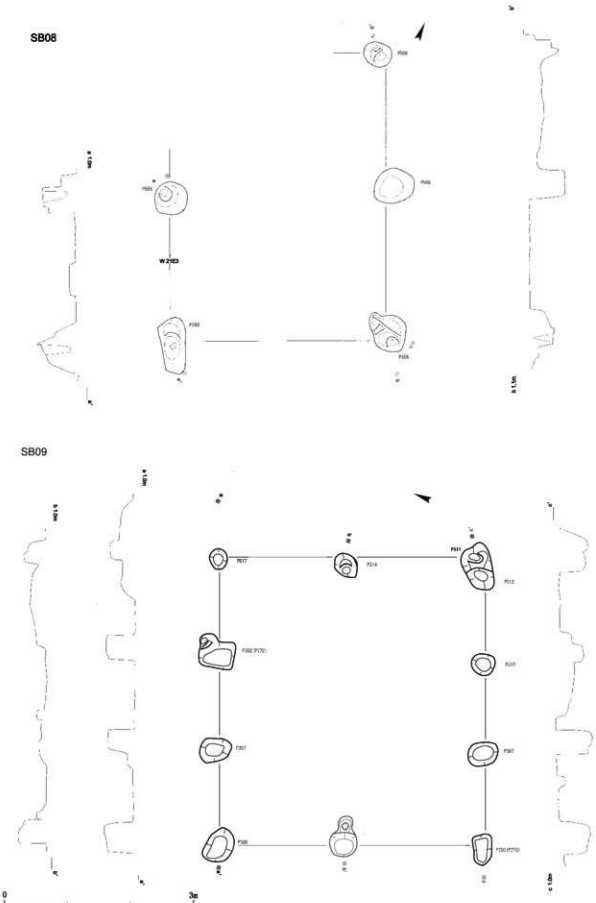
第6図　SB02（S=1/120）



第７図　SB04、05（S=1/60）

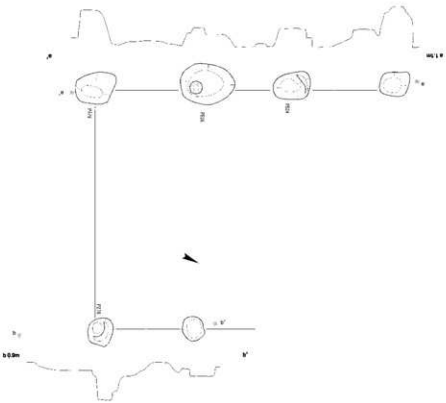


第8図　SB06、07（S=1/60）

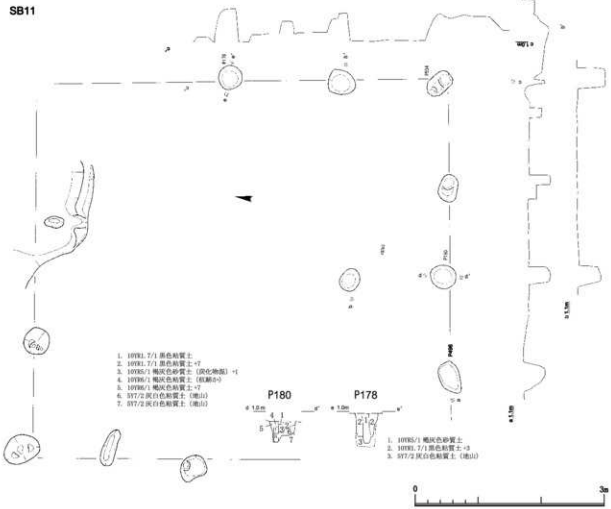


第９図　SB08、09（S=1/60）

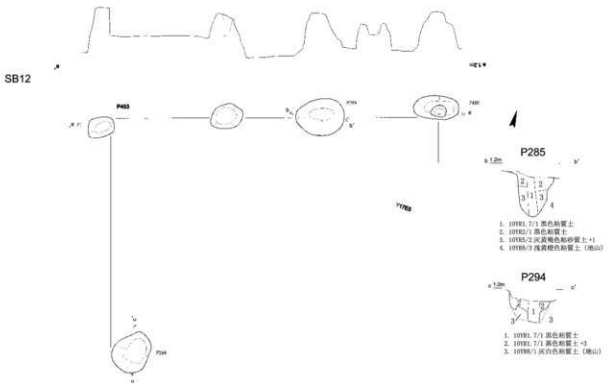
SB10

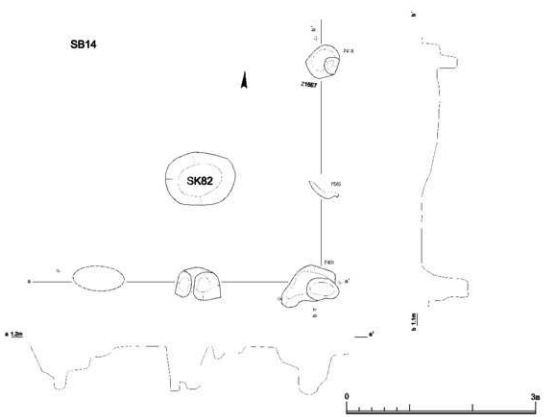


SB11

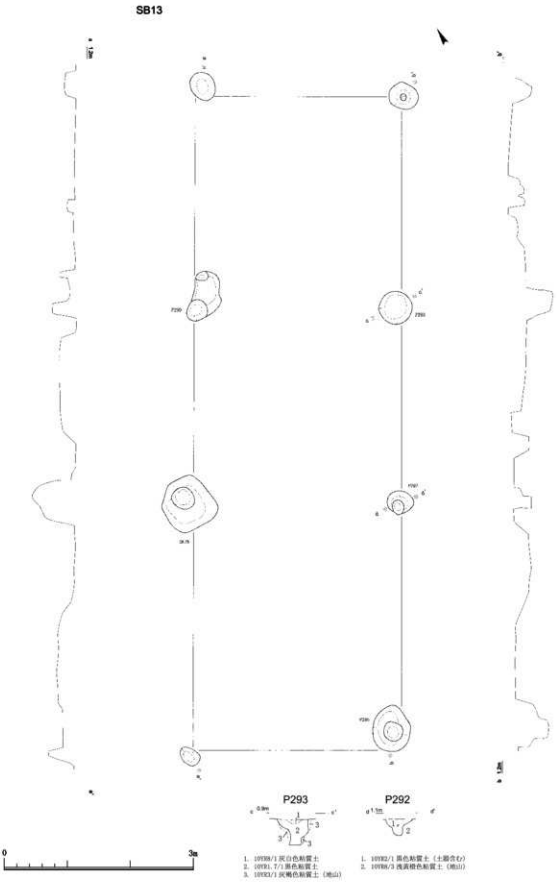


第10図　SB10、11（S=1/60）

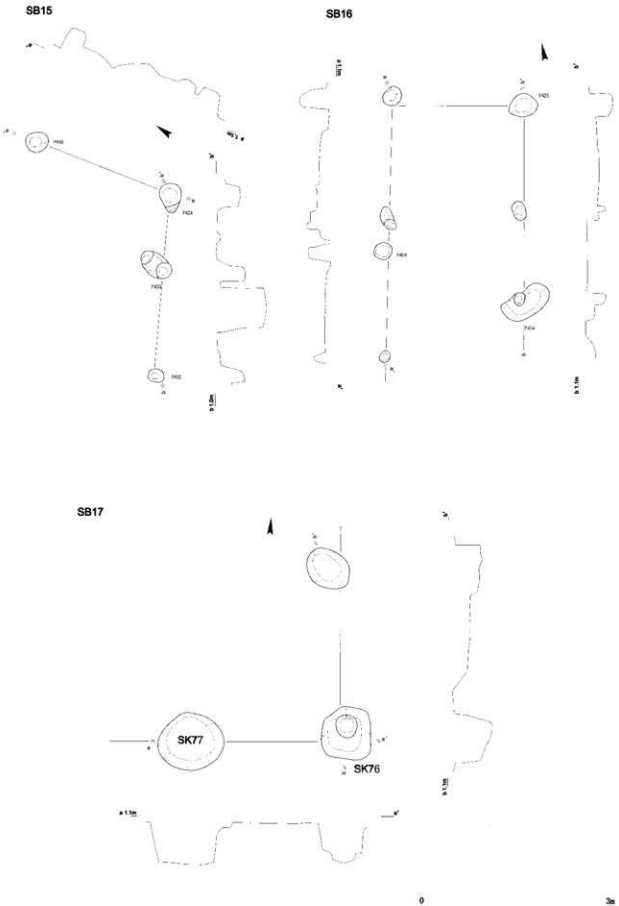




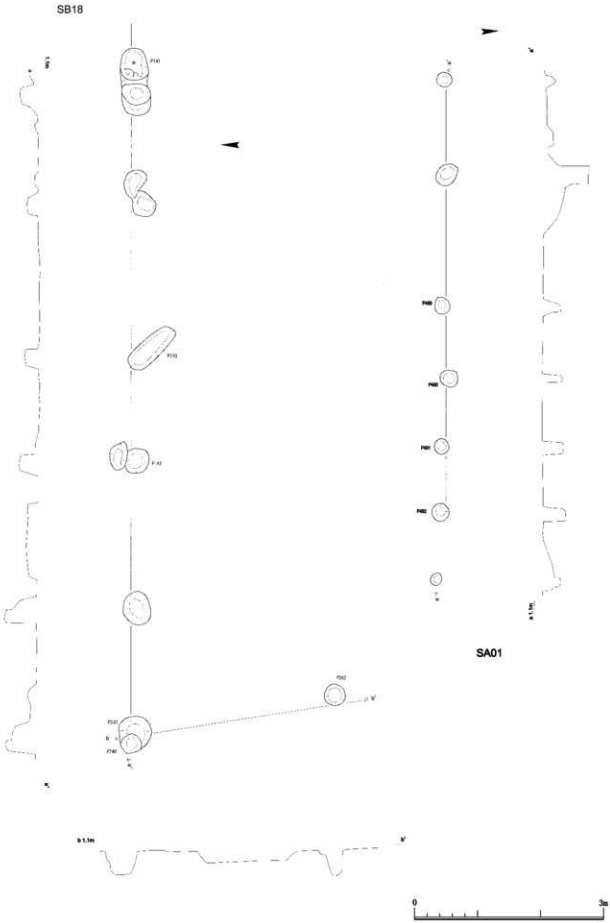
第11図　SB12、14（S=1/60）



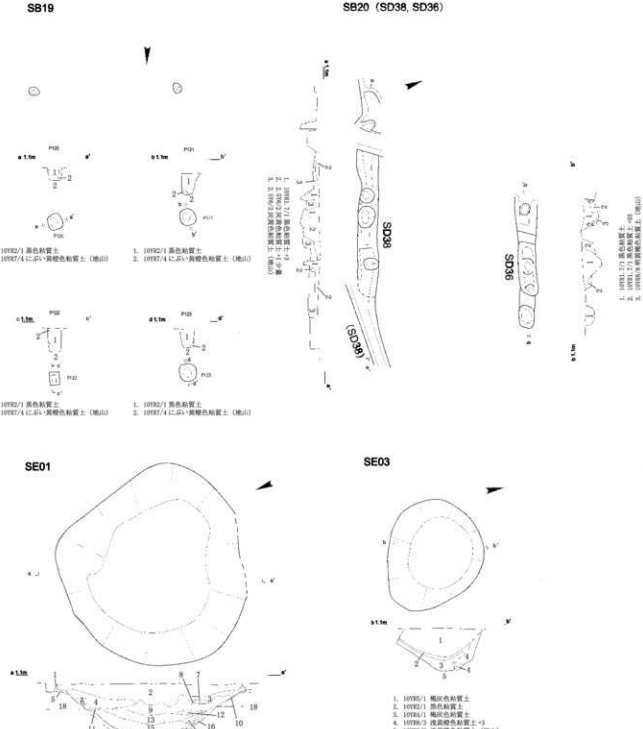
第 12 図　SB13（S=1/60）



第13図　SB15、16、17（S=1/60）

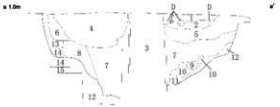


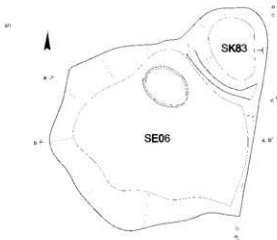
第14図　SB18、SA01（S=1/60）



第 15 図　SB19、20、SE01、03（S=1/60）

SE06

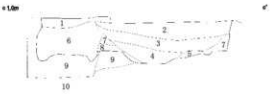




1. 10YR2/1 黒色シルト（炭化物混）
2. 10YR3/1 黒褐色シルト
3. 10YR2/2 黒褐色シルト（炭化物混）
4. 10YR3/1 黒褐色シルト（2.5Y 浅黄色シルトブロック混、炭化物混）
5. 10YR3/1 黒褐色シルト（2.5Y 浅黄色シルトブロック混、炭化物混）
6. 2.5Y7/4 浅黄色シルト（2.5Y3/2 黒褐色シルト混、炭化物混）
7. 5Y2/1 黒色シルト（5YR6/1 灰色シルトブロック混）
8. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（5YR6/1 灰色シルトブロック混）
9. 5Y2/1 黒色シルト（5YR6/1 灰色シルトブロック混）＋10
10. 5GY5/1 オリーブ灰色シルト＋7.5GY 緑灰色砂（粗砂）
11. 5Y5/1 オリーブ灰色シルト
12. 10YR5/1 灰色シルト
13. 2.5YR6/2 に赤い黄色シルト
14. 5GY6/1 オリーブ灰色砂
15. 10GY5/1 緑灰色砂（粗砂）
D：土器

1. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック多混）
2. 2.5Y7/3 浅黄色シルト（10YR3/1 黒褐色シルトブロック多混）
3. 2.5Y2.5/1 黒褐色シルト
4. 2.5Y2/1 黒色シルト＋2.5Y7/3 浅黄色シルト
5. 2.5Y3/1 黒色シルト（2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック混）
6. 5Y2.5/1 黒色シルト＋10YR2/1 黒色砂（2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック混）
7. 5Y2/1 黒色シルト（5Y5/1 灰色シルトブロック少混）
8. 5GY5/1 オリーブ灰色砂（5Y5/1 黒色シルト混）
9. 2.5Y2/1 黒色シルト＋5Y3/1 オリーブ黒色砂質土（5Y5/1 灰色シルトブロック少混、炭化物混）
10. 5GY5/1 オリーブ灰色砂（中粗、5Y2/1 黒色シルトブロック混）
11. 10GY5/1 緑灰色砂（粗粒）
12. 5Y5/1 灰色シルト（植物遺体混）
13. 10GY6/1 緑灰色砂（粗粒）

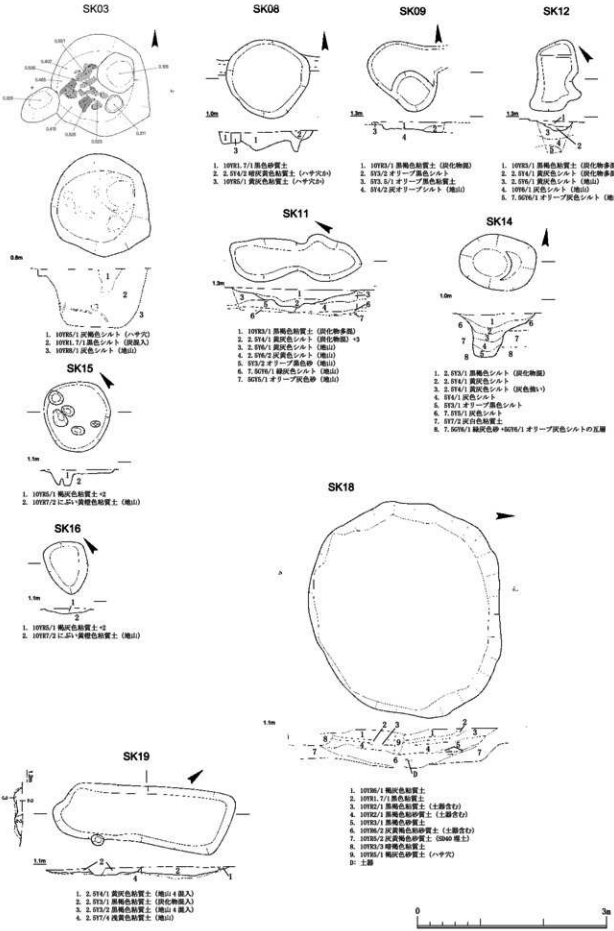
SE05



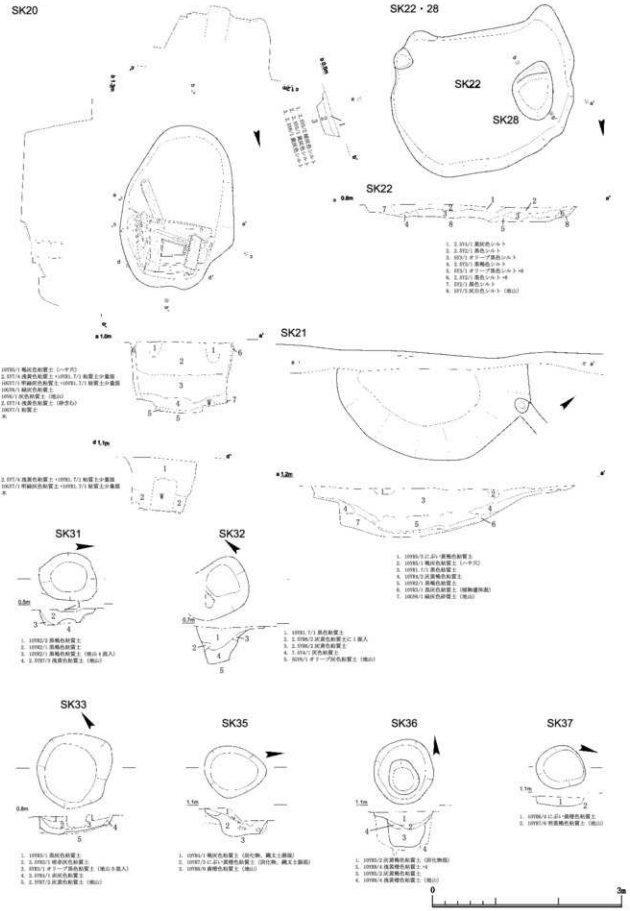
1. 10YR3/1 黒褐色シルト
2. 2.5Y2.5/1 黒褐色シルト
3. 5Y2.5/1 黒色シルト＋10YR2/1 黒色砂（2.5Y7/3 浅黄色シルトブロック多く混、炭化物混）
4. 2.5Y2/1 黒色シルト＋5Y3/1 オリーブ黒色砂質土（5Y5/1 灰色シルトブロック少混、炭化物混）
5. 5Y3/1 黒褐色シルト＋5N6/1 灰色砂（中粗）
6. 10YR3/2 黒褐色シルト（2.5YR6/2 灰黄色シルトブロック多混）
7. 10YR5/3 に近い黄褐色砂（粗砂）
8. 2.5Y7/2 灰黄色シルト
9. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂（細砂）
10. 10GY5/1 緑灰色砂（粗砂）

1. 10YR3.7/1 黒色粘質土
2. 10YR2/1 黒色粘質土
3. 10YR2/1 黒色粘質土
4. 10YR8/1 灰白色粘質土（地山）
5. 10YR8/3 浅黄橙色粘質土（地山）

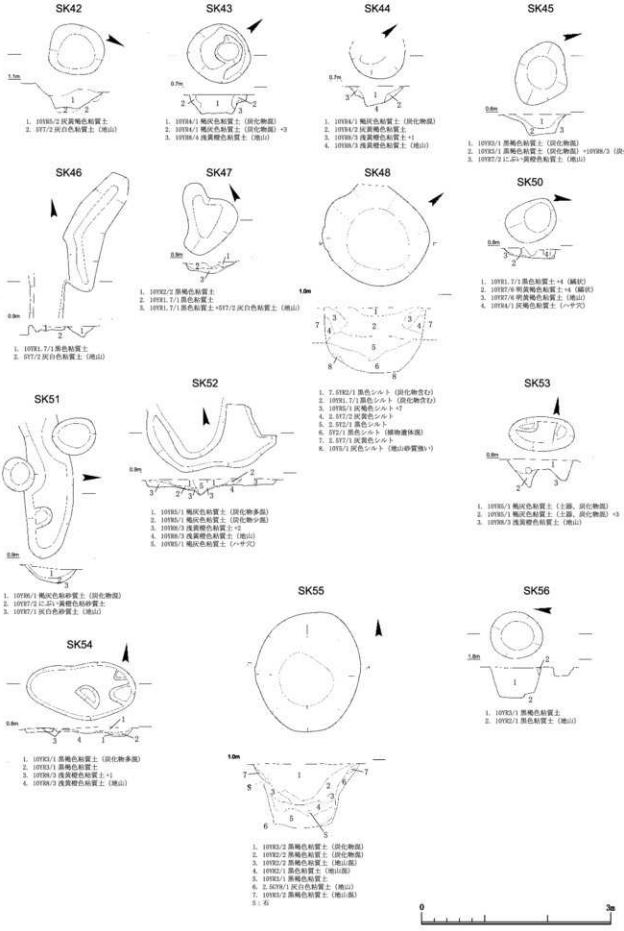
第16図　SE05、06（S=1/60）



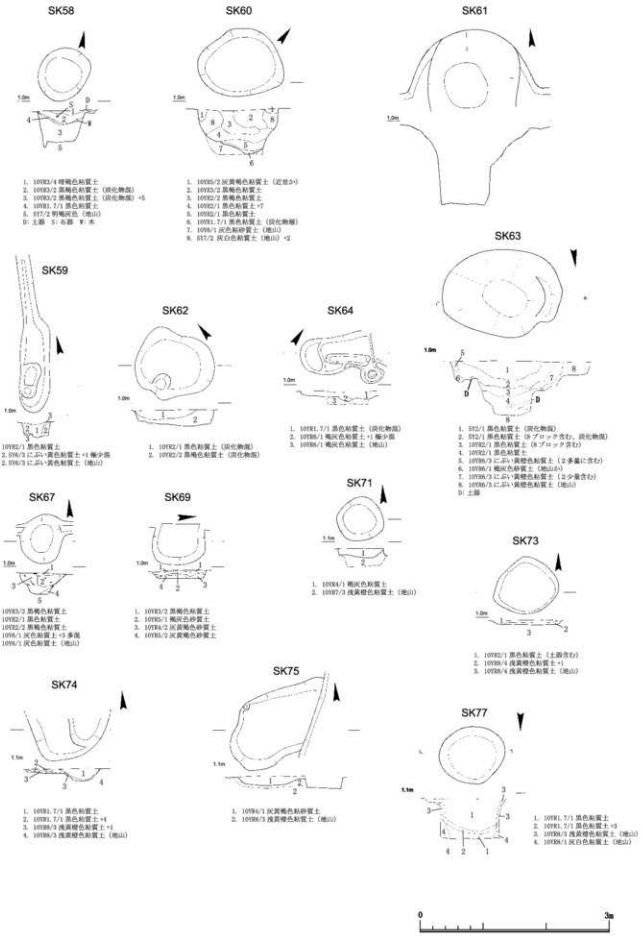
第 17 図　SK03、08、09、11、12、14、15、16、18、19〔S=1/60〕



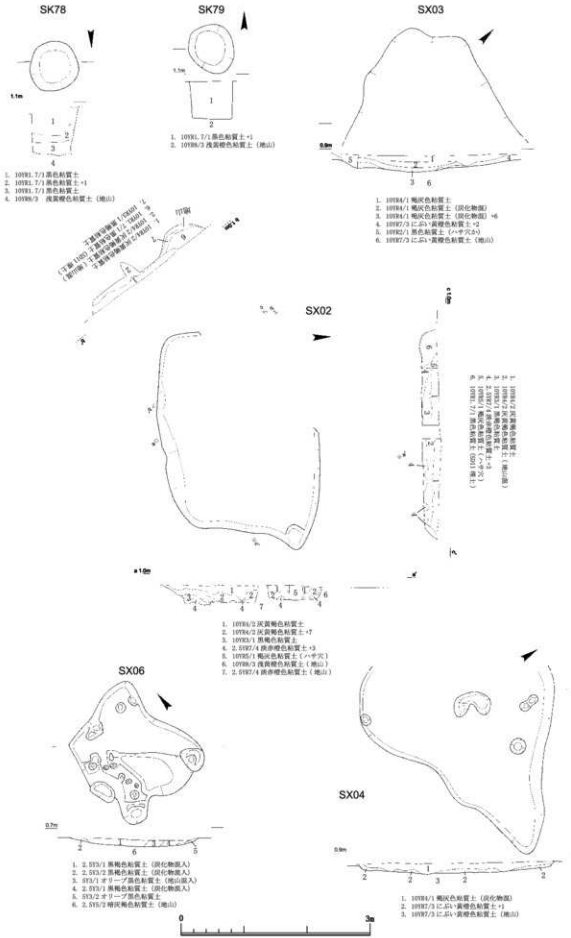
第18図　SK20、21、22、28、31、32、33、35、36、37（S=1/60）



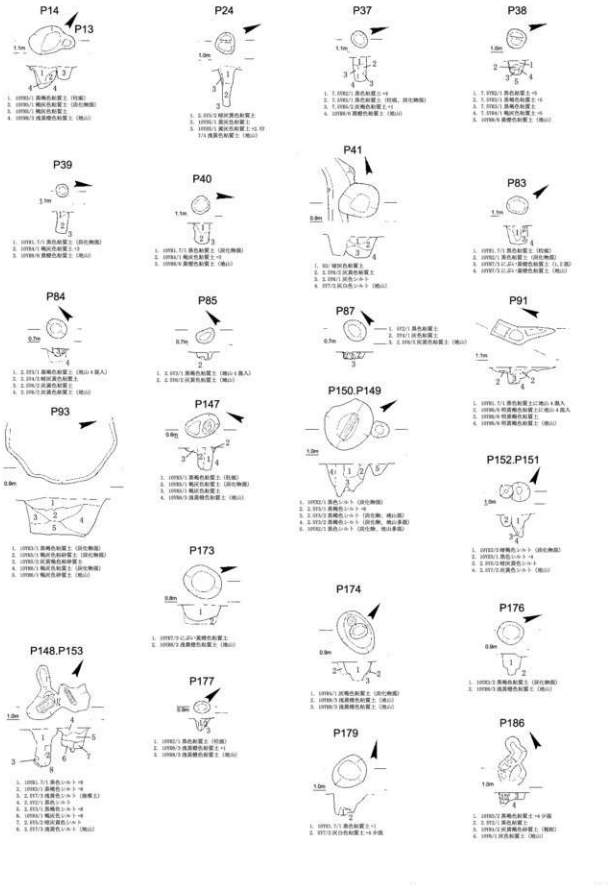
第19図　SK42、43、44、45、46、47、48、50、51、52、53、54、55、56（S=1/60）



第20図　SK58、59、60、61、62、63、64、67、69、71、73、74、75、77（S=1/60）

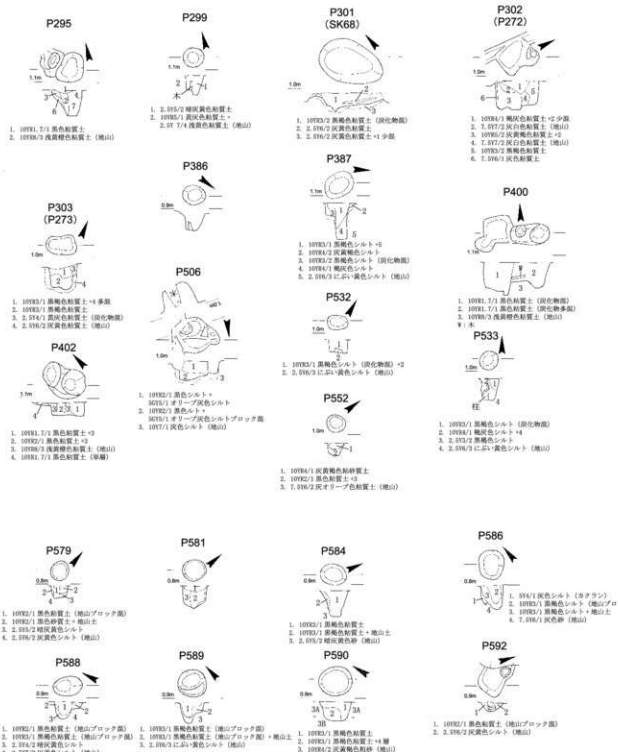


第21図　SK78、79、SX02、03、04、06（S=1/60）

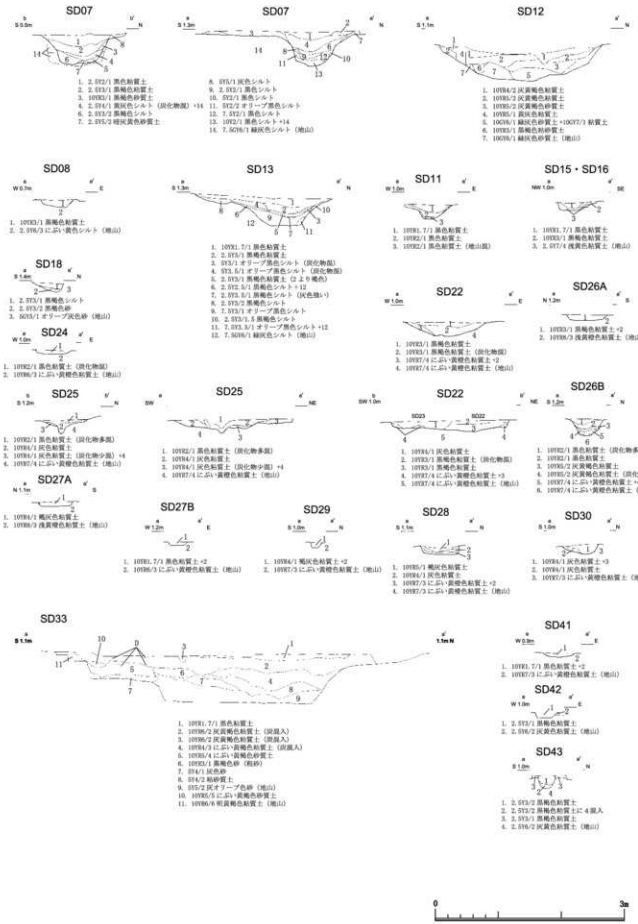


第22図　ピット実測図(1)〔S=1/60〕

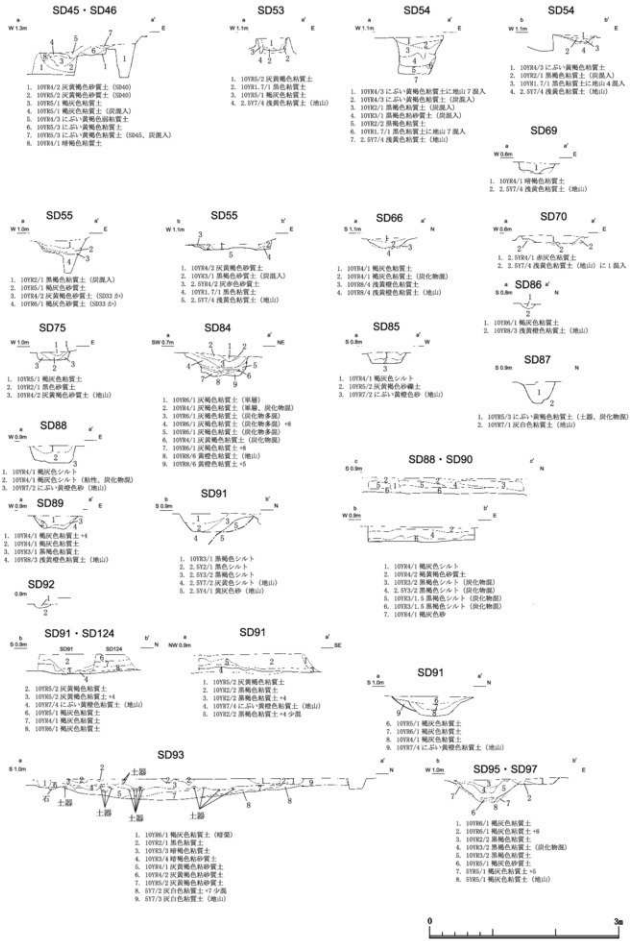
第 23 図　ピット実測図（2）〔S=1/60〕



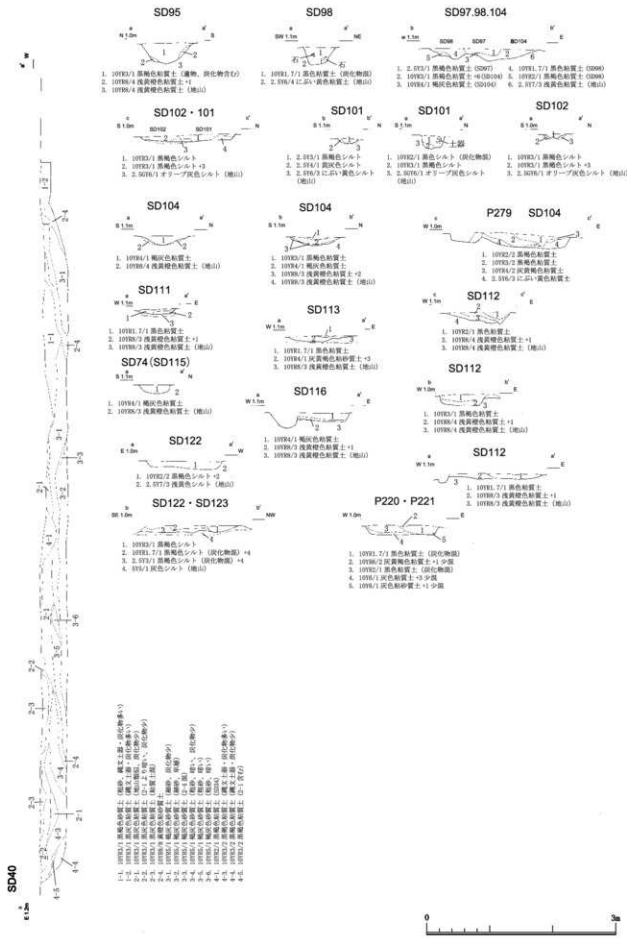
第 24 図　ピット実測図 (3) 〔S=1/60〕



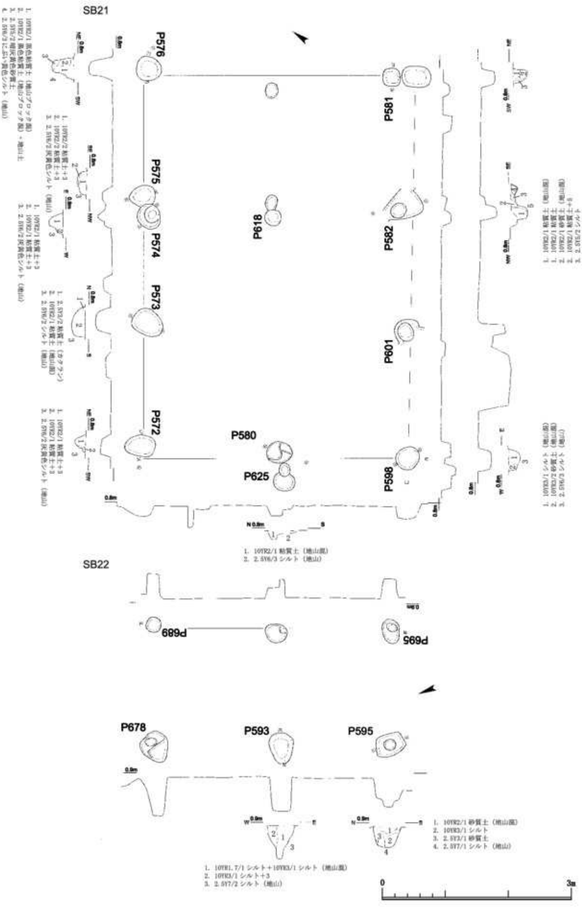
第 25 図　SD 実測図（1）（S=1/60）



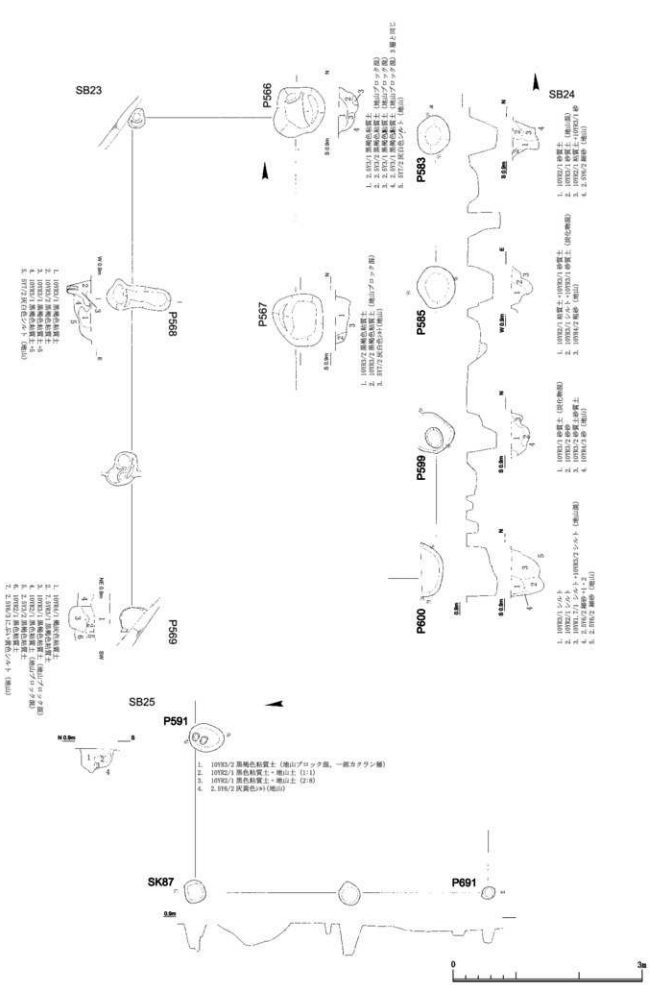
第 26 図　SD 実測図（2）（S=1/60）



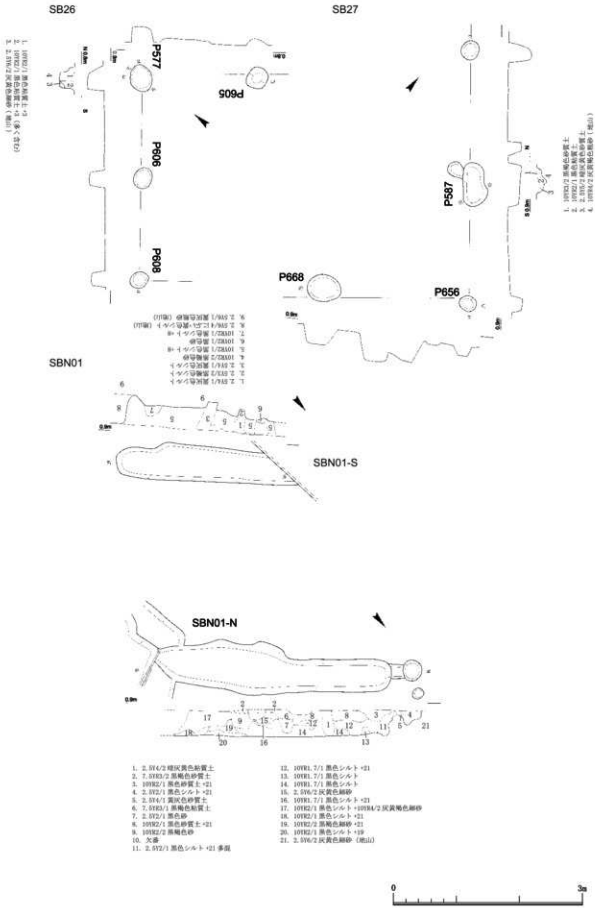
第27図　SD実測図（3）（S=1/60）



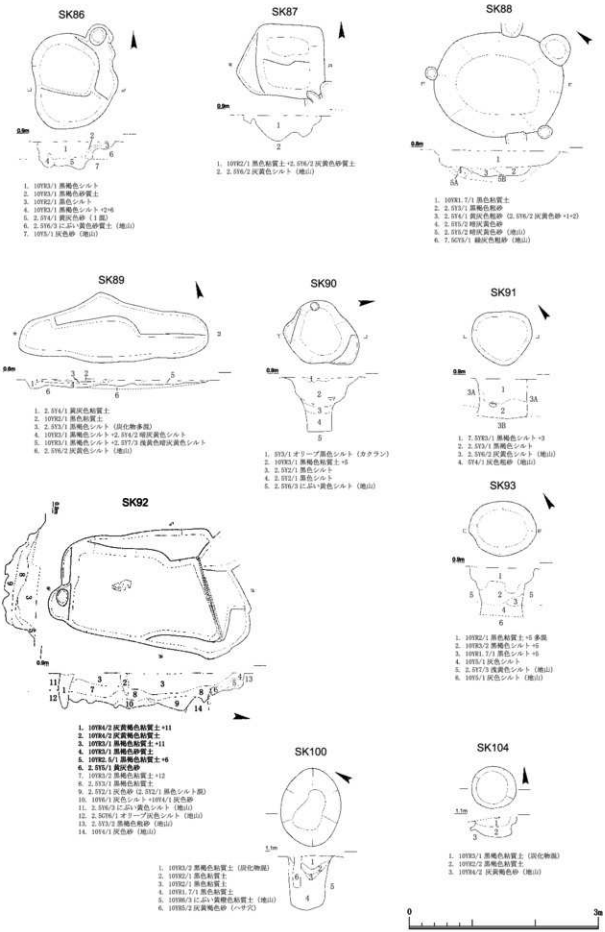
第 28 図　SB21、SB22〔S=1/60〕



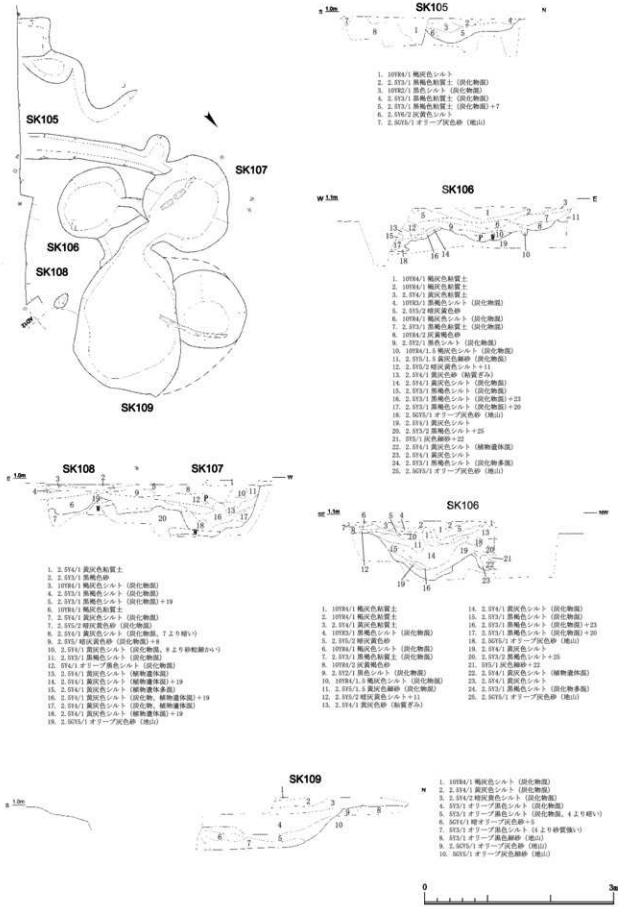
第29図　SB23、24、25（S=1/60）



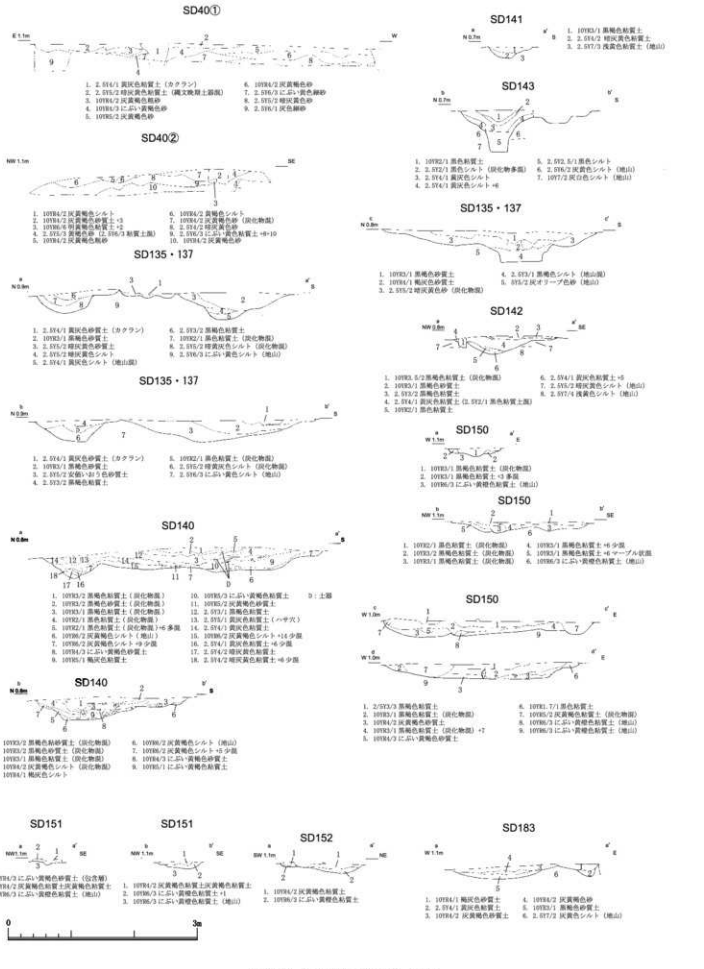
第30図　SB26、27、SBN01（S=1/60）



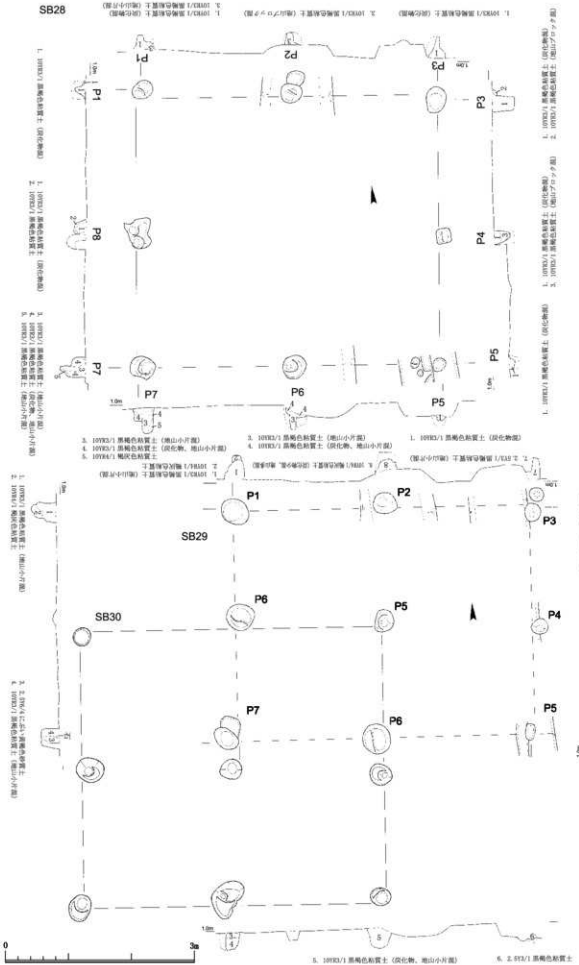
第 31 図　SK86、87、88、89、90、91、92、93、100、104（S=1/60）



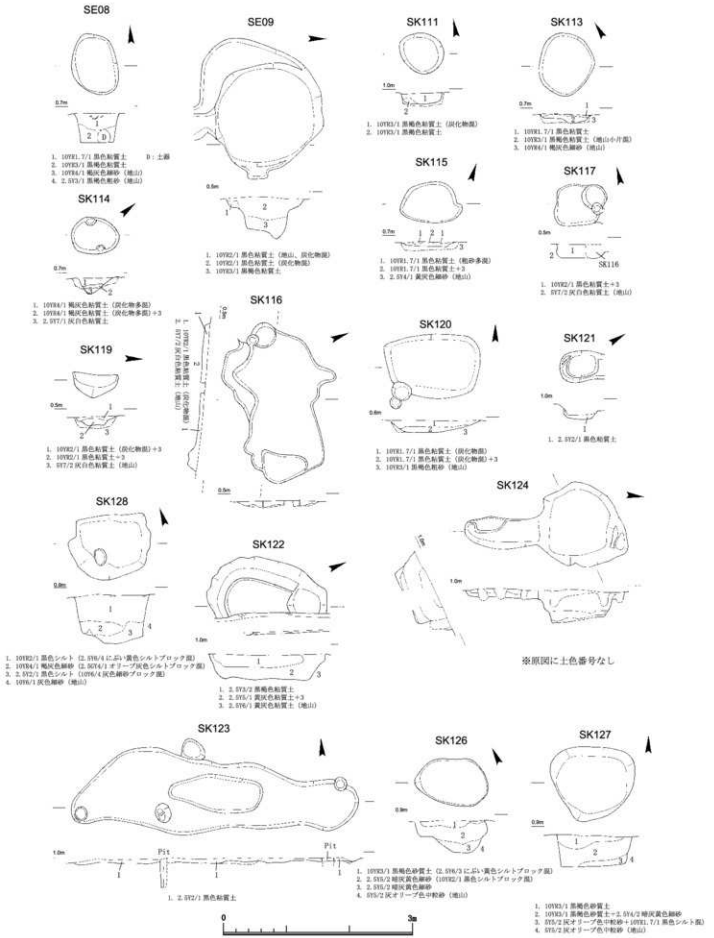
第 32 図　SK105、106、107、108、109 (S=1/60)



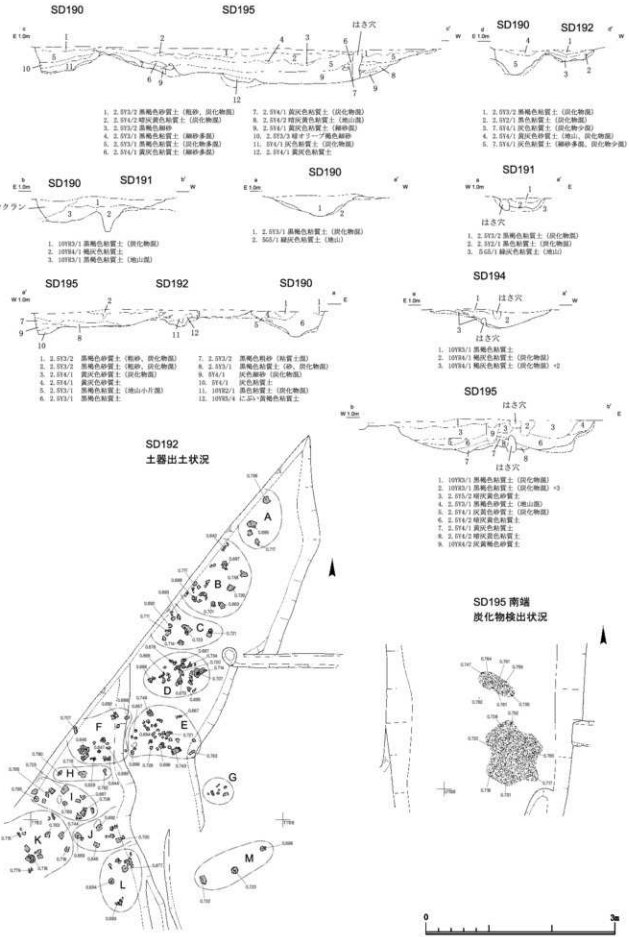
第33図　SD実測図（4）（S=1/60）



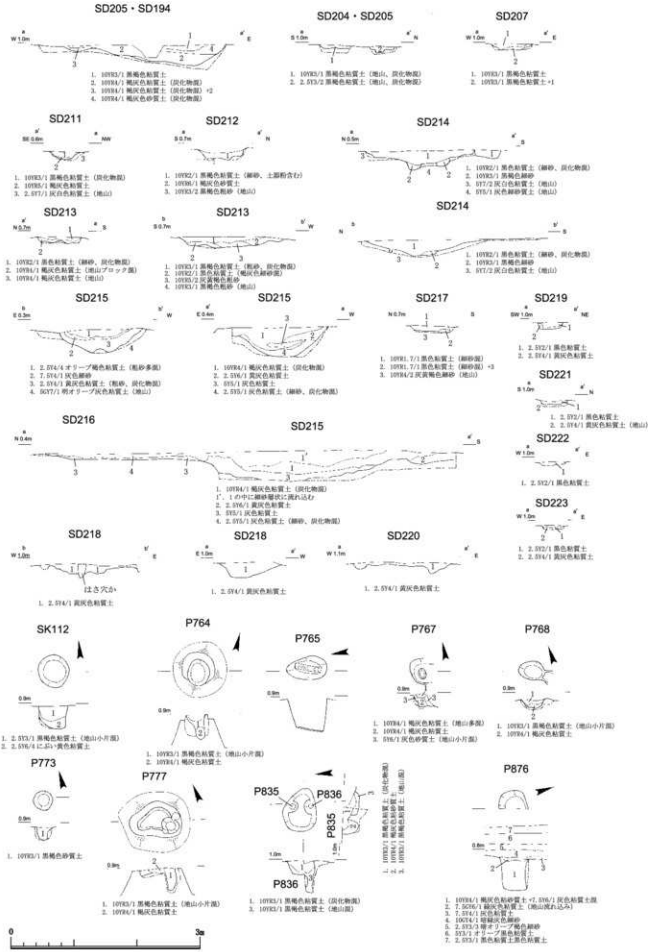
第34図　SB28、29、30（S=1/60）



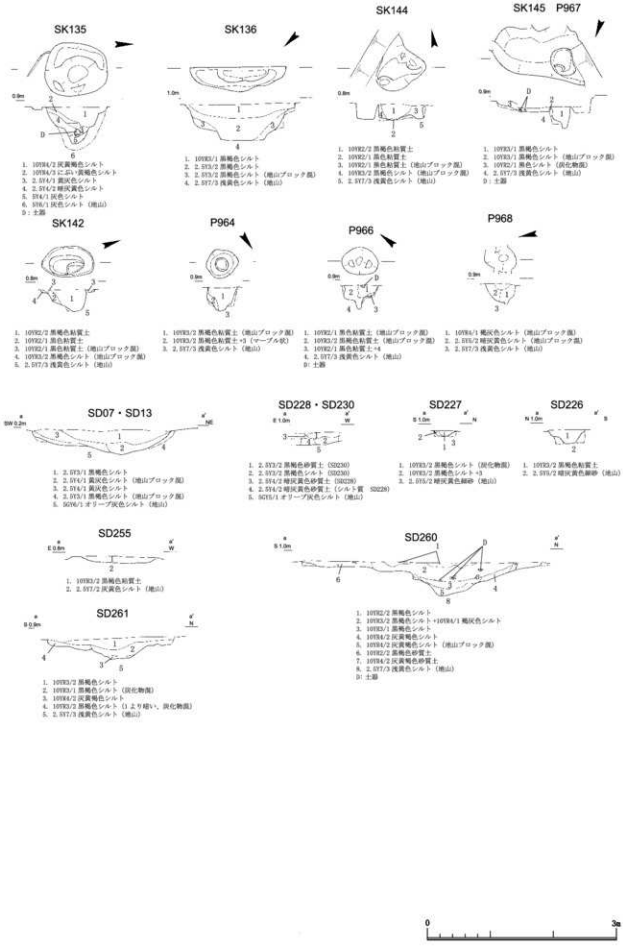
第 35 図　SE08、09、SK111、113、114、115、116、117、119、120、121、122、123、124、126、127〔S=1/60〕



第 36 図　SD 実測図 (5)〔S=1/60〕



第37図　SD実測図（6）、SK112、P764、P765、P767、P768、P773、P777、P835、P836、P876（S=1/60）



第 38 図　SK135、136、144、145、ピット、SD 実測図（7）〔S=1/60〕

第4章　出土遺物

第1節　平成19年度（2007年）調査分

(1)掘立柱建物・ピット出土遺物

柱根が出土しているピット

柱根のみが出土しているピットは次のとおりである。P91・P277・P283・P287・P386・P458（以上、第58図）、P515・P532・P533・P552・P564（以上、第59図）。

建物の柱穴で柱根が出土しているものは次のとおりである。SB05　P18・P263、SB06 P184、SB07 P518、SB08　P269・P508・P556、SB011 P180・P534（以上、第57図）。

P03（第39図）　1・2は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕で、内面に指頭圧痕がみられる。3は「く」の字状口縁をもつ甕である。5は椀形の杯部をもつ高杯で、脚部に透かし孔が3ヵ所残る。時期は古墳時代初頭と考えられる。

P04（第39図）　6は「く」の字状口縁の壺である。7は甕の底部で外面にススが付着している。

P05（第39図）　8は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。

P15（第39図）　9は布留式系甕である

P22（第39図）　1は斜め条痕をもつ鉢である。

P34（第39図）　11は受口状口縁をもつ甕である

P59（第39図）　12は有段擬凹線の口縁をもつ甕である。

P93（第39図）　15～19は縄文土器で、晩期下野式期に属する斜め条痕文を主体とする深鉢類である。16・18は底部で外底に網代痕が残る。19は口唇部と外面に列点刺突文を施してある。20は弥生時代後期の壺で、直立する頸部に有段口縁をもつ。

P100（第77図）　1は刃部に使用痕が残る撥型の打製石斧である。

P167（第39図）　13は油煙が付着した平安時代の須恵器杯か。

P141（第39図）　14は平安時代の須恵器有台杯である。

P220（第40図）　1は口縁が外側に肥厚する鉢である。口唇部に横引沈線、体部上半分に連弧状に斜め条痕文を施す。晩期下野式期に属する。

P239（第40図）　2は装飾器台の受部で、円形の透かし孔がある。

P258（第40図）　3は「く」の字状口縁の甕である。

P278（第40図）　4は「く」の字状口縁の甕である。

P285（第40図）　5は須恵器盤で、外底部に「千」と墨書がみられる。転用硯として使用されている。時期は9世紀の中頃か。

P290（第40図）　6は須恵器の有台杯で、10世紀代のものか。

P294（第40図）　7は内面黒色土器無台椀で、底部は右回転の糸切り。8は須恵器蓋で、内面に墨痕が残ることから硯に転用したと考えられる。時期は9世紀の中頃か。

P296（第40・58図）　第40図の9は須恵器の瓶、第58図の4は棒状木製品である。

P310（第40図）　10は壺の底部である。

P352（第40図）　11は有段口縁無文の甕である。外面にススが付着している。

P400（第58図）　6は棒状木製品で、7は礎板である。

P413（第40図）　12は須恵器の蓋で内面に墨痕が残ることから硯に転用されたと考えられる。13

は短頸壺である。時期は9世紀の中頃か。

P432（第40図）　14は須恵器の盤である。時期は9世紀中頃か。

P439（第58図）　9は板状木製品である。

P440（第40図）　15は土師器の無台椀である。

P441（第58図）　8は板状木製品である。

P451（第58図）　11は板状木製品で12・13は柱根である。

P454（第40図）　16は須恵器の無台杯である。時期は8世紀末から9世紀初頭か。

P469（第40図）　17は瀬戸の灰釉陶器の皿である。破断した箇所に漆継ぎがおこなわれている。

P511（第40図）　18は小型器台である。

P526（第40図）　19は丈の短い土錘である。

P560（第40図）　20は甕の底部である。

P566（第59図）　6は板状木製品である。

SB02 P193（第40図）　21は白磁の瓶（壺の可能性もある）である。SK58出土の白磁と同一個体であった。

SB02 P198（第40図）　22は珠洲焼の鉢の底部である。

SB02 P201（第40図）　23は内面に櫛描文がみられる白磁碗である。

SB02 P206（第40図）　24は細身の土錘である。

SB02 P208（第40図）　25は細身の土錘である。

SB04 P270（第57図）　1は剣形、2は柱根である。

SB07 P560（第57図）　7は礎板と考えられる板状木製品である。

ST01（第40図）　26は土師器脚部、27は須恵器、28は緑釉をかけた陶器の底部、29は須恵器甕である。時期は平安時代か。

(2) 井戸・土坑出土遺物

SE01（第40・59図）　30は穿孔がある土師器の底部で、焼成前に孔を開けたと思われる。直江中遺跡のSD01からも出土している。31～33は土師器皿である。13世紀代のものか。第59図7は曲物、8は先端部に加工がみられる棒状木製品、9は箸、10は竹製品である。

SE04（第40・59図）　34は内面黒色土器椀と、5～37は土師器皿である。13世紀代のものか。第59図11は扇の骨、12・13板状木製品、14・15は箸、16は不明木製品である。

SE05（第40・59・60図）　38は不明ロクロ製品で、39～41は土師器の皿である。13世紀前半代のものか。39は外底に墨書（判読不明）があり、40は外底に×印の除刻がみられる。13世紀前半代のものか。第59図の17は箸状木製品、18は呪符木簡で「(符籙) 急×」とある。スギの板目材で上端は切り折り、下端は折れ、上部左辺を欠く。全ての面を平滑にしている。文字の墨痕は失われているが、文字部分が浮き上がった状態になっているためにおおよその判読が可能である。魔除けやまじないで用いるため呪言などを書いてある。下部は欠損しているため本来の長さは不明である。19は棒状木製品で、20は杭である。この他に漆器椀の破片も出土している。第60図の1・7～10は井戸の横桟であろうか。3～6は縦板か。

SE06（第41・42・60・63～68・75・78図）　第41図1～3は条痕文を主体とする縄文土器、第41図4～16、第42図1～14までが土器である。第41図4～6・8は布留式系、7・9は「く」の字状口縁の甕である。第41図12～16・第42図1～3は壺で、第41図13は外面に直線文や山形文が

描かれている。第41図13・14・16・第42図3は二重口縁の壺で、第41図14はカゴ目を粘土紐貼付により表現している。第42図4～6は高杯、第42図7～9は小型器台、第42図10～13は鉢である。第42図4～6・8・10・12は赤彩を施した製品である。井戸廃棄地の祭祀に関連する遺物か。時期は古墳時代前期前葉のものか。木製品は第60図11～20と第61図1の横杵がある。(株)東都文化財保存研究所の樹種同定によると身はコナラ属アカガシ亜属、柄はスギ、第65・66図は井戸枠①でスギ、第67図・第68図1の井戸枠②スギ、第68図井戸枠③スギとなっている。石製品は第75図4の管玉では大きな部類に属するもの と第78図1の敲石である。

ＳＫ03（第42・77・78図）　15・16は須恵器の長頸壺、17は須恵器の双耳瓶、18は瓶底部、19は土錘である。この土坑からは須恵器の瓶類が4個体分みつかっている。一括した埋納の可能性がある。第77図の9は敲石、第78図2は凹石でいずれも縄文時代の石製品である。覆土中に元々混入していたものであろう。

ＳＫ09（第56図）　26は胴部外面に櫛描きの直線文と簾状文が交互に施文された甕、27は壺甕類の底部である。時期は弥生時代中期前半に属する。

ＳＫ18（第42・74～77図）　第42図20～37は土器・土製品である。20は有段口縁無文の甕、21・22は布留式系の甕、23・24は「く」の字状口縁の甕である。25は壺の底部で、外底に籾圧痕が5ヵ所みられる。26は赤彩を施した有段擬凹線口縁で外面に棒状浮文を持つ装飾壺。27・28は有段口縁の山陰系の壺。29は有段状の口縁をもつ壺。30～34は高杯である。30・31は杯部底部と体部の境界が明瞭な杯部、33は有段鉢形の杯部をもつ。35は「く」の字状口縁の鉢、36は「く」の字状口縁の小型壺、37が土錘である。時期は古墳時代前期前葉に属する。第74図1は棒状木製品である。石製品のうち、第74図6は刳貫円盤で、21～23は玉作りに関連した剥片類で、4は砥石である。古墳時代に属するものであろう。

ＳＫ20（第43・69～73図）　第43図1は口縁が無文帯で幅が狭く直立する甕で、外面肩部に刺突文がみられる。木製品は第71図3、第72図1、第73図1・2が縦板で、その他の板材は縦板の周りに敷かれた状態で検出されたものである。板同士をつなぎ止めた四角形の穴が側縁にある。

ＳＫ20（第43図）　1は受口状口縁の甕である。肩部外面に連続する刺突文をもつ。時期は弥生時代後期後半に属する。

ＳＫ21（第43・76図）　第43図10～18は土器である。10は縄文土器の深鉢、11・13は有段擬凹線の月影式系甕で、12・14～16が有段口縁無文の甕、17は外面赤彩の長く直立する口縁の壺。18は有段口縁の壺。時期は古墳時代前期初頭に属する。第76図6はサイコロ状に四角い軽石である。玉作りに関連したものであろう。

ＳＫ22（第43図）　2は土師器の底部で、3は細身の土錘である。

ＳＫ23（第74図）　2は棒状木製品である。

ＳＫ24（第43図）　4は須恵器の無台杯で、5は肥前陶器で刷毛目唐津の鉢である。18世紀中頃であろう。

ＳＫ26（第43図）　6は縄文土器片である。

ＳＫ31（第43図）　7は長胴甕の口縁部である。

ＳＫ40（第43図）　8は平安時代の内面黒色土器の有台椀である。

ＳＫ42（第43図）　21は縄文土器の鉢で、22は把手である。

ＳＫ47（第43図）　9は有段口縁鉢の粘土貼付の把手か。

ＳＫ48（第44図）　1～7は土器である。1・2は「く」の字状口縁の甕、3は完形の細頸壺である。

4は蓋、5は高杯、6は装飾器台、7は須恵器甕である。時期は混入物もあるが古墳時代前期後葉に属する。

ＳＫ53（第43図）　19は弥生時代中期の壺の底部である。

ＳＫ55（第43・74図）　20は不明須恵器製品としたが、長頸瓶であろうか。第74図3は曲物の底板である。

ＳＫ58（第43図）　23は9世紀末の須恵器の無台杯で、24は白磁碗である。白磁碗は13世紀に属する。

ＳＫ59（第43・77図）　第43図25は高杯の脚で外面に赤彩を施したもの、第77図10は敲石である。

ＳＫ60（第74図）　4は板状木製品、5は箸である。

ＳＫ61（第43図）　26～30は土器である。26は「く」の字状口縁の甕、28は高杯である。杯部が浅く口縁部は緩く外反する。時期は古墳時代前期後葉に属する。29は丈の短い土錘、30は土玉である。

ＳＫ62（第43図）　31は壺で口縁外面段部には櫛状工具によるキザミ文が施されている。

ＳＫ63（第44図）　8・9は「く」の字状口縁を呈する甕である。10は壺の頸部の突帯にキザミ文が施されている。11は外面赤彩の壺で体部に焼成後に穿たれた孔が1ヵ所みられる。12・13は高杯、14・15は小型丸底壺である。時期は古墳時代前期後葉に属する。

ＳＫ72（第44図）　17・18は「く」の字状口縁の甕である。

ＳＫ73（第44図）　19の甕は口縁帯が短く口縁端部が細くやや内湾気味に立ち上がる。

ＳＫ76（第74図）　6は用途不明木製品である。

ＳＫ77（第44図）　16は平安時代の須恵器有台杯である。

ＳＫ78（第44図）　20は有段無文口縁帯がやや外反気味に立ち上がり、体部が碗形を呈する鉢である。

(3)溝・川跡・その他出土遺物

ＳＤ01（第44・74図）　第44図21は有段口縁の広口壺、22は須佐陶器のすり鉢、23は肥前磁器の灰吹、24は煙管の雁首、第74図7は文様を削り出した飾り板、8は棒状木製品である。

ＳＤ07（第56図）　28は無茎石鏃である。29は鉢である。30は外反口縁の壺で、肩部に直線文と波状文が施文される。弥生時代中期後半に属する。

ＳＤ11（第45図）　1は有段掘凹線の月影式系甕、2は有段口縁無文の甕、3は高杯等の脚である。そのほかは縄文時代晩期の深鉢と鉢類である。口唇部を浅く連続して押圧し、口縁部に3条の横引き沈線文を施す。

ＳＤ13（第56図）　31～33は弥生時代中期の壺甕類である。

ＳＤ20（第44図）　22は細身の土錘である。

ＳＤ24（第44図）　27は10世紀の土師器の有台椀、28は須恵器の凸帯付及耳瓶である。

ＳＤ26（第44図）　26は灰釉陶器の瓶類である。

ＳＤ33（第45・46・75・77・78図）　第45図5は球胴状の胴部を持つ鉢、4は口縁部が直立し縦条痕文を施し、頸部に横引き列点沈線文を施す深鉢である。横条痕文を施す口縁部がラッパ状に開口する深鉢は中屋式期に属する。第46図1は無文の深鉢である。頸部をやや内屈させ、口唇部を連続して刻みを施す。14は須恵器の有台杯、15は白磁碗である。75図2は玉製品、8・9は石鏃、第78図

3・4・6は凹石である。第46図1は縄文土器の深鉢、2は縄文土器の浅鉢である。条痕文を主体とした晩期下野式期のもので、石製品も同時期に属する。

ＳＤ34（第46図）　3～5は平安時代の須恵器である。3・4は杯類、5は瓶壺類の底部である。

ＳＤ35キ（第74図）　9はコゲ跡が残る板状木製品である。

ＳＤ39（第46図）　6は縦条痕文を施す深鉢、7は口唇部に沈線文を2条施す浅鉢である。

ＳＤ40（第46～49・75～78図）　縄文土器が多く出土した。第46図8は頸部及び胴部に縦条痕を施し、頸部に横引き列点刺突文を施す。9は頸部及び胴部に縦条痕を施し、口縁部がやや外反する深鉢である。第47図の1は頸部及び胴部に横条痕と列点刺突文を施す。出土した深鉢類は斜め条痕文と縦条痕文が施されているため、中屋式の後半段階から下野式期の深鉢及び鉢類で、粗製土器と半精製土器で構成される。晩期中葉の御経塚式期の土器は含まれていない。25～27は「く」の字状口縁の甕、28は須恵器の無台杯である。28は外底に「口ヵ」墨書がみられる。第75図1は硬玉製の勾玉、10・11は石鏃、第76図1・3は剥片、8～10は磨製石斧、第77図3は打製石斧、7は石冠類、11・13は敲石、第78図7～10は凹石で下野式期に属する。SD40北岸からは第48図1～18の縄文土器、第75図12・13の石鏃がある。SD40南岸からは第49図1～11の縄文土器である。9は外面赤彩が施されている。第76図2は剥片、第77図4は打製石斧、第78図11・12は凹石である。SD40南壁からは第75図14の石鏃がある。

ＳＤ45（第49・74図）　第49図12～20は土器である。12・13は混入と考えられる縄文土器、14・15は「く」の字状口縁の甕、16は有段擬凹線の口縁を持つ甕、17・20は二重口縁の壺、18は小型高杯、19は小型器台である。時期は古墳時代前期に属する。第74図10・11は杭である。

ＳＤ47（第49図）　22は須恵器の瓶である。

ＳＤ50（第49図）　23は8世紀末から9世初頭の須恵器の蓋である。

ＳＤ53（第50図）　1は土錘である。

ＳＤ54（第50・74図）　第50図2～7は土器である。2は縦条痕を施す縄文土器、3・4は有段擬凹線口縁を持つ月影式系の甕で、3は肩部外面に櫛状工具による連続刺突文がみられる。5高杯は口縁部が緩く外反し、脚部に透かし孔を持つ。6は「く」の字状口縁の鉢である。時期は弥生時代終末期に属する。7は土師器有台椀の底部である。第74図12～14は板状木製品である。

ＳＤ55（第50・75図）　第50図8～23は土器である。8～10は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、11は有段口縁無文の甕、12は「く」の字状口縁の甕、15は有段口縁壺、17は高杯脚、18～20は小型器台、22・23は蓋である。時期は古墳時代前期初頭に属する。第75図15は石鏃である。

ＳＤ71（第50図）　24は白磁の碗である。

ＳＤ73（第50図）　25は9世紀初頭の須恵器の蓋である。

ＳＤ84（第76図）　5は砥石である。やや白色を帯びる凝灰岩で、扁平に加工されている。側辺部に丸く帯状に研磨された面が残る。勾玉や管玉の表面を研磨する際に用いたものであろう。

ＳＤ85（第50図）　26は白磁の碗と27産地不明の陶器である。中世に属する。

ＳＤ87（第50・75図）　第50図28は甕壺類等の底部、第75図5は管玉未製品である。

ＳＤ93（第51～53・75・77図）　SD93からは大量の土器が出土している。そのため、第51図に支線中区、第52図と第53図に支線北区から出土した遺物を分けて掲載した。第51図1～9は有段擬凹線口縁をもつ月影式系甕、10～14は有段口縁無文の甕、15は「く」の字状口縁部の甕、16は直口壺、17・18・20は有段口縁の壺、19は内湾口縁の壺、21は有段鉢形の高杯、24は装飾器台、25は蓋、26は小型無頸壺、27・28は台付鉢類か。29は須恵器甕である。第52図1～18は有段口縁の甕、

19・20は「く」の字状口縁の甕、25～第53図10までは壺である。11～26が高杯・器台、27が蓋、28・29が小型土器、30は台付壺等脚、31は須恵器有台杯である。第75図7は玉未製品、16は石鏃、第77図5・6は打製石斧である。第52図1～5・7～10・12～16は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、第52図6・17・18は有段口縁無文の甕、第52図19・20は「く」の字状口縁の甕、第52図25～28・第53図1・3は有段口縁の壺、第53図4～6は外面赤彩された有段口縁の壺。第53図8・9は装飾壺。第53図11～13は高杯、11～13・17は有段鉢形の杯部、15は皿形の杯部をもつ。第53図20～23は装飾器台、第53図28・29は有段口縁鉢である。第53図30は台付鉢類か。第53図31は須恵器有台杯である。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ95（第50・74図）　第50図29は布留系式甕と30は有段口縁の山陰系壺である。第74図15は不明木製品である。

ＳＤ98（第50図）　31は「く」の字状口縁の壺である。

ＳＤ101（第50図）　32～34は土器である。33は有孔鉢の底部、34は有段口縁の山陰系壺である。

ＳＤ103（第54図）　1・2は縄文土器の深鉢である。1は斜め条痕文、2は横条痕文を施す。

ＳＤ104（第53図）　32～39は土器・土製品である。32は布留式系の甕、33は外反口縁の甕、34は有段口縁の山陰系の壺、35は二重口縁の壺、36は高杯、37は内外面赤彩を施した鉢、38は有段口縁鉢、39は筒状を呈する土錘である。時期は古墳時代前期中葉に属する。

ＳＤ110（第54図）　3は平安時代の須恵器の無台杯である。

ＳＤ112（第54図）　4は「く」の字状口縁の甕、5は高杯である。

ＳＤ122（第54図）　6は「く」の字状口縁の甕、7は高杯である。

ＳＸ01（第54図）　8は9世紀末の須恵器の無台杯である。

ＳＸ05（第54図）　9～12は縄文土器の深鉢である。9は口縁部に縦条痕文、10は体部全体に斜め条痕文を施す。

(4)包含層・カクラン出土遺物

包含層（第54～56・75図）　第54図13～18は枝2区、19は枝3区、20～22は枝4区、第55図1～43は支線中区、第56図1～5は東側区南、6～14は西側区中央南、15～18は支線南区、19・20は支線北区と出土区毎に掲載してある。第54図21は高松産の須恵器無台杯で、底部外面に墨書「□[忍カ]」が認められる。第75図3は管玉、17・18は石鏃である。

カクラン（第56・75・76図）　第56図21～24、第74図19は石鏃、20は磨製石斧、第76図7は鰹節形石器である。

第2節　平成20年度（2008年）調査分

(1)ピット出土遺物

Ｐ568（第93図）　1は板状木製品である。

Ｐ569（第81図）　6は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕である。

Ｐ589（第81図）　7は土師器小皿である。11世紀代のものか。

Ｐ594（第81図）　8は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕である。

Ｐ596（第93図）　2は板状木製品である。

Ｐ597（第98図）　3は棒状木製品である。

P599（第81図）　9は須恵器長頸瓶である。
P630（第96図）　4は石棒と考えられる製品が出土している。
P632（第81図）　10は10世紀初頭の土師器有台椀である。
P638（第81図）　12～14は10世紀の土師器椀である。13・14は油煙が付着している。
P655（第81図）　16は「く」の字口縁の甕である。
P685（第81図）　15は長頸壺である。
P686（第81図）　11は土師器の無台椀で、左回転の糸切り底である。
P707（第81図）　17は土師器皿である。13世紀代のものか。
P710（第81図）　18は古墳時代中期の須恵器の蓋である。
P715（第81図）　19は内面黒色土器椀である。
P719（第93図）　4は板状木製品である。
P727（第81図）　21は口縁部が「く」の字状の甕である。
P752（第81図）　20は高杯類の脚部である。
P755（第81図）　22は外面赤彩の壺である。
SBN01-S（第81図）　33は「く」の字状口縁の壺である。

(2)土坑出土遺物

SK86（第79図）　1は須恵器の壺、2は土師器の有台椀である。両方共に平安時代に属する。
SK88（第79図）　3は平安時代の土師器の有台椀である。
SK89（第96図）　12・13は剥片である。
SK90（第79・93図）　第79図5・6・8は「く」の字状口縁の甕、7は有段状を呈する甕、9は外反口縁の壺、10・11は内外面赤彩の装飾高杯、12は台付鉢等の脚である。時期は古墳時代前期初頭に属する。第93図5は織機と考えられる木製品である。
SK91（第79図）　4は須恵器の杯身である。
SK92（第79・92・93図）　第79図13は加賀焼と考えられる甕、第92図29は烏帽子である。布のような生地に黒色漆を塗布している。一部は欠損しているが、ほぼ全形が確認できる。非常に薄く、脆いため土ごと取り上げた状態でそのまま保存処理を施した。北陸では7例目の出土となる。なお、法量は第5章第2節に記載した。第93図6は棒状木製品、7・8は横板である。
SK96（第79図）　14は有段擬凹線の口縁をもつ月影式の甕、15は直口壺である。
SK100（第79図）　16は布留式系の甕、17は有段口縁の山陰系の甕、18は有段擬凹線の口縁をもつ月影式の甕、21は高杯類の脚部で外面赤彩に直線文と斜線文が施されている。時期は古墳時代前期前葉に属する。
SK105・106（第80・96・97図）　第80図1～6は縄文土器である。2と3は細く丁寧な沈線が施されており、精製鉢とみられる。中屋式の前半に属する可能性がある。7～10は弥生時代中期後半の土器である。7は外反口縁の甕、8は壺、9・10は壺甕類の底部である。第96図5は石鏃、第97図11は凹石である。
SK106（第80・96図）　第80図11～15は横引き沈線文と横条痕文を主体とする縄文土器、16は外反口縁の弥生時代中期の甕、口縁端部にキザミが施され、胴部外面に黒漆がみられる。17は有段口縁無文の甕、第96図1は磨製石斧、6は石鏃である。
SK106・SK108（第80・93・97・98図）　第80図18～25は縄文土器である。26は有段擬凹線の

口縁をもつ甕、27は「く」の字状口縁の甕、第93図9は不明木製品、第97図12は凹石、第98図9は不明石製品である。

ＳＫ107（第80・93図）　第80図29～32は斜め条痕文を施す縄文土器である。33は口縁に×状のキザミをもつ弥生時代中期前半の壺、34は内湾口縁の壺、35は有段擬凹線の口縁を持つ月影式系の甕である。第93図10は板状木製品、12・14は棒状木製品、15は杭、11・13は不明木製品である。

ＳＫ107・ＳＫ108（第94図）　1は不明木製品、2は杭である。

ＳＫ108（第80・96図）　第80図36は縄文土器の深鉢、37は鉢、第96図11は剥片である。

ＳＫ109（第80・81・94・96・98図）　第80図39～48は横条痕文を施す縄文土器である。46は胴部に隆帯で連弧状の装飾を施している。いわゆる「眼鏡状突帯」であろうか。第81図3は細い連弧文を施す縄文土器の蓋である。4・5は弥生土器である。4は短頸直口壺である。第94図3は板状木製品、4は杭である。第96図2は磨製石斧、7は石鏃、第98図1は凹石である。

(3)溝・その他出土遺物

ＳＴ仮溝（第81図）　24は不明土製品である。

ＳＤ07（第81図）　25・26は弥生時代中期の壺甕類の底部である。

ＳＤ13（第81図）　27は口唇部に列点刺突文を施す縄文土器である。

ＳＤ17（第96図）　17は砥石である。

ＳＤ33（第81図）　28～33は横条痕文を主体とする縄文土器である。34～38の縄文土器は表層よりの出土である。

ＳＤ40（第82・97図）　1～7は縄文土器である。1・2は口唇部に横引き沈線文を2条施す深鉢、3・4・6・7は横条痕文を主体とする深鉢で、5は4単位の波状口縁深鉢である。中屋式期の後半段階に属する。8は土師器の底部、第97図1は砥石である。

ＳＤ125・ＳＤ127間（第94図）　5は杭である。

ＳＤ130（第82図）　9は須恵器の鉢である。

ＳＤ132（第82図）　10青磁の皿である。

ＳＤ135（第82・83・94・95・98図）　本遺構は底面で①～④の4つの流路が確認され、遺物も流路毎に分けて掲載した。第82図11～20の土器が出土した。11～13・15は有段口縁無文の甕、14は有段口縁の壺、17は有段鉢形の高杯、18は小型高杯、20は有段口縁鉢である。第94図6～15と第95図1～21は杭である。SD135①からは第82図21～28の土器が出土した。21は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式系甕、22は有段口縁鉢、23は大型有稜高杯、25は有段口縁の大型器台、26は外反口縁の小甕、27は鉢形の小型土器、28は蓋である。第98図2は縄文時代晩期の凹石で混入とみられる。SD135②からは第83図1～7の土器が出土した。1・2は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕、3は有段状口縁無文の甕、4は「く」の字状口縁の甕、5は内湾口縁の壺、6は内外面赤彩の装飾器台である。SD135③からは第83図　8は壺甕類の底部、9は皿形の杯部をもつ高杯、10は有段鉢形の杯部をもつ高杯、11は器台である。SD135④からは第83図12～24の土器が出土した。12～15が有段口縁擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、16～18は有段口縁無文の甕、19が「く」の字状口縁の甕、20が外面赤彩壺、21が長頸壺、23が有段鉢形の高杯、24が有段口縁をもつ大型器台である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ137（第83・95図）　第83図25は外面赤彩の器台類の脚部である。26は須恵器有台椀、27は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕、28は甕類の底部、29は「く」の字状口縁の小甕である。第95

図22は杭である。

ＳＤ138（第84図）　1は横条痕文を施す縄文土器の深鉢、2は壺類の底部である。

ＳＤ139（第84図）　3は有段口縁無文の甕で、肩部外面にキザミ文がみられる。

ＳＤ140（第84～88・95～98図）　本遺構はＡ～Ｄの４地点に分けて遺物を取り上げている。第84図4は「く」の字状口縁の甕、5は小型丸底壺、6は土玉である。第95図23は杭である。SD140の畦からは第84図7は布留式系の甕、8は有段口縁の山陰系の壺、9は有段口縁の装飾壺である。第97図7は打製石斧である。

SD140(A)からは第84図10～24、第85図1～23の土器が出土した。第84図10は弥生時代中期の甕、11・12は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、13は「く」の字状口縁の甕、15・16・18は山陰系の有段口縁の甕、17・19～22が布留式系の甕、24は内湾口縁の広口壺、第85図の1・2は有段口縁の山陰系の壺、3・4は有段口縁の壺、5は直口壺、6・7・8は弥生時代中期の壺甕類、9・10は装飾壺、12は内湾口縁の鉢、16は有段鉢、11・13・14は装飾高杯、17～19が高杯の脚、20・21は小型器台、22・23が装飾器台である。第96図8は石核、18は砥石である。

SD140(B)からは第85図24～30、第86図の土器が出土した。第85図24は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。25は外反口縁の甕、26～29が有段口縁の山陰系の甕、第86図1・5～8が布留式系甕、2・3が「く」の字状口縁の甕、9～11が外反口縁の壺、12～14・19が二重口縁の壺、20・21が装飾壺、25・26が小型器台、27は内外面赤彩の鉢、28が有孔鉢、29が蓋、30が「く」の字状口縁壺、31は直口壺、32が手捏ね土器、33は内面黒色土器の有台椀である。第96図12は剥片、第97図5は打製石斧、10は敲石である。

SD140(C)からは第87図1～37の土器が出土した。1・2が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕、3が有段口縁の山陰系の甕、4～8・11が「く」の字状口縁の甕、9は布留式系の甕、11が「く」の字状口縁の広口壺で内外面赤彩が施されている。12・20・21が有文・赤彩の高杯、15が「く」の状口縁の壺、14・16・17が二重口縁の壺、23～29が小型器台、30が装飾器台、31が蓋、32が台付鉢等脚、33が有孔鉢、34～36が小型壺、37がミニチュア土器である。第96図13は剥片、第97図2は砥石、第98図3は凹石である。縄文時代晩期に属する。

SD140(D)からは第88図1～22の土器・土製品が出土した。1・2は有段口縁の山陰系の甕、3・6は「く」の字状口縁の甕、7・9は布留式系の甕、5は「く」の字状口縁の広口壺、10～12は二重口縁の壺、13は有段口縁の壺、14は直口壺、16は高杯の脚部、17は小型器台、18は装飾器台、19は台付鉢等の脚部、20は小型丸底壺、21は有孔鉢、22は土錘である。第97図6は打製石斧、13は凹石である。

SD140(D)の畦からは第88図23が「く」の字状口縁の甕、SD140D表層からは第88図24が布留式系の甕、27は装飾壺、28は外面赤彩の蓋、29は外面に装飾をもつ鉢か。30・31はミニチュア土器、32は天目の碗、33は珠洲焼のすり鉢が出土している。遺構の時期は古墳時代前期初頭から後葉までと時期幅があるが、主体は前期中葉である。

ＳＤ141（第89図）　1は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、2は布留式系の甕である。

ＳＤ142（第89・96図）　第89図4・5は「く」の字状口縁の甕、10は内外面赤彩の装飾壺で、口縁外面には棒状浮文が貼付されている。11・12は小型器台、13は「く」の字状口縁の鉢、14は短く屈折する口縁の小壺である。時期は古墳時代前期前葉か。第96図19は砥石である。

ＳＤ143（第89・97図）　第89図15～18が弥生時代中期前半の土器である。15は口縁端部にキザミ文様がある甕、18は外面に擬流水文・直線文がみられる壺である。第97図9は敲石である。

ＳＤ148Ｂ（第89図）　19は有段擬凹線文の口縁をもつ月影式系の甕である。

ＳＤ150（第89～91・96～98図）　SD150は北からＡ～Ｅに分けて土器を取り上げている。

SD150(Ａ)からは第89図21が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕、22は土玉である。

SD150(Ｂ)からは第89図23が口唇部を浅く押厚する縄文土器、24～28・第90図1は有段擬凹線をもつ口縁の月影式系の甕、2・4は有段口縁状の無文の甕、3は外反口縁の甕、5は有段口縁の広口壺、7は中型の有稜高杯、8はラッパ状に大きく開く高杯、11は杯部口縁が直立する器台、12は装飾器台、13・14は蓋、15～17は鉢、18は小型の甕形土器、19・20台付鉢等の台部が出土した。第96図14・15は剥片である。

SD150(Ｃ)からは第90図21～25が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系甕、26が有段口縁無文の甕、27～29が「く」の字状口縁の甕、30が鉢、第91図1・2は内外面赤彩の有段口縁直口壺、3は内湾口縁の壺、4は外面に沈線文や斜線文を描いた無頸壺、5は装飾器台、6は外面に沈線文や斜線文を描いた内湾口縁壺、7は有孔鉢、8は小型鉢が出土した。第96図16は軽石である。

SD150(Ｄ)からは第91図9・10が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、11は有段口縁無文の甕、12は「く」の字状口縁の甕、13は内外面赤彩の広口壺、14は二重口縁の壺、15は有段鉢形の高杯、17は装飾器台である。18は小型器台で透孔が3ヵ所ある。19・20は有段口縁の鉢である。16は蓋、21～23は台付鉢等の脚部、24はミニチュア土器、25は土玉である。

SD150(Ｅ)からは第91図26が有段擬凹線の口縁部を持つ月影式の甕、27・28は高杯、29は装飾器台、30は直線文と分離山形文で装飾された高杯類の裾部が出土した。

ＳＤ151表層（第91・92図）　第91図31・第92図1・2は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式系の甕、第91図32・33は「く」の字状口縁の壺、第91図34は有段鉢、第91図36は無頸壺の蓋受けの耳、第91図35・第92図37は装飾器台、第92図38は蓋、第92図4・5は加飾された高杯である。第96図3は磨製石斧、第97図4は磨製石斧、第97図8は石錘、第98図はすり石と考えられる石製品である。これらは縄文時代晩期下野式期に属するもので、混入とみられる。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ156（第92図）　6は装飾器台である。

ＳＤ170（第92図）　7～9は平安時代の土師器椀である。7は椀、8・9は有台皿である。

ＳＤ174キ・ＳＤ150（第92図）　10は土玉である。

ＳＤ180（第92図）　11～15は縄文土器である。13・14・15は底部に格子状の圧痕が残されている。

ＳＤ188（第92図）　16・17は有段擬凹線の口縁部をもつ月影式の甕、18は甕類の底部、19は蓋、20は台付碗である。

ＳＤ189（第98図）　4は凹石である。

包含層（第92・96図）　第92図21～24は弥生時代中期の甕類である。第96図21は砥石である。

遺構外（第92図）　25～31の陶器類が出土した。

第3節　平成21年度（2009年）調査分

(1)ピット出土遺物

Ｐ764（第99図）　1は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、2は11世紀頃の土師器の鍋か。3は須恵器の横瓶である。

Ｐ765（第107図）　1は柱状の木製品である。

P 786（第 99 図）　4 は受口状口縁の小甕である。

P 874（第 99 図）　5 は甕類の底部である。

P 882（第 107 図）　2 は祭祀具の一種で、両端部が欠損した舟形木製品である。

P 888（第 108・109 図）　8 は剥片、第 109 図 2 は砥石である。

P 900（第 107 図）　3 は柱根である。

P 904（第 107 図）　4 は柱状の木製品である。

P 916（第 99 図）　6 は高杯である。

P 926（第 99 図）　7 は土師器の皿である。

P 927（第 99 図）　8 は高松産の須恵器の有台杯である。

P 930（第 107 図）　5 は板状木製品である。

(2)井戸・土坑出土遺物

ＳＥ08（第 99・109 図）　9 は有段口縁の山陰系の甕、10 は「く」の字状口縁の小甕、11 は「く」の字状口縁の甕で上層から出土している。時期は古墳時代前期中葉に属する。第 109 図の敲石と上層から 11 のすり石が出土している。

ＳＥ09（第 99 図）　下層からは第 99 図 12 が須恵器の無台杯で外底に「諸刀自女」と墨書があるものや 13 の土師器の有台椀が出土している。他に須恵器では 14・15 が無台杯、16 は有台杯、18 は杯蓋、19 は肩衝壺である。時期は 8 世紀末から 9 世紀初頭か。

ＳＫ116（第 99・108 図）　20 は土師器の甕、21 は須恵器の有台杯である。第 108 図 6 は玉製品の未製品、9 は剥片である。どちらも緑色凝灰岩である。

ＳＫ120（第 99 図）　22 は外反口縁の甕、24 は長頸壺、時期は弥生時代後期に属する。

ＳＫ122（第 107 図）　6 は穿孔が 2 ヵ所ある部材の一部である。

ＳＫ127（第 99 図）　24 は器台の脚部である。

ＳＫ128（第 99 図）　25 は内外面赤彩を施した有段口縁の小壺、26 は蓋である。

ＳＫ132（第 99 図）　27 は内外面赤彩を施した有段口縁直口壺である。

(3)溝出土遺物

ＳＤ142（第 100 図）　1 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕である。

ＳＤ163 下層（第 100 図）　2 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕である。

ＳＤ190（第 100・101・109 図）　下層からは第 100 図 3 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、4 が壺類の底部、5 が「く」の字状口縁の小甕、6 は直口壺で頸部突帯外面にキザミ文様がある。溝の膨らんだ部分の下層からは 7 が甕類の底部である。同じ部分の上層からは 8 が「く」の字状口縁の甕、9・25 が受口状口縁の甕、10 が内外面赤彩の外面に沈線文や山形文・斜線文を描いた装飾壺である。それ以外の SD190 からは 11～21・23 が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、22 が壺類の底部、27 が有段直口壺、28 が有段状口縁の壺、29 が外面赤彩・頸部突帯外面にキザミ文様をもつ壺、30・31 が壺類の底部、32 が外面赤彩・口縁部沈線文・斜線文をもつ内湾口縁壺、第 101 図 1・2 が大型の有稜高杯、8・9 が小型器台、10・11 が蓋、12・13・14 が台付鉢、15 が有孔鉢、16 が広口の直口壺、17 は須恵器の無台杯、第 109 図 16 は凹石である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ190・192 の間（第 101・102・109 図）　第 101 図 18 は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、19 は有段状口縁無文の甕、20 は「く」の字状口縁の甕、21・23 は口縁部内外を羽状文で加飾した壺、

22は鉢、25は器台、26は蓋、28は小型土器、27の土玉はSD190・192合流部から出土した。SD190・SD192間の砂層からは第102図26～31の土器が出土している。26は「く」の字口縁の甕、28は直線文と斜線文が施された壺か高杯、29は口縁内外面に羽状文が施された装飾壺である。第109図13はすり石と考えられる石製品である。時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ191（第101・109図）　29・30は平安時代の須恵器、31は加賀焼の甕、第109図14は凹石である。

ＳＤ192（第101・102・109図）　第101図32・33は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、34は有段口縁無文の甕、35は受口状口縁の甕、36は口縁部内外を羽状文で加飾した壺、37は外面赤彩の壺である。他、テラス部分から38・39の壺類の底部、第109図3は砥石である。SD192西端からは第101図40・41の「く」の字状口縁の甕及び装飾壺、SD192(B)からは第101図42の甕類の底部、SD192(C)からは第101図43の「く」の字状口縁の甕、44の頸部に突帯が施された大型壺が出土している。SD192(D)からは第102図1が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、2は外反口縁の小甕、3は内外面赤彩を施した高杯である。SD192(E)からは第102図4が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、5は内外面赤彩の外面に直線文や山形文等を描いた内湾口縁壺、6は2段の透かし孔をもつ高杯、7は装飾器台、8は小型器台、第109図12はすり石である。SD192(F)からは第102図9が口縁外面に棒状浮文が施され、口縁内外面に羽状文がある装飾壺、10は二重口縁の壺である。SD192(G)からは第102図11が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、12は口縁外面に棒状浮文が施され、口縁内外面に羽状文がある装飾壺、13は外面赤彩・頸部外面にキザミ文様がある壺、14は外面に沈線文や綾杉文のある赤彩が施されている高杯の脚部である。SD192(I)からは第102図15が有段擬凹線の口縁を持つ月影式系の甕、16は口縁内外面に羽状文が施され、頸部外面にキザミ文様がある装飾壺、17は小型器台、18は外面赤彩の蓋である。SD192(J)からは第102図19が有孔鉢である。SD192(K)からは第102図20が有段口縁の大型壺、21は口縁内外面に羽状文が施された装飾壺、第109図9は敲石、SD192(L)からは第102図22・24が高杯、23は蓋である。SD192(M)からは第102図25が高杯類の脚部である。上層からは第102図32～35が壺、36は器台、37は高杯である。遺構の時期は古墳時代前期初頭に属する。

ＳＤ194（第105図）　14は布留式系の甕、15は「く」の字状口縁の甕、16は有段直口壺、17は二重口縁の壺、19は内外面を赤彩し口縁外面にキザミ文、口縁内面に直線文・分離山形文で加飾した二重口縁の壺、20は小型器台である。時期は古墳時代前期前葉に属する。

ＳＤ195（第103～105・107～109図）　1・2は縄文土器である。1は斜め条痕文を施す深鉢、2は口唇部に横引沈線文を3条施す鉢である。第107図7・8は杭である。最下層の出土遺物は、第103図3が有段口縁無文の甕、4～6が「く」の字口縁の甕、7～10が装飾壺で直線文と斜行文が施され、11が外面赤彩された内湾口縁壺、17が高杯、18は直線文と分離山形文が施された装飾高杯類の脚部、20・21は台付鉢等脚部である。第108図4は管玉、22は不明石製品である。最下層・下層の出土遺物は、第103図22が「く」の字状口縁の甕、23は二重口縁の壺、27は直線文と羽状文・斜行文が施された加飾高杯、24は小型器台、26は有段口縁の大型器台、28は「く」の字状口縁の小甕、29は通風孔付き蓋である。下層の出土遺物は、第103図30～33が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、34・35は有段口縁無文の甕、36・39は「く」の字状口縁の甕、37・38は壺類の底部である。第104図1が直口壺、2は有段口縁広口壺、3は内湾口縁壺、4は壺の底部、5は有段口縁形の高杯、6は有稜の高杯、8は器台、9は赤彩された蓋か。10は小型器台、11・12は蓋、13・14は有孔鉢、15は台付鉢、16・17は小型土器類、18は小型丸底壺である。第108図1が石鏃、21は不明石製品、第109

図5は砥石、8は敲石である。中層の出土遺物は、第104図19の有段擬凹線の口縁をもつ甕である。上・中層からは第104図20が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、21は受口状口縁の甕、22は「く」の字状口縁の甕、23は外反口縁の壺、24は装飾器台である。上層からは第104図25が肩部外面に斜格子文が描かれた壺、26は土錘、27・28は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、29は布留式系の甕、30は「く」の字状口縁の小甕、31は有段口縁の壺、32～34は装飾器台、35は小型器台、36は小型丸底壺、37は土師器鍋である。その他のSD195からは第104図38が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、39は外面に沈線文や斜線文が描かれる装飾壺か高杯、40は蓋、41は須恵器の瓶、SD195-1層からは第105図1が有段口縁無文の甕、2・3は壺、4は高杯、5は小型器台、第108図10は剥片、108図1は石錘である。SD195グループAからは第105図6が二重口縁の壺、7は小型器台である。SD195グループCからは第105図8が器台、第109図4は砥石である。SD195グループDからは第105図9が有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕である。SD195西端からは第105図10が有段口縁の壺、12は口縁部内外面に羽状文が施された装飾壺、13は有孔鉢である。時期は古墳時代前期前葉を上限とするが、遺構の主体となるのは前期初頭である。

ＳＤ199暗渠（第105図）　22は口縁内外をキザミ文様が施された装飾壺である。

ＳＤ206（第105図）　23は平安時代の須恵器の杯身である。

ＳＤ210（第105図）　24は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、25は高杯である。

ＳＤ212（第105図）　26は二重口縁に類似した壺である。

ＳＤ213（第105・108・109図）　東端からは第105図27が長頸壺、上面からは第105図28が口縁端部に擬凹線が入る外反口縁の甕、30は高杯、第108図7は石核、その他のSD213からは第105図29が外面赤彩の壺の底部、第109図6は砥石である。

ＳＤ214（第106図）　1は須恵器の壺、2は受口状口縁の甕、3は土師器の把手部分である。4は有段高杯、5は蓋、7・8は須恵器の無台杯、9は須恵器の長頸瓶、10は須恵器の蓋、11は須恵器の無台杯で外底に「本ヵ」と墨書がみられるもの、12は須恵器の有台杯で、須恵器は8世紀末から9世紀初頭に属する。13・14は土錘、15は縄文土器である。

ＳＤ215（第106図）　16～18は広口壺で、櫛描きの直線文・簾状文・羽状文などが施されている。19は条痕文が施されている。20は壺甕類の底部、21は蓋である。時期は弥生時代中期前半に属する。

ＳＤ216（第109図）　7は砥石である。

ＳＤ217（第109図）　15は凹石である。

(4)包含層出土遺物

包含層（第106・108図）　第106図22～43が土器・須恵器、第108図2・3は石鏃、5は管玉未製品、11～13・15～20は剥片、14は石核である。

第4節　平成22年度（2010年）調査分

(1)ピット出土遺物

Ｐ951キ（第109図）　26は剥片石器である。

Ｐ955キ（第110図）　1は須恵器の瓶類の底部である。

(2)土坑出土遺物

ＳＫ135（第110図）　2は無頸壺である。胴部に2孔1対の小孔が開けられている。

ＳＫ145（第110図）　3は杯部が椀状で口縁端部が外反する高杯である。

(3)溝・その他出土遺物

ＳＤ238（第110図）　4は内外面赤彩の二重口縁の壺で頸部外面にキザミ文様がみられる。5は土錘である。

ＳＤ241キ・239キ・238キ（第110図）　6は近代の磁器碗である。

ＳＤ247キ（第108図）　25は剥片石器である。

ＳＤ250（第110図）　7は外底に網代痕が残る縄文土器の底部である。

ＳＤ257キ（第110図）　8は「く」の字状口縁の甕である。

ＳＤ260（第108～110図）　第110図9・10は手あぶり土器で同一個体、11は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、12・13は有段口縁無文の甕、14は有段状口縁の壺、17は有段鉢形の高杯、16はミニチュア土器である。SD260Ｂ地区からは18が有段口縁の山陰系の大型甕、SD260西側からは19が有段口縁長頸の壺、20は小型器台、SD260南からは21・24・25が有段口縁無文の甕、22・23は有段擬凹線の口縁をもつ月影式系の甕、26は有段口縁擬凹線をもつ壺、27・29は脚部、28は腕形の鉢、30は蓋である。時期は古墳時代前期初頭から前葉に属する。第108図23は石鏃、第109図18は打製石斧、20は砥石である。

ＳＤ261（第108・110図）　第110図31は口縁外面に擬凹線と棒状浮文、内面に羽状文が施された装飾壺、32は外反口縁の大型鉢、第108図24は剥片石器である。

ＳＤ262（第110図）　第110図33は有孔鉢である。

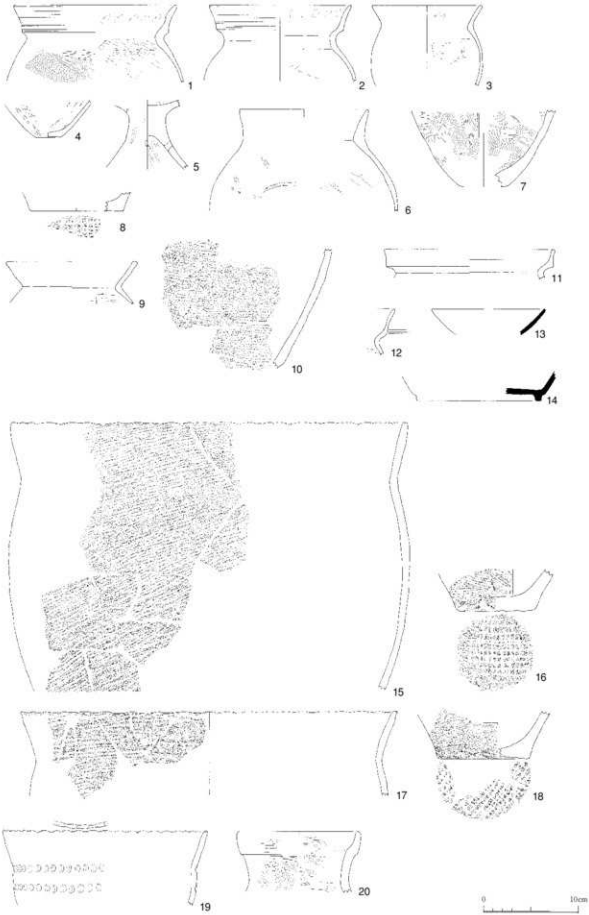
ＳＸ10（第110図）　34・35は縄文土器である。

遺構検出時・遺構外（第109・110図）　第110図36は縄文土器、37は土師器の無台椀、第109図19は打製石斧である。

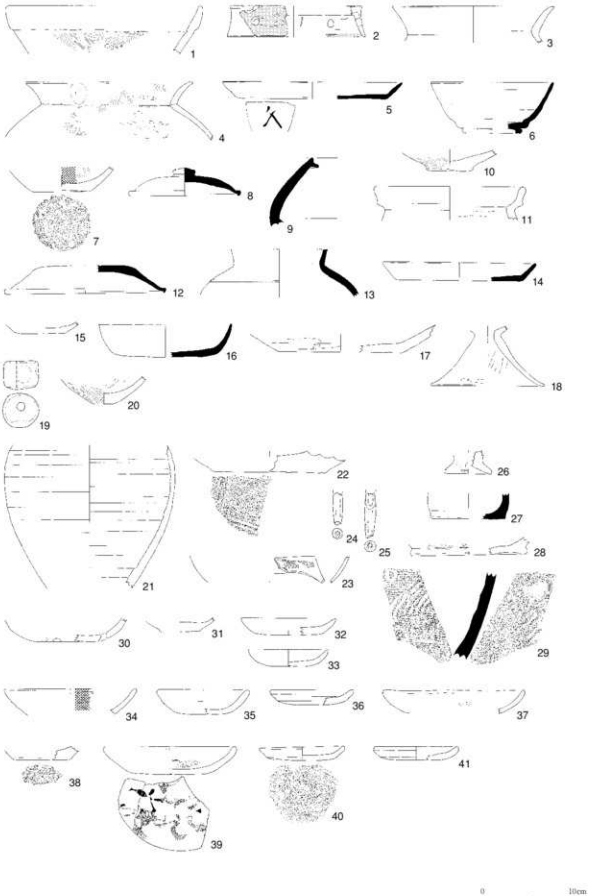
注　弥生時代中期から古墳時代前期までの時期区分は以下の通りとした。

弥生時代は中期前半（矢木ジワリ式、小松式式）・中期後半（磯部式、戸水Ｂ式）・後期前半（猫端式）・後期後半（法仏式）・終末期（月影式・3群、4群）、古墳時代は前期初頭（5群、6群）・前期前葉（7群、8群）・前期中葉（9群、10群）・前期後葉（11群、12群）と表現した。なお、○群は田嶋明人氏の以下の文献による。

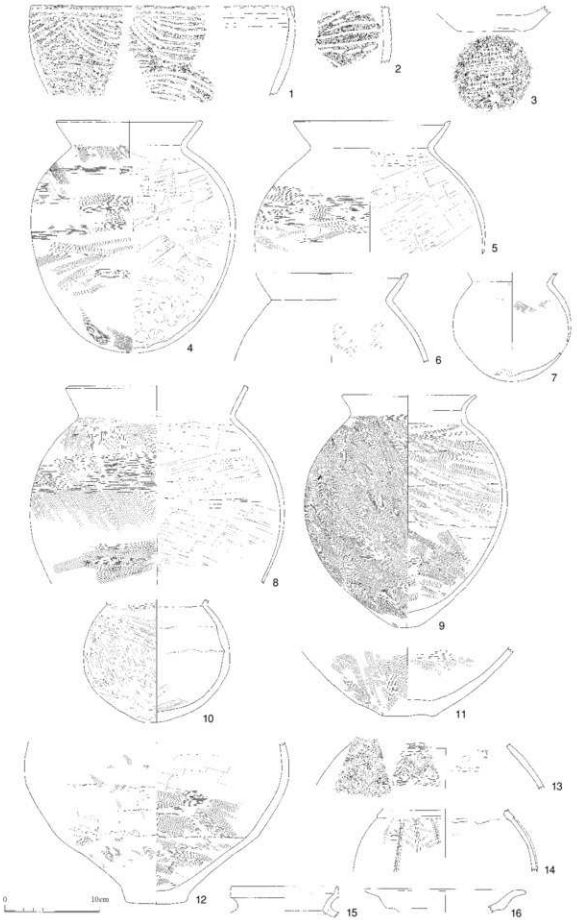
田嶋明人1986「Ⅳ考察　漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡群Ⅰ』石川県立埋蔵文化財センター



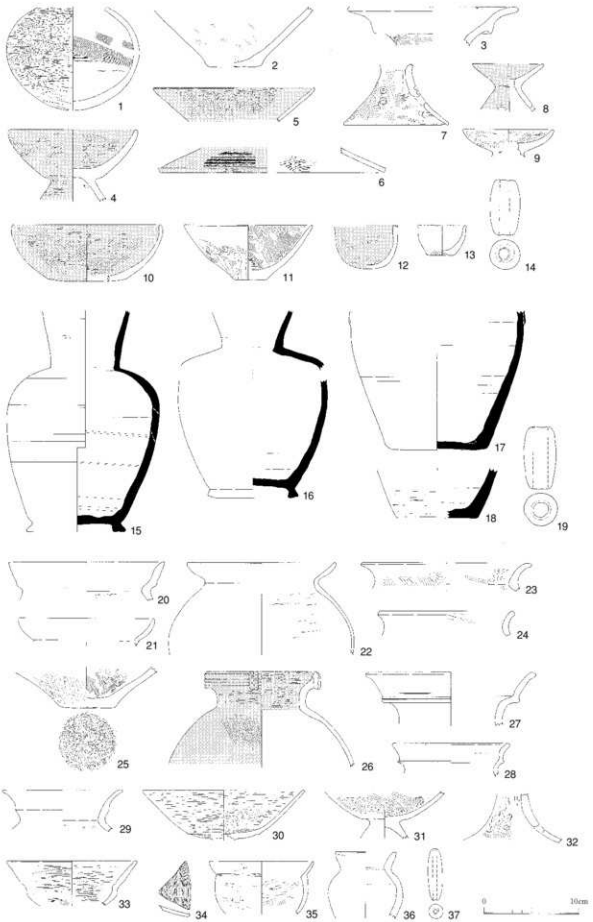
第39図　P03（1～5）、P04（6・7）、P05（8）、P15（9）、P22（10）、P34（11）、
P59（12）、P167（13）、P141（14）、P93（15～20）出土遺物（S=1/4）



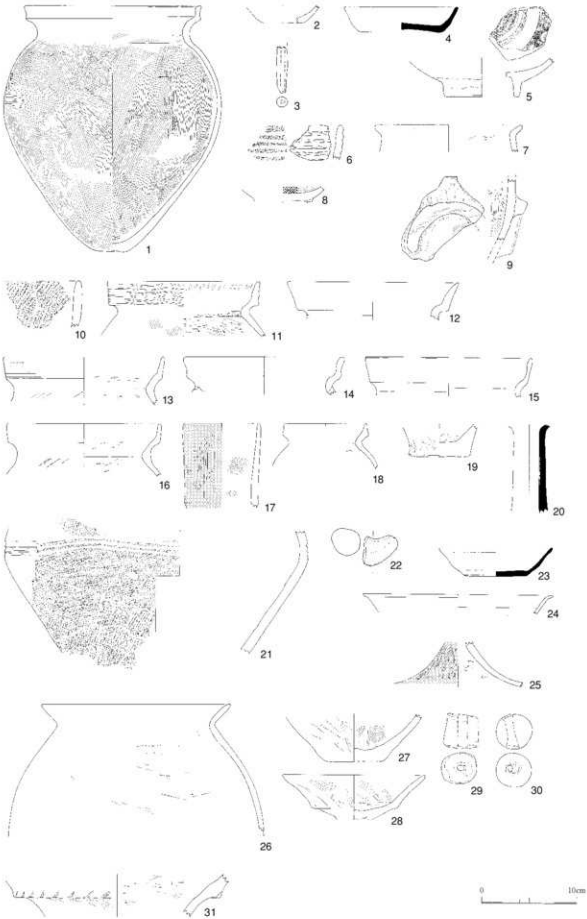
第40図　P220（1）、P239（2）、P258（3）、P278（4）、P285（5）、P290（6）、P294上層（7・8）、P296-1（9）、P310（10）、P352（11）、P413（12・13）、P432（14）、P440（15）、P454（16）、P469（17）、P511（18）、P526（19）、P560（20）、SB02-P193（21）、SB02-P198（22）、SB02-P201（23）、SB02-P208（24）、SB02-P206（25）、ST01（26～29）、SE01（30～33）、SE04（34～37）、SE05（38～41）出土遺物（S=1/4）



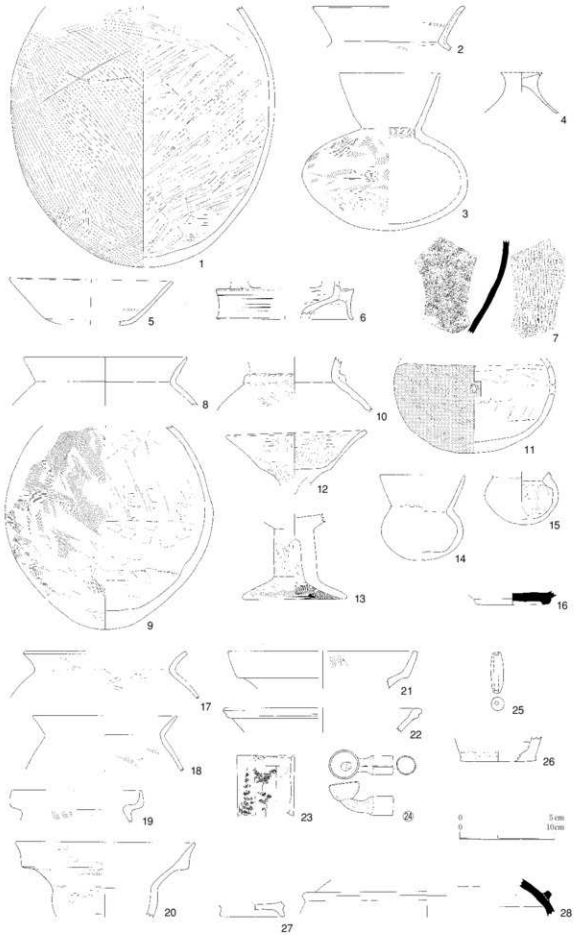
第41図　SE06出土遺物（S=1/4）



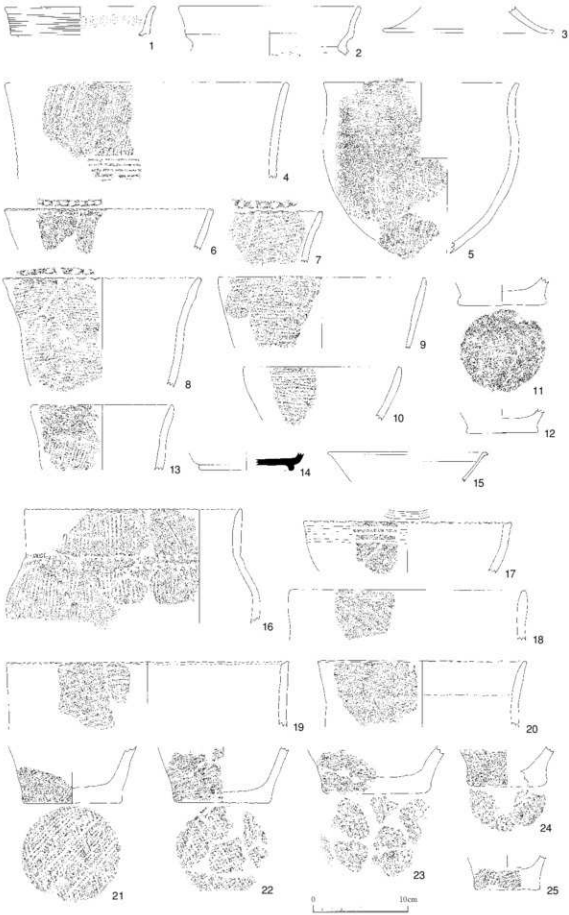
第42図　SE06（1～14）、SK03（15～19）、SK18（20～37）出土遺物（S=1/4）



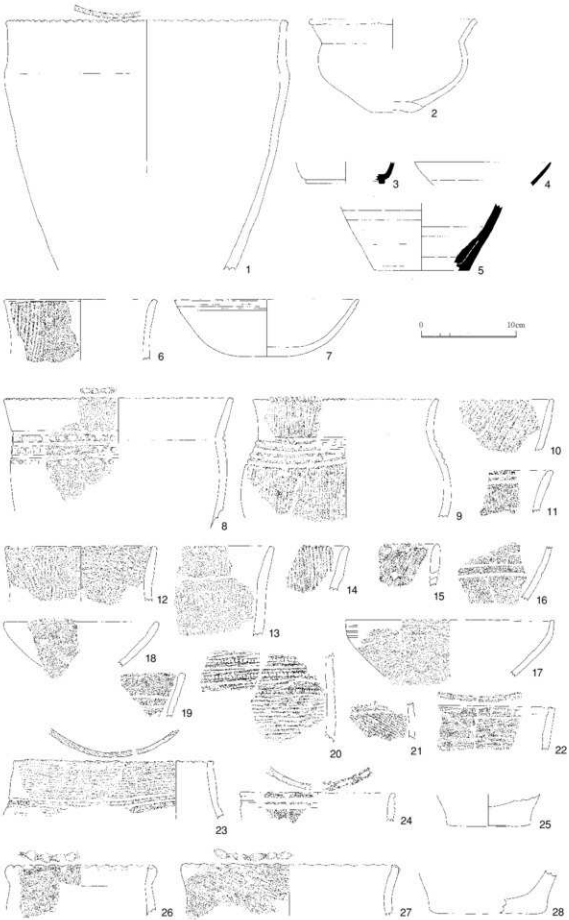
第43図　SK20（1）、SK22（2・3）、SK24（4・5）、SK26（6）、SK31（7）、SK40（8）、SK47（9）、SK21（10～18）、SK53（19）、SK55（20）、SK42（21・22）、SK58（23・24）、SK59（25）、SK61（26～30）、SK62（31）出土遺物（S=1/4）



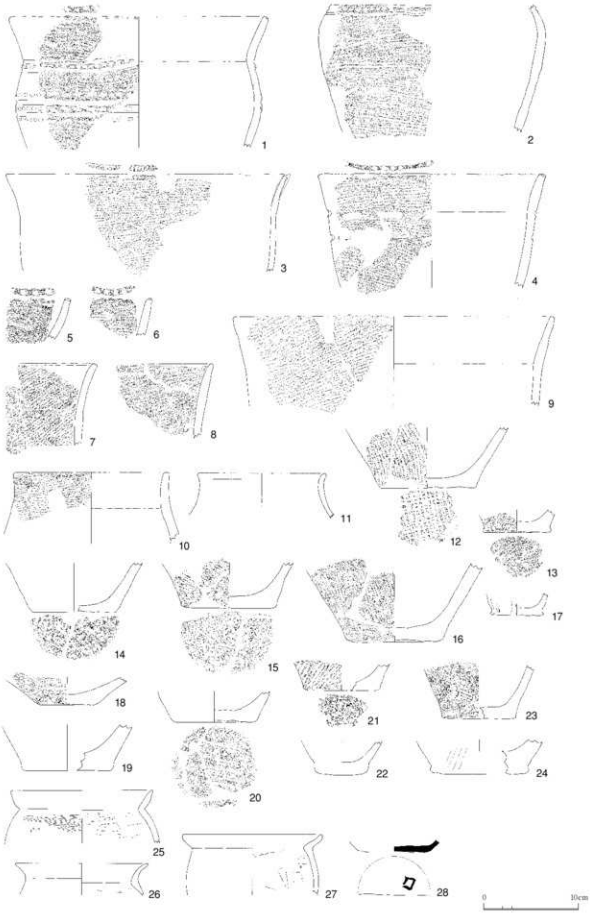
第44図　SK48（1～7）、SK63（8～15）、SK77（16）、SK72（17・18）、SK73（19）、SK78（20）、SD01（21～24）、SD20（25）、SD26（26）、SD24（27・28）出土遺物（S=1/4、○数字はS=1/2）



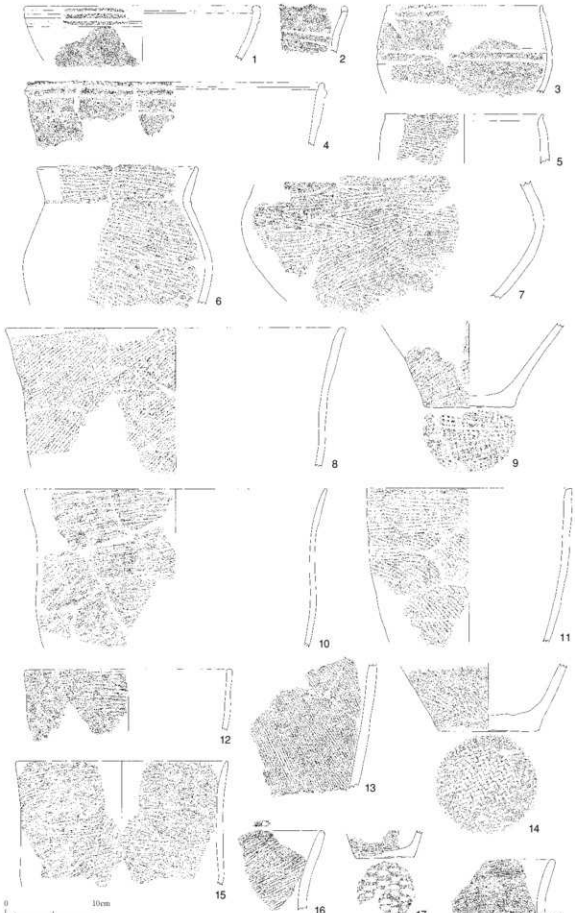
第45図　SD11（1～3）、SD33（4～15）、SD33南岸（16～25）出土遺物（S=1/4）



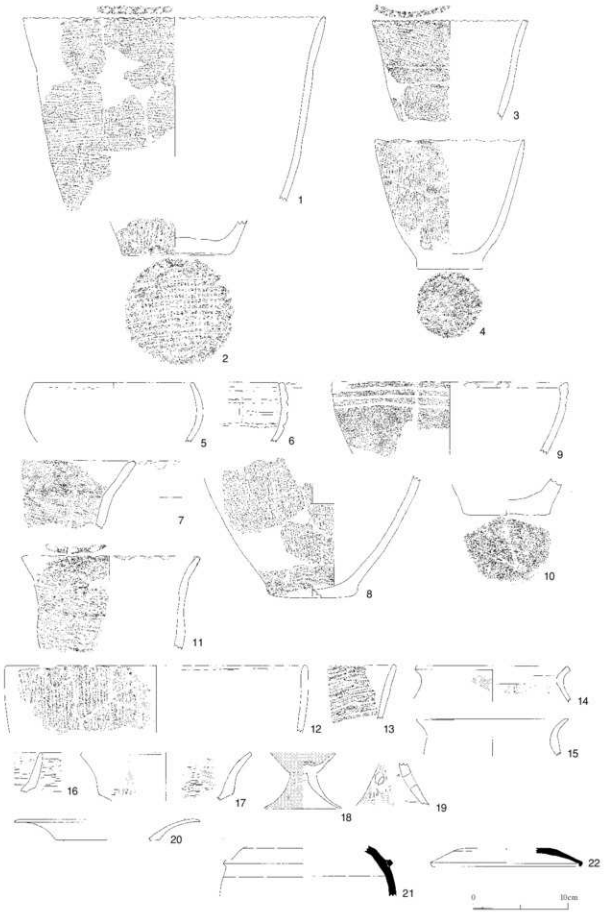
第46図　SD33北岸（1・2）、SD34（3～5）、SD39（6・7）、SD40（8～28）出土遺物（S=1/4）



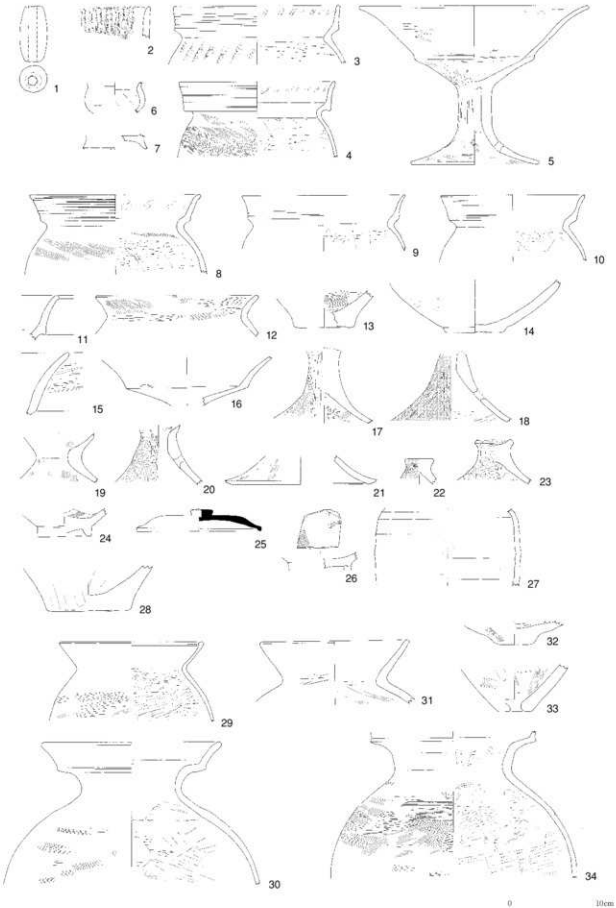
第47図　SD40出土遺物（S=1/4）



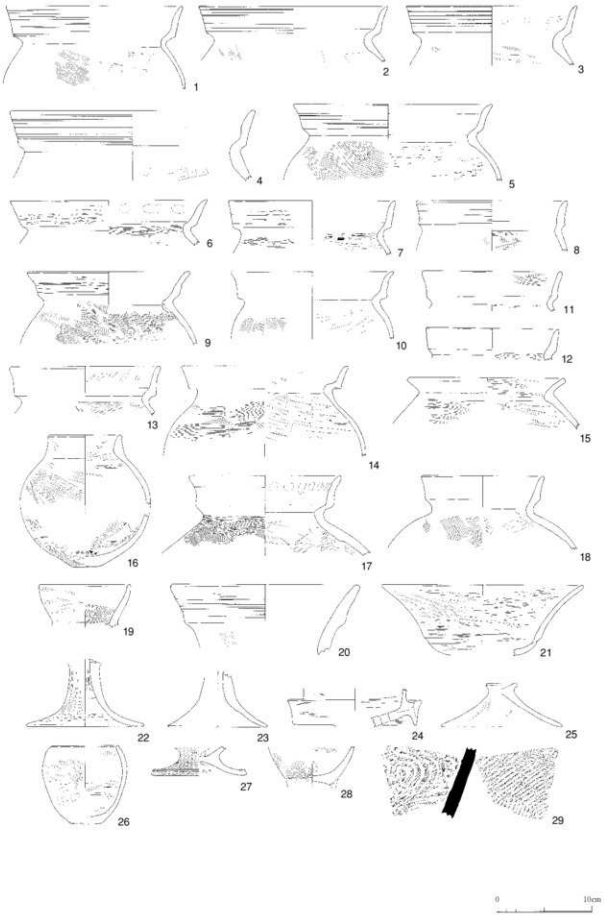
第 48 図　SD40 北岸出土遺物（S=1/4）



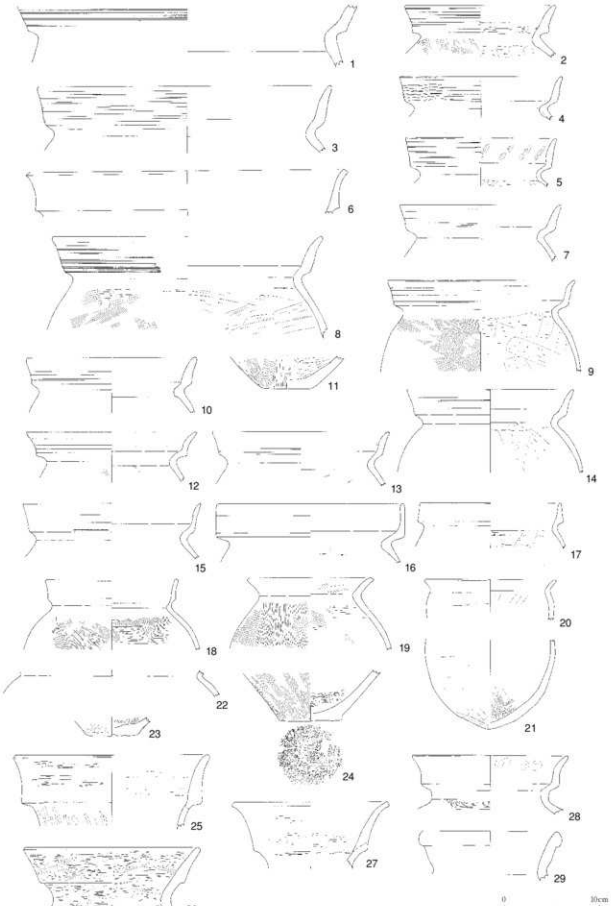
第49図　SD40南岸（1～4）、SD40南壁（5～11）、SD45（12～20）、SD47（21）、SD50（22）出土遺物（S=1/4）



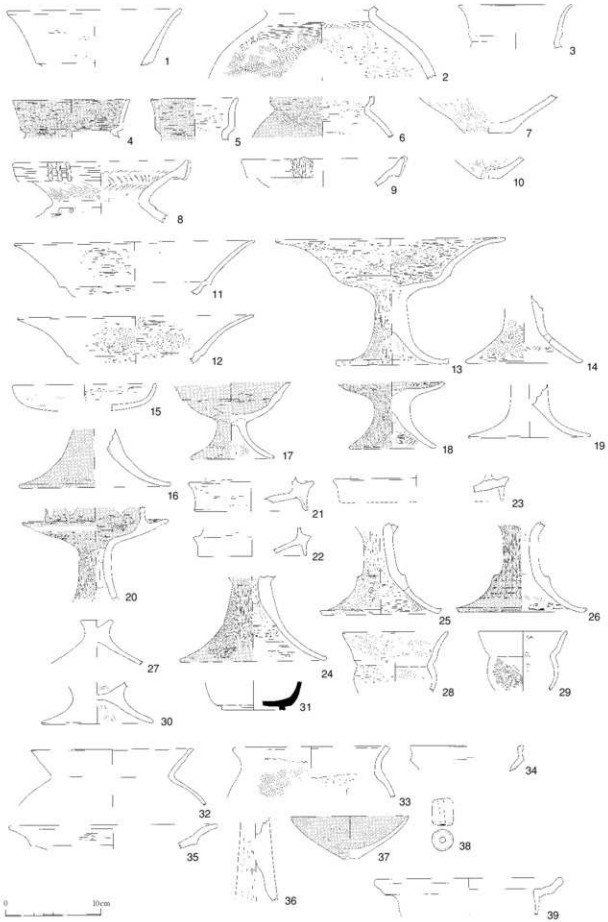
第50図　SD53（1）、SD54（2～7）、SD55（8～23）、SD71（24）、SD73（25）、SD85（26・27）、SD87（28）、SD95（29・30）、SD98（31）、SD101（32～34）出土遺物（S=1/4）



第51図　SD93（支線中）出土遺物（S=1/4）

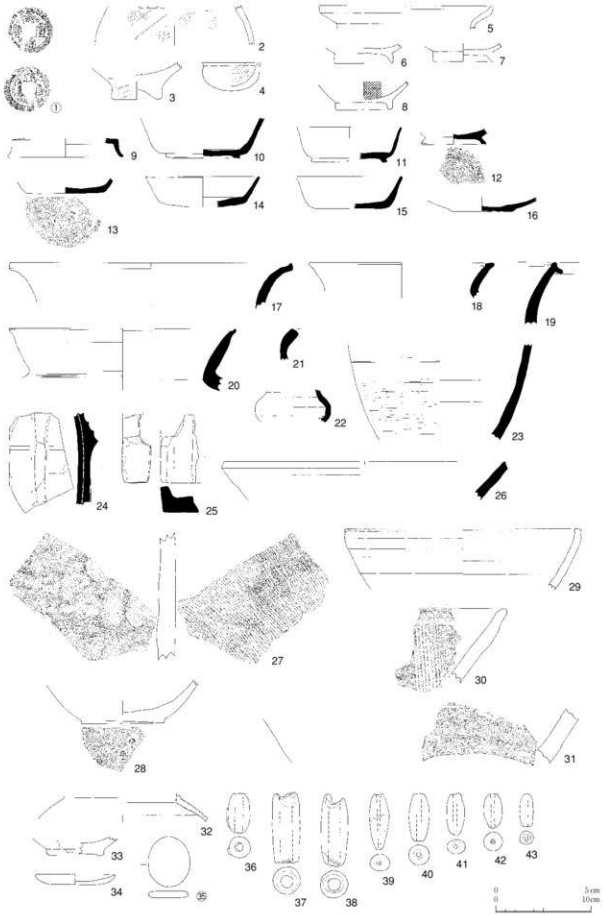


第52図　SD93（支線北）出土遺物（S=1/4）

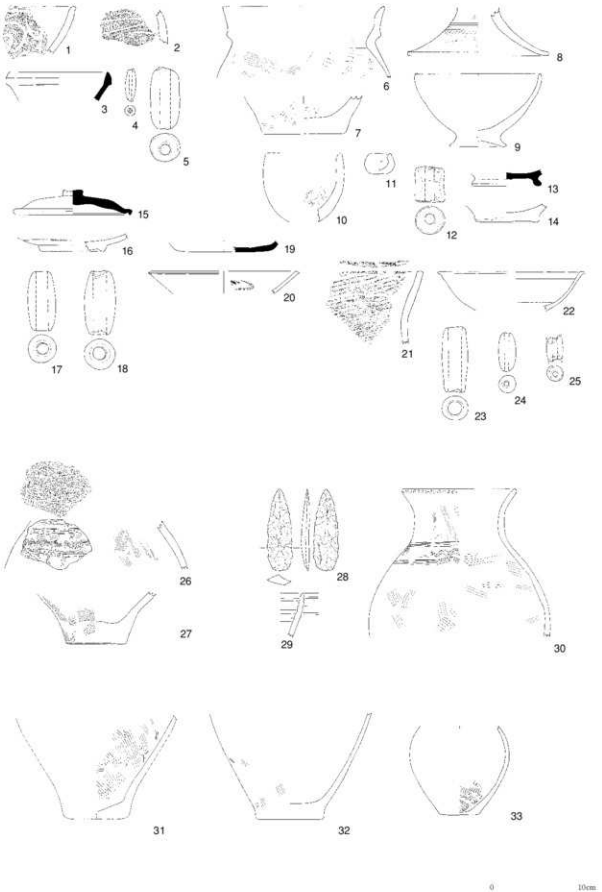


第53図　SD93（支線北）（1～31）、SD104（32～39）出土遺物（S=1/4）

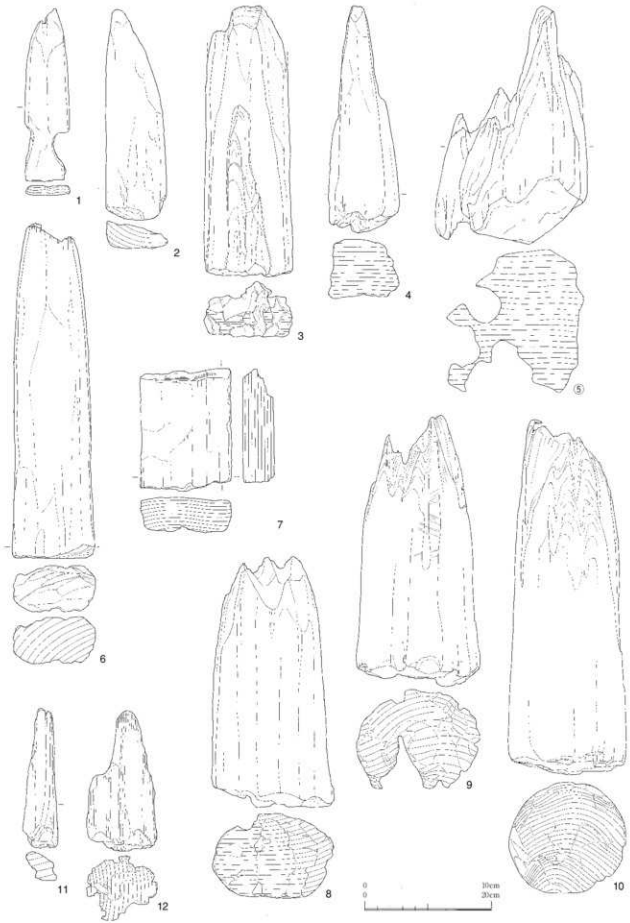
第54図　SD103（1・2）、SD110（3）、SD112（4・5）、SD122（6・7）、SX01（8）、SX05（9～12）、包含層（13～22）出土遺物（S=1/4）



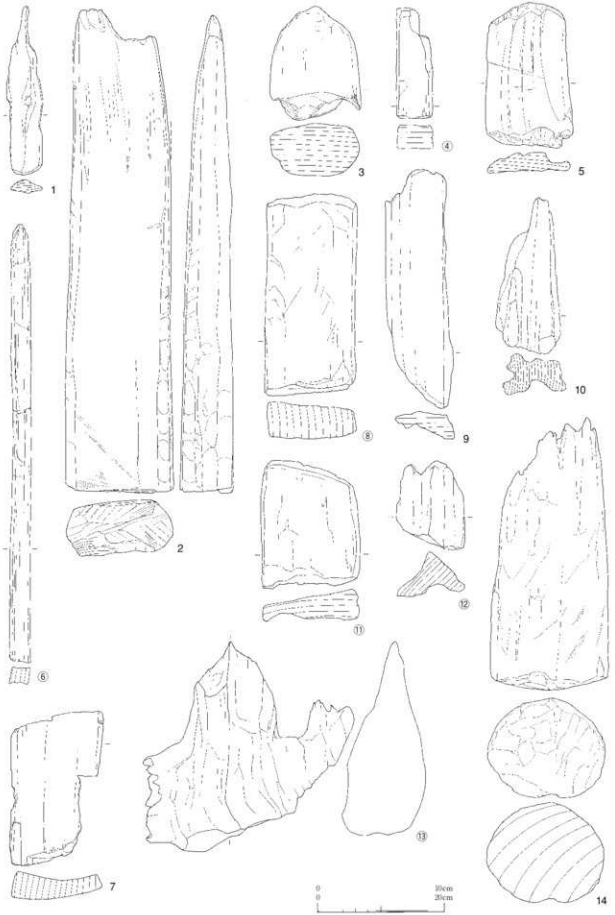
第55図　包含層（支線・1）、（支線中2～43）出土遺物（S=1/4、○数字はS=1/2）



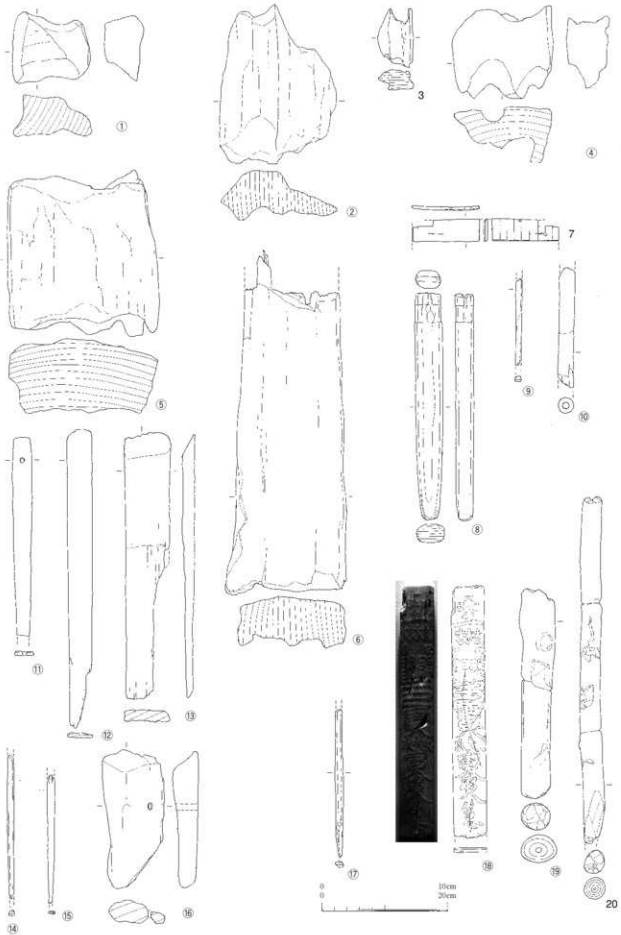
第 56 図　包含層（東側南 1～5）、（西側中央南 6～14）、（支線南 15～18）、（支線北 19・20）、カクラン・暗渠（21～24）、SK09（26・27）、SD07（28～30）、SD13（31～33）出土遺物（S=1/4）



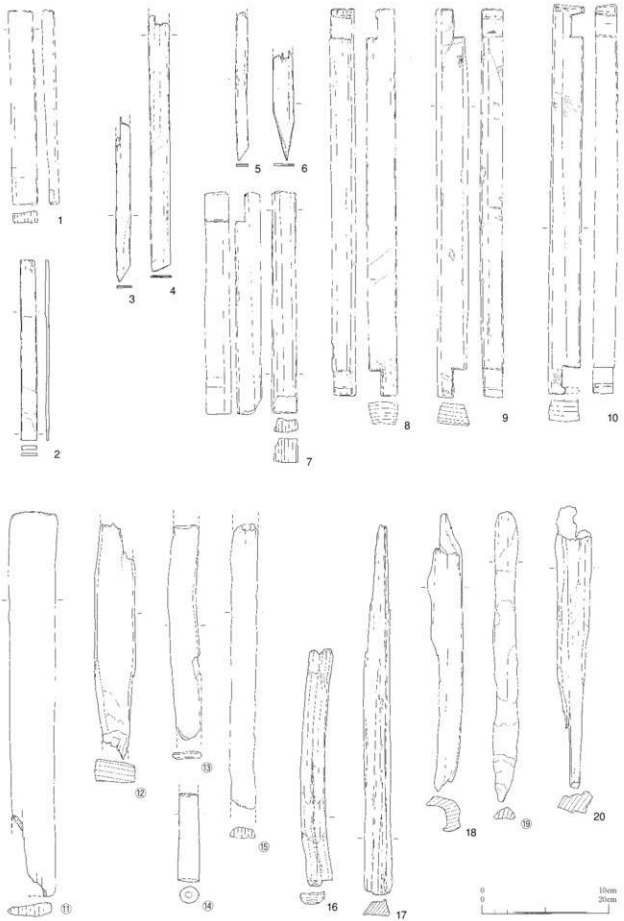
第57図　SB04-P270（1・2）、SB05-P263（3）、SB05-P185（4）、SB06-P184（5）、SB07-P518（6）、SB07-P560（7）、SB08-P269（8）、SB08-P506（9）、SB08-P556（10）、SB11-P180（11）、SB11-P534（12）出土木製品（S=1/6、○数字はS=1/3）



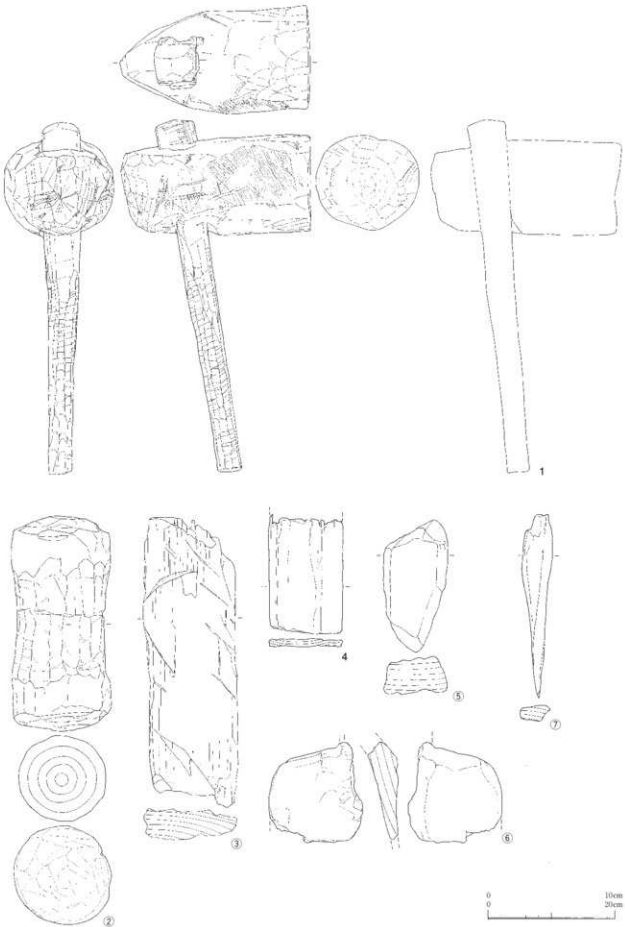
第58図　P91（1）、P277（2）、P283（3）、P296-②（4）、P287（5）、P400（6・7）、P441（8）、P439（9）、P386（10）、P451（11～13）、P458（14）出土木製品（S=1/6、○数字はS=1/3）



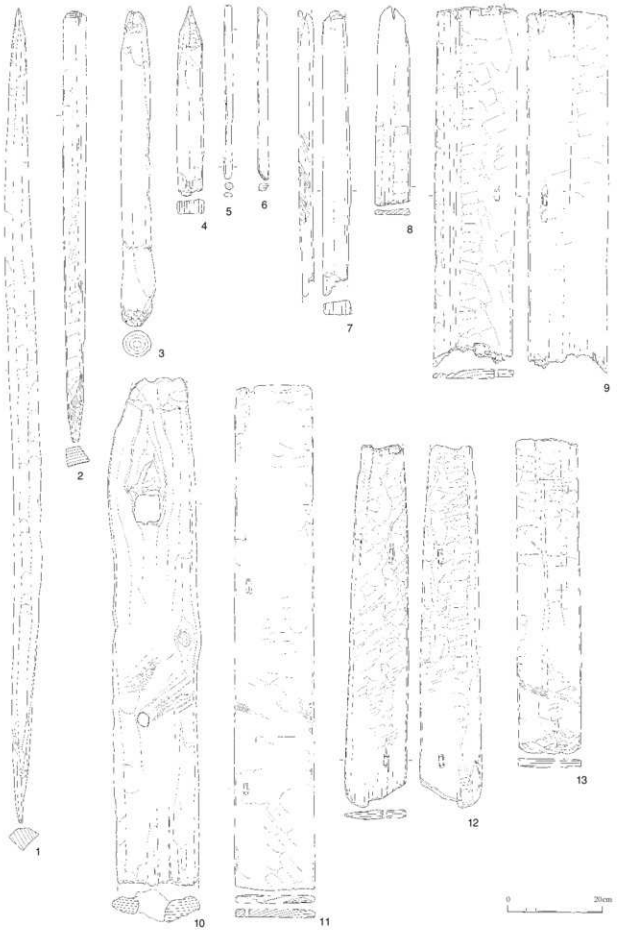
第59図　P515 (1)、P532 (2)、P533 (3)、P552 (4)、P564 (5)、P566 (6)、SE01 (7～10)、SE04 (11～16)、SE05 (17～20) 出土木製品 (S=1/6、○数字は S=1/3)



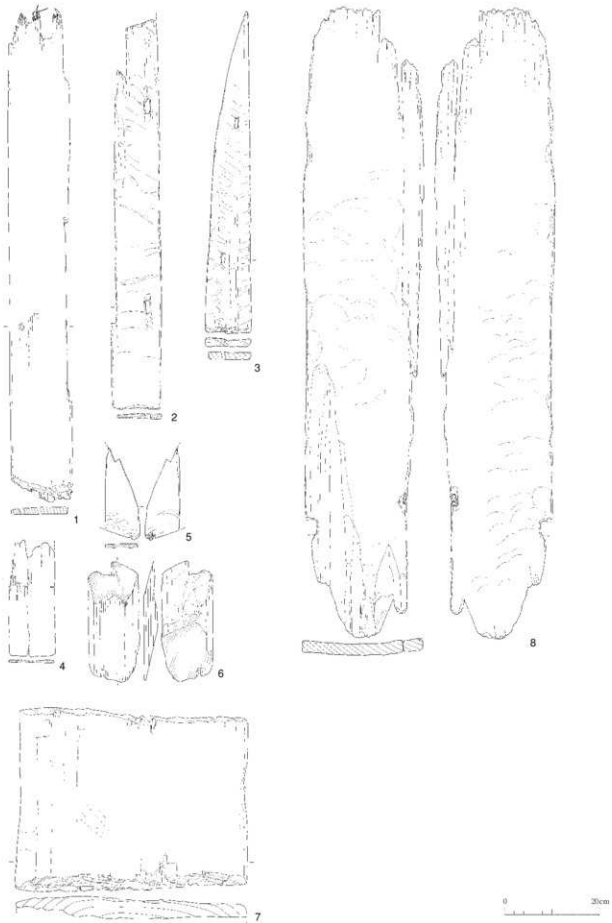
第 60 図　SE05（1～10）、SE06（11～20）出土木製品（S=1/6、○数字は S=1/3）



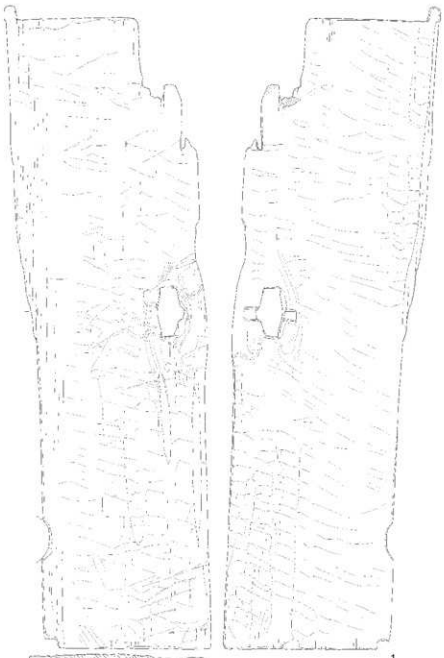
第 61 図　SE06 出土木製品（S=1/6、○数字は S=1/3）



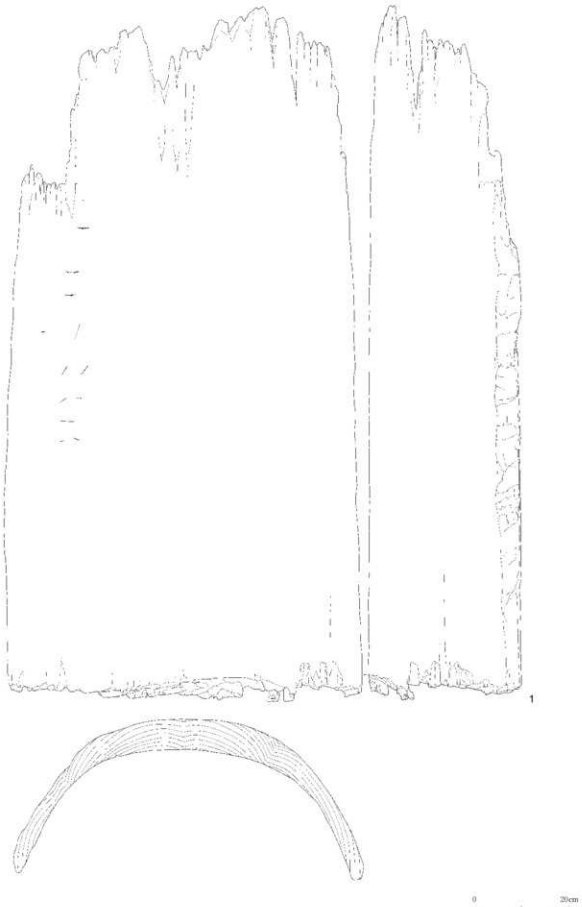
第62図　SE06出土木製品（S=1/8）



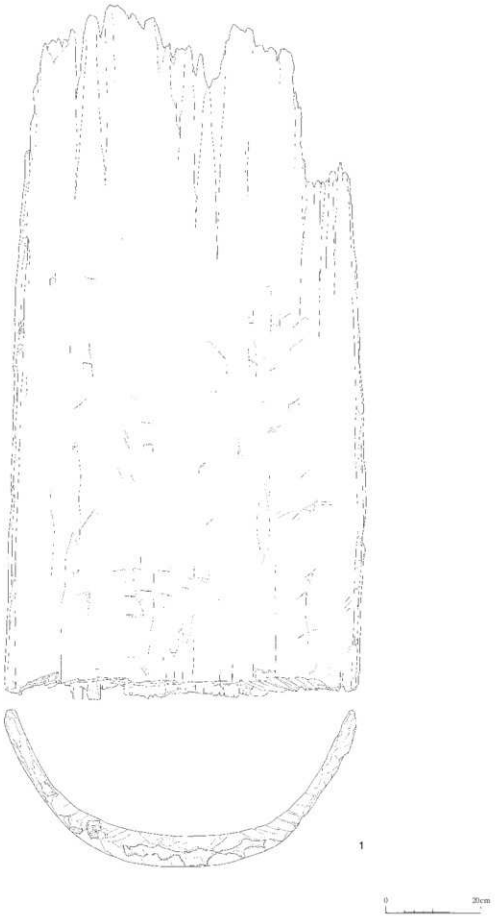
第 63 図　SE06 出土木製品（S=1/8）



第64図　SE06出土木製品（S=1/8）



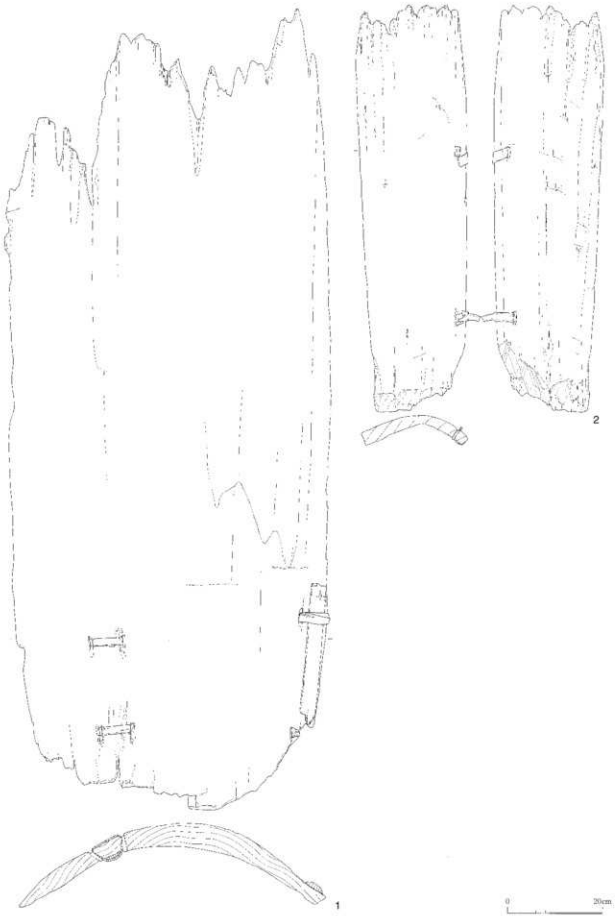
第65図　SE06井戸枠1（S=1/8）



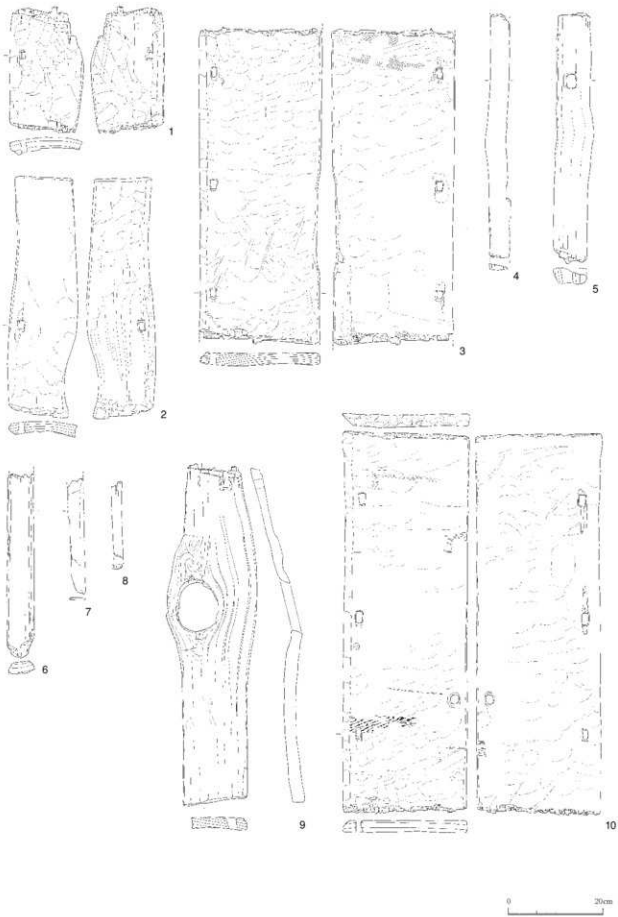
第66図　SE06 井戸枠1 (S=1/8)

0 20cm

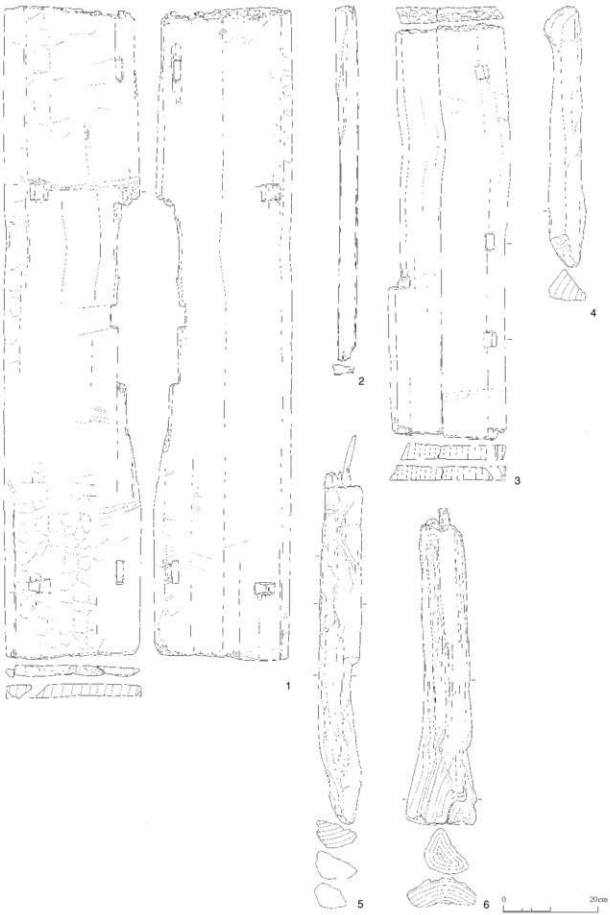
第67図　SE06井戸枠2（2）、井戸枠2付属品（1）（S=1/8）



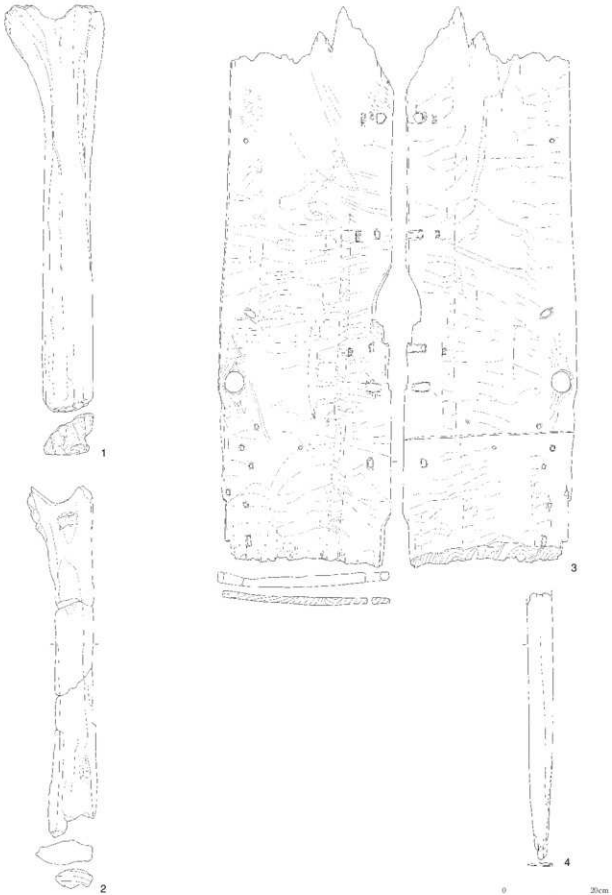
第68図　SE06井戸枠2（1）・3（2）（S=1/8）



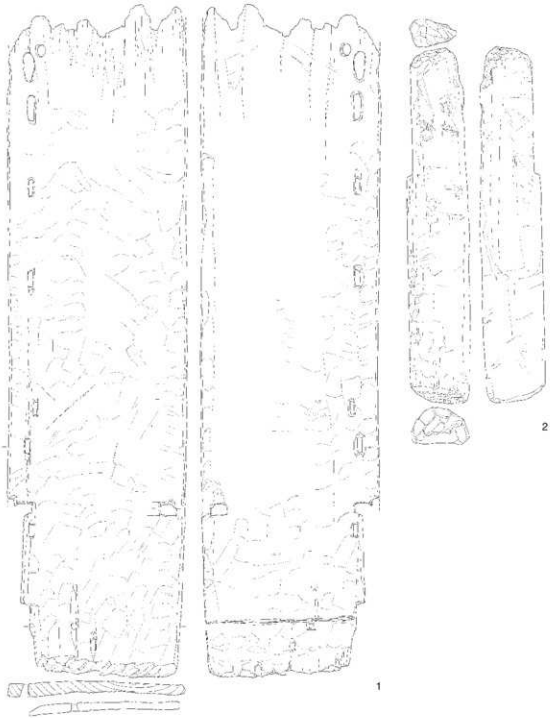
第 69 図　SK20 出土木製品（S=1/8）



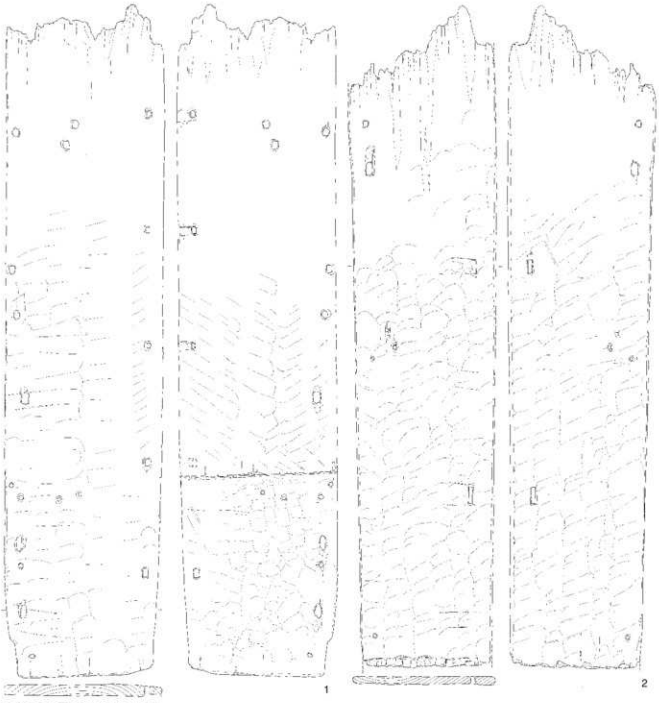
第70図　SK20出土木製品（S=1/8）



第 71 図　SK20 出土木製品、3 は井戸枠（S=1/8）

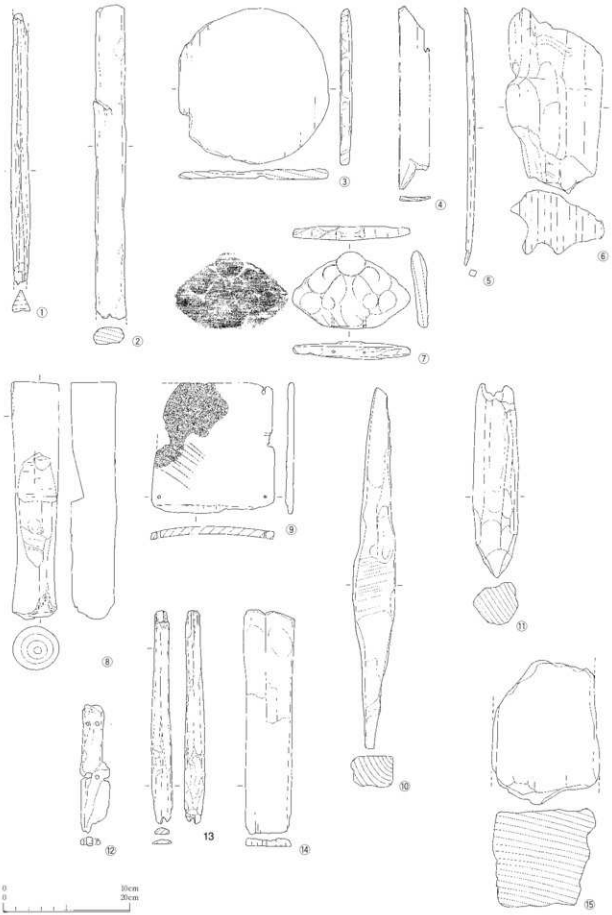


第 72 図　SK20 出土木製品、1 は井戸枠（S=1/8）

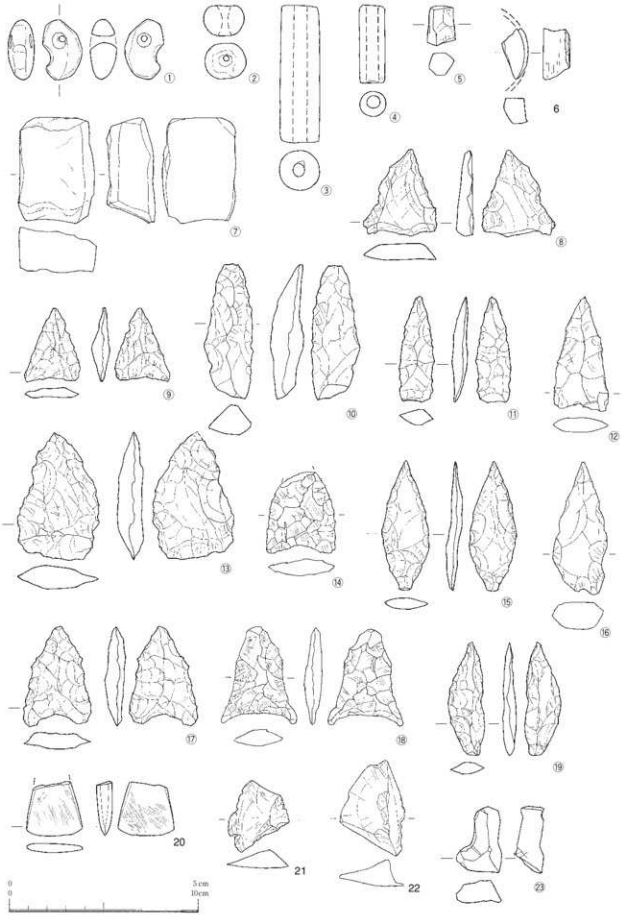


0 20cm

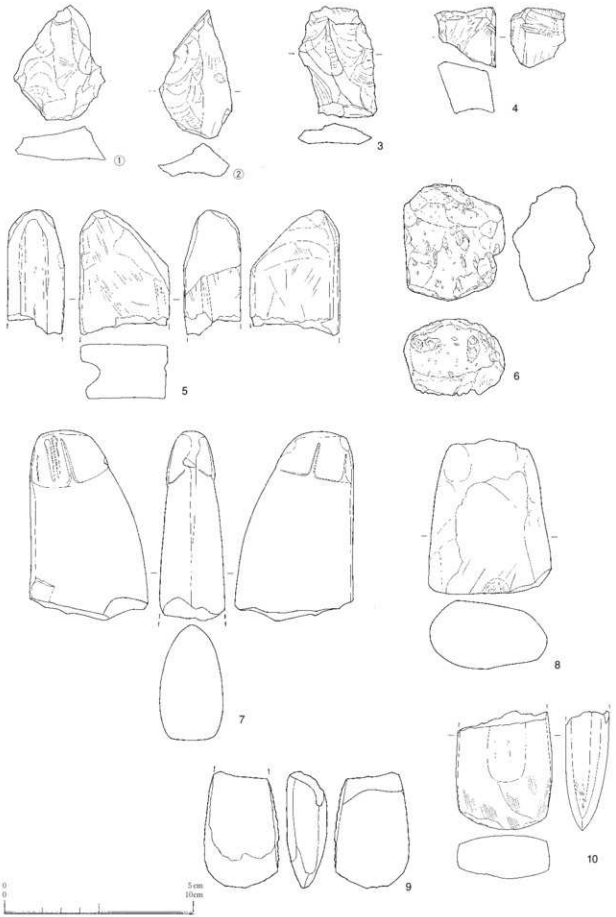
第73図　SK20 井戸枠（S=1/8）



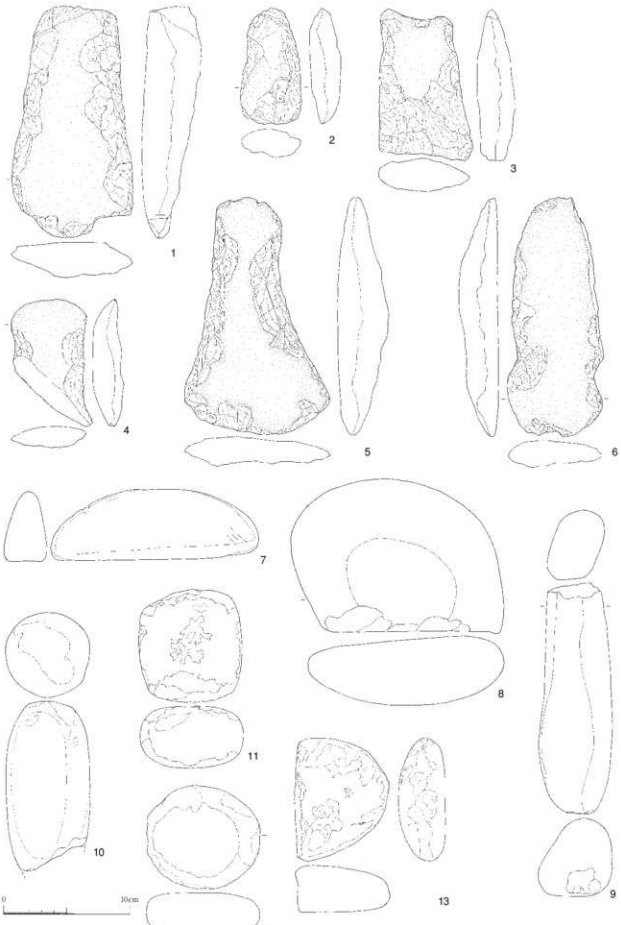
第74図　SK18（1）、SK23（2）、SK55（3）、SK60（4・5）、SK76（6）、SD01（7・8）、SD35（9）、SD40（10）、SD45（11）、SD54（12～14）、SD95（15）出土木製品（S=1/6、○数字はS=1/3）



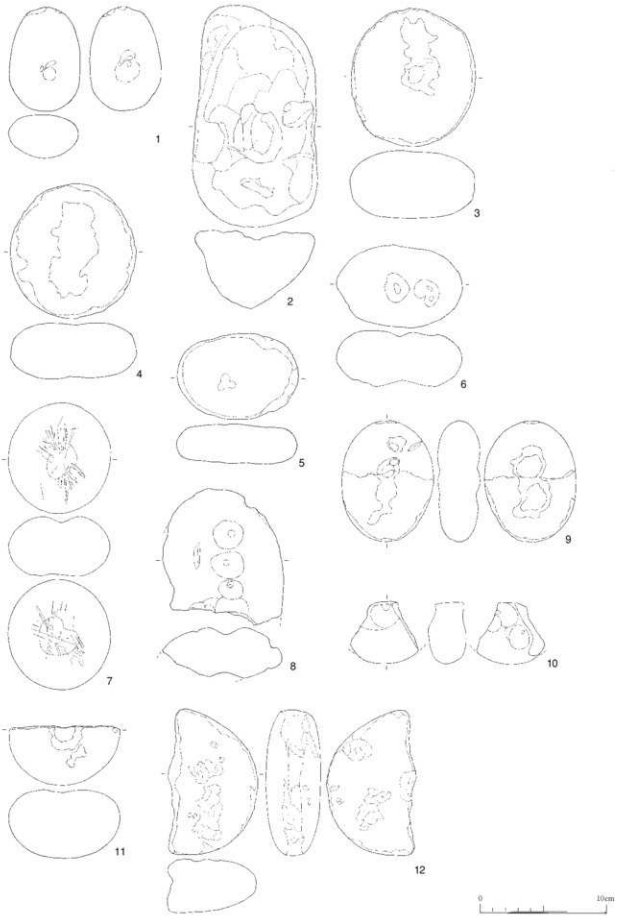
第75図　石製品（S=1/2、○数字はS=1/1）



第76図　石製品（S=1/2、○数字はS=1/1）



第77図　石製品（S=1/3）



第78図　石製品（S=1/3）

第2表　07土器・陶磁器・土製品観察表（1）

(単位:mm)

図版No	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
39	1	P03	西側中央南O15	土師器甕	170		(83.0)	144		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡橙灰	黒褐		多		並	並	口縁部擬凹線有 外面スス付着	E38
39	2	P03	西側中央南O15	土師器甕	150		(80.0)	118		口1以下	マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡灰橙	明橙褐	少	多		多	並	口縁部擬凹線有	E39
39	3	P03	西側中央南O15	土師器甕	114		(85.0)	97		口11	マメツ	ハケ・ケズリ・マメツ		暗褐	暗褐	多	多			並		E41
39	4	P03	西側中央南O15	土師器底部	(152)		(31.0)			口1		ミガキ		淡灰黄	黒褐		少		少	並		E35
39	5	P03	西側中央南O15	土師器高杯			(66.0)	38			ミガキ・マメツ	ケズリ・マメツ		淡黄褐	淡黄褐	少	多		少	並	透かし穴3残	E30
39	6	P04	西側中央南M19	土師器壺	134		(94.0)	128		口1	ハケ・マメツ	ケズリ・マメツ		淡橙灰	淡黒褐		多		並	並		E46
39	7	P04	西側中央南M19	土師器底部		50	(80.0)			底1以下	ハケ	ハケ		暗黄灰褐	暗黄灰褐		多	少		並	外面スス付着	E40
39	8	P05	西側中央南O17	縄文底部		100	(20.0)			底2	マメツ		網代痕	黄灰褐	黄灰褐	多	多			並		E29
39	9	P15	西側中央南L18	土師器甕	134		(45.0)	104		口1	マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡桃黄	淡桃黄		多		多	並	外面口縁部黒斑	E31
39	10	P22	西側中央南P16	縄文鉢			(125.0)				条痕			淡灰黄褐	淡灰黄褐		多			並		E36
39	11	P34	西側中央南M18	土師器甕		26	(40.0)			底12	ハケ	ケズリ		暗黄灰	暗黄灰		多		少	並	外面スス付着	E34
39	12	P59	西側中央南O17	土師器甕カ			(49.0)	98		口1以下	ナデ	ナデ		淡桃褐	淡桃褐	少	少		多	並		E33
39	13	P167	西側中央南L17	須恵器杯	118		(27.0)			口1以下	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰		少			並	内外面スス付着	E32
39	14	P141	支柱④	須恵器有台杯		130	(32.0)			底1	ナデ	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	淡灰	淡灰		少			並		E15
39	15	P93	西側中央南N16	縄文深鉢	420		(283.0)		424	口4	条痕			淡橙褐	淡黄褐		並	少	並	並	波状口縁	T28
39	16	P93	西側中央南	縄文底部		80	(44.0)			底12	条痕		網代痕	暗黄褐	暗黄褐		多			並		E28
39	17	P93	西側中央南	縄文深鉢	400		(89.0)			口1	条痕			淡橙褐	淡橙褐		並	並	少	並	波状口縁	T27
39	18	P93	西側中央南N16	縄文底部		94	(50.0)			底6	条痕		網代痕	淡黄褐	淡灰褐		多	少		並		T25
39	19	P93	西側中央南N16	縄文深鉢	212		(79.0)		192	口1				淡褐	淡褐	少	多		少	並	外面列点刺突文 口唇部列点刺突文	T24
39	20	P93	西側中央南N16	土師器壺	124		(64.0)	106		口1	ミガキ	ミガキ		淡黄褐	淡黄褐		少			並		T23
40	1	P220	支中柱③W23	土師器鉢	202		(52.0)			口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		淡黄褐	淡黄褐	少	並		少	並	口縁歪み	T42
40	2	P239	支中柱②W23	土師器器台			(33.0)				ミガキ	ミガキ		褐	赤褐		並	少		並	内外面赤彩、透かし穴2残	E27
40	3	P258	支中柱③	土師器甕	170		(38.0)	138		口1	マメツ	マメツ		淡黄褐	淡橙褐		多		並	並		T43
40	4	P278	支中	土師器甕	174		(61.0)			口2	ナデ・ハケ・マメツ	ハケ・ケズリ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐		多	少	少	並		T30
40	5	P285	支中	須恵器盤	188	150	18.0			口1以下	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	暗灰	灰		少			並	外面底部墨書「千」、高松産	T33
40	6	P290	支中	須恵器有台杯	128	60	53.0			口1	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	少			並	南加賀産	T32
40	7	P294上層	支中	内黒無台椀		60	(25.0)			底12	ナデ	ミガキ	回転糸切痕	淡褐	黒	少	並	少	少	並		T29
40	8	P294上層	支中	須恵器蓋	ツマミ23	114	30.0			底1	ナデ	ナデ		白灰	灰		並			並	外面降灰、内面に墨痕か 転用硯、高松産	T31
40	9	P296-1	支中	須恵器瓶カ			(72.0)			口1以下	ナデ	ナデ		暗灰	灰		少			良	末産	T34
40	10	P310	支中柱③W22	土師器底部		46	(23.0)			底8	ハケ	ナデ	ナデ	淡橙褐	黒		並	並	少	並	内面黒斑	T39
40	11	P352	支中柱③W22	土師器甕	154		(35.0)	136		口1	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐		並		少	並	外面スス付着	T41
40	12	P413	支中	須恵器蓋		168	(29.0)			底2	ナデ	ナデ		灰白	灰白		少			並	内面に墨痕、辰口産	T36
40	13	P413	支中	須恵器短頸壺	100		(50.0)	96		口1以下	ナデ	ナデ		灰	灰	少	並			並	外面降灰、高松産	T37
40	14	P432	支中	須恵器盤	160	130	19.0			底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰		少			並	側面及び内面底部に墨痕 高松産	T35
40	15	P440	支中	土師器無台椀		53	(12.0)			底11	マメツ	マメツ	マメツ	橙褐	橙褐		少	少		不		T46
40	16	P454	支中	須恵器無台杯	138	110	35.0			口1	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白	灰白	少	並			並	口縁部欠ケ1有	T45
40	17	P469	支中	陶器皿		130	(30.0)			底1	ケズリ	ナデ	ヘラ切り	灰釉	灰白					並	瀬戸産、漆継ぎ	T47
40	18	P511	支中柱③	土師器器台		116	(63.0)	27		底1	マメツ・ミガキ	マメツ・工具痕		淡橙灰褐	淡橙灰褐		少		並	並		T44
40	19	P526	支中柱③	土製品土錘	30	37	36.0							淡灰	淡灰					並	孔径9mm、重さ43.7g	T40
40	20	P560	支中柱③	土師器底部		18	(30.0)			底12	ハケ	ケズリ後ナデ	ナデ	淡黄橙褐	淡黄橙褐		並		少	並		T38
40	21	SB02 P193	支北	磁器瓶			(150.0)		180					透明釉	灰白						SK58と接合、中国白磁	M1
40	22	SB02 P198	支北	陶器鉢		120	(23.0)			底2			回転糸切痕・ヘラ切痕	青灰	灰			多		並	珠洲焼	M3
40	23	SB02 P201	支北	磁器碗			(28.0)							透明釉	灰白						中国白磁、内面櫛目模様	M4
40	24	SB02 P208	支北	土製品土錘	(34)	11								橙褐							孔径4mm、2.5g	M2
40	25	SB02 P206	支北	土製品土錘	(47)	12								橙					多		孔径4mm	M5
40	26	ST01	西側中央南M18	土師器脚部		48	(25.0)	31		底5	ミガキ	ナデ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		少		少	並		F94
40	27	ST01	西側中央南M18	須恵器不明		78	(27.0)			底3	ナデ	ナデ		灰白	灰白		多			並		T14
40	28	ST01	西側中央南M18	陶器不明		118	(18.0)			底1	マメツ	マメツ	ナデ・マメツ	淡橙褐	淡灰褐		少		少	不	緑釉陶器	T15
40	29	ST01	西側中央南M18	須恵器甕			(87.0)				カキメ・タタキ	カキメ・タタキ		淡灰	灰	少	並			並		F93
40	30	SE01	東側中	土師器皿		77	(25.0)			底3	ナデ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐		少		並	並	体部底部孔残(1対)	F7
40	31	SE01	東側中	土師器皿		43	(15.0)			底12	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐				多	並		F5
40	32	SE01	東側中	土師器皿	98	74	18.0			口3	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並		F6
40	33	SE01	東側中	土師器皿	82	40	18.0			口3	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並		F4

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表（2）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
40	34	SE04	支中 Z16E6	内黒 椀	136		(21.0)			口1以下	ナデ	ミガキ		灰白褐	黒		少			並		T7
40	35	SE04	支中 Z16E6	土師器 皿	92	46	26.0			口4	ナデ	ナデ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		少			並		T4
40	36	SE04	支中 Z16E6	土師器 皿	86	40	16.0			底3	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並		T5
40	37	SE04	支中 Z16E6	土師器 皿	147		(24.0)			口3	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐		少		並	並	歪み	T6
40	38	SE05	支南	土師器 底部		60	(15.0)			底3	ケズリ・マメツ	マメツ	回転糸切痕	灰白	灰白		並		並	並		TM2
40	39	SE05	支南	土師器 皿	136	74	29.0			口3	ナデ	ナデ・ハケ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐		少		少	並	外面底部墨書	T3
40	40	SE05	支中	土師器 皿	87	70	16.0			口7	ナデ	ナデ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐			少		並	外面底部に「X」陰刻	T1
40	41	SE05	支中	土師器 皿	86	56	14.0			口1	ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐	淡灰褐		少	少	少	並		T2
41	1	SE06	支中	縄文 鉢			(94.0)							桃褐	淡桃褐	少	並	少	少	並	支中U22地山中出土土器と同一か	S25
41	2	SE06	支中	縄文 鉢カ			(60.0)							暗褐	暗褐		並	並		並	外面スス付着	F32
41	3	SE06	支中	縄文 底部		80	(26.0)			底12			網代痕	淡灰褐	淡灰褐	少	多		少	並		F31
41	4	SE06	支中 側内	土師器 甕	154	14	245.0	122	216	口9	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		黒褐	淡灰黄		並		多	並	内外面スス付着 内面底部炭化米付着、No4	E10
41	5	SE06	支中 側内1	土師器 甕	165		(139.0)	130	242	口7	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		黒褐	淡橙白		多		多	並	外面スス付着	E12
41	6	SE06	支中 側内	土師器 甕	160		(95.0)	128		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		暗褐	淡灰白		少			並		M49
41	7	SE06	支中	土師器 壺		12	(102.0)	85	124	底12	ミガキ	ハケ		淡灰褐	淡灰褐		少	少	並	並		F82
41	8	SE06	支中 側内	土師器 甕	194		(209.0)	166	269	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		黒褐	淡褐	少	多		少	並	内外面スス付着	E13
41	9	SE06	支中 側内	土師器 甕	140	12	245.0	110	218	口12	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		黒褐	淡黄灰		並		多	並	内外面スス付着 内面底部炭化米付着、No3	E9
41	10	SE06	支中 側内	土師器 壺		20	(130.0)	105	154	底12	ナデ・ケズリ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐	少	少		並	並		T11
41	11	SE06	支中	土師器 底部		62	(73.0)			底8	ハケ	ハケ		灰褐	灰褐	並	多	少		並		F81
41	12	SE06	支中	土師器 壺		63	(170.0)		278	底12	ハケ・ナデ・ケズリ	ケズリ・ハケ		淡灰褐	暗灰	並	少	少	並	並	外面黒斑	F84
41	13	SE06	支中	土師器 壺カ			(49.0)					ハケ・ナデ		灰褐	灰褐	少	並	多	少	並	外面直線文・山形文	S28
41	14	SE06	支中	土師器 壺カ			(67.0)				ナデ・ミガキ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐	少	少		少	並		S27
41	15	SE06	支中	土師器 壺	112		(33.0)	98		口9	ナデ	ナデ		暗褐	暗褐		並	多		並	外面口縁部スス付着	M48
41	16	SE06	支中	土師器 壺	162		(25.0)			口1	マメツ	マメツ		淡褐	淡灰褐		少	少	少	並		F80
42	1	SE06	支中 側内5	土師器 壺		10	(108.0)	74	140	底12	ミガキ	ハケ・ナデ		淡黄桃	淡黄桃		多		多	並	外面黒斑	E11
42	2	SE06	支中	土師器 壺		58	(64.0)			底12	ミガキ	ハケ・ナデ		淡灰褐	淡灰褐		並	少		並	外面・底部黒斑	F83
42	3	SE06	支中 側外南	土師器 壺	180		(41.0)			口3	ナデ・ハケ	ハケ・マメツ		橙褐	桃白		並	少		並	内面黒斑	M51
42	4	SE06	支中	土師器 高杯	134		(76.0)	47		口1以下	ミガキ	ミガキ・ハケ・ナデ		赤橙	赤橙	少	並			並	内外面赤彩	S21
42	5	SE06	支中 側内	土師器 高杯カ	168		(36.0)			口2	ミガキ	ミガキ		淡橙褐	淡灰褐		少	多	並	並	内外面赤彩	T9
42	6	SE06	側外杭	土師器 高杯カ			(27.0)			底1以下	ミガキ・ナデ・ハケ	ハケ		淡桃褐	淡橙褐		少	少	少	並	外面赤彩・直線文・斜線文	T10
42	7	SE06	支中	土師器 器台		110	(64.0)	33		底11	ミガキ・マメツ	ナデ・ハケ		淡橙黄	桃灰褐	少	並		少	並	透かし穴3残 加工中透かし穴1残	S24
42	8	SE06	支中	土師器 器台	75		(50.0)	28		口1以下	マメツ・ミガキ	マメツ		赤橙灰	赤橙灰	少	並		並	並	内外面赤彩、透かし穴3残	S23
42	9	SE06	支中 側内	土師器 器台	96		(30.0)	33		口12	ハケ後ミガキ	ミガキ		淡橙褐	淡褐		少	少	少	並		M50
42	10	SE06	支中 側内	土師器 鉢	157	83	60.0			口3	ケズリ後ミガキ	ハケ・ミガキ	ミガキ	橙褐	橙褐	少	並			並	内外赤彩	M52
42	11	SE06	支中	土師器 鉢	134	35	58.0			口3	ナデ・ハケ	ハケ	ナデ	淡黄褐	淡橙褐	少	並		少	並	外面黒斑	S20
42	12	SE06	支中	土師器 ミニチュア		19	(45.0)			底2	ミガキ・ハケ・ハクリ	ケズリ後ミガキ		赤橙	赤橙	少	少		少	並	内外面赤彩	S22
42	13	SE06	支中 側内	土師器 ミニチュア	50	27	32.0			完形	ナデ・ハケ	ナデ	ナデ	淡黄橙褐	淡黄橙褐		少	少	少	並		T8
42	14	SE06	支南	土製品 土錘	59	32	31.0							灰白	灰白					並	孔径11mm、重さ54.39g	E16
42	15	SK03	西側 中央南	須恵器 長頸瓶		160	(234.0)	76	160	底12	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰	灰	少	並			並	内外面一部黒色付着物	S32
42	16	SK03	西側 中央南 M17	須恵器 長頸瓶		96	(125.0)	64		底8	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰	灰	少	並			並	外面一部黒色付着物 内外面一部自然釉	S35
42	17	SK03	西側 中央南 M16-17	須恵器 双耳瓶		102	(145.0)		182	底12	ナデ	ナデ	ヘラ起こし後ナデ	灰	淡灰	少	並			並	内外面一部黒色付着物	S33
42	18	SK03	西側 中央南 M16	須恵器 底部		90	(50.0)			底7	ナデ・ケズリ	ナデ	ヘラ起こし後ナデ	灰	灰	少	並			並	内外面一部自然釉	S34
42	19	SK03	西側 中央南 M16	土製品 土錘	66	36								灰褐	灰褐		並			並	孔径16mm、重さ58.7g	S36
42	20	SK18	東側南	土師器 甕	162		(40.0)	134		口1	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ		淡橙	淡橙灰		多		少	並		E93
42	21	SK18	東側南	土師器 甕	142		(29.0)	110		口2	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		明橙	明橙		多		多	並		E94
42	22	SK18	東側南	土師器 甕	154		(97.0)	118	194	口2	マメツ	ケズリ・マメツ		淡黄橙褐	淡橙褐	少	多		多	不	外面一部黒斑	T49
42	23	SK18	東側南	土師器 甕	170		(30.0)	150		口1	ナデ・ハケ	ハケ		暗灰	暗灰		並		並	不		T57
42	24	SK18	東側南	土師器 甕	140		(26.0)	132		口3	マメツ	ケズリ後ナデ・マメツ		淡褐	淡褐		多		少	不		T56
42	25	SK18	東側南	土師器 底部		58	(43.0)			底12	ミガキ	ハケ	ナデ	淡褐	暗褐		少	少	少	並	外面底部籾圧痕5残	T66
42	26	SK18	東側南	土師器 壺	114		(101.0)	93		口4	ミガキ	ミガキ・ナデ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		少	少	少	並	内外面赤彩、口縁部櫛凹線3条、外面口縁部棒状浮文2残	T48
42	27	SK18	東側南 Y12	土師器 壺	172		(57.0)	108		口1	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡黄橙褐		並		少	並		T58
42	28	SK18	東側南	土師器 壺	120		(35.0)	98		口1	ナデ	ナデ		淡黄	淡黄		少	少		並	外面スス付着	E92
42	29	SK18	東側南 X13	土師器 壺	124		(44.0)	90		口2	ナデ	ナデ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐		並	並	多	不		T65
42	30	SK18	東側南	土師器 高杯	170		(52.0)			口5	ミガキ	ミガキ		橙褐	橙褐		少		並	並		T64
42	31	SK18	東側南	土師器 高杯			(55.0)	31		脚6	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並		T52
42	32	SK18	東側南	土師器 脚部			(52.0)			脚12	ハケ後ミガキ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐		少	多	少	並	透かし穴1残	T51
42	33	SK18	東側南 X13	土師器 高杯カ	136		(47.0)	95	96	口2	ミガキ・ハケ	ミガキ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		少		少	並		T50
42	34	SK18	東側南	土師器 脚部			(11.0)			底1以下		ハケ		赤褐	淡黄灰		少			並	外面赤彩・直線文・斜線文	E95
42	35	SK18	東側南	土師器 小甕	108		(56.0)	96	96	口1	ケズリ後ナデ	ナデ・ケズリ		淡桃褐	灰黄褐		多		並	並		T59
42	36	SK18	東側南	土師器 小壺	64		(71.0)	53	80	口1以下	ナデ	ナデ		淡褐	淡褐		並	多	少	並	外面黒斑	T60
42	37	SK18	東側南	土製品 土錘	54	16								淡褐	淡褐					並	孔径4mm、重さ13.2g	T53
43	1	SK20	東側南	弥生土器 甕	185	30	259.0	162	230	口11	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ハケ	灰褐	褐	少	並	多	少	並	外面スス付着、刺突文	T74

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表 (3)

(単位：mm)

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
43	2	SK22	西側農道下	土師器底部		45	(23.0)			底3	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並		F16
43	3	SK22	西側農道下	土製品土錘	(48)	12								灰褐	灰褐		少	少		並	外面黒斑 孔径4mm、重さ5.36g	F15
43	4	SK24	東側南X14	須恵器無台杯		86	(26.0)			底4	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ・ヘラ起こし痕	灰白	灰白		並			並	底面歪み	T67
43	5	SK24	東側南X14	陶器鉢		78	(41.0)			底1				透明釉・白泥	淡褐灰					良	肥前産・刷毛目唐津	T73
43	6	SK26	西側用水下	縄文不明			(36.0)							淡褐	灰褐	少	多		並	並		F14
43	7	SK31	東側中	土師器甕	153		(30.0)	141		口2	ナデ・マメツ	ハケ・マメツ		淡灰褐	淡灰褐	少	並	少	少	並		F3
43	8	SK40	支南柱1Z17	内黒有台椀			(12.0)					ミガキ		淡橙黄	黒褐		並	並	少	並	全体的にマメツ	E17
43	9	SK47	西側中央南M18	土師器不明			(65.0)							淡橙灰	淡橙灰		並	少	少	並	体部の一部分、文様帯を貼り付けてある	S37
43	10	SK21	東側南X14	縄文深鉢			(48.0)			口1以下	条痕			暗灰褐	暗灰褐		多			並		T69
43	11	SK21	東側南X14	土師器甕	158		(58.0)	140		口7	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡黄褐	淡黄褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線6条	T63
43	12	SK21	東側南X14	土師器甕	180		(39.0)	138		口1	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐		多		並	並		E91
43	13	SK21	東側南X14	土師器甕	166		(51.0)	148		口3	マメツ・ハケ	ナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ・マメツ		淡灰褐	淡灰褐	並	並		少	不	口縁部擬凹線6条	T62
43	14	SK21	東側南X14	土師器甕	166		(40.0)	146		口1	ナデ	ナデ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		並		多	並	外面スス付着	T68
43	15	SK21	東側南X14	土師器甕	176		(41.0)	151		口1	マメツ	マメツ		淡橙黄	淡橙黄		多		多	並		E90
43	16	SK21	東側南X14	土師器甕	160		(56.0)	140		口4	ナデ・マメツ	マメツ		淡褐	淡褐	並	並		少	不	外面口縁部スス付着	T61
43	17	SK21	東側南X14	土師器長胴甕	78		(90.0)			口1	ナデ・ミガキ	ハケ後ナデ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		並		並	並	外面赤彩	T71
43	18	SK21	東側南X14	土師器杯	86		(48.0)	76		口3	ナデ・マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐		少		並	不		T70
43	19	SK53	支北	土師器底部		65	(35.0)			底6	ハケ後ナデ	ナデ		橙褐	淡褐	並	並	少	少	並		M11
43	20	SK55	支中	須恵器不明			(94.0)	34			ナデ	ナデ		灰	灰	少	並			並	外面降灰	F21
43	21	SK42	支南柱4AD17	縄文鉢			(129.0)		320		条痕			淡橙黄	淡橙黄	少	多			並		E18
43	22	SK42	西側中央南L	土師器把手			(38.0)							淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	並		少	並		S39
43	23	SK58	支北	須恵器無台杯	120	70	30.0			底12	ナデ	ナデ	ヘラ切・板目跡	灰	灰	少	少			並		M9
43	24	SK58	支北	磁器碗	200		(20.0)			口1				透明釉	灰白						中国白磁	M10
43	25	SK59	柱②	土師器器台カ			(48.0)				ミガキ	ハケ・ナデ		赤桃	淡灰褐		少	少		並	外面赤彩	F38
43	26	SK61	柱②	土師器甕	198		(139.0)	167		口1	ナデ・ケズリ・ハクリ	ナデ・ケズリ・ハクリ		淡橙褐	淡橙褐	並	多	少	並	不	外面スス付着	F39
43	27	SK61	柱②	土師器底部		62	(50.0)			底11	ケズリ	ハケ・ナデ		淡灰褐	灰褐					並	外面・底部黒斑	F43
43	28	SK61	柱②	土師器高杯	148		(47.0)			口12	ハケ・ナデ	ミガキ・ナデ		淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	少	並	少	良		F40
43	29	SK61	柱②	土製品土錘	35	38								淡灰褐	淡灰褐	少	並	少	少	並	孔径9mm、重さ43.47g	F41
43	30	SK61	柱②	土製品土錘	37	37								淡灰褐	淡灰褐		少			並	孔径13mm、重さ45.36g	F42
43	31	SK62	柱②W23	土師器杯			(45.0)				ミガキ	ケズリ		淡灰褐	淡灰褐	少	並		少	並	外面キザミ	F37
44	1	SK48	西側中央南L18	土師器甕		20	(275.0)		280	底12	ハケ	ケズリ		淡黄褐	淡黄褐	並	多		並	並	外面一部スス付着	F2
44	2	SK48	西側中央南L18	土師器甕	158		(47.0)	122		口1	ナデ・マメツ	ハケ・ナデ・ケズリ・マメツ		淡黄灰褐	淡桃灰褐	少	並		並	並		S40
44	3	SK48	西側中央南	土師器杯	105	10	166.0	63	174	完形	ナデ・ハケ・ケズリ	ナデ・ハケ		淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	少		少	並		F1
44	4	SK48	西側中央南L18	土師器蓋			(43.0)	36			マメツ	マメツ		橙褐	灰褐	少	並			不		S41
44	5	SK48	西側中央南L18	土師器高杯カ	170		(48.0)			口1以下	マメツ	マメツ・ミガキ		淡桃橙	淡桃橙			少		不		S42
44	6	SK48	西側中央南L18	土師器脚部器台		透144	(40.0)				ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ		淡桃灰褐	淡桃灰褐	少	並		少	並	窓1残	S43
44	7	SK48	西側中央南L18	須恵器甕カ			(99.0)				タタキ	当て具痕		濃灰	灰		並			並		S38
44	8	SK63	柱③W22	土師器甕	171		(51.0)	149		口1	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ		淡褐	淡褐	少	並		少	並		F36
44	9	SK63	柱③	土師器甕		16	(215.0)		220	底12	ハケ・ケズリ	ケズリ・ナデ		淡橙	淡橙	並	並	少	少	並		F30
44	10	SK63	柱③	土師器杯			(59.0)	96			ケズリ・ナデ	ナデ・ハクリ		淡灰褐	灰褐	少	多		多	並	外面キザミ	F35
44	11	SK63	柱③	土師器杯		20	(92.0)		169	底12	ケズリ・ミガキ	ナデ・ケズリ		淡橙灰褐	淡灰褐	少	多	少	少	並	外面赤彩、体部に穿孔1残(焼成後)	F29
44	12	SK63	柱③	土師器高杯	145		(64.0)			口9	ケズリ	ナデ・ケズリ		淡橙灰褐	灰褐		少	少	並	並		F33
44	13	SK63	柱③	土師器高杯		111	(90.0)	42		底11	ミガキ・ハケ	ケズリ・ハケ		淡灰褐	淡灰褐	少	並	少	少	並		F34
44	14	SK63	柱③	土師器小壺	89	10	90.0	65	87	口1	ミガキ・ハクリ	ハクリ		橙褐	橙褐	少	多	少	多	並		F28
44	15	SK63	柱③	土師器小壺		6	(56.0)	61	77	底12	ハケ・ナデ	ナデ・ケズリ		淡灰褐	淡灰褐	少	多		少	並		F27
44	16	SK77	支中	須恵器有台杯		77	(14.0)			底1	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰	灰	少	少			並		F26
44	17	SK72	支中	土師器甕	169		(50.0)	149		口3	ハケ・ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡灰褐	淡灰褐	少	並	少	少	並		F23
44	18	SK72	支中	土師器甕	150		(59.0)	126		口3	ハクリ	ハクリ		橙灰褐	橙灰褐	並	多		多	不		F22
44	19	SK73	支中	土師器甕	134		(34.0)	115		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡褐	淡灰褐		多			並		F25
44	20	SK76	支中	土師器鉢	186		(78.0)	110	112	口2	ハケ・ミガキ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	並	少		並		F24
44	21	SD01	西側中央南N17	土師器杯			(39.0)			口1以下	ナデ	ハケ・ナデ		淡橙褐	淡橙褐		並	少	多	並		T79
44	22	SD01	西側中央南N17	陶器すり鉢	約220		(26.0)			口1以下				鉄泥	淡橙褐						須佐産	T78
44	23	SD01	西側中央南N17	磁器灰吹カ	59		(65.0)		61	口1				透明釉・染付	灰白						口縁部敲打痕、八角形	T84
44	25	SD20	西側中央南N18	土製品土錘	43	13								淡黄褐	淡黄褐	少	多		少	並	孔径5mm、重さ6.43g	T82
44	26	SD26	西側南	陶器瓶カ		80	(26.0)			底2			回転糸切り痕	灰釉	灰	少				並		M82
44	27	SD24	西側南	土師器有台椀		68	(16.0)			底1	マメツ	マメツ		淡褐	暗褐		少	少	並	並	見込に白色付着物	M81
44	28	SD24	西側南	須恵器瓶			(40.0)				ナデ	ナデ		青灰	青灰		少			並	凸帯付双耳瓶	M80
45	1	SD11	西側中央南M18	土師器甕	156		(32.0)			口1		ナデ		淡灰褐	淡黄褐		多	並	少	並	口縁部擬凹線7条 外面一部黒斑	T75
45	2	SD11	西側中央南M18	土師器甕	188		(52.0)	162		口1	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡黄褐	淡黄褐		多		少	並		T76
45	3	SD11	西側中央南M18	土師器胴部		176	(27.0)			底1以下	ミガキ・マメ	マメツ		橙褐	橙褐		少		少	不		T77
45	4	SD33	東側南	縄文鉢	294		(102.0)			口3	条痕			淡灰褐	淡灰褐		多		並	並		F47
45	5	SD33	東側南	縄文深鉢	202		(179.0)		270	口2	条痕			淡灰褐	淡灰褐	多			少	並	内面黒色付着物	F46
45	6	SD33	東側南	縄文鉢	215		(43.0)			口2				暗褐	暗褐		並			並	内面黒色付着物 口唇部列点刺突文	F48

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表（4）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
45	7	SD33	東側南	縄文深鉢			(53.0)			口1以下	条痕			暗灰褐	灰		多	並		並	口唇部列点刺突文	F50
45	8	SD33	東側南	縄文深鉢	205		(115.0)			口2	条痕			灰褐	灰褐	少	並			並	口唇部列点刺突文	F45
45	9	SD33	東側南W14	縄文深鉢	215		(75.0)			口2	条痕			灰褐	淡灰褐	少	多		少	並		F51
45	10	SD33	東側南	縄文鉢	163		(57.0)			口1	条痕	ナデ		褐	灰褐	少	並		少	並		F44
45	11	SD33	東側南W14	縄文底部		94	(30.0)			底12				淡灰褐	淡灰褐	並	多			並	底部工具痕	F52
45	12	SD33	東側南	縄文底部		76	(25.0)			底2				淡灰褐	黒	少	並			並	内面黒色付着物	F53
45	13	SD33	東側南	縄文鉢	146		(69.0)			口1	条痕			淡灰褐	灰褐	並	多			並	内面黒色付着物	F49
45	14	SD33	東側南	須恵器有台杯			(19.0)			底1以下	ナデ	ナデ		暗灰	灰		少			並		F56
45	15	SD33	東側南W14	磁器碗	170		(32.0)			口1				透明釉	灰白						中国白磁	F55
45	16	SD33南岸	東側南	縄文壺カ	228		(120.0)		268	口1	条痕			淡黄橙褐	淡黄橙褐		並	並	少	並	外面一部スス付着	T96
45	17	SD33南岸	東側南	縄文浅鉢	218		(53.0)			口1				灰黄褐	暗灰		並			並		T97
45	18	SD33南岸	東側南	縄文鉢	246		(53.0)			口1	条痕			淡灰褐	淡褐		並		少	並		T99
45	19	SD33南岸	東側南	縄文深鉢	296		(70.0)			口1	条痕			淡褐	淡黄褐		多	多	並	並	波状口縁	T100
45	20	SD33南岸	東側南	縄文深鉢	218		(70.0)			口1	条痕			灰褐	淡灰黄褐		並		少	並	外面スス付着	T98
45	21	SD33南岸	東側南	縄文底部		100	(60.0)			底11	条痕		網代痕	淡黄褐	淡褐	並	並		少	並		T92
45	22	SD33南岸	東側南	縄文底部		96	(59.0)			底9	条痕		網代痕	淡灰橙褐	淡黄褐		多	多	少	並	内面鉄分付着	T93
45	23	SD33南岸	東側南	縄文底部		102	(50.0)			底1	条痕		網代痕	淡橙褐	淡黄褐	少	多		少	並		T95
45	24	SD33南岸	東側南	縄文底部		80	(42.0)			底4	条痕		網代痕	淡橙褐	暗褐	少	並		多	並	内面黒斑	T94
45	25	SD33南岸	東側南	縄文底部		64	(36.0)			底9	条痕			淡黄褐	灰褐	少	多		少	並	内面スス付着	T91
46	1	SD33北岸	東側南	縄文深鉢	290		(264.0)		300	口6				淡橙褐	暗褐	多	多		並	並	口唇部列点刺突文	T13
46	2	SD33北岸	東側南	縄文鉢	174	43	98.0	151	158	口5				暗灰褐	淡褐	並	多		少	並	外面スス付着	T12
46	3	SD34	東側南X13	須恵器有台杯		80	(28.0)			底1	ナデ	ナデ	ナデ	濃灰	灰		少			並	外面降灰	S51
46	4	SD34	東側南X13	須恵器杯	144		(25.0)			口1	ナデ	ナデ		灰	灰		少			並		E88
46	5	SD34	東側南X13	須恵器不明		100	(67.0)			底1	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白		並			並		S52
46	6	SD39	西側中央南	縄文深鉢	154		(64.0)			口1	条痕			黒褐	黒褐		多	並		並	内外面スス付着	T80
46	7	SD39	西側中央南	縄文浅鉢	132	(80)	60.0			口1以下				灰褐	淡灰褐	少	多	少	少	並	外面スス付着，横引き沈線文	T81
46	8	SD40	東側南	縄文深鉢	243		(137.0)	222		口1以下	条痕			橙褐	淡褐	少	並		並	並	外面スス付着，列点刺突文 口唇部列点刺突文	M62
46	9	SD40	東側南	縄文深鉢	196		(125.0)	186	222	口1以下	条痕			暗褐	暗褐	少	多			並	SD40北岸出土遺物と接合 口縁部列点刺突文，外面横引き沈線文，内面スス付着	E72
46	10	SD40	東側南	縄文深鉢			(45.0)				条痕			暗褐	暗褐		多			並		E271
46	11	SD40	東側南	縄文深鉢			(45.0)			口1以下	条痕			淡灰褐	淡灰褐		並		少	並	縦条痕	F247
46	12	SD40	東側南	縄文深鉢	160		(58.0)			口2	条痕	条痕		淡褐	淡橙褐	少	少			並	外面スス付着	M72
46	13	SD40	東側南X14	縄文深鉢	300		(95.0)			口1以下	条痕			褐灰	橙灰	並	多		並	並	内面スス付着	M78
46	14	SD40	東側南	縄文深鉢			(47.0)			口1以下	条痕			灰褐	灰褐	少	並		並	並		F250
46	15	SD40	東側南X13	縄文不明			(44.0)			口1以下	条痕			暗黄褐	暗黄褐	並	並			並	外面補修孔有（焼成後）	E273
46	16	SD40	東側南Y13	縄文不明			(58.0)							淡灰褐	淡灰褐		多		少	並		F246
46	17	SD40	東側南	縄文浅鉢	220		(60.0)			口1	条痕後ナデ	ナデ		橙褐	橙褐	少	少			並	外面沈線文	M61
46	18	SD40	東側南	縄文浅鉢	158		(48.0)			口1				暗褐	暗褐	多	多			並		E276
46	19	SD40	東側南	縄文鉢			(46.0)			口1以下				淡灰褐	褐灰		多		並	並		F245
46	20	SD40	東側南	縄文深鉢			(95.0)				条痕			灰褐	淡褐	少	並		少	並		F244
46	21	SD40	東側南Y12	縄文不明			(37.0)				条痕			暗灰褐	灰褐	少	多			並	外面列点刺突文	F248
46	22	SD40	東側南	縄文深鉢			(45.0)			口1以下	条痕			明黄褐	明黄褐		多			並	口唇部沈線文の連続 内面幅広横引き沈線文	E269
46	23	SD40	東側南X14	縄文深鉢	210		(61.0)			口3	条痕			淡橙褐	淡灰褐		多			並	外面一部スス付着，T90と同一か，口唇部・外面列点刺突文	T89
46	24	SD40	東側南	縄文鉢			(30.0)			口1				暗褐	灰褐		多		少	並	口唇部列点刺突文	F251
46	25	SD40	東側南	縄文底部		88	(34.0)			底6	マメツ・条痕		マメツ	橙褐	淡褐	少	並		並	並		S227
46	26	SD40	東側南V12	縄文深鉢	160		(54.0)	150		口2	条痕	条痕		暗灰褐	淡褐	少	少			並	口唇部列点刺突文 外面スス付着	M74
46	27	SD40	東側南	縄文深鉢	232		(54.0)	217		口2	条痕	条痕		淡褐	暗灰	少	並			並	口唇部列点刺突文 外面スス付着	M75
46	28	SD40	東側南	縄文底部		124	(46.0)			底2	マメツ	マメツ	マメツ	淡橙褐	淡橙褐	少	並			並		S226
47	1	SD40	東側南X14	縄文深鉢	274		(138.0)	243	260	口1以下	条痕			淡褐	暗淡褐	並	並	少		並	口唇部列点刺突文 外面列点刺突文	M73
47	2	SD40	東側南	縄文深鉢			(134.0)		240		条痕			淡橙褐	暗灰	少	多			並	外面列点刺突文，T89と同一	T90
47	3	SD40	東側南X14	縄文深鉢	300		(102.0)	270		口2	条痕			橙灰	暗灰		多	少		並	口唇部列点刺突文	M77
47	4	SD40	東側南Y13	縄文深鉢	240		(120.0)			口2	条痕			暗褐	淡褐	多	多		並	並	外面スス付着，口唇部列点刺突文，外面幅広横引き沈線文	M65
47	5	SD40	東側南	縄文深鉢			(43.0)			口1以下				淡橙褐	淡褐	少	少			並	口唇部列点刺突文 外面スス付着	M152
47	6	SD40	東側南	縄文深鉢			(39.0)			口1以下	条痕			暗褐	淡褐	少	並		少	並	口唇部列点刺突文 外面スス付着	M151
47	7	SD40	東側南	縄文深鉢			(87.0)			口1以下	条痕			灰褐	淡灰褐		並		並	並	外面スス付着	F242
47	8	SD40北岸	東側南	縄文深鉢			(79.0)			口1以下	条痕			淡灰褐	灰褐	並	多		並	並		F243
47	9	SD40	東側南	縄文深鉢	340		(95.0)			口1	条痕			暗褐	淡褐	少	少			並	外面スス付着 口唇部列点刺突文	M63
47	10	SD40	東側南X14	縄文深鉢	165		(75.0)			口2	条痕	ナデ・ケズリ		暗褐	褐	少	少			並	外面一部ハクリ 口唇部列点刺突文	M64
47	11	SD40	東側南Y13	縄文壺	134		(57.0)			口2	マメツ	マメツ・ミガキ		暗褐	暗褐		並			並	外面赤彩	E61
47	12	SD40	東側南Y13	縄文底部		100	(63.0)			底1	条痕		網代痕	黒褐	淡橙黄	少	多	並		並	内面スス付着	E69
47	13	SD40	東側南	縄文深鉢		70	(24.0)			底3	条痕		網代痕	淡橙褐	暗灰褐		多		少	並		T306
47	14	SD40	東側南	縄文底部		105	(54.0)			底2	マメツ	マメツ	網代痕	淡橙	淡灰黄		多		多	並		E70
47	15	SD40	東側南Y13	縄文底部		110	(48.0)			底6	条痕		網代痕	淡黄灰	淡黄灰	少	多			並	内面スス付着	E68

第2表　07土器・陶磁器・土製品観察表（5）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
47	16	SD40	東側南	縄文底部		100	(82.0)			底6	条痕			淡黄灰	淡黄灰		多		少	並		E71
47	17	SD40	東側南	縄文底部		56	(23.0)			底9				淡黄灰	淡黄灰	少	多		多	並		E272
47	18	SD40	東側南	縄文底部		56	(29.0)			底6			ナデ	淡黄灰褐	黒褐	少	多	少		並		E277
47	19	SD40	東側南	縄文底部		96	(49.0)			底3	マメツ	マメツ	マメツ	淡橙褐	褐	並	並			並		M153
47	20	SD40	東側南X14	縄文底部		90	(32.0)			底12	マメツ		網代痕	淡褐	淡褐		少	多		並		E67
47	21	SD40	東側南	縄文底部		80	(29.0)			底3	条痕		網代痕	淡橙褐	淡褐		多		並	並		T305
47	22	SD40	東側南X13	縄文底部		56	(36.0)			底12				暗黄褐	淡黄灰	多	多			並	外面黒斑	E275
47	23	SD40	東側南	縄文底部		76	(56.0)			底6	条痕			濃橙褐	灰褐		多			並		S225
47	24	SD40	東側南	縄文底部		94	(37.0)			底4				淡黄灰	暗黄褐	多	多			並	外面工具痕	E274
47	25	SD40	東側南	土師器甕	148		(56.0)	132		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡褐	淡橙黄		多		少	並	外面スス付着	E62
47	26	SD40	東側南	土師器甕	140		(34.0)	120		口1	マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		黒褐	黒褐	少	少	少	並	並		E63
47	27	SD40	東側南	土師器甕	148		(64.0)	128	140	口1	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡橙黄	淡橙黄		少		少	並		E64
47	28	SD40	東側南X13	須恵器無台杯		76	(14.0)			底6	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白	灰白		少			並	外面底部墨書有「□」	E65
48	1	SD40北岸	東側南	縄文浅鉢	250		(58.0)			口1				橙褐	橙褐	少	並	少	並	並		M53
48	2	SD40北岸	東側南	縄文深鉢			(50.0)			口1以下				淡橙	暗褐		少		多	並		M146
48	3	SD40北岸	東側南	縄文鉢	170		(93.0)		190	口1	条痕			橙灰	橙灰	少	多			並	外面スス付着	M57
48	4	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	310		(53.0)			口2				灰褐	淡橙褐	多	多		少	並	内外面スス付着	T303
48	5	SD40北岸	東側南	縄文鉢	163		(53.0)		180	口1	条痕			暗灰褐	淡褐	多	少			並		M58
48	6	SD40北岸	東側南	縄文鉢	170		(146.0)	154		口3	条痕			橙褐	淡橙褐		少	多		並		M55
48	7	SD40北岸	東側南	縄文鉢			(125.0)		320		条痕			淡橙	淡橙白	多	並	少		並	外面スス付着	M54
48	8	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	356		(148.0)			口1以下	条痕			灰褐	灰褐	少	多			並		F62
48	9	SD40北岸	東側南	縄文底部		96	(88.0)			底7	条痕		網代痕	橙灰褐	淡灰褐	少	多	並	少	並		F63
48	10	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	316		(167.0)			口2	条痕			灰褐	灰褐		並		並	並		F64
48	11	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	214		(162.0)			口9	条痕			灰褐	灰褐	少	並	少		並	北トレンチ内	F66
48	12	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	216		(65.0)			口2	条痕			暗褐	暗褐		多			並		M147
48	13	SD40北岸	東側南	縄文深鉢			(131.0)				条痕			橙	淡橙	少	少		少	並		M150
48	14	SD40北岸	東側南	縄文底部		108	(72.0)			底12	条痕		網代痕	橙褐	淡褐	並	多			並	内面スス付着	M60
48	15	SD40北岸	東側南	縄文深鉢	225		(132.0)			口1	条痕	ハケ?		淡橙	淡橙灰	並	並		少	並	内外面スス付着	M59
48	16	SD40北岸	東側南	縄文深鉢			(84.0)			口1以下	条痕			暗褐	褐	少	並			並	外面スス付着	M149
48	17	SD40北岸	東側南	縄文底部		62	(29.0)			底10	条痕		網代痕	橙灰	灰褐	並	少			並		M56
48	18	SD40北岸	東側南	縄文深鉢			(62.0)			口1以下	条痕			暗褐	淡褐	少	少			並	外面スス付着	M148
49	1	SD40南岸	東側南Y13	縄文深鉢	320		(195.0)	292		口2	条痕			暗褐	淡橙褐	少	並	少	並	並	SD41南岸出土遺物と接合 口唇部列点刺突文	M71
49	2	SD40南岸	東側南	縄文鉢		116	(36.0)			底12	条痕		網代痕	暗黄灰褐	暗黄灰褐		多			並		E74
49	3	SD40南岸	東側南	縄文深鉢	164		(105.0)			口3	条痕	条痕		淡黄灰褐	淡黄灰		並			並	内面上部斜め条痕・下部縦条痕口唇部列点刺突文	E270
49	4	SD40南岸南壁接合	東側	縄文鉢	178	68	136.0			底12	条痕	ナデ	網代痕	淡灰橙	淡灰橙		並			並	内面黒斑	E73
49	5	SD40南岸南壁	東側	縄文鉢	167		(62.0)		188	口1				暗橙灰褐	暗橙灰褐		並			並	外面スス付着	E77
49	6	SD40南岸南壁	東側	縄文鉢	(222)		(62.0)			口1以下				暗黄灰	暗黄灰		並			並		E76
49	7	SD40南岸南壁	東側	縄文鉢			(71.0)				条痕			淡橙褐	淡橙褐	少	少			並		E79
49	8	SD40南岸	東側南X13	縄文深鉢		94	(130.0)			底5	条痕			淡橙褐	灰褐	少	少			並	SD40南壁出土遺物と接合	M70
49	9	SD40南壁	東側南	縄文鉢	246		(76.0)			口2				灰褐	灰褐		多		少	並	外面赤彩,口縁に凹み2残 東側南包含層 X13と接合	F249
49	10	SD40南岸南壁	東側	縄文鉢		92	(39.0)			底6			網代痕	淡灰橙	淡灰橙	少	並			並		E75
49	11	SD40南岸南壁	東側	縄文鉢	188		(98.0)			口1	条痕	ナデ		暗灰褐	暗灰褐	多	多			並	内面スス付着 口縁部刺突文	E78
49	12	SD45	東側南	縄文鉢カ			(70.0)			口1	条痕			黒褐	淡橙褐	少	並		少	並	内面口唇部沈線文 外面スス付着	S50
49	13	SD45	東側南	縄文深鉢	164		(66.0)			口1以下	条痕			黄灰褐	暗褐		並		並	並		E85
49	14	SD45	東側南	土師器甕	159		(37.0)	150		口2	ナデ・ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		明橙灰	明橙灰		並		並	並		E86
49	15	SD45	東側南	土師器甕	160		(39.0)	138		口1	マメツ	マメツ		淡橙灰	淡橙灰		並		少	並		S45
49	16	SD45	東側南	土師器鉢カ	238		(42.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		淡桃灰	淡橙灰褐	巨1	並		少	並		S48
49	17	SD45	東側南	土師器杯			(51.0)				マメツ・ミガキ	ミガキ		淡黄灰褐	黒褐		並		少	並	外面キザミ	S49
49	18	SD45	東側南	土師器高杯		80	(59.0)				マメツ・ミガキ	ミガキ・マメツ		赤橙	淡橙褐		少			並	内外面赤彩	S44
49	19	SD45	東側南	土師器高杯カ			(44.0)				ミガキ	ハケ・ナデ		淡灰褐	淡灰褐		少		少	並	透かし穴3残、外面一部黒斑	S46
49	20	SD45	東側南	土師器杯	196		(22.0)			口2	マメツ	マメツ		明橙	明橙				多	並		E84
49	21	SD47	東側南	須恵器瓶			(53.0)				ナデ	ナデ		灰	淡灰	少	並			並	凸帯付双耳瓶	S53
49	22	SD50	支中Y17S4	須恵器蓋		156	(19.0)			底1	ナデ	ナデ		淡灰	濃灰		少			並	外面降灰 末尾	S69
50	1	SD53	東側南	土製品土錘	58	26	26.0			完形				灰褐	灰褐		並			不	孔径9mm	S59
50	2	SD54	東側南	縄文不明			(34.0)				条痕			濃褐	褐		並			並		S55
50	3	SD54	東側南X13	弥生土器甕	174		(51.0)	156		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		淡桃褐	淡桃褐	少	並		少	並	口縁部櫛凹線7条 外面一部スス付着	S54
50	4	SD54	東側南	弥生土器甕	162		(80.0)	135		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡橙黄	淡橙黄	少	並		少	並	口縁部櫛凹線8条 外面一部スス付着	S56
50	5	SD54	東側南	弥生土器高杯	240	134	167.0	35		口1	ミガキ・マメツ	ミガキ・ナデ・ハケ・マメツ		淡赤橙褐	淡赤橙褐	少	並		少	並	透かし孔2残（径9mm）	S58
50	6	SD54	東側南	土師器ミニチュア			(32.0)	56	64		ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		淡橙灰褐	淡灰褐		並		少	並	外面一部黒斑	S60
50	7	SD54	東側南	土師器有台椀		68	(15.0)			底2	マメツ	マメツ		明橙	明橙		少		並	並		E89
50	8	SD55	東側南	土師器甕	178		(84.0)	142		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡黄灰褐	黒褐		多			並	口縁部櫛凹線9条 外面スス付着	E49
50	9	SD55	東側南	土師器甕	170		(59.0)	148		口2	マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		赤褐	赤褐	少	多		並	並	外面スス付着	E43
50	10	SD55	東側南	土師器甕	152		(70.0)	119		口1以下	ナデ・マメツ	ハケ・ケズリ・マメツ		黒褐	淡橙褐		多			並		E52

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表（6）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
50	11	SD55	東側南	土師器 甕カ			(47.0)			口1以下	ナデ	ナデ		淡灰	淡橙灰		並		少	並		E44
50	12	SD55	東側南	土師器 甕	168		(44.0)	148		口2	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		多		多	並		E47
50	13	SD55	東側南	土師器 底部		64	(39.0)			底2	ナデ	ハケ・ケズリ		黒褐	淡灰黄		並			並	内面黒斑	E42
50	14	SD55	東側南	土師器 底部		60	(55.0)			底12	ハケ・マメツ	マメツ		明橙褐	暗褐	多	多		少	並		E45
50	15	SD55	東側南	土師器 壺カ			(66.0)			口1以下	ミガキ・ハクリ	マメツ		明橙	黄灰褐	少	多		少	並		E54
50	16	SD55	東側南	土師器 高杯カ			(51.0)				ミガキ・ハクリ	マメツ・ハクリ		明橙黄	明橙黄	少	少			並		E58
50	17	SD55	東側南	土師器 高杯			(90.0)	31			ミガキ・マメツ	ハケ・マメツ		黄褐	黄褐		少			並		E56
50	18	SD55	東側南	土師器 器台			(74.0)				ミガキ・マメツ・ハクリ	ケズリ・ケズリ後ナデ		淡黄灰	淡黄灰		並		並	並	外面赤彩、透かし穴3残	E59
50	19	SD55	東側南	土師器 器台			(53.0)	48			ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		暗橙褐	暗橙褐	多	多		多	並		E51
50	20	SD55	東側南	土師器 器台			(63.0)	38			ミガキ	ミガキ・ケズリ後ナデ		淡黄灰	淡黄灰		少			並	外面鉄分付着、透かし穴3残	E57
50	21	SD55	東側南	土師器 脚部		140	(30.0)			底2	ミガキ・ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		淡橙灰	淡橙灰		少			並		E48
50	22	SD55	東側南	土師器 蓋	ツマミ 30		(27.0)				ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		淡橙白	淡橙白		少			並	外面ミガキ	E55
50	23	SD55	東側南	土師器 蓋	ツマミ 41		(48.0)	34			ミガキ	ミガキ		淡橙黄	淡橙黄		並		多	並		E50
50	24	SD71	東側中	磁器 碗		57	(29.0)			底12				透明釉	灰白						内面櫛描文、中国白磁	F8
50	25	SD73	大 柱(4) AA17	須恵器 蓋	ツマミ 24	130	23.0			底4	ヘラ切り後ナデ	ナデ		灰	灰	少	多			並	高松産	E14
50	26	SD85	支北	磁器 碗			(17.0)							透明釉	灰						中国白磁、内面櫛目模様 外面底部無釉	M7
50	27	SD85	支北	陶器 不明			(83.0)		154						灰	少	少			並	外面降灰、自然釉	M6
50	28	SD87	支北	土師器 底部		89	(47.0)			底9	ケズリ・ナデ・マメツ	ケズリ・マメツ		橙	淡褐	多	多		少	並		M13
50	29	SD95	支中	土師器 甕	150		(84.0)	116		口3	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡黄灰	淡黄灰	少	多		少	並	外面スス付着	E25
50	30	SD95	支中	土師器 壺	186		150.0	106		口5	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡黄褐	淡黄褐		多		多	並	外面スス付着	E26
50	31	SD98	支中	土師器 壺	140		(67.0)	109		口3	ナデ・ケズリ・マメツ	ナデ・ハケ		淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	並		少	並		S29
50	32	SD101	支中 柱3 X22	土師器 底部		43	(24.0)			底12	ハケ	ハケ		淡黄灰	黒褐	少	多			並	内外面黒斑	E22
50	33	SD101	支中 柱3 X22	土師器 有孔鉢		36	(40.0)			底2	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		淡橙灰	淡橙灰	少	多		多	並		E23
50	34	SD101	支中 柱3 X22	土師器 壺			(155.0)	124	260	頸3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ後ナデ・ケズリ		淡橙褐	淡橙褐		多		多	並		E24
51	1	SD93	支北 T22	土師器 甕	183		(87.0)	151	192	口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		黄橙褐	黄橙褐	少	多			並	口縁部擬凹線8条	E81
51	2	SD93	支中 T22	土師器 甕	198		(58.0)	166		口1	ナデ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡橙褐	淡灰褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	S74
51	3	SD93	支中 T22	土師器 甕	180		(62.0)	148		口1	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ハケ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線6条 外面スス付着	S75
51	4	SD93	支中 T22	土師器 甕	260		(75.0)	229		口2	マメツ・ナデ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡橙白	淡橙白	少	多	少	並	並	口縁部擬凹線7条	M29
51	5	SD93	支北 T22	土師器 甕	218		(80.0)	196			ハケ	ナデ・ケズリ		淡灰黄	淡灰黄		多			並	口縁部擬凹線4条以上	E82
51	6	SD93	支北 T22	土師器 甕	208		(48.0)	174		口1以下	ナデ	ナデ・ハケ・ケズリ		黄灰褐	暗灰		少			並	口縁部擬凹線数条 外面口縁部スス付着	E80
51	7	SD93	支中 T22	土師器 甕	174		(58.0)	150		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線5条 外面スス付着	S72
51	8	SD93	支中 T22・23	土師器 甕	160		(54.0)	147		口4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ後ハケ		淡橙褐	淡褐	少	少			並	口縁部擬凹線5条 外面スス付着	M26
51	9	SD93	支中 T22	土師器 甕	170		(77.0)	136		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡橙灰褐	淡橙灰褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線 内外面スス付着	S73
51	10	SD93	支中 T22	土師器 甕	172		(71.0)	144		口4	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		褐	褐	少	並			不	外面スス付着	S76
51	11	SD93	支中 T22	土師器 甕	146		(42.0)	128		口3	ナデ	ハケ・ナデ		灰褐	淡橙褐	少	並		少	並	SD96(支中)と接合	S80
51	12	SD93	支中 T22	土師器 甕	138		(33.0)	126		口3	ナデ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡橙褐	淡橙褐	少	並		少	並	外面スス付着	S79
51	13	SD93	支中 T22	土師器 甕	160		(53.0)	134		口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰黄	淡橙褐		少			並		M24
51	14	SD93	支中 T22	土師器 甕	176		(94.0)	142		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡灰褐	淡橙褐	少	並		少	並	外面スス付着	S71
51	15	SD93	支中 T22	土師器 甕	160	58	(54.0)	140		口1	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ・ケズリ		淡灰褐	淡灰褐	少	並		少	並		S77
51	16	SD93	支中 T22	土師器 壺	79	28	139.0	88	139	口5	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ後ハケ		淡橙褐	淡橙褐		並	少	並	並		M25
51	17	SD93	支中 T22	土師器 壺	161		(85.0)	128		口10	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡褐	淡褐		少		少	並		M27
51	18	SD93	支中 T22	土師器 壺	130		(77.0)	117		口2	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	多		少	並	SD135 1と接合、窓2残 内外面赤彩	M28
51	19	SD93	支中 T22	土師器 壺	96		(45.0)	68		口3	ミガキ	ナデ・ハケ		淡灰黄	淡黄灰		並		少	並	内面一部黒斑	S82
51	20	SD93	支中 T22	土師器 壺	194		(75.0)			口1	ナデ・ハケ	ナデ		淡橙褐	淡褐		並		並	並	口縁部擬凹線9条	S78
51	21	SD93	支中 T22	土師器 高杯カ	210		(74.0)				ミガキ	ミガキ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		少	少	少	並	外面一部黒斑	S68
51	22	SD93	支北 T22・T23 支中 T22	土師器 高杯カ		122	(71.0)	31		底5	ミガキ	ナデ・ミガキ		淡黄灰褐	淡黄灰褐		並		少	並		S64
51	23	SD93	支中 T22	土師器 高杯カ		102	(59.0)			底2	マメツ	マメツ		濃橙褐	濃橙褐	少	少		少	不		S65
51	24	SD93	支中 T22	土師器 装飾器台		返 140	(40.0)				ミガキ	ミガキ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		並		少	並	受部に孔1残(径9mm)	S66
51	25	SD93	支中 T22	土師器 蓋	ツマミ 32	126	46.0			口2	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	並		少	並		S67
51	26	SD93	支中 T22	土師器 小壺	70	35	83.0		89	口2	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ		淡橙灰褐	淡灰褐	少	並		少	並	外面一部黒斑	S81
51	27	SD93	支中 T22	土師器 脚部		100	(32.0)	42		底8	ミガキ	ミガキ		橙	淡褐		少			並	外面赤彩、SD96と接合	M30
51	28	SD93	支中 T22	土師器 鉢カ			(41.0)				ハケ・ハクリ	ハケ		淡褐	淡褐		並	並		並	外面黒斑	M31
51	29	SD93	支中	須恵器 甕カ			(75.0)				タタキ	タタキ		淡灰	淡灰		並			並		S70
52	1	SD93	支北 T22	土師器 甕			(65.0)	315		頸2	マメツ	マメツ		橙	橙	少	多			並	口縁部擬凹線8条以上	M87
52	2	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	158		(55.0)	126		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡橙褐	淡橙褐	少	少		並	並	口縁部擬凹線7条 外面口縁部スス付着	S3
52	3	SD93	支北 T22	土師器 甕	306		(70.0)	270		口1	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		橙褐	淡橙褐	少	並		並	並	口縁部擬凹線7~8条 外面スス付着	M90
52	4	SD93	支北 T23	土師器 甕	170		(36.0)	140		口1	ナデ・マメツ	マメツ		橙褐	橙褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線8条 口縁部外面スス付着	S7
52	5	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	158		(51.0)	128		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		淡橙褐	淡橙灰褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線5条 口縁部外面スス付着	S6
52	6	SD93	支北	土師器 甕カ	332		(47.0)			口1	ナデ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐		並	少	少	並		T118
52	7	SD93	支北 T22	土師器 甕	168		(60.0)	135		口3	マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐		多		少	不	口縁部擬凹線9条 外面一部スス付着	T120

第2表　07土器・陶磁器・土製品観察表（7）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
52	8	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	284		(108.0)	242		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		橙褐	淡橙褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線12条 外面スス付着	S15
52	9	SD93	支北 T22	土師器 甕	198		(96.0)	164		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		橙褐	淡橙褐	少	並		少	並	口縁部擬凹線8条 外面スス付着	S1
52	10	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	180		(59.0)	153		口2	マメツ・ナデ	ナデ・マメツ		橙	淡橙	並	多			並	口縁部擬凹線有 外面スス付着	M91
52	11	SD93	支北 T22	土師器 底部		52	(35.0)			底3	ハケ	ケズリ	ハケ	橙灰褐	灰褐	少	並		少	並		S18
52	12	SD93	支北 T23	土師器 甕	180		(54.0)	137		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・マメツ		橙褐	橙褐	少	並			並	口縁部擬凹線6条 外面スス付着	M88
52	13	SD93	支北 T23	土師器 甕	187		(57.0)	155		口2	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		橙灰	橙灰	並	多		並	並	口縁部擬凹線有	M89
52	14	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	174		(88.0)	142		口2	マメツ	ナデ・ケズリ		淡橙灰	淡橙灰	少	並		少	並		S12
52	15	SD93	支北 T22	土師器 甕	186		(60.0)	158		口1以下	マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	並	少	少	並	外面一部黒斑	S8
52	16	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	198		(63.0)	170		口2	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		淡橙褐	淡褐	多	多		多	並	口縁部擬凹線有	M92
52	17	SD93	支北	土師器 甕	148		(48.0)	142		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		淡橙灰褐	淡灰褐	少	並	少	少	並		S10
52	18	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕	140		(75.0)	126		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		淡褐	淡褐		少		少	並		M94
52	19	SD93	支北	土師器 甕	128		(76.0)	108		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		濃灰褐	濃灰褐	少	並	少		並	内外面黒斑	S2
52	20	SD93	支北・中 T22・T23	土師器 甕	138		(42.0)	128		口1	ナデ	ナデ		灰褐	灰褐	少	少		少	並	S5と同一か	S4
52	21	SD93	支北・中 T22・T23	土師器 甕		6	(95.0)		140		ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ		灰褐	灰褐	少	少		少	並	S4と同一か 外面一部黒斑	S5
52	22	SD93	支北 T22	土師器 甕カ			(28.0)	192			マメツ	マメツ		橙	橙灰褐	少	多		多	並		M84
52	23	SD93	支北 T22	土師器 底部		52	(20.0)			底12	ミガキ	ハケ	ナデ・ミガキ	橙灰褐	灰褐	少	並		少	並	内面黒色付着物	S19
52	24	SD93	支北 S22	土師器 底部		66	(55.0)			底11	ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	淡黄褐	灰褐		並		少	並	外面底部籾圧痕2残	S16
52	25	SD93	支北 T22・T23	土師器 壺	202		(76.0)	152		口2	ハケ後ナデ・ミガキ	ミガキ		橙褐	橙灰褐		並	少	少	並		S14
52	26	SD93	支北	土師器 壺	182		(72.0)	124		口2	ナデ・ミガキ	ミガキ・ケズリ		淡橙褐	淡橙褐	少	並			並		S13
52	27	SD93	支北	土師器 壺カ	162		(70.0)			口1	ミガキ・ケズリ	ミガキ・ナデ		淡褐	淡褐		並	並	少	並		T113
52	28	SD93	支北 T22・T23	土師器 壺	162		(61.0)	123		口1	ナデ・ハケ	ナデ・マメツ		淡黄橙褐	淡褐		少	少	少	並		T119
52	29	SD93	支北 T22	土師器 壺	151		(52.0)	119		口2	ナデ・マメツ	ナデ		淡褐	橙黄褐	並	並			並		M95
53	1	SD93	支北 T22・T23	土師器 壺カ	183		(60.0)			口4	ミガキ・マメツ・ハクリ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐	少	並		多	不		T112
53	2	SD93	支北 T22	土師器 壺カ			(78.0)	115			ハケ	ハケ・ケズリ		橙灰	淡灰		多		少	並		M85
53	3	SD93	支北 T22	土師器 壺	120		(47.0)	92		口3	マメツ	マメツ		橙	橙	少	多		多	並		M93
53	4	SD93	支北 T23	土師器 壺	122		(41.0)	96		口2	ミガキ	ミガキ		淡桃黄	淡桃黄		並	少	少	並	内外面赤彩	E5
53	5	SD93	支北 T22	土師器 壺	90		(45.0)			口1	ミガキ	ミガキ		淡橙褐	淡橙褐	少	並	少	並	並	外面赤彩、内外面鉄分付着	T110
53	6	SD93	支北 T22・T23	土師器 甕			(44.0)	101		頸1	ミガキ	ミガキ		淡黄褐	淡黄褐		少		少	並	外面赤彩、内面一部黒斑	T109
53	7	SD93	支北	土師器 壺		50	(41.0)			底6	ミガキ	マメツ	ミガキ	淡橙灰褐	淡橙灰褐		少		少	並		S17
53	8	SD93	支北 T22	土師器 壺	184		(66.0)	102		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・マメツ		淡橙褐	橙		並		少	並	口縁部外面棒状浮文3残 外面刺突列点文 口縁部内面波状文・鋸歯文	S11
53	9	SD93	支北	土師器 壺	168		(30.0)			口1	ナデ・ハケ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐		少	並	少	並	口縁部棒状浮文3残	T106
53	10	SD93	支北 T22	土師器 底部		24	(24.0)			底12	ハケ	ケズリ		暗褐	暗橙褐	少	並			並	内外面スス付着	M83
53	11	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯	252		(57.0)			口1	ミガキ	ミガキ・マメツ		淡黄褐	淡黄褐		並		少	並	内面暗文	T111
53	12	SD93	支北 T22	土師器 高杯カ	250		(50.0)			口1	ミガキ	ミガキ		淡黄褐	淡褐		少		少	並	外面一部スス付着 内面黒斑	T105
53	13	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯	242	120	134.0	33		口3	ミガキ	ミガキ・ケズリ		淡灰黄	淡灰黄		少	少	少	並	外面鉄分付着	E8
53	14	SD93	支北 T22	土師器 高杯		120	(71.0)			底11	ミガキ	ナデ・ハケ後ナデ		淡橙褐	淡橙褐		少		少	並	透かし穴3残、外面一部黒斑	T101
53	15	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯カ	152		(29.0)			口3	ミガキ	ミガキ		淡褐	淡褐		少		並	並	外面一部黒斑	M96
53	16	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯カ		156	(61.0)			底1	ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		淡黄橙褐	淡黄橙褐		少		多	不	外面赤彩	T104
53	17	SD93	支北 T23	土師器 高杯		90	(81.0)	31		底11	ミガキ	ハケ後ミガキ・ハケ後ナデ		明橙褐	明橙褐		多		多	並	内外面赤彩・ハクリ	E7
53	18	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯		92	(70.0)	38		底4	ミガキ	ハケ後ナデ		赤褐	赤褐	少			少	並	内外面赤彩	E2
53	19	SD93	支北 T22・T23	土師器 高杯カ		126	(56.0)			底2	ミガキ・ハクリ	ナデ・ハクリ		淡橙褐	淡橙褐		少	少	多	不		T103
53	20	SD93	支北 T22・T23	土師器 装飾器台			(97.0)	34			ミガキ	ミガキ・ケズリ		赤褐	赤褐		少		並	並	内外面赤彩、透かし穴3残 窓4残	E3
53	21	SD93	支北 T22	土師器 装飾器台		返132	(36.0)			返2	ミガキ	マメツ・ナデ		淡橙褐	淡橙褐		少		並	並		T107
53	22	SD93	支北 T22・T23	土師器 装飾器台		返124	(30.0)			返6	ミガキ・マメツ	マメツ		淡橙褐	淡橙褐		少	少	多	不		T115
53	23	SD93	支北 T22	土師器 装飾器台		返196	(20.0)			返2	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		淡橙褐	淡橙褐		少	少	並	不		T117
53	24	SD93	支北 T22・T23	土師器 器台カ		157	(94.0)	40		底1	ミガキ	ケズリ・ハケ後ナデ		淡黄灰	淡桃褐		少		少	並	外面赤彩、外面鉄分付着 内面工具痕	E6
53	25	SD93	支北 T22・T23	土師器 器台カ		124	(96.0)	32		底1	ミガキ	ケズリ・ケズリ後ナデ・ハケ後ナデ		淡灰	淡黄灰	少	並		並	並	外面鉄分付着、透かし穴3残	E1
53	26	SD93	支北 T22・T23	土師器 器台カ		134	(95.0)	37		底12	ミガキ	ケズリ、ハケ後ミガキ		赤褐	淡赤褐		並		少	並	内外面ハクリ 外面赤彩・線刻	E4
53	27	SD93	支北 T22・T23	土師器 蓋	ツマミ35		(48.0)			ツマミ12	マメツ	マメツ		橙褐	橙褐		多		多	不		T114
53	28	SD93	支北 T22・T23	土師器 鉢	110		(64.0)	80	87	口2	ミガキ	ミガキ		淡橙桃灰褐	淡橙桃灰褐		少		少	並		S9

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表（8）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
53	29	SD93	支北 T22	土師器 鉢	94		(63.0)	70		口6	ナデ・ハケ	ハケ・マメツ		淡褐	淡褐		並	少	並	並		M86
53	30	SD93	支北 T22-T23	土師器 脚部		114	(43.0)	55		底6	マメツ	ケズリ・マメツ		橙褐	暗灰		多		多	不		T102
53	31	SD93	支北 T23	須恵器 有台杯		66	(30.0)			底2	ナデ	ナデ	ヘラ切後ナデ	灰白	灰白		少			並	南加賀か	T108
53	32	SD104	支中	土師器 甕	168		(61.0)	130		口4	ナデ・マメツ	ナデ・ハクリ		淡褐	淡褐	少	多		並	並		F86
53	33	SD104	支中	土師器 甕	158		(55.0)	148		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡褐	淡褐	並	並		並	並		F85
53	34	SD104	支中	土師器 壺	116		(28.0)			口1	ナデ	ナデ		淡黄灰褐	淡黄灰褐		多		少	並		F92
53	35	SD104	支中	土師器 壺	217		(26.0)			口1	ミガキ	マメツ		淡橙褐	淡灰褐		少	少	少	並		F88
53	36	SD104	支中	土師器 高杯			(88.0)	31			ミガキ	ナデ・マメツ		淡橙灰褐	淡橙灰褐		並	少		並		F87
53	37	SD104	支中 U21	土師器 鉢	123	18	45.0			口1	ミガキ	ミガキ		赤灰褐	淡赤褐	少	少	少	少	並	内外面赤彩	F89
53	38	SD104	支中	土製品 土錘	28	23	7.0			完形				淡赤灰褐			並	少	少	並	孔径7mm	F90
53	39	SD104	支中	土師器 鉢	193		(40.0)	151		口2	ナデ・ハクリ	ナデ・ハクリ		淡黄灰褐	淡灰褐		並		少	並		F91
54	1	SD103	支 検②	縄文 深鉢	268		(118.0)	250		口2	条痕			灰褐	灰褐	多	多	少		並		F60
54	2	SD103	支 検②	縄文 深鉢	374		(253.0)			口1	条痕			灰褐	灰褐	並	多	少		並		F61
54	3	SD110	支中 検③ W22	須恵器 無台杯	140	111	21.0			口1	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰	灰	少	並			並	外面口縁部重ね焼き痕 内面口縁部降灰	E21
54	4	SD112	支中 V19S4	土師器 甕	140		(66.0)	116		口2	ナデ	ナデ・ハケ		淡橙灰褐	淡灰褐	少	並			並		S30
54	5	SD112	支中 W19	土師器 高杯		112	(70.0)	35		底1	ミガキ	ナデ・ハケ		橙褐	淡橙褐		並	少	少	並	透かし穴1残	S31
54	6	SD122	支中 検③	土師器 甕	166		(77.0)	75		口3	ナデ・ハケ・ハクリ	ナデ・マメツ・ハクリ		明橙褐	明橙褐		多		多	並		E20
54	7	SD122	支中 検③	土師器 高杯		136	(78.0)	36		底12	ミガキ・ハクリ	ハケ・ナデ・ハクリ		淡橙褐	淡黄橙		並	少	少	並	外面赤彩、透かし穴4残	E19
54	8	SX01	西側南	須恵器 無台杯		78	(17.0)			底7	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	淡青灰	淡灰		少			並	高松産	M79
54	9	SX05	東側南	縄文 深鉢	185		(54.0)			口3	条痕			暗灰褐	灰褐	並	多		少	並	口唇部列点刺突文	F20
54	10	SX05	東側南	縄文 深鉢	324		(358.0)		327	口3	条痕			灰褐	灰褐		多		並	並	内面スス付着	F17
54	11	SX05	東側南	縄文 底部		80	(25.0)			底5			不明瞭	淡橙灰褐	淡灰褐	並	多			並		F19
54	12	SX05	東側南	縄文 底部		105	(26.0)			底8				淡橙灰褐	淡橙灰褐	多	多		多	並		F18
54	13	包含層	検② W24	陶器 碗	120		(54.0)			口1				鉄釉	灰白							M33
54	14	包含層	検② W24	土製品 土錘	35	36	34.0							淡褐	淡褐					並	孔径12mm、重さ34.9g	M34
54	15	包含層	検② W24	土製品 土錘	25	26	27.0							黒褐	黒褐					並	外面黒斑 孔径6mm、重さ15.3g	M36
54	16	包含層	検② W24	土製品 土錘	25	32	27.0							淡灰褐	淡灰褐					並	孔径8mm、重さ20.6g	M37
54	17	包含層	検② W24	土製品 土錘	45	18	16.0							淡灰褐	淡灰褐					並	孔径7mm、重さ10.6g	M38
54	18	包含層	検② W24	土製品 土錘	40	15	14.0							暗褐	暗褐					並	外面黒斑 孔径4mm、重さ6.7g	M35
54	19	包含層	検③ WX22-23	土製品 土錘	70	32	30.0							淡灰褐	淡灰褐					並	孔径12mm、重さ66.6g	M32
54	20	包含層	検④	縄文 浅鉢	240		(57.0)			口2				褐	褐	少	並	少		並	内外面スス付着 体部穿孔1残	M47
54	21	包含層	検④	須恵器 無台杯		64	(19.0)			底6	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡灰	淡灰	少	少			並	外面底部墨書「□(産ヵ)」 高松産	M43
54	22	包含層	検④	須恵器 無台杯		80	(15.0)			底3	ナデ	ナデ	ヘラ切り	淡青灰	淡青灰		少			並	外面底部墨痕有	M42
55	2	包含層	支中 Y16E6	土師器 壺カ			(42.0)			胴1	ハケ	ナデ		淡褐	淡褐		多		並	並	外面工具痕	T126
55	3	包含層	支中 AC13 E2	土師器 底部		46	(38.0)			底1 以下	ケズリ	マメツ		淡橙灰	淡橙灰		多		並	並		E120
55	4	包含層	支中 Y16S7	土師器 ミニチュア	60		30.0	59	60	口1	ナデ	ケズリ		淡灰褐	淡灰褐		少		並	並		F70
55	5	包含層	支中南	須恵質土器 壺カ	180		(24.0)	146		口1 以下				淡橙灰	淡橙灰		少			並		E117
55	6	包含層	支中 AB14	土師器 有台椀		60	(20.0)			底1 以下	ナデ		ナデ	淡橙灰	淡橙灰		多	少		並		E110
55	7	包含層	支中 AE12	土師器 有台椀		62	(19.0)			底9	マメツ	マメツ	マメツ	淡橙灰	淡橙灰		少		並	並		E112
55	8	包含層	支中 Y16E6	内黒 有台椀		60	(29.0)			底12	ナデ・ハクリ	ミガキ	ナデ	淡橙灰褐	黒		少		少	並		F74
55	9	包含層	支中 Y17S4	須恵器 蓋		120	(20.0)			底1	ナデ	ナデ		灰白	灰白		少			並	高松産	T122
55	10	包含層	支中 Z15E7	須恵器 有台杯		78	(43.0)			底12	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	並	並			並	高松産	T129
55	11	包含層	支中 Y16E6	須恵器 有台杯	109	81	37.0			底4	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰	少	少			並	末産	F77
55	12	包含層	支中 AA15S7	須恵器 有台杯		68	(16.0)			底3	ナデ	ナデ	回転糸切痕	灰白	灰白	少	並			並	南加賀産	E118
55	13	包含層	支中 Y16E6	須恵器 無台杯		82	(16.0)			底6	ナデ	ナデ	ケズリ後ナデ・ヘラ起こし痕	灰	灰	少	少			並	高松産	T121
55	14	包含層	支中 AC14	須恵器 無台杯	116	93	(32.0)			底4	ナデ	ナデ		灰	灰		少			並	高松産	E114
55	15	包含層	支中南	須恵器 無台杯	109	82	34.0			口8	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰	少	少				高松産	F73
55	16	包含層	支中 Y16S7	須恵器 無台杯		64	(11.0)			底7	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り	灰	灰	少	少			並	高松産	F68
55	17	包含層	支中 Y16S7	須恵器 甕カ	296		(48.0)			口1	ナデ	ナデ		灰白	灰白		少			並	南加賀産	T133
55	18	包含層	支中 Y16E6	須恵器 甕カ	192		(37.0)			口1	ナデ	ナデ		灰	灰白		少			並	高松産	T123
55	19	包含層	支中 AA15S7	須恵器 甕			(70.0)			口1 以下	ナデ	ナデ		灰	灰		並			並	内面降灰	E119
55	20	包含層	支中南	須恵器 甕カ壺	237		(65.0)	196		口1 以下	ナデ・カキメ	ナデ		灰	灰		多			並	高松産	E116
55	21	包含層	支中 Y16E6	須恵器 甕カ			(33.0)			口1 以下	ナデ	ナデ		灰	灰	少	少			並	高松産	T124
55	22	包含層	支中	須恵器 小壺			(34.0)		80	胴1	ナデ	ナデ		灰白	灰白		多			並	外面降灰	E101
55	23	包含層	支中南	須恵器 壺カ瓶			(101.0)				ケズリ	ナデ		灰	灰		並			並	外面赤色顔料?付着 末産	E115
55	24	包含層	支中 AB14	須恵器 双耳瓶			(97.0)							灰	灰		少			並		E109
55	25	包含層	支中	須恵器 不明	72	32	28.0							灰	灰		多			並		E107
55	26	包含層	支中	須恵器 鉢	296					口1 以下	ナデ	ナデ		灰	灰	少	少	少		並		E103
55	27	包含層	支中 Y16S7	陶器 甕			(130.0)				タタキ			暗灰	暗灰		少	少		並		F69

第2表　07 土器・陶磁器・土製品観察表（9）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
55	28	包含層	支中 AC12S2	陶器 底部		88	(46.0)			底3	ナデ	ナデ	回転糸切り・粘土カス	灰	灰	少	並	少		並		F71
55	29	包含層	支中 Y16S7	陶器 鉢	240		(65.0)			口2	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰		少			並	珠洲焼	F67
55	30	包含層	支中 T22・U22	陶器 すり鉢			(78.0)			口1	ナデ				淡赤灰褐		少		少	並	越前産	F72
55	31	包含層	支中 Y16S7	陶器 すり鉢			(57.0)			胴2	ナデ	ナデ・卸目		灰	灰	少	並			並		T134
55	32	包含層	支中	磁器 瓶			(30.0)			頸1以下				青磁釉	灰白					良	中国青磁	E102
55	33	包含層	支中 X18・19	磁器 碗		60	(20.0)			底2				透明釉	灰白						中国白磁	F79
55	34	包含層	支中 Z15E7	土師器 皿	83	5	1.1			口4	ナデ・マメツ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐		少			並		T128
55	35	包含層	支中 AE12	土製品 不明	27	22	4.0			完形				淡褐	淡褐		少			並	泥面子か碁石(白)か	F78
55	36	包含層	支中 AB14	陶器 陶錘	42	24															孔径6mm、重さ20g 外面自然釉・付着物	M363
55	37	包含層	支中 AC13S2	土製品 土錘	74	29								淡褐	淡褐	少	少			並	孔径13mm、重さ59g	F76
55	38	包含層	支中 W19E3	土製品 土錘	(75)	29								淡灰褐	淡灰褐	並	多			並	孔径13mm、重さ58g	F75
55	39	包含層	支中 AE12	土製品 土錘	59	21	18.0							淡灰	淡灰		多			並	孔径5mm、重さ15.97g	E113
55	40	包含層	支中 Y17E5	土製品 土錘	50	22	21.0							淡橙	淡橙					並	外面一部黒斑 孔径5mm、重さ20.73g	T127
55	41	包含層	支中 Z15E7	土製品 土錘	44	19	15.0	110						淡灰	淡灰					並	孔径4mm、重さ11.37g	T131
55	42	包含層	支中 AC13E1	土製品 土錘	36	20	20.0							淡灰	淡灰					並	孔径5mm、重さ11.09g	E111
55	43	包含層	支中 Z15E7	土製品 土錘	34	14	14.0							淡灰	淡灰					並	孔径4mm、重さ5.72g	T132
56	1	包含層	東側南 Y12	縄文 浅鉢			(50.0)							灰褐	赤褐		並		少	並	内外面赤彩	S63
56	2	包含層	東側南	縄文 鉢			(37.0)							淡橙褐	淡橙褐	少	並				外面赤彩	T304
56	3	包含層	東側南	須恵器 瓶カ	104		(31.0)			口1	ナデ	ナデ		灰	灰		少			並		E98
56	4	包含層	東側南	土製品 土錘	35	11	11.0							赤褐	赤褐						孔径3mm、重さ3.14g	E97
56	5	包含層	東側南 W15	土製品 土錘	(61)	32	30.0							淡桃灰褐	淡桃灰褐	少	並		少	並		S61
56	6	包含層	西側中央南 O17	土師器 甕	170		(75.0)	152		口3	ナデ・ハケ・ハクリ	ナデ・ケズリ・ハクリ		淡灰褐	淡黄橙		多		並	並		E37
56	7	包含層	西側中央南 P16	土師器 底部		84	(40.0)			底8	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ・工具痕	淡黄褐	淡黄褐	並	多		少	並		T16
56	8	包含層	西側中央南	土師器 脚部		149	(51.0)			底3	ミガキ	ナデ		淡灰褐	灰褐		並	少	多	並	外面沈線文・キザミ	F95
56	9	包含層	西側中央南 M18	土師器 台付鉢	130	58	77.0	41		底1	ハクリ・ナデ	ハクリ	ナデ	淡橙褐	橙褐		多	少	並	並		T20
56	10	包含層	西側中央南 M18	土師器 鉢	78		(73.0)			口1	ナデ	ナデ・ケズリ		淡黄褐	淡黄褐		並		少	並		T21
56	11	包含層	西側中央南	土師器 ミニチュア	22	20	22.0		32	完形	ナデ	ナデ	ナデ	暗灰	暗灰		少	少		並		T19
56	12	包含層	西側中央南 M18	土製品 土錘	37	31								淡褐	淡褐					並	孔径11mm、重さ29.2g	T22
56	13	包含層	西側中央南 M18	須恵器 有台杯		72	(17.0)			底6	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白	灰白	少	少			並	高松産	T17
56	14	包含層	西側中央南 M18	磁器 碗		66	(20.0)			底7	ナデ	ナデ	ヘラ切り	透明釉	灰白		少			良	中国白磁	T18
56	15	包含層	支南 YZ17	須恵器 蓋	ツマミ 22	126	26.0			底2	ナデ・ヘラ切り後ナデ	ナデ		淡灰白	淡灰白	少	少			並	末産	M46
56	16	包含層	支南 Z16	緑釉陶器 皿		68	(19.0)							緑釉	淡灰白							M39
56	17	包含層	支南 YZ17	土製品 土錘	63	30	30.0													並	外面黒斑 孔径13mm、重さ53.5g	M45
56	18	包含層	支南 YZ17	土製品 土錘	68	33	33.0							淡灰褐	淡灰褐					並	外面黒斑 孔径14mm、重さ65.2g	M44
56	19	包含層	支北 S24・T23	須恵器 無台杯		103	(12.0)			底2	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰		少			並		M8
56	20	包含層	支北 O26	磁器 碗	152		(24.0)			口1以下				透明釉	淡灰						内面櫛描文、中国白磁	S87
56	21	カクラン	東側南 暗渠	縄文 深鉢			(77.0)				条痕			淡橙褐	淡橙灰褐		並	少	少	並		S62
56	22	カクラン	東側南 暗渠	磁器 碗	151		(42.0)			口1以下				透明釉	灰白					良		E104
56	23	カクラン	東側南 暗渠	土製品 土錘	68	26	25.0							灰白	灰白					並	孔径16mm、重さ41.12g	E105
56	24	カクラン	東側南 暗渠	土製品 土錘	41	18	18.0							淡灰	淡灰					並	孔径6mm、重さ12.91g	E106
56	25	カクラン	東側南 X13	土製品 土錘	(28)	17	17.0							淡橙褐	淡橙褐		並			並	孔径6mm、重さ5.25g	T86
56	26	SK09	西側中央北 H22・H23	弥生土器 壺			(52.0)				ハケ	ハケ		暗褐	暗褐	少	並	少		並	外面沈線文・波状文	M21
56	27	SK09	西側中央北 H22・H23	弥生土器 底部		64	(56.0)			底12	ハケ	マメツ		橙褐	暗褐	少	並	少		並	外面スス	M22
56	29	SD07	西側中央北 H22	縄文 鉢			(47.0)			口1以下				淡橙褐	淡褐	少	多	少	並	並		M19
56	30	SD07	西側中央北 H22・H23	弥生土器 壺	122		(157.0)	95	198	口2	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・マメツ・ハケ		淡褐	明淡褐	少	並	少	並	並	外面直線文・波状文 外面口唇部キザミ	M17
56	31	SD13	西側北 F23	弥生土器 壺		68	(110.0)			底12	ハクリ・マメツ	ハケ・ハクリ		暗橙褐	暗褐	少	多	少	並	並		M16
56	32	SD13	西側北 F23	弥生土器 壺		72	(113.0)			底12	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ		橙褐	橙褐	多	並	少	並	並	内面炭化物付着	M15
56	33	SD13	西側北 G24	弥生土器 壺		42	(94.0)		105	底12	マメツ	ナデ・ハケ		淡褐	暗褐	多	多			並	外面スス付着	M14

第3表　銭貨観察表

(単位：mm)

図版No.	番号	地区	遺構・層位	法量 a b	法量 c d	法量 e 重量	材質	銭文	銭種	備考	実測番号
55	1	支線	包含層	24.5 24.2	6.7 6.5	1.50 0.88	銅	元豊通宝			M40

第4表　07 金属製品観察表

(単位：mm)

図版No.	No.	遺構	地区	器種	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	重量(残存)	備考	実測No.
44	24	SD01	西側中央南 N17	煙管雁首	34	16	10.0	5.50	d：17mm 銅	T83

第5表　07 木製品観察表（1）

(単位：mm)

図版No.	No.	遺構	地区	種別	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	樹種	木取	備考	実測No.
57	1	SB04 P270		剣形	274	71	17.0	針	辺材		F209
57	2	SB04 P270		柱根か	(334)	96	38.0	針	辺材		F208
57	3	SB05 P263	柱②	柱根	(433)	141	86.0	針	辺材		T267
57	4	SB05 P185	柱②	柱根	(358)	108	91.0	針	辺材		T268
57	5	SB06 P184	柱②	柱根	(185)	118	108.0	針	芯持カ		F610
57	6	SB07 P518	柱③	柱根	(530)	131	71.0	針	辺材		T266
57	7	SB07 P560	支中 柱③	礎板カ	194	146	50.0	針			S208
57	8	SB08 P269	柱③	柱根	(400)	192	135.0	針	辺材		S207
57	9	SB08 P506	柱③	柱根	(430)	198	156.0	針	辺材		M112
57	10	SB08 P556	柱③	柱根	(564)	188	175.0	針	辺材		M113
57	11	SB11 P180	支中	柱根カ	(223)	(55)	(47.0)	針	辺材		ET47
57	12	SB11 P534	支中 U21	柱根	(224)	111	112.0	広カ	辺材		S209
58	1	P91	東側	柱根	(267)	(56)	(27.0)	針	芯持カ		T691
58	2	P277	支中 柱③	柱根	(758)	170	82.0	針			T255
58	3	P283	支中	柱根	(181)	143	84.0	針	辺材		M115
58	4	P296-②	支中	棒状	(88)	29	19.0	針	辺材		T707
58	5	P287	支中	柱根	(232)	137	(35.0)	針	辺材		ET46
58	6	P400	支中	棒状	(348)	16	11.0	針	辺材		N90
58	7	P400	支中 東	礎板カ	247	147	44.0	針	辺材		M114
58	8	P441	支中	板状	(157)	(71)	29.0	針	柾目		F604
58	9	P439	支中	板状	(191)	(48)	(19.0)	針	辺材		T689
58	10	P386	柱②	柱根	(247)	(102)	(63.0)	針	芯持カ		T692
58	11	P451	支中	板状	(101)	78	(22.0)	針	辺材		F607
58	12	P451	支中	柱根カ	(67)	(54)	(27.0)	針	芯持カ		F609
58	13	P451	支中	柱根カ	(155)	(153)	67.0	針	芯持カ		F608
58	14	P458	支南	柱根	(437)	187	160.0	針			F207
59	1	P515	支中 柱③	柱根カ	(55)	(62)	(32.0)	針カ	辺材		T708
59	2	P532	支中	柱根カ	(127)	(96)	(33.0)	針	芯持カ		F606
59	3	P533	支中	柱根カ	(94)	(57)	(33.0)	針	辺材		T690
59	4	P552	支中	柱根カ	(65)	(80)	(42.0)	針	辺材		T709
59	5	P564	柱③	柱根	(131)	119	57.0	針	辺材		F605
59	6	P566	支中	板状	(270)	96	49.0	針			F637
59	7	SE01	東側中 O22	曲物	35	(107)	6.0			桜皮残存	ET59
59	8	SE01	東側中	棒状	181	22	15.0	針	辺材		S156
59	9	SE01	東側中 O22	箸状	(77)	5	4.0	針	辺材	方形	ET57
59	10	SE01	東側中 O22	竹製品	(95)	12	12.0	竹		節抜き、孔径5mm	ET58
59	11	SE04	支中	扇	(159)	16	4.0	針カ			ET51
59	12	SE04	支中	板状	(239)	20	4.0	針	辺材		ET53
59	13	SE04	支中	板状	(212)	35	9.0	針	辺材		ET56
59	14	SE04	支中	箸状	115	5	4.5			方形	ET54
59	15	SE04	支中	箸状	(103)	6	3.0				ET55
59	16	SE04	支中	不明	(111)	49	22.0	針カ	辺材		ET52
59	17	SE05	支南	箸	(114)	7	5.0	針			T273
59	18	SE05	支南	木簡	(202)	27	4.0	針	板目	杉、保存処理後、長(199)幅26厚4	Fu1
59	19	SE05	支南	棒状	(167)	29	23.0	広	芯持	先端部丸く加工	M120
59	20	SE05	支南	杭	(549)	33	34.0	広	芯持		M123
60	2	SE05	支南	板状	287	24	5.5			段加工	T278
60	11	SE06	支中	板状	(305)	37	11.0	針	柾目		ET138
60	12	SE06	支中	不明	(188)	32	18.0	広	辺材	リン付着	F642
60	13	SE06	支中	板状	(169)	23	6.0	針	辺材		ET139
60	14	SE06	支中 柱③ 側外 北東隅	不明	(70)	18	8.0	竹			ET144
60	15	SE06	支中 柱③ 側外 北東隅	棒状	(226)	22	(9.0)	針カ	辺材		ET142
60	16	SE06南	支中	棒状	(228)	39	(19.0)	広	辺材		N92
60	17	SE06	支中	杭	(590)	42	26.0	広	辺材		N91
60	18	SE06	支中	不明	(443)	54	51.0	針カ	辺材		F638
60	19	SE06	支中 柱③ 側外 北東隅	杭カ	230	21	8.0	広	辺材		ET143
60	20	SE06	支中	不明	(449)	58	35.0	針カ	辺材		F639
61	1	SE06	支中 側外	横杵	a:566	b:34	c:36	身コナラ属アカガシ亜科(広葉樹) 柄にスギ(針葉樹) d:63 e:60 f:301 g:150 h:65 i:28			ET1
61	2	SE06	支中 柱③ 側内	木錘カ	171	78	78.0	広	芯持	加工痕	F182
61	3	SE06	支中	部材	(230)	72	24.0	針	辺材		ET141
61	4	SE06南	支中	板材	(191)	116	12.0	針			F213
61	5	SE06	支中	不明	(105)	50	27.0	広	辺材		ET140
61	6	SE06	支中	鍬	(80)	(85)	(21.0)	広			F215
61	7	SE06	支中	杭	(145)	23	13.0	広	辺材		F643
62	1	SE06南	支中	杭	1711	61	48.0	針	辺材		T263
62	2	SE06	支中	杭	905	50	41.0	広カ			S205
62	3	SE06	支中	杭	666	60	54.0	広	芯持		S210
62	4	SE06	支中 側内	板状	(400)	56	31.0	針	辺材	先端加工	S211
62	5	SE06	支中	棒状	367	17	16.0	針	辺材		F640
62	6	SE06	支中	棒状	365	22	16.0	針	辺材	先端部コゲ痕	F641
62	7	SE06南	支中	角材	(597)	59	29.0	針			F212
62	8	SE06	支中	板状	420	74	13.0	針			F214
62	9	SE06南	支中	板状	(765)	171	20.0	針	辺材	穿孔1残	M108
62	10	SE06	支中	板状	(1065)	186	63.0	針	辺材	節穴貫通1、節穴未貫通1、節穴孔1	T262
62	11	SE06南	支中	板状	1060	170	17.0	針	辺材	穿孔2残	M107
62	12	SE06南	支中	板状	(766)	130	18.0	針		穿孔2残	T261
62	13	SE06南	支中	板状	(663)	136	19.0	針			S203
63	2	SE06南	支中	板状	(816)	150	12.0	針		穿孔2残	T260
63	3	SE06	支中	板状	678	97	20.0	針	辺材	穿孔2残	M104
63	4	SE06	支中 柱③ 側内	板状	(247)	98	5.0	針		穿孔5残	ET43
63	5	SE06	支中	板状	(196)	73	9.0	針	辺材		M111
63	6	SE06	支中 側内	板材	(254)	106	29.0	針	辺材		S212
63	7	SE06	支中	板状	390	485	49.0	針	辺材		M105
64	1	SE06南	支中	板状	1353	388	23.0	針	辺材	穿孔1残	S204
67	1	SE06	支中	井戸枠付属品	(272)	32	15.0	針	辺材	井戸枠2に桜の皮で取り付けられていた	ET39
69	1	SK20	東側南	板状	(266)	156	28.0	針	辺材	SK20井戸 穿孔1残	ET42
69	2	SK20	東側南	板状	510	141	26.0	針	辺材	No.2	F206
69	3	SK20	東側南	板状	(667)	261	27.0	針	辺材	No.4、穿孔3残 T257と接合	T256
69	4	SK20-7	東側南	板状	(514)	45	12.0	針	柾目		ET132
69	5	SK20	東側南	板状	(525)	77	34.0	針		No.10、穿孔1残	ET40
69	6	SK20	東側南	板状	(378)	55	25.0	針	辺材	No.15	ET41
69	7	SK20-40	東側南	板状	245	33	5.0	針	辺材		ET134
69	8	SK20-23	東側南	板状	(163)	18	10.0	針	柾目		ET135
69	9	SK20-27	東側南	部材	(721)	190	29.0	針	板目		N71
69	10	SK20	東側南	板状	800	263	27.0	針		No.28 T256と接合	T257
70	1	SK20	東側南	板状	1371	288	28.0	針	辺材	No.29、穿孔5残	M101
70	2	SK20	東側南	板状	(750)	45	20.0	針		No.30	S200
70	3	SK20	東側南	板状	872	145	31.0	針	柾目	No.31、M100-2と接合、穿孔3残	M100-1
70		SK20	東側南	板状	852	114	35.0	針		No.32 M100-1と接合	M100-2

第5表　07 木製品観察表（2）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種別	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	樹種	木取	備考	実測No.
70	4	SK20	東側南	棒状	(549)	77	70.0	針	辺材	No33	F205
70	5	SK20-35	東側南	部材	(816)	88	55.0	針	辺材		F612
70	6	SK20-34	東側南	部材	(664)	147	93.0	針	芯持		N72
71	1	SK20	東側南	板状	(862)	(211)	(88.0)	針		No37	S201
71	2	SK20-38	東側南	部材	(744)	139	50.0	針	辺材		T693
71	4	SK20-40	東側南	板状	567	53	7.0	針	辺材		ET133
72	2	SK20	東側南	棒状	745	132	76.0	広	芯材	No45	M102
74	1	SK18	東側南	棒状	(215)	19	16.0	針	辺材	コゲ跡	N89
74	2	SK23	東側南	棒状	(250)	25	15.0	針	辺材		F636
74	3	SK55	支中	曲物底板	124	120	8.0	針カ	辺材		ET44
74	4	SK60	支北	板状	(145)	24	3.0	針	辺材	片側を薄く加工	M121
74	5	SK60	支北	箸	206	6	5.0	針	辺材	方形	M122
74	6	SK76	支中	不明	(148)	75	50.0	針	辺材		ET137
74	7	SD01	西側中央南N17	踏み板	61	93	12.0	針	柾目	陽刻,線刻	ET50
74	8	SD01	西側中央南N17	棒状	190	38	35.0	広	芯持	底部擦痕	M119
74	9	SD35キ	東側中	板状	105	98	6.0	針	辺材	穿孔3残,コゲ痕	ET49
74	10	SD40	東側南	杭	(287)	33	28.0	広	辺材		T705
74	11	SD45	東側南	杭	(155)	35	33.0	広	辺材		T706
74	12	SD54	東側南	板状	(102)	(22)	8.0	広	辺材	穿孔5残	F217
74	13	SD54	東側南	板状	(341)	32	11.0	広カ			ET45
74	14	SD54	東側南	板状	178	40	7.0				F216
74	15	SD95	支中	不明	(115)	80	75.0	針	辺材		ET136

第6表　07 井戸枠（縦板等）計測表

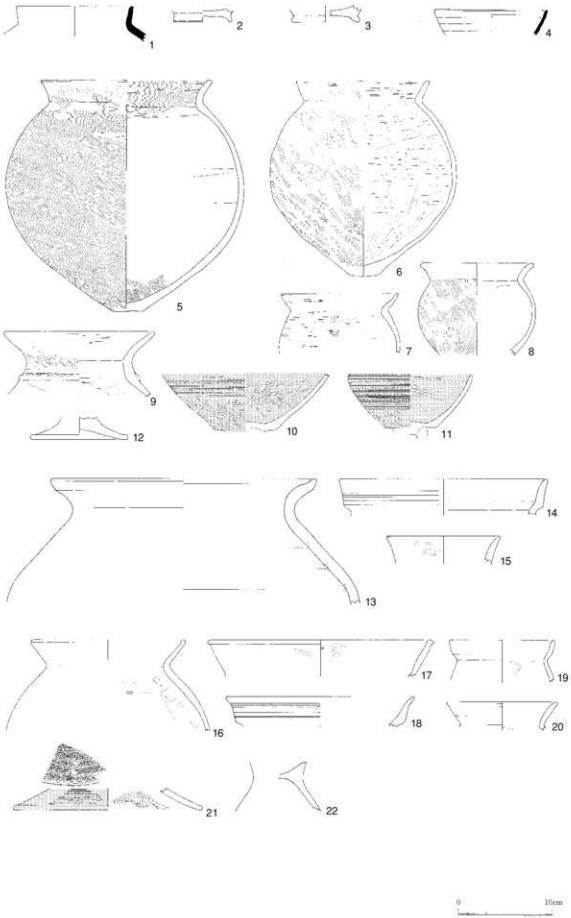
（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種別	長	幅	厚	樹種	木取	備考	実測No.
60	1	SE05	支南	横桟カ	(309)	40	18.0	針			ET145
60	3	SE05	支南	縦板カ	(260)	18	4.0	針			T276
60	4	SE05	支南	縦板カ	(405)	33	4.0	針			T277
60	5	SE05	支南	縦板カ	(236)	18	3.0	針			T274
60	6	SE05	支南	縦板カ	(174)	31	4.0	針			T275
60	7	SE05	支南	横桟カ	(352)	40	39.0	針			ET146
60	8	SE05	支南	横桟カ	615	46	34.0	針			N93
60	9	SE05	支南	横桟カ	618	50	35.0	針		北	Q2
60	10	SE05	支南	横桟カ	618	50	35.0	針		南	F644
63	1	SE06	支中	側板	(1050)	129	15.0	針		井戸枠南側の外側のあて板	M106
63	8	SE06	支中	側板	(1318)	255	38.0	針		井戸枠南側の外側のあて板 穿孔2残(一ヵ所に木が埋め込んである)	T264
65+66	1+1	SE06	支中	井戸枠	(1460)	753	65.0	針	辺材	No1	F204
67+68	2+1	SE06	支中	井戸枠	(1684)	680	53.0	針	辺材	No2,穿孔6残(樹皮4残),ET39付の図	ET37
68	2	SE06	支中	井戸枠	751	230	29.0	針	辺材	No3,穿孔2残(樹皮2残)	ET38
71	3	SK20	東側南	板状	(1190)	368	22.0	針	辺材	No39,穿孔19残	S202
72	1	SK20	東側南	板状	(1409)	380	29.0	針	辺材	No41,穿孔12残	T258
73	1	SK20	東側南	板状	(1415)	334	25.0	針	辺材	No42,穿孔19残	M103
73	2	SK20	東側南	板状	(1384)	313	21.0	針	辺材	No43,穿孔8残	T259

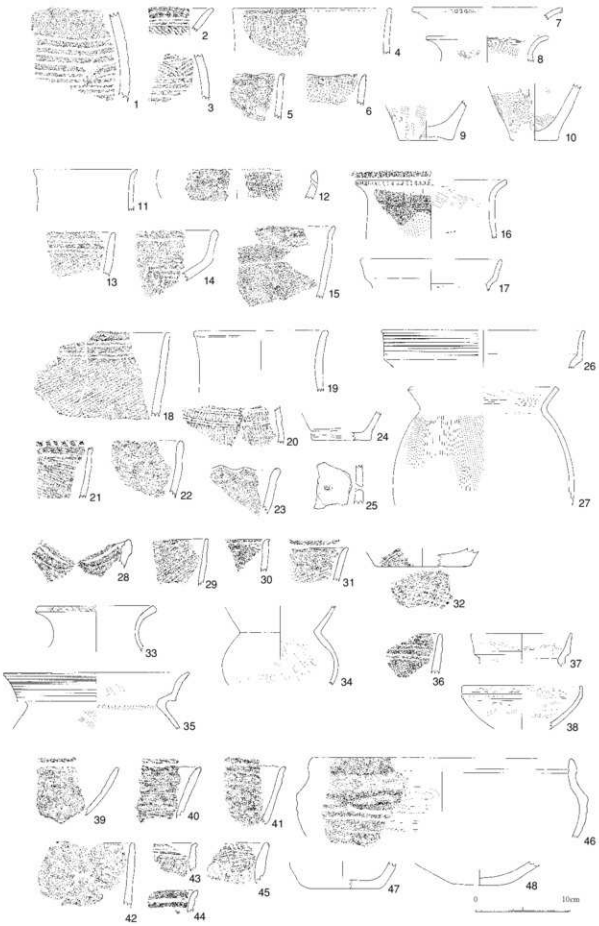
第7表　07 石製品観察表

（単位：mm）

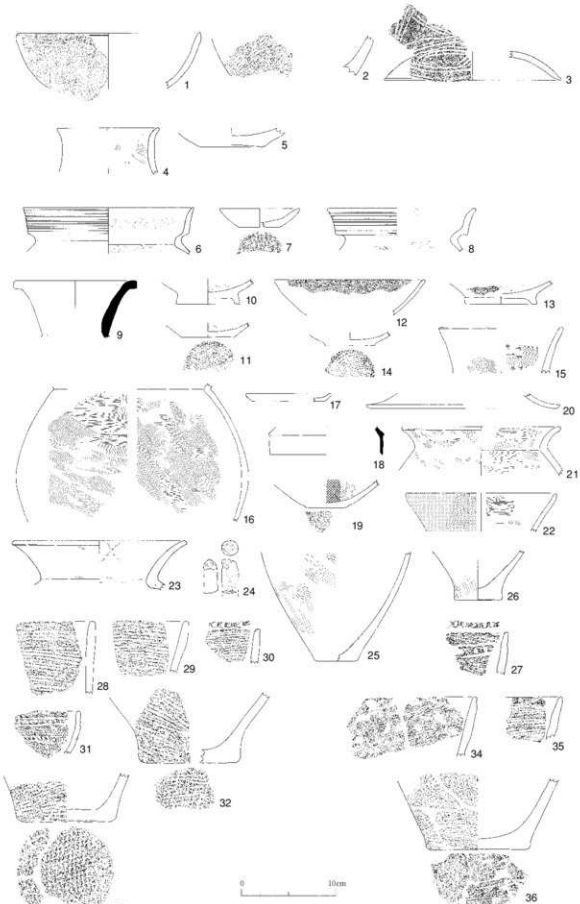
図版No.	No.	遺構	地区	器種	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	重量(g)	色調	備考	実測No.
56	28	SD07	西側中央H22	石鏃	43	13	5.0	2.50	暗灰		M18
75	1	SD40pit	東側南	勾玉	16	10	7.0	1.80	明緑灰	孔径1.5mm	M66
75	2	SD33	東側南	玉	8	11	9.0	1.51	緑灰	孔径3.0mm	F59
75	3	包含層	支線	管玉	36	11	10.5	4.80	緑灰	孔径4.0mm	M41
75	4	SE06	支中側内	管玉	21	7	3.0	1.33	緑灰		TM1
75	5	SD87	支北	管玉未製品	11	7	6.0	0.60	緑灰		M12
75	6	SK18	東側南	有孔円盤	(27)	12	13.5	4.10	明緑灰		T54
75	7	SD93	支北	玉未製品	28	20	11.0	14.14	明緑白	硬玉	E351
75	8	SD33	東側南	石鏃	23	19	4.0	2.12	暗灰		F58
75	9	SD33	東側南	石鏃	19	14	4.0	0.94	暗灰		F57
75	10	SD40	東側南	石鏃	36	14	9.0	3.90	暗褐		M69
75	11	SD40	東側南	石鏃	28	10	4.0	1.00	暗灰	安山岩	M67
75	12	SD40北岸	東側南	石鏃	30	14	4.0	1.53	灰	安山岩	T772
75	13	SD40北岸	東側南	石鏃	33	21	6.0	4.68	暗灰		F65
75	14	SD40南壁	東側南	石鏃	(21)	18	4.4	1.74	灰	安山岩	Q79
75	15	SD55	東側南	石鏃	34	13	3.0	1.32	暗灰		E60
75	16	SD93	支中	石鏃	35	14	7.0	3.26	灰		E353
75	17	包含層	東側南Y13	石鏃	24	28	6.0	2.15	暗褐	珠洲内滴瓶フリント	T85
75	18	包含層	東側南	石鏃	26	20	4.0	1.56	灰		E100
75	19	カクラン	東側南X13	石鏃	30	9	3.5	0.90	濃灰	安山岩	T87
75	20	カクラン	東側南Y13	磨製石斧	(28)	29	8.5	10.15	暗褐	蛇紋岩	T88
75	21	SK18	東側南	剥片	38	33	10.0	7.70	黒褐		F648
75	22	SK18	東側南	剥片	50	33	14.0	12.03	明緑灰		F647
75	23	SK18	東側南	剥片	18	12	7.0	1.20	暗緑灰		T55
76	1	SD40	東側南	剥片	31	24	11.5	6.76	黒褐		T773
76	2	SD40南岸	東側南	剥片	34	18	8.0	4.38	暗灰		T774
76	3	SD40	東側南	剥片	29	21	5.0	3.60	灰		M367
76	4	SK18	東側南	砥石	(31)	(32)	26.0	26.08	灰白		F649
76	5	SD84	支北P26	砥石	(62)	47	29.0	90.00	灰白		F652
76	6	SK21	東側南	軽石	62	53	40.0	35.30	淡灰		T72
76	7	カクラン	支中	鰹節形石器	(100)	(34)	61.0	215.00	灰白	縄文	M362
76	8	SD40	東側南	磨製石斧	(82)	64	38.0	290.00	灰白	未製品	M361
76	9	SD40	東側南	磨製石斧	(61)	39	21.0	79.50	灰		M68
76	10	SD40	東側南Y13	磨製石斧	(63)	51	23.0	120.00	灰		Q75
77	1	P100	東側中O22	磨製石斧	184	96	42.0	864.00	灰白		T711
77	2	SK18	東側南	磨製石斧	92	48	25.0	145.00	明緑灰		F646
77	3	SD40	東側南X14	磨製石斧	(114)	74	29.0	225.00	灰白		T778
77	4	SD40南岸	東側南Y13	磨製石斧	(101)	59	23.0	161.00	灰白		T776
77	5	SD93	支北T22・23	磨製石斧	139	115	21.0	625.00	灰白		N97
77	6	SD93	支中	磨製石斧	190	73	29.0	515.00	灰白		T712
77	7	SD40	東側南	石冠類	165	56	34.0	406.00	灰白		M360
77	8	SD33北岸	東側南	すり石	121	156	52.0	1730.00	灰白		E363
77	9	SK03	西側中央南M16	敲石	(184)	58	62.0	890.00	灰		Q3
77	10	SK59	支柱②	敲石	(95)	67	67.0	860.00	灰白		N94
77	11	SD40	東側南X13	敲石	90	82	49.0	605.00	灰白	側面全周敲打痕	Q76
77	12	SD33北岸	東側南	敲石	90	82	33.0	351.00	灰白		E362
77	13	SD40	東側南X14	敲石	98	(73)	36.0	372.00	灰黄		T777
78	1	SE06	支中	敲石	83	56	34.0	206.00	灰白		E360
78	2	SK03	西側中央南M16	凹石	176	99	73.0	15.25	にぶい黄橙	表面黒色付着物	Q4
78	3	SD33	東側南	凹石	110	99	54.0	870.00	灰白		Q9
78	4	SD33南岸	東側南	凹石	107	100	44.5	680.00	灰白		Q10
78	5	SD33北岸	東側南	凹石	96	68	31.0	309.00	灰白		E361
78	6	SD33	東側南W14	凹石	100	66	44.0	170.00	灰白		M278
78	7	SD40	東側南	凹石	88	81	48.0	350.00	灰白		M365
78	8	SD40	東側南	凹石	(109)	(96)	(40.0)	355.00	褐灰		M364
78	9	SD40	東側南	凹石	96	73	36.0	350.00	灰白		Q78
78	10	SD40	東側南	凹石	(54)	(49)	(30.0)	92.00	灰白		M366
78	11	SD40南岸	東側南	凹石	(47)	88	54.0	290.00	灰白	安山岩	Q77
78	12	SD40南岸	東側南	凹石	116	(70)	43.0	485.00	灰白	敲石としても使用か	T775



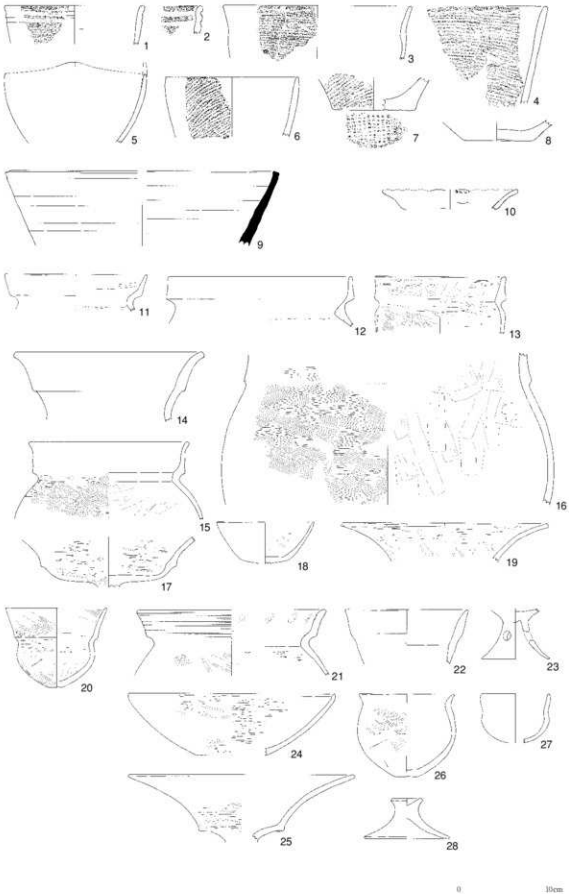
第79図　SK86（1・2）、SK88（3）、SK91（4）、SK90（5～12）、SK92（13）、SK96（14・15）、SK100（16～22）出土遺物（S=1/4）



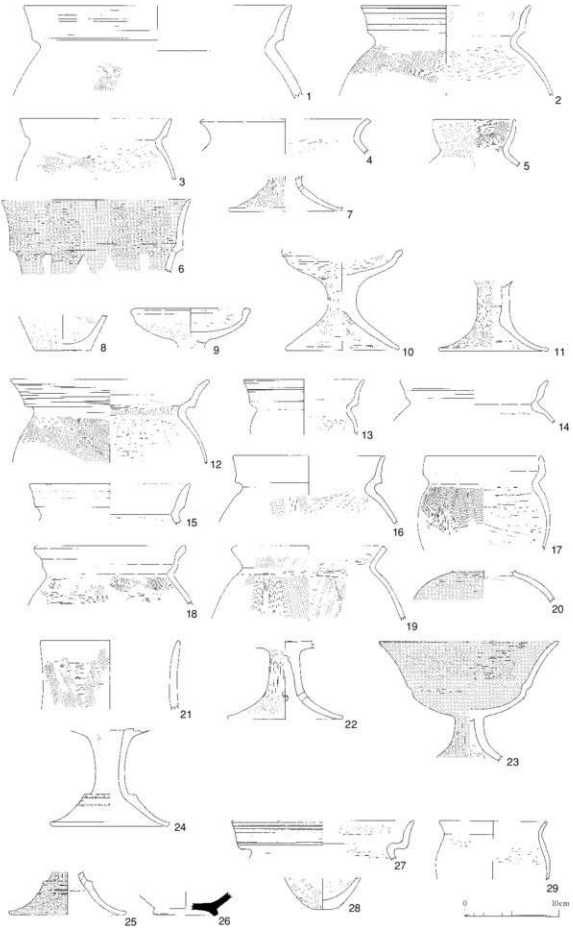
第80図　SK105・SK106（1～10）、SK106（11～17）、SK106・SK108（18～27）、SK107（28～35）、SK108・SK109（36～37）、SK109（38～48）出土遺物（S=1/4）



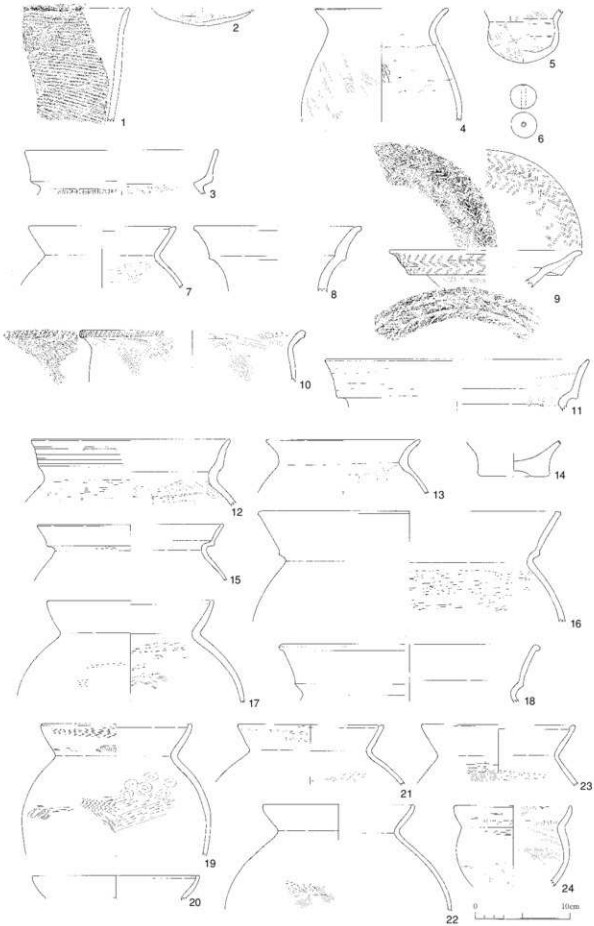
第81図　SK109（1～5）、P569（6）、P589（7）、P594（8）、P599（9）、P632（10）、P686（11）、P638（12～14）、P685（15）、P655（16）、P707（17）、P710（18）、P715（19）、P752（20）、P727（21）、P755（22）、SBN 01-S（23）、ST仮溝（24）、SD07（25・26）、SD13（27）、SD33（28～33）、SD33 表層（34～36）出土遺物（S=1/4）



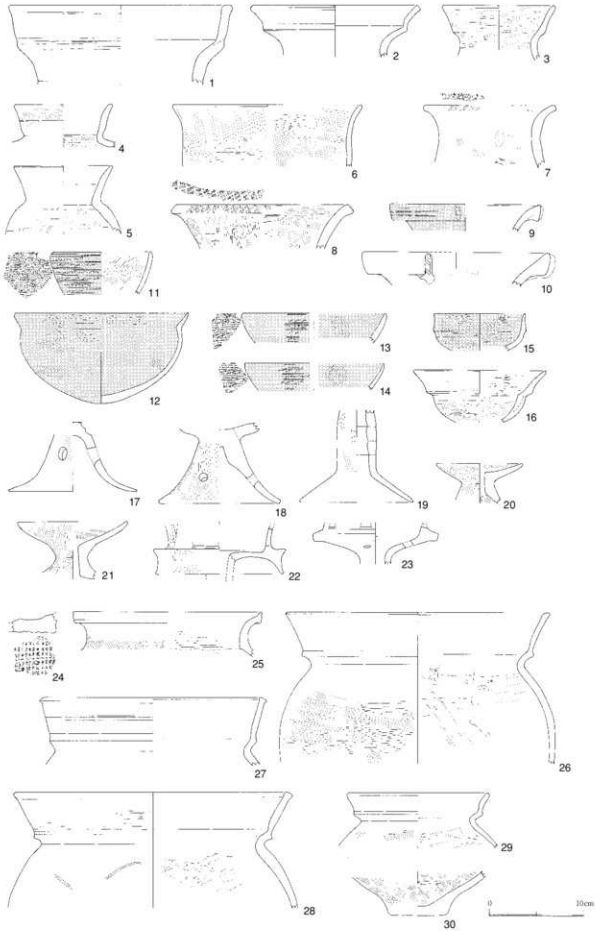
第82図　SD40（1～8）、SD130（9）、SD132（10）、SD135（11～20）、SD135①（21～28）出土遺物（S=1/4）



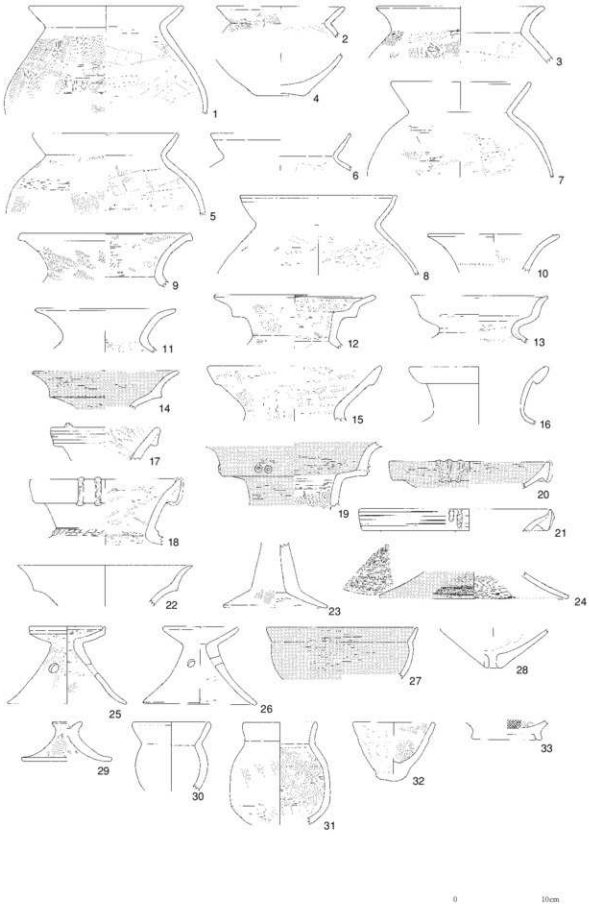
第83図　SD135②（1～7）、SD135③（8～11）、SD135④（12～24）、
SD135・SD137（25・26）、SD137（27～29）出土遺物（S=1/4）



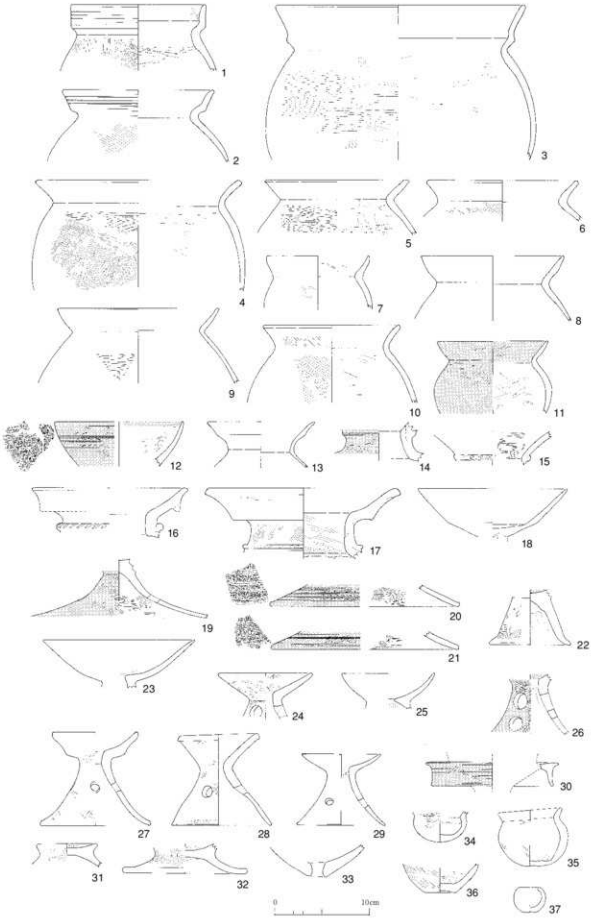
第84図　SD138（1・2）、SD139（3）、SD140（4～6）、SD140A畦2（7）、
SD140A畦1（8・9）、SD140A（10～24）出土遺物（S=1/4）



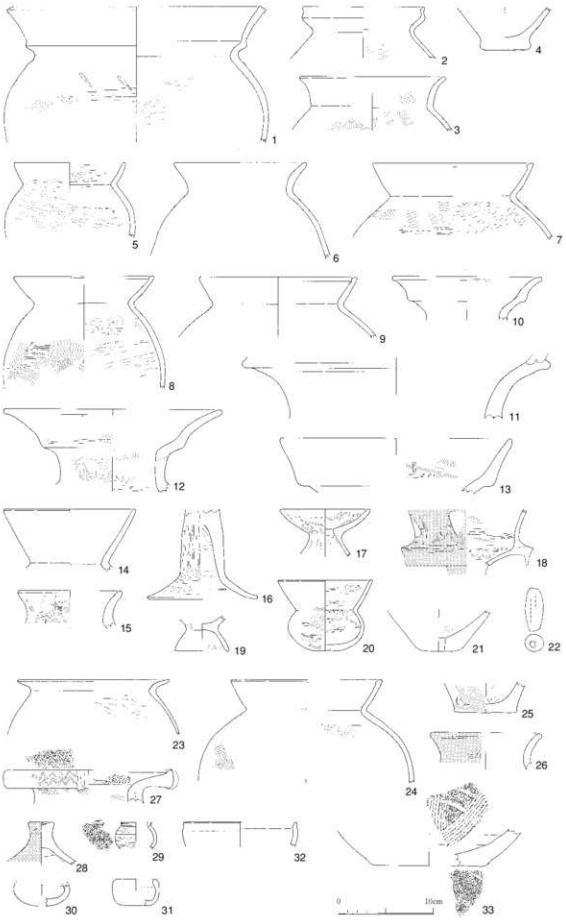
第85図　SD140A（1～23）、SD140B（24～30）出土遺物（S=1/4）



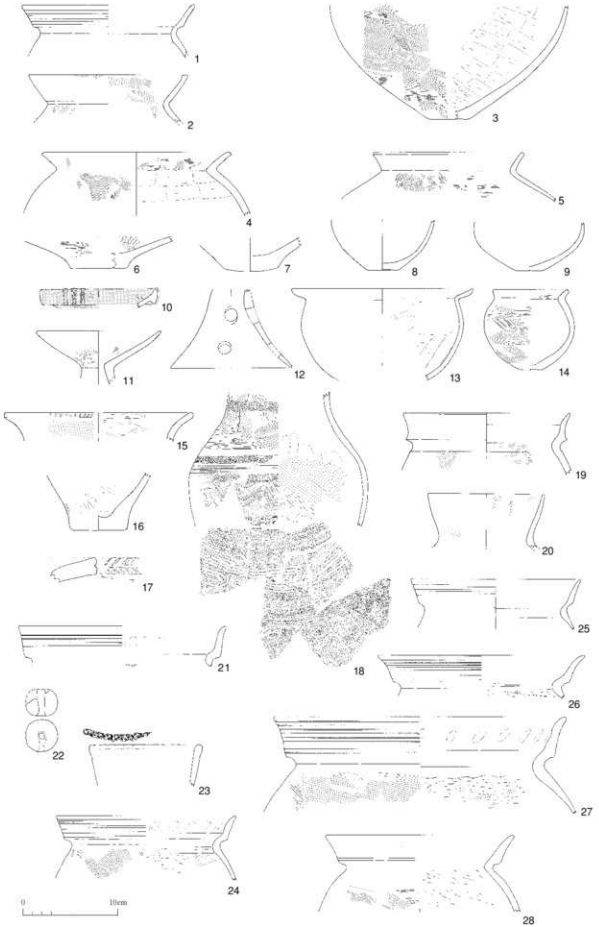
第86図　SD140B出土遺物（S=1/4）



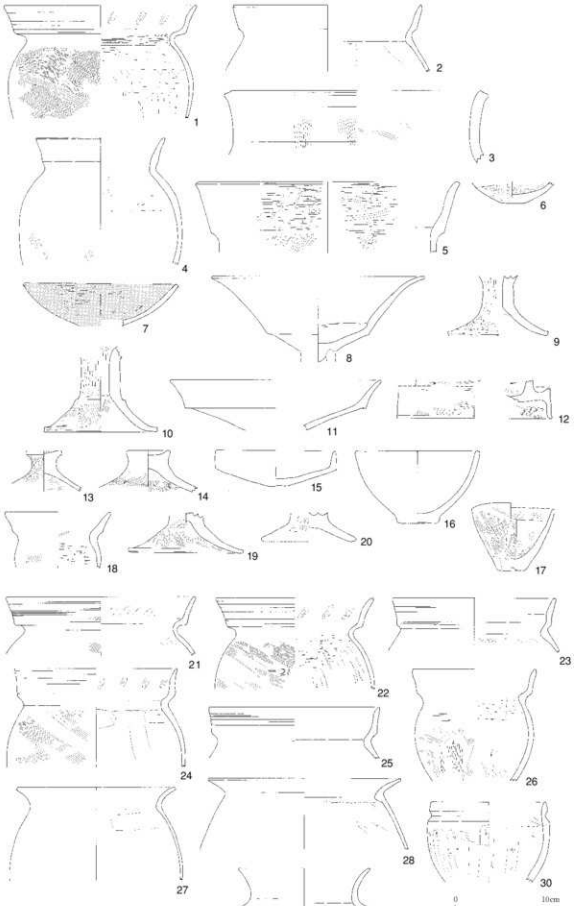
第87図　SD140C出土遺物（S=1/4）



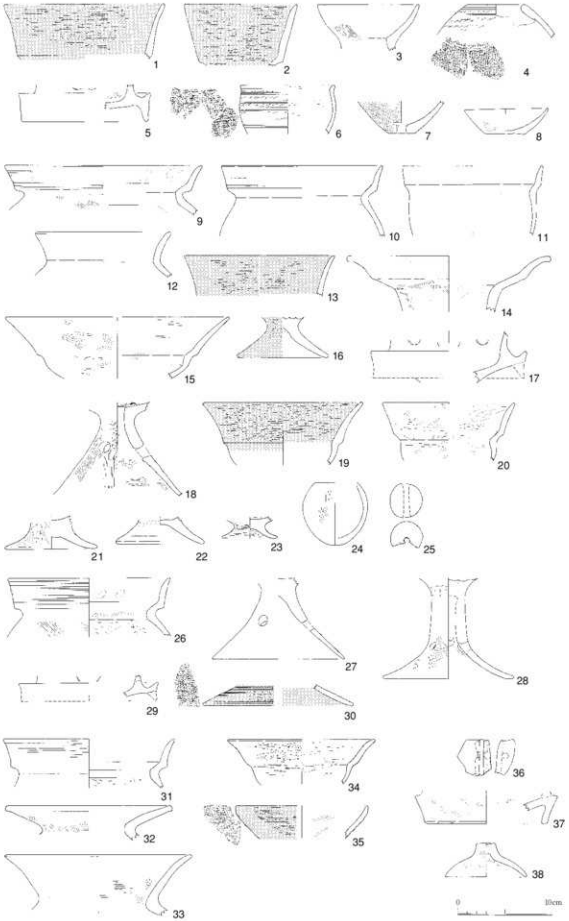
第88図　SD140D（1～22）、SD140D北畦6（23）、SD140表層（24～33）出土遺物（S=1/4）



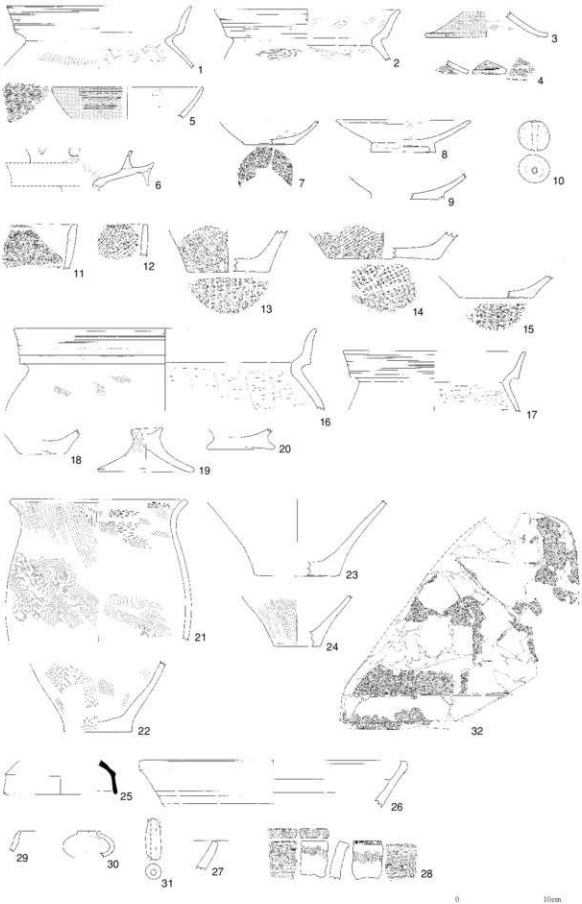
第89図　SD141（1・2）、SD142（3～14）、SD143（15～18）、SD148（19）、SD148B（20）、SD150A（21・22）、SD150B（23～28）出土遺物（S=1/4）



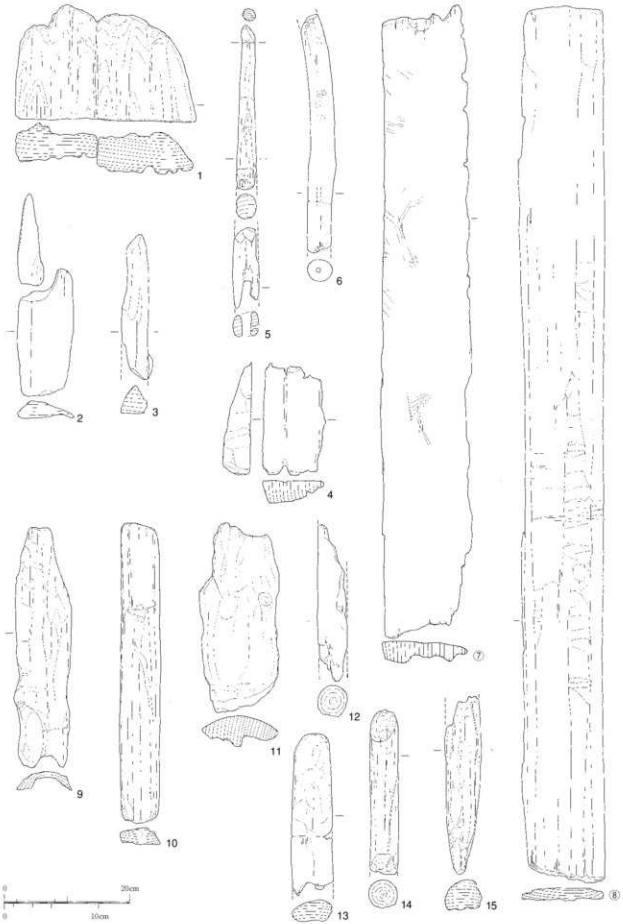
第90図　SD150B（1～20）、SD150C（21～30）出土遺物（S=1/4）



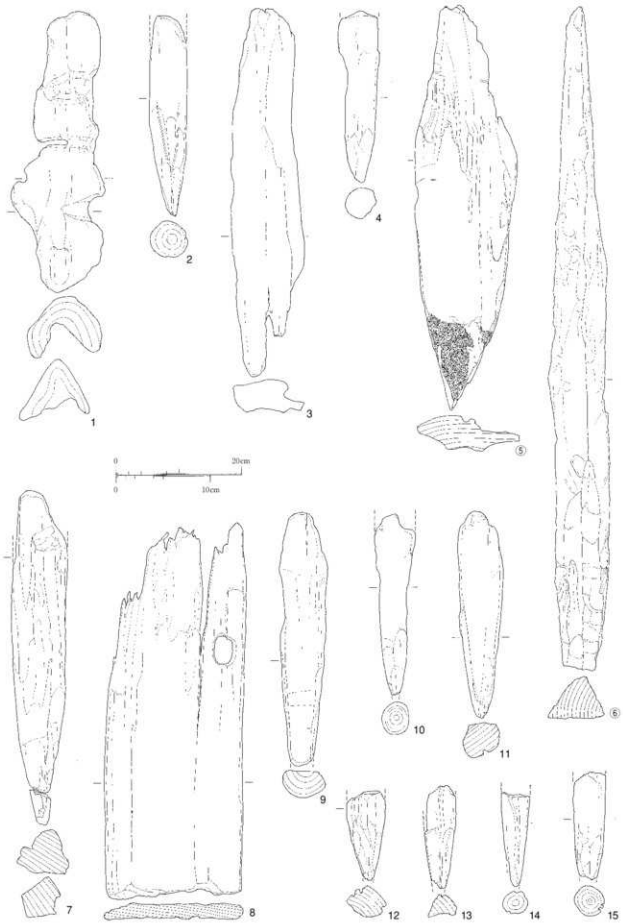
第91図　SD150C（1～8）、SD150D（9～25）、SD150E（26～30）、
SD150表層（31～35）、SD150・SD151表層（36～38）出土遺物（S=1/4）



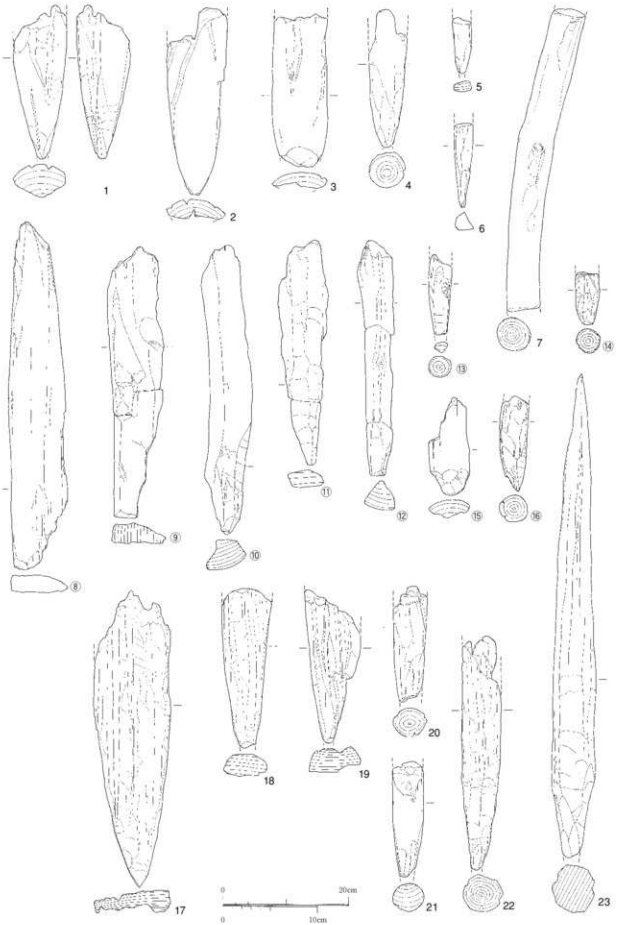
第92図　SD151 上層（1）、SD151 表層（2～5）、SD156（6）、SD170（7～9）、SD174・SD150（10）、SD180（11～15）、SD188（16～20）、溝上包含層（21～23）、包含層（24）、遺構外（25～31）・SK92（32）出土遺物（S=1/4）



第93図　P568 (1)、P596 (2)、P597 (3)、P719 (4)、SK90 (5)、SK92 (6～8)、SK106・SK108 (9)、SK107 (10～15) 出土木製品 (S=1/4、○数字は S=1/6)



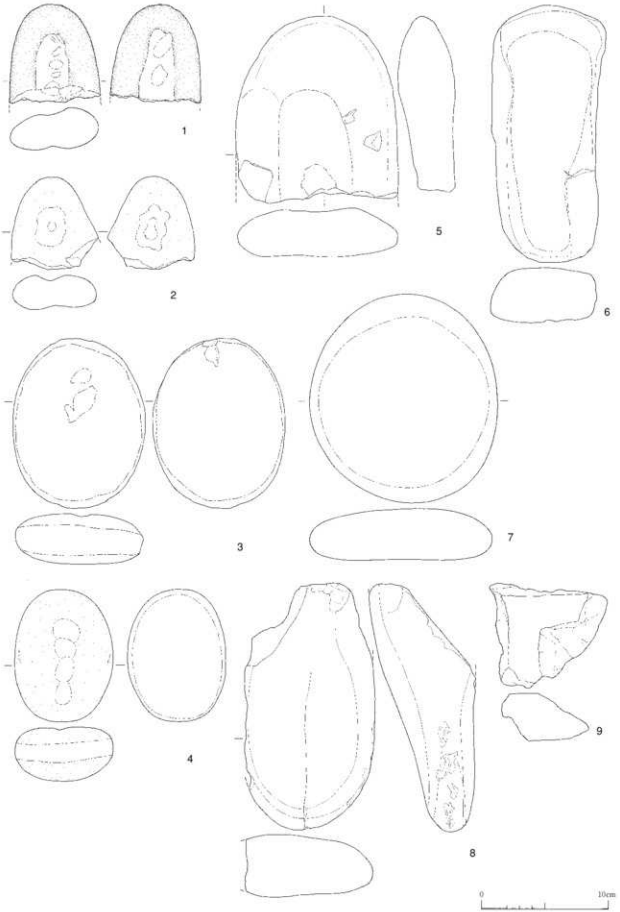
第 94 図　SK107・SK108（1・2）、SK109（3・4）、SD125・127 間畦 2・3 間（5）、SD135 NO.3（6）、SD135 NO.1（7）、SD135 NO.6（8）、SD135 NO.7（9～15）出土木製品（S=1/4、○数字は S=1/6）



第95図　SD135 NO.7（1～16）、SD135 NO.8（17）、SD135 NO.8・NO.9（18～21）、SD137 西（22）、SD140（23）出土木製品（S=1/4、○数字は S=1/6）

第96図　石製品（S=1/2、○数字はS=1/1）

第97図　石製品（S=1/3）



第98図　石製品（S=1/3）

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（1）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
79	1	SK86	仮水北	須恵器 壺	123		(38.0)	121		口1以下	ナデ	ナデ		灰	灰白					並	内面降灰、末産か	M207
79	2	SK86	仮水北	土師器 有台椀		60	(14.0)			底2	ナデ	ナデ・マメツ	ナデ	灰白	灰白		少	並	少	並		M208
79	3	SK88	仮水北 J18	土師器 有台椀		68	(17.0)			底2	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄橙	褐灰	少	少	少	少	並		M210
79	4	SK91	仮水北	須恵器 杯	116		(26.0)			口1	ナデ	ナデ		灰白	灰白		少			並		M211
79	5	SK90	仮水北	土師器 甕	180	31	244.0	164		完形	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	並	少		並	外面スス付着歪み有	T600
79	6	SK90	仮水北 L17	土師器 甕	140	30	204.0	126	197	口3	ハケ・マメツ・ハケ	ハケ後ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並	内面一部黒斑	S413
79	7	SK90	仮水北 L17	土師器 甕	122		(62.0)	104	128	口4	ハケ後ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ハケ後ナデ		灰黄	灰黄	少	並	少		並		S415
79	8	SK90	仮水北 L17	土師器 小甕	116		(97.0)	99	124	口4	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	外面スス付着	S414
79	9	SK90	仮水北	土師器 壺	156		(69.0)	112		口3	ナデ・ハケ・マメツ	ハケ・ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並	頸部キザミ	S416
79	10	SK90	仮水北 L17	土師器 高杯			(59.0)				ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		淡橙	にぶい橙	少	並	並	少	並	内外面赤彩、外面櫛状工具による分離山形文・沈線文	S418
79	11	SK90	仮水北 L17	土師器 高杯	132		(68.0)			口9	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	並	並	内外面赤彩、外面櫛状工具による分離山形文・沈線文	S417
79	12	SK90	仮水北	土師器 脚部		102	(23.0)			底9	マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙		並		並	並		S419
79	13	SK92	仮水北	陶器 甕	276		(133.0)	234		口1	ナデ			灰白	灰黄褐	少	少		少	並	被熱、口縁内部自然釉・降灰 加賀焼か	M213
79	14	SK96	仮水北	土師器 甕	216		(39.0)			口1以下	マメツ	マメツ		灰白	にぶい黄橙		少	少	少	並	口縁部擬凹線4本以上	M216
79	15	SK96	仮水北	土師器 壺	117		(29.0)			口3	ミガキ後ナデ	マメツ		浅黄橙	にぶい橙		少	少	少	並		M215
79	16	SK100	仮水中	土師器 甕	164		(97.0)	130		口2	マメツ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		多	並	外面スス付着・黒斑	M205
79	17	SK100	仮水中	土師器 甕	240		(39.0)			口2	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ・マメツ		明褐灰	灰白		少		少	並	外面スス付着	M201
79	18	SK100	仮水中	土師器 甕	200		(32.0)			口1	マメツ	マメツ		橙	にぶい橙	少	並		多	並	外面擬凹線7条・スス付着	M203
79	19	SK100	仮水中	土師器 甕	112		(45.0)	95		口1	マメツ	マメツ		橙	橙		並		多	並		M204
79	20	SK100	仮水中	土師器 壺	118		(30.0)	88		口2	ナデ	ナデ・ハケ		灰	褐灰		少	並	少	並		M202
79	21	SK100	仮水中	土師器 脚部		200	(23.0)			底2	ミガキ	ハケ		赤	灰白	少	少	多		並	外面赤彩・沈線文・櫛状工具による斜線文・分離山形文、内面黒斑	M200
79	22	SK100	仮水中	土師器 高杯カ			(53.0)	52			マメツ	マメツ		にぶい赤褐	にぶい橙	少	並	少	少	並		M206
80	1	SK105 SK106	仮水南	縄文 鉢カ			(90.0)				ナデ	ナデ		灰黄褐	にぶい黄橙	並	多	少	少	並	外面沈線文（三叉文）	F523
80	2	SK105 SK106	仮水南	縄文 鉢カ			(24.0)			口1以下	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並	外面沈線文	F526
80	3	SK105 SK106	仮水南	縄文 鉢カ			(47.0)				ナデ	ナデ		灰褐	灰褐		並	少	少	並	外面沈線文・列点刺突文	F524
80	4	SK105 SK106	仮水南	縄文 深鉢	166		(48.0)			口1	条痕	ナデ		黒褐	にぶい黄橙	少	並	並		並	外面スス付着・沈線文	F539
80	5	SK105 SK106	仮水南	縄文 鉢カ			(48.0)				ナデ	ナデ		浅黄橙	にぶい黄橙		並		少	並	外面スス付着、波状口縁	F525
80	6	SK105 SK106	仮水南	縄文 鉢カ			(32.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい黄褐	にぶい黄橙	少	多			並	波状口縁	F527
80	7	SK105 SK106	仮水南	弥生土器 壺カ			(12.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰褐	にぶい褐	少	少			並	口縁部刺突文	F529
80	8	SK105 SK106	仮水南	弥生土器 壺カ			(27.0)			口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい橙	少	少		少	並		F528
80	9	SK105 SK106	仮水南	弥生土器 壺カ		58	(42.0)			底12	ハケ・ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	少	並	少	少	並		F530
80	10	SK105 SK106	仮水南	弥生土器 壺カ		52	(60.0)			底9	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	にぶい橙	灰白	少	少	少	少	並	SD188と接合 外面スス付着・黒斑	F531
80	11	SK106	仮水南	縄文 壺	110		(43.0)			口2	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	灰黄褐	少	多			並	外面黒斑	F540
80	12	SK106	仮水南	縄文 不明						口1	ナデ	ナデ		暗褐	にぶい黄橙	並	並		少	並	焼成後に穿孔1有	F534
80	13	SK106	仮水南	縄文 深鉢			(46.0)			口1以下	条痕			にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多		少	並	口縁部横引き沈線文	F536
80	14	SK106	仮水南	縄文 鉢			(54.0)			口1以下				にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多		少	並	外面沈線文・スス付着	F541
80	15	SK106	仮水南	縄文 深鉢			(76.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい褐	にぶい黄橙		多		少	並		F535
80	16	SK106	仮水南	弥生土器 甕	156		(62.0)			口8	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ナデ		にぶい褐	にぶい褐		少	少	少	並	口縁キザミ 外面黒斑か 櫛描文	F543
80	17	SK106	仮水南	土師器 甕	147		(34.0)			口2	ナデ	ナデ・ケズリ		灰褐	にぶい黄橙	少	並		少	並	外面スス付着	F542
80	18	SK106 SK108	仮水南	縄文 深鉢			(89.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい黄橙	にぶい褐	少	少	少	少	並	外面スス付着 沈線文	F518
80	19	SK106 SK108	仮水南	縄文 鉢カ			(64.0)			口1	ナデ	ナデ		灰褐	灰黄褐	並	並	少	少	並		F514
80	20	SK106 SK108	仮水南	縄文 不明			(41.0)				条痕	ナデ		灰褐	にぶい褐		多	並	少	並	外面スス付着 沈線文	F522
80	21	SK106 SK108	仮水南	縄文 深鉢			(52.0)			口1以下	条痕	ナデ		褐灰	灰黄褐		少			並	口唇部列点押圧文 スス付着	F519
80	22	SK106 SK108	仮水南	縄文 鉢カ			(60.0)			口1以下	条痕	ナデ		灰黄褐	灰黄褐	少	少			並		F520
80	23	SK106 SK108	仮水南	縄文 鉢カ			(49.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰黄褐	灰黄褐	少	並	少		並	波状口縁	F521
80	24	SK106 SK108	仮水南	縄文 鉢カ		63	(31.0)			底3		ナデ		灰褐	にぶい黄橙	少	多	少	少	並	外面棒状圧痕	F513
80	25	SK106 SK108	仮水南	縄文 不明							ナデ	ナデ		灰褐	灰褐	少	多	少	並	並	焼成後に穿孔1有	F517
80	26	SK106 SK108	仮水南	土師器 甕			(40.0)			口1以下	ナデ	ハクリ・ナデ		にぶい橙	にぶい橙		少	少	多	並	外面擬凹線8条	F511
80	27	SK106 SK108	仮水南	土師器 甕	153		(125.0)	134	192	口2	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		にぶい褐	にぶい橙		並	少	少	並	外面スス付着	F512
80	28	SK107	仮水南	縄文 鉢			(32.0)			口1以下				灰黄褐	にぶい黄橙		多	少		並		E306
80	29	SK107	仮水南	縄文 鉢			(50.0)			口1以下	条痕	ナデ		褐灰	にぶい黄橙		多	並		並	外面スス付着	E304
80	30	SK107	仮水南	縄文 鉢			(34.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄褐		少		少	並	内面スス付着	E305
80	31	SK107	仮水南	縄文 鉢			(35.0)			口1以下	条痕			オリーブ黒	灰褐	少	多			並		E297
80	32	SK107	仮水南	縄文 鉢		100	(19.0)			底3	条痕			明赤褐	灰		多			並	SK109出土 E283と同一か	E308
80	33	SK107	仮水南 遺構外	弥生土器 壺	121		(48.0)	90		口2	キザミ・マメツ	マメツ・ハクリ		橙	灰白		並	少	並	並	SK109と接合	E280
80	34	SK107	仮水南	土師器 壺			(84.0)	86	112		ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白		少	少	少	並		F533
80	35	SK107	仮水南	土師器 甕	196		(60.0)			口1	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		並		少	並	口縁部マメツ・擬凹線9条	E307
80	36	SK108 SK109	仮水南	縄文 鉢			(42.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい橙	にぶい橙		多			並	SK109と接合	E302
80	37	SK108 SK109	仮水南	土師器 壺	106		(35.0)	90		口1	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		浅黄橙	にぶい黄橙		並	少	並	並	SK109と接合	E287

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（2）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
80	38	SK108	仮水南	土師器 鉢	112		(46.0)			口1	ミガキ・ややマメツ	ミガキ		にぶい黄橙	橙		並		並	並		E286
80	39	SK109	仮水南	縄文 鉢			(53.0)			口1以下		ナデ		褐灰	にぶい黄橙		並	多		並	口唇部列点押圧文	E289
80	40	SK109	仮水南	縄文 鉢			(54.0)			口1以下	条痕			黒褐	灰黄褐	多	多			並		E292
80	41	SK109	仮水南	縄文 鉢			(62.0)			口1以下	条痕			暗灰黄	暗オリーブ褐		多	少		並	口唇部列点押圧文,頸部列点刺突文・沈線文,内外面スス付着	E294
80	42	SK109	仮水南	縄文 鉢			(68.0)			口1以下	条痕			黒褐	褐	並		多		並		E290
80	43	SK109	仮水南	縄文 鉢			(29.0)			口1以下	条痕			灰黄	浅黄		並			並	外面棒状工具による横引き沈線文	E293
80	44	SK109	仮水南	縄文 鉢カ			(23.0)			口1以下				黄褐	にぶい黄橙	少	多			並	外面スス付着	E296
80	45	SK109	仮水南	縄文 鉢			(39.0)			口1以下	条痕			にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	多		並	並	口唇部列点押圧文,口縁部横沈線文,外面スス付着	E295
80	46	SK109	仮水南	縄文 鉢	272		(85.0)		308	口1以下		ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	多	多	並	並	外面鎖状突帯文 スス付着	E288
80	47	SK109	仮水南	縄文 鉢		80	(29.0)			底5	マメツ	マメツ		灰黄褐	黄橙		多		並	並		E285
80	48	SK109	仮水南	縄文 鉢		62	(25.0)			底4	ナデ	ナデ		黒褐	灰黄褐	少	多	少	少	並	内面黒斑	E284
81	1	SK109	仮水南	縄文 鉢	192		(59.0)			口1	条痕			黒	褐灰		少	少		並		E291
81	2	SK109	仮水南	縄文 鉢			(42.0)				条痕	マメツ		明赤褐	黒褐	多	多			並	SK107出土 E308と同一か	E283
81	3	SK109	仮水南	縄文 壺	188		(30.0)			口1以下	沈線文	ナデ		にぶい黄褐	にぶい黄褐	多	並	少		並	SK05・SK06と接合	E298
81	4	SK109	仮水南	土師器 杯	106		(49.0)	98		口2	ナデ	ハケ		浅黄橙	明褐灰		並		多	並	内外面ややマメツ・ハクリ	E281
81	5	SK109	仮水南	土師器 底部		68	(20.0)			底12	ナデ	ナデ		灰褐	黒褐	少	多			並	内面黒斑,SK107と接合	E282
81	6	P569	東仮溝	土師器 甕	180		(49.0)	154		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		多	少	並	並		N10
81	7	P589	仮水北	土師器 皿	82	44	20.0			口5	ナデ	ナデ	回転糸切痕	灰白	灰白		少		並	並	内外面黒斑	F588
81	8	P594	仮水北	土師器 甕			(46.0)	119		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		多		少	並	口縁擬凹線7~9条	F587
81	9	P599	仮水北	須恵器 瓶	126		(61.0)	70		口2	ナデ	ナデ		灰白	灰白	少				並	外面自然釉,内面降灰,末産	F590
81	10	P632	仮水北	土師器 有台椀		67	(26.0)			底7	ナデ	ミガキ	ナデ	灰白	浅黄橙		少	少	少	並		F585
81	11	P686	仮水北	土師器 無台椀		56	(15.0)			底6	ナデ	ミガキ	回転糸切痕	灰白	灰白		少	少		並		F591
81	12	P638	仮水北	土師器 椀	157		(37.0)			口2	ナデ	ナデ		灰白	にぶい橙		少		少	並	口縁部油痕	F583
81	13	P638	仮水北	土師器 有台椀		76	(26.0)			底11	ナデ	ミガキ	ナデ	灰白	灰白	少	少		少	並	割口に油痕	F582
81	14	P638	仮水北	土師器 無台椀		52	(14.0)			底4	ナデ	ナデ	回転糸切痕	灰黄褐	灰黄褐		少			並		F584
81	15	P685	仮水北	土師器 杯			(49.0)			口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		灰白	灰白	並	少	少		並		F589
81	16	P655	仮水北	土師器 甕			(147.0)	166	246	胴1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	並		少	並		F594
81	17	P707	仮水北	土師器 皿	88	74	8.0			口2	ナデ	ナデ	指頭圧痕	浅黄橙	浅黄橙		少		少	並		F592
81	18	P710	仮水北	須恵器 蓋	118		(30.0)			口1	ナデ	ナデ		灰	灰白		少			並		F595
81	19	P715	仮水北	内黒 無台椀		42	(29.0)			底3	ナデ	ミガキ	回転糸切痕	灰白	黒褐		少		少	並	内面暗文	F593
81	20	P752	仮水中	土師器 脚部		198	(16.0)			底2	マメツ・ナデ	ナデ		にぶい橙	橙		少	少	少	並		N55
81	21	P727	仮水中	土師器 甕	168		(52.0)	140		口2	ハケ・ハケ後ナデ	ハケ		にぶい橙	にぶい黄橙		並	少	多	並		N53
81	22	P755	仮水中	土師器 杯	(160)		(41.0)			口1以下	ミガキ	ハケ・ハケ後ナデ		赤	にぶい黄橙		並	少		並	外面赤彩	N54
81	23	SBN01-S	仮水北	土師器 杯	180		(52.0)	124		口2	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		浅黄橙	灰白		少		少	並	外面線刻か	M209
81	24	ST仮溝	仮水中	土製品 不明	(36)	18	15.0							灰白			並	少	少	並	10.46g,外面黒斑	F596
81	25	SD07	西仮溝	土師器 杯		46	(115.0)			底6	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多	少	少	並		T602
81	26	SD07	西仮溝	土師器 杯		50	(53.0)			底12	ハケ・マメツ	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並		並	並		T601
81	27	SD13	西仮溝	縄文 鉢カ			(44.0)				条痕	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	並		並	並	外面沈線文・列点文 口縁部列点押圧文	T603
81	28	SD33	仮水中	縄文 鉢			(76.0)			口1以下	条痕			赤褐	にぶい橙		多		並	並	外面スス付着	M224
81	29	SD33	仮水中	縄文 鉢			(53.0)			口1以下	条痕			黒褐	褐灰		並		並	並	外面スス付着	M225
81	30	SD33	仮水中	縄文 鉢			(36.0)			口1以下	条痕			褐灰	灰白	少	並	少		並	口唇部列点刺突文 外面スス付着	M227
81	31	SD33	仮水中	縄文 鉢			(44.0)			口1以下				明褐灰	灰白	少	並	少	並	並	外面沈線文・列点刺突文	M226
81	32	SD33	仮水中	縄文鉢 底部		100	(75.0)			底3	条痕		網代痕	橙	灰		並	並	少	並	内面スス付着	M222
81	33	SD33	仮水中	縄文鉢 底部		90	(52.0)			底10	条痕		網代痕	にぶい橙	灰白	少	多	多		並		M223
81	34	SD33表層	仮水中 V・W15	縄文 鉢			(61.0)				条痕	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	並	並		T606
81	35	SD33表層	仮水中 V・W15	縄文 鉢			(45.0)			口1以下	条痕	ナデ		褐灰	にぶい橙		並	多		並	外面スス付着	T607
81	36	SD33表層	仮水中 V・W15	縄文 鉢		100	(75.0)			底6	マメツ・条痕	マメツ・ナデ	板目跡	灰黄褐	灰黄褐	並	多	少	少	並		T608
82	1	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢	148		(41.0)			口2	条痕	ナデ		灰褐	にぶい褐		並	少		並	外面沈線文・スス付着	N15
82	2	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢			(30.0)					ナデ		灰褐	にぶい橙		少	少		並	外面沈線文・スス付着	N14
82	3	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢	200		(56.0)			口2	条痕	ナデ		灰黄褐	にぶい黄褐		並	少		並	内外面スス付着	N17
82	4	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢	(332)		(102.0)			口1	条痕	ナデ		にぶい黄褐	にぶい黄橙		並	少		良	内外面スス付着	N19
82	5	SD40	仮水南 Y13	縄文 浅鉢	148		(85.0)			口2		ナデ		灰黄褐	暗褐		少	少		良	内外面スス付着	N18
82	6	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢	(140)		(63.0)			口1	条痕	ナデ		灰黄褐	灰黄褐	少	並	少		良	内外面スス付着	N16
82	7	SD40	仮水南 Y14	縄文 鉢		88	(34.0)			底3	条痕	ナデ	網代痕	にぶい黄橙	黄灰		多	少		良	外面底部黒斑	N13
82	8	SD40	仮水南 Z13	土師器 甕カ		76	(22.0)			底12	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	少	並	少	並	並	内外面スス付着	N11
82	9	SD130	東仮溝	須恵器 鉢	(290)		(79.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰	灰白		少			並		N6
82	10	SD132	南仮溝	磁器 皿	(144)		(21.0)			口1以下				青磁釉	青磁釉		少			並	輪花1枝,内面ヘラ彫	N7
82	11	SD135	東仮溝	土師器 甕	150		(38.0)	121		口1	ナデ	ハケ・ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	外面スス付着	S422
82	12	SD135	東仮溝	土師器 甕	192		(53.0)	178		口2	マメツ	マメツ		橙	橙	並	並	少	並	並		S420
82	13	SD135	東仮溝	土師器 甕	138		(60.0)	130		口1	ハケ	ハケ		灰褐	黄灰	少	並	並		並	外面スス付着	S421

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（3）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
82	14	SD135	東仮溝	土師器 壺	195		(74.0)	131		口3	マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙	多	多	少	並	並	口縁外面スス付着	Q1
82	15	SD135	東仮溝	土師器 甕	165		(82.0)	148		口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	橙	並	多		多	並	外面スス付着	Q2
82	16	SD135	東仮溝	土師器 壺			(161.0)	300	352	頸1	ハケ	ハケ		橙	浅黄橙	並	多	少	少	並		Q3
82	17	SD135	東仮溝 畦1	土師器 高杯			(53.0)				ミガキ	ミガキ		褐灰	にぶい黄橙		並		少	並	外面黒斑	S423
82	18	SD135	東仮溝	土師器 高杯	104		(44.0)			口2	マメツ	マメツ・ミガキ		橙	橙	少	並	少	少	不		S424
82	19	SD135	東仮溝	土師器 器台カ	216		(42.0)			口2	ミガキ	ミガキ		淡赤橙	にぶい黄橙		少	並	少	並		S426
82	20	SD135	東仮溝	土師器 鉢	108	12	84.0	78	83	口3	ナデ・ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ・ミガキ		淡赤橙	橙	少	少	少	少	並		S425
82	21	SD135①	東仮溝	土師器 甕	196		(70.0)	163		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	多	少	並	並	口縁擬凹線7条 口縁外面スス付着	T619
82	22	SD135①	東仮溝	土師器 鉢	128		(58.0)			口2	マメツ	マメツ		灰白	浅黄橙	少	並		少	並	外面汚れ付着	T611
82	23	SD135①	東仮溝	土師器 高杯		70	(53.0)	26		底2	マメツ	マメツ		橙	橙	並	並	少	並	並	透かし孔3残（径10mm）	T615
82	24	SD135①	東仮溝	土師器 高杯カ	218		(65.0)			口1	ミガキ	ミガキ		浅黄橙	にぶい黄橙		並	少	少	並	外面一部黒斑	T613
82	25	SD135①	東仮溝	土師器 器台	236		(72.0)			口1	ミガキ・マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	並	並		T616
82	26	SD135①	東仮溝	土師器 小甕	98	24	87.5	92	104	口2	ナデ・ハケ・ケズリ後ハケ・ケズリ後ナデ	ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並	外面一部黒斑	T618
82	27	SD135①	東仮溝	土師器 小型土器	70		(52.0)	70	72	口5	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		浅黄橙	浅黄橙		並	並	並	並		T614
82	28	SD135①	東仮溝	土師器 蓋	ツマミ 28	89	42.5	24		底6	マメツ	マメツ		橙	橙	少	並		並	並		T612
83	1	SD135②	東仮溝	土師器 甕	284		(98.5)	248		口2	ナデ・ハケ・ハクリ	マメツ		にぶい橙	橙	少	多	少	並	並	口縁部外面擬凹線8条 外面スス付着	N23
83	2	SD135②	東仮溝	土師器 甕	180		(95.0)	150		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	浅黄橙	並	多	少	少	並	口縁部外面擬凹線7条・外面スス付着・黒斑、SD135畦1と接合	N24
83	3	SD135②	東仮溝	土師器 甕	160		(65.0)	138		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	多	少	少	並	内外面スス付着	N21
83	4	SD135②	東仮溝	土師器 甕	180		(37.0)	158		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	並	並	外面スス付着	N20
83	5	SD135②	東仮溝	土師器 壺	88		(50.0)	72		口6	ミガキ・マメツ	ハケ後ナデ・ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少		並	内外面スス付着	N22
83	6	SD135②	東仮溝	土師器 鼓形器台	200		(78.0)			口3	ミガキ	ミガキ		赤	赤橙		少	少	少	並	SD135①と接合 窓2残、内外面赤彩	N25
83	7	SD135②	東仮溝	土師器 脚部		115	(38.0)			底3	マメツ・ナデ	マメツ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	並	並	透かし穴貫通1残 未貫通1残	N26
83	8	SD135③	東仮溝	土師器 底部		60	(38.0)			底12	ハケ・マメツ	ハケ	マメツ	にぶい橙	にぶい橙	少	並	少	少	並	内面一部黒斑	S429
83	9	SD135③	東仮溝	土師器 高杯	120		(42.0)			口2	ナデ・ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙		少	少	少	不	内面一部黒斑	S430
83	10	SD135③	東仮溝	土師器 高杯		120	(107.0)	30		底1	ミガキ	ミガキ・ハケ・ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並	少	並		S428
83	11	SD135③	東仮溝	土師器 器台カ		116	(74.0)	34		底12	ミガキ	ナデ・ハケ		にぶい橙	にぶい橙		少	並	並	並	内外面底部黒斑	S427
83	12	SD135④	東仮溝	土師器 甕	208		(87.0)	160		口3	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		多		並	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	E310
83	13	SD135④	東仮溝	土師器 小甕	126		(58.0)	100	114	口1	ナデ	ナデ・ケズリ		明褐灰	にぶい黄橙	少	並		並	並	口縁部擬凹線9条 外面スス付着	E316
83	14	SD135④	東仮溝	土師器 甕	156		(46.0)	134		口12	ハクリ・マメツ	ハクリ・ケズリ		黄橙	浅黄橙	少	多	少	多	不	SD135②と接合 口縁部擬凹線3条以上	E312
83	15	SD135④	東仮溝	土師器 甕	170		(43.0)	144		口1		ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		並		並	並	口縁部擬凹線2条以上 外面スス付着	E309
83	16	SD135④	東仮溝	土師器 甕	158		(72.0)	138		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	並	並	口縁外面スス付着	T620
83	17	SD135④	東仮溝	土師器 甕	121		(99.0)	116	140	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	灰白		並	少	並	並		E314
83	18	SD135④	東仮溝	土師器 甕	157		(79.0)	157		頸2	ハケ後ナデ・ハケ	ハケノチナデ・マメツ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並	外面スス付着	E311
83	19	SD135④	東仮溝	土師器 甕	156		63.0	134		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・マメツ		にぶい橙	にぶい黄橙		多			並		E313
83	20	SD135④	東仮溝	土師器 壺			(34.0)	66		頸2	ミガキ・ハクリ	マメツ・ハクリ		浅黄橙	浅黄橙		少			並	外面赤彩	T621
83	21	SD135④	東仮溝	土師器 壺	146		(73.0)	142		口1	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ		灰白	浅黄橙		少	少	少	並		E315
83	22	SD135④	東仮溝	土師器 高杯		120	(83.0)	30		底2	ミガキ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並	透かし穴4残（径6mm）	T622
83	23	SD135④	東仮溝	土師器 高杯	188		(128.0)	30		口2	ミガキ・マメツ	ミガキ・ナデ・ハケノチナデ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙		少	少	並	並	内外面赤彩	T623
83	24	SD135④	東仮溝	土師器 器台	120		(104.0)	30		口8	ミガキ・マメツ	ミガキ・ナデ		浅黄橙	浅黄橙		少		少	並	外面凹線3条・キザミ 内外面黒斑	T624
83	25	SD135 SD137	東仮溝	土師器 器台カ		124	(47.0)			底3	ミガキ	ナデ		赤褐	にぶい橙		少		少	並	外面赤彩・凹線4条 透かし穴3残	S435
83	26	SD135 SD137	東仮溝	須恵器 有台椀		68	(25.0)			底3	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白		並			不		S431
83	27	SD137	東仮溝	土師器 甕	194		(42.0)	151		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		褐灰	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	口縁部擬凹線8条、外面黒斑	S432
83	28	SD137	東仮溝	土師器 底部		30	(34.0)			底12	ハケ	ケズリ	ハケ・ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	内外面一部黒斑	S433
83	29	SD137	東仮溝	土師器 小甕	114		(62.0)	103	120	口3	ナデ・ハケ・マメツ・ハクリ	ケズリ・マメツ		橙	橙	多	少		多	不	外面一部スス付着	S434
84	1	SD138	仮水南 Z14	縄文 深鉢			(120.0)			口1以下	条痕	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄褐		並	少		良	内外面スス付着	N59
84	2	SD138	仮水南 AD12	土師器 底部		12	(19.0)			底2	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	灰黄		少	少		並		N62
84	3	SD139	東仮溝	土師器 甕	(204)		(48.0)	(172)		口1	ナデ・キザミ	ナデ・ケズリ		明褐灰	灰白		多			並		N9
84	4	SD140	仮水北	土師器 甕	140		(120.0)	113	170	口1	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ハケ後ケズリ・マメツ		にぶい橙	褐灰	少	並		少	並	内外面黒斑	S436
84	5	SD140	仮水北	土師器 小壺		10	(57.0)	72	74	底12	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ	ナデ・ハケ	にぶい黄橙	にぶい黄橙		少			並	外面黒斑	S437
84	6	SD140	仮水北	土製品 土玉	27	25	5.0			完形				黄灰			少			並	外面一部黒斑	S438
84	7	SD140A 畦2	仮水北	土師器 甕	152		(65.0)	121		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	灰白	少	多		並	並	外面スス付着	F547
84	8	SD140A 畦1	仮水北	土師器 壺	172		(70.0)			口1	ナデ	ナデ		灰白	灰白		多	少	少	並		F544
84	9	SD140A 畦1	仮水北	土師器 壺	200		(39.0)			口4	ナデ・ハケ	ナデ		浅黄橙	灰白			少		並	口縁部内外面分離山形文	F545
84	10	SD140A	仮水北	弥生土器 甕	234		(54.0)	212		口1	ハケ	ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	口縁部斜線文	S457
84	11	SD140A	仮水北	土師器 甕			(54.0)			口1以下	ナデ	ハケ後ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	少	並		S449
84	12	SD140A	仮水北	土師器 甕	208		(69.0)	182		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	黒褐	少	並	少	少	並	口縁部擬凹線6条 内外面黒斑	S440
84	13	SD140A	仮水北	土師器 甕	162		(57.0)	137		口3	マメツ	マメツ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	並	並		S439
84	14	SD140A	仮水北	土師器 底部		76	(38.0)			底7	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		橙	暗灰黄	並	並		少	並		N30
84	15	SD140A	仮水北	土師器 甕	196		(60.0)	160		口3	マメツ・ハケ	マメツ		褐灰	赤褐		並	少	並	並		S456
84	16	SD140A	仮水北	土師器 甕	310		(116.0)	260		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	多		多	並	外面スス付着	T630
84	17	SD140A	仮水北	土師器 甕	174		(108.0)	148	240	口1	ナデ・ハケ後ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	灰白		多	少	並	並	外面スス付着	T626
84	18	SD140A	仮水北	土師器 甕			(60.0)			口1以下	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並		少	並		S450

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（4）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
84	19	SD140A	仮水北	土師器 甕	156		(140.0)	130	200	口2	ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	にぶい黄橙	少	並		並	並	外面スス付着	T625
84	20	SD140A	仮水北	土師器 甕	176		(24.0)			口1	ナデ	ナデ		褐灰	明褐灰		少	少	少	並		S441
84	21	SD140A	仮水北	土師器 甕	154		(63.0)	130		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	多		少	並	外面一部黒斑	T629
84	22	SD140A	仮水北	土師器 甕	156		(112.0)	128	240	口2	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・マメツ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	並	並	外面スス付着	T628
84	23	SD140A	仮水北	土師器 甕	160		(64.0)	128		口4	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		並	少		並	外面一部黒斑	T627
84	24	SD140A	仮水北	土師器 杯	122		(85.0)	109		口2	ハケ・ナデ・ミガキ・マメツ	ミガキ・ハケ		灰黄	灰黄	少	並	少	少	並	外面工具痕	S453
85	1	SD140A	仮水北	土師器 杯	234		(85.0)	174		口2	ナデ	ナデ		浅黄橙	にぶい黄橙	少	並		少	並		S455
85	2	SD140A	仮水北	土師器 杯	174		(54.0)	111		口1	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	多	並		S454
85	3	SD140A	仮水北	土師器 杯	116		(54.0)	82		口2	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	大1	少		少	良		S448
85	4	SD140A	仮水北	土師器 杯	102		(45.0)	83		口3	ハケ後ナデ	ナデ・ハケ・ケズリ・マメツ		にぶい橙	橙	少	並	少	少	並		S447
85	5	SD140A	仮水北	土師器 杯	104		(72.0)	80		口1	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	外面一部黒斑	S451
85	6	SD140A	仮水北	土師器 杯	196		(65.0)	177		口1	ハケ	ハケ		にぶい橙	にぶい橙	少	並	少	少	並	外面スス付着	S445
85	7	SD140A	仮水北	土師器 杯	136		(66.0)	106		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	並		並	口縁部斜線文	S443
85	8	SD140A	仮水北	弥生土器 杯	182		(47.0)			口2	ナデ・ハケ	ハケ・ハクリ		灰褐	黒褐		少	並		並	外面スス付着 口縁部斜格子文、内面黒斑	S442
85	9	SD140A	仮水北	土師器 杯	158		(28.0)			口1以下	マメツ	マメツ		にぶい赤橙	にぶい橙		少	少	少	並	外面赤彩 口縁部棒状浮文1残	S446
85	10	SD140A	仮水北	土師器 杯			(35.0)			口1以下	ナデ・マメツ	ハケ・マメツ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	口縁部棒状浮文1残	S444
85	11	SD140A	仮水北	土師器 杯	104		(45.0)			口1		ミガキ		赤橙	黒褐		少	多		並	外面沈線・斜線文	N37
85	12	SD140A	仮水北	土師器 鉢	184	20	95.0	170	171	口2	ミガキ	ミガキ・マメツ	ナデ	赤	赤		少	少	少	並	内外面赤彩、外面黒斑	N35
85	13	SD140A	仮水北	土師器 高杯	(152)		(31.0)			口1		ミガキ		赤	赤		少		少	並	内外面赤彩 外面沈線・斜線文	N38
85	14	SD140A	仮水北	土師器 高杯	(148)		(29.0)			口1以下		ミガキ		赤	赤		少	少		並	内外面赤彩 外面沈線・斜線文	N39
85	15	SD140A	仮水北	土師器 小型鉢	96		(39.0)	93		口1	ミガキ	ミガキ		赤	赤		少	少	少	並	内外面赤彩	N36
85	16	SD140A	仮水北	土師器 小型鉢	140		(55.0)	96		口1以下	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい橙	少	並		少	並	外面波状文	S452
85	17	SD140A	仮水北	土師器 高杯		136	(73.0)			底5	マメツ・ミガキ	ナデ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙		多	少	多	並	孔3残	N28
85	18	SD140A	仮水北	土師器 高杯		128	(85.0)	43		底11	マメツ・ミガキ	ナデ		明赤褐	橙		少	並		並	孔3残、内外面スス付着	N27
85	19	SD140A	仮水北	土師器 高杯カ		120	(98.0)	42		底8	マメツ・ミガキ	ナデ・マメツ		浅黄橙	にぶい黄橙		少		少	並	内外面黒斑	N29
85	20	SD140A	仮水北	土師器 器台	92		(42.0)	34		口8	ミガキ	ミガキ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	並	並	並	内外面スス付着	N32
85	21	SD140A	仮水北	土師器 器台	116		(61.0)	33		口2	ミガキ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	少	並	内面黒斑、内外面鉄付着	N31
85	22	SD140A	仮水北	土師器 装飾器台			(62.0)			受2	ミガキ	ナデ		灰黄褐	浅黄橙		並	少	少	並	窓1残、SD140A 層2と接合	N33
85	23	SD140A	仮水北	土師器 装飾器台			(44.0)	32		受4	マメツ	マメツ		灰	黄灰		少	少	少	並	透かし孔2残、窓3残	N34
85	24	SD140B	仮水北	縄文 鉢			(21.0)						網代痕	にぶい黄橙	灰黄		多	並		並		E337
85	25	SD140B	仮水北	土師器 甕	199		(47.0)	170		口4	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	外面スス付着	E325
85	26	SD140B	仮水北	土師器 甕	280		(160.0)	245	292	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡黄	灰白	少	多		少	並	外面スス付着、内面ハクリ	E333
85	27	SD140B	仮水北	土師器 甕	226		(72.0)	206		口2	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙		多		多	並	内外面マメツ、口縁部沈線	E342
85	28	SD140B	仮水北	土師器 甕	290		(122.0)	234		口1	ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多		多	並	外面スス付着	E328
85	29	SD140B	仮水北	土師器 甕	146		(58.0)	120		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		橙	橙		多		多	並	内外面マメツ	E345
85	30	SD140B	仮水北	土師器 底部		63	(47.0)			底9	ハケ	ハケ・マメツ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	外面黒斑	E336
86	1	SD140B	仮水北	土師器 甕	160		(115.0)	128	214	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ・ハケ後ケズリ		にぶい褐	浅黄橙	少	多		並	並	外面スス付着	E324
86	2	SD140B	仮水北	土師器 甕	132		(32.0)	107		口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並		並		E327
86	3	SD140B	仮水北	土師器 甕	174		(60.0)	146		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・マメツ		にぶい黄橙	灰白	少	多	少	多	並		E321
86	4	SD140B	仮水北	土師器 底部		50	(45.0)			底12	ナデ	ナデ		浅黄橙	暗灰		多	並		並	外面スス付着、内面黒斑	E332
86	5	SD140B	仮水北	土師器 甕	150		(82.0)	128		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多	少	多	並	外面スス付着、内外面マメツ	E346
86	6	SD140B	仮水北	土師器 甕	149		(39.0)	120		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい赤褐	にぶい黄橙		多	少	少	並	内外面マメツ	E330
86	7	SD140B	仮水北	土師器 甕	146		(100.0)	110		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	にぶい黄橙	少	多		並	並	内外面ややマメツ	E322
86	8	SD140B	仮水北	土師器 甕	166		(84.0)	132		口4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	浅黄橙		並		多	並	外面スス付着・斜線文?	E319
86	9	SD140B	仮水北	土師器 杯	178		(57.0)	121		口3	ナデ	ナデ・ハケ後ナデ		にぶい黄橙	黄灰	少	並	少	少	並	内面黒斑	E339
86	10	SD140B	仮水北	土師器 杯	137		(41.0)			口1	マメツ	ハケ後ミガキ・マメツ		浅黄橙	浅黄橙		少		少	並	外面列点文か	T639
86	11	SD140B	仮水北	土師器 杯	148		(46.0)	90		口9	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		橙	にぶい橙		並		多	並	内外面一部ハクリ	E318
86	12	SD140B	仮水北	土師器 杯	169		(57.0)	88		口1以下	ミガキ・ハケ後ミガキ・ハケ	ミガキ・ハケ後ミガキ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少	少	並	口縁内面沈線4条	E340
86	13	SD140B	仮水北	土師器 杯	142		(50.0)	84		口4	ナデ	ナデ・ハケ後ケズリ・ケズリ		灰白	にぶい黄橙		少		少	並		E329
86	14	SD140B	仮水北	土師器 杯	150		(40.0)			口2	ミガキ	ミガキ・マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並	内外面赤彩、外面キザミ	T632
86	15	SD140B	仮水北	土師器 杯	180		(59.0)	104		口1	ハケ後ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	灰白		並	並		並		E334
86	16	SD140B	仮水北	土師器 杯	144		(61.0)	95		口12	マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並	口縁歪	E320
86	17	SD140B	仮水北	土師器 杯	110		(35.0)			口1	ナデ	ミガキ		灰白	にぶい黄橙		少		少	並	口縁部擬凹線6条	E341
86	18	SD140B	仮水北	土師器 杯	158		(69.0)	105		口2	ナデ	ハケ後ミガキ・ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並	並	並	口縁部棒状浮文2残 沈線文・斜線文	E344
86	19	SD140B	仮水北	土師器 杯			(71.0)	94		受12	ミガキ	ミガキ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙		並	並		並	内外面赤彩 外面円形浮文5残	T631
86	20	SD140B	仮水北	土師器 杯	168		(28.0)			口3	ミガキ	ミガキ		灰白	灰白		少	並		並	内外面赤彩 外面棒状浮文3残・一部黒斑	T637
86	21	SD140B	仮水北	土師器 杯	200		(23.0)			口1		ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙		並	並		並	口縁部擬凹線5条・浮文2残	E338
86	22	SD140B	仮水北	土師器 杯	184		(44.0)			口3	ハクリ	ハクリ		にぶい橙	橙	並	並	並	多	並		E343
86	23	SD140B	仮水北	土師器 脚部		108	(69.0)	29		底12	ハケ後ナデ・マメツ	ナデ・ハケ後ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	並	少	並		T636
86	24	SD140B	仮水北	土師器 脚部		198	(29.0)			底1	ミガキ	ハケ		浅黄橙	浅黄橙		少	並		並	外面沈線文・分離山形文	T640
86	25	SD140B	仮水北	土師器 器台	78	125	82.0	34		口3	ミガキ	ミガキ・ケズリ・ハケ後ナデ		橙	橙		並		並	並	透かし孔2残（径12mm）	T633
86	26	SD140B	仮水北	土師器 器台	78	118	82.0	37		口12	マメツ	マメツ・ケズリ		橙	橙	少	並	少	並	並	透かし孔3残（径8mm）	T634

第8表　08 土器・陶磁器・土製品観察表（5）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
86	27	SD140B	仮水北	土師器 鉢	158		(55.0)	150	150	口1以下	ミガキ	ミガキ		赤	赤		少	並		並	内外面赤彩，外面黒斑	T638
86	28	SD140B	仮水北	土師器 有孔鉢		14	(43.0)			底12	マメツ	ケズリ		暗灰	黄灰	多	多	多	多	並	孔径7mm	E335
86	29	SD140B	仮水北	土師器 蓋	ツマミ 30	94	42.0	24		底12	ミガキ	ハケ後ナデ		浅黄橙	浅黄橙		少	並	少	並		T635
86	30	SD140B	仮水北	土師器 小壺	78		(73.0)	64		口4	マメツ	マメツ		淡黄橙	にぶい橙	多	多		並	並		E323
86	31	SD140B	仮水北	土師器 小壺	74		(109.0)	72	106	口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		灰白	にぶい黄橙		並	少	少	並		E326
86	32	SD140B	仮水北	土師器 手捏ね	85	29	62.0			口1		ハケ		灰黄	黄灰	少	多	少		並	内外面黒斑	E317
86	33	SD140B	仮水北	内黒 有台椀		70	(21.0)			底12	ナデ	ミガキ		浅黄橙	灰		多	少		並		E331
87	1	SD140C	仮水北	土師器 甕	140		(70.0)	130		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並	並	並	並	口縁部擬凹線6条・一部黒斑	T658
87	2	SD140C	仮水北	土師器 甕	156		(76.0)	127		口2	ナデ・ハケ	ハクリ		浅黄橙	浅黄橙		並		並	並	口縁部擬凹線5～6条	F565
87	3	SD140C	仮水北	土師器 甕	260		(164.0)	224	285	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・マメツ		浅黄橙	にぶい黄橙	少	多	少	少	並		F553
87	4	SD140C	仮水北	土師器 甕	212		(113.0)	182	225	口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰褐	灰白		多	少	少	並	外面口縁部スス付着	F552
87	5	SD140C	仮水北	土師器 甕	150		(58.0)	120		口5	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ後ナデ・ナデ		浅黄橙	灰白		並			並	外面口縁部スス付着	F555
87	6	SD140C	仮水北	土師器 甕	155		(44.0)	136		口4	ナデ・ハケ	ナデ		浅黄橙	灰白	並	少	少	少	並	外面スス付着	F556
87	7	SD140C	仮水北	土師器 小甕	108		(57.0)	95		口2	マメツ・ミガキ	ミガキ・ハクリ		浅黄橙	にぶい橙		少	少	少	並		F566
87	8	SD140C	仮水北	土師器 甕	149		(69.0)	118		口2	ハクリ	ハクリ		橙	浅黄橙	少	並		並	並		F564
87	9	SD140C	仮水北	土師器 甕	168		(80.0)	140		口3	ナデ・マメツ・ハケ	マメツ		浅黄橙	灰白		並	少	少	並	外面スス付着	F554
87	10	SD140C	仮水北	土師器 甕	141		(82.0)	120		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	並	少	少	少	並	外面スス付着	F551
87	11	SD140C	仮水北	土師器 壺	116		(76.0)	92	125	口1	ミガキ・マメツ	ミガキ・ナデ・ケズリ		明赤褐	灰白		並	少	少	並	内外面赤彩	M246
87	12	SD140C	仮水北	土師器 壺	(134)		(48.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		赤橙	灰白		少	少		並	内外面赤彩 外面沈線・斜線文	M247
87	13	SD140C	仮水北	土師器 壺	113		(49.0)	70		口7	マメツ	マメツ		橙	橙		少		多	並		F563
87	14	SD140C	仮水北	土師器 壺			(41.0)	70		頸4	ミガキ	マメツ		赤	灰白	少	少	少		並	外面赤彩・キザミ	M253
87	15	SD140C	仮水北	土師器 壺			(36.0)	80		頸2	ナデ	ハケ・ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少	少	並	頸部キザミ	F558
87	16	SD140C	仮水北	土師器 壺	158		(53.0)	100		口1	ナデ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白	並	並	並	少	並	頸部キザミ	F549
87	17	SD140C	仮水北	土師器 壺	197		(75.0)	108		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	並	並	少	少	並	頸部キザミ	F550
87	18	SD140C	仮水北	土師器 高杯	157		(55.0)			口4	マメツ	マメツ		赤褐	灰褐	少	多	少	少	並		M243
87	19	SD140C	仮水北	土師器 高杯			(62.0)			頸12	ミガキ	ハケ		赤	にぶい橙		少	少		並	内外面赤彩，孔4残	M249
87	20	SD140C	仮水北	土師器 脚部		(200)	(23.0)			底1以下	ミガキ	ハケ		赤	灰白		少			並	外面赤彩，外面沈線・斜線文	M248
87	21	SD140C	仮水北	土師器 脚部		(200)	(19.0)			底1以下	ミガキ	ハケ		赤橙	浅黄橙		少		少	並	外面赤彩・沈線文・斜線文・分離山形文	M250
87	22	SD140C	仮水北	土師器 高杯		84	(58.0)	41		底12	マメツ・ハケ後ナデ	ナデ・ミガキ		浅黄橙	浅黄橙		並	少	少	並	外面黒斑	M239
87	23	SD140C	仮水北	土師器 器台	159		(50.0)	36		口11	マメツ	マメツ・ミガキ		にぶい橙	橙	少	並	少	並	並		M242
87	24	SD140C	仮水北	土師器 器台	96		(49.0)	34		口5	ミガキ・マメツ	ミガキ後ナデ・ナデ		灰白	にぶい黄橙		少	少	少	並	外面黒斑，透かし孔3残	M240
87	25	SD140C	仮水北	土師器 器台	98		(38.0)	46		口6	マメツ	マメツ		橙	橙		多	少	少	並		M241
87	26	SD140C	仮水北	土師器 器台			(64.0)	38		頸12	ミガキ	ナデ・ケズリ・ハクリ		赤橙	橙		少	少	少	並	内外面赤彩，孔6残（径18mm）	M251
87	27	SD140C	仮水北	土師器 器台	88	114	100.0	33		口11	ミガキ後ナデ・ナデ	マメツ・ナデ		にぶい橙	灰白		少	少	並	並	透かし孔4残，外面黒斑	M245
87	28	SD140C	仮水北	土師器 器台	80	106	97.0	35		口3	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ・ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	並	並	透かし孔3残，歪み大	M252
87	29	SD140C	仮水北	土師器 器台	82	92	76.0	30		口9	マメツ	マメツ・ケズリ		橙	橙		並		並	並	透かし孔3残	M244
87	30	SD140C	仮水北	土師器 装飾器台	受140		(41.0)			受2	ミガキ	ナデ		赤	浅黄橙		少	少	少	並	外面赤彩・擬凹線4～5条	M254
87	31	SD140C	仮水北	土師器 蓋	ツマミ 65		(25.0)	57		ツマミ12	ミガキ	ミガキ・ナデ		灰白	灰白	少	並	少	少	並		F560
87	32	SD140C	仮水北	土師器 脚部		131	(31.0)	64		底1	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ		灰白	灰白		並		並	並		F559
87	33	SD140C	仮水北	土師器 有孔鉢		18	(35.0)			底12	マメツ	ナデ		淡橙	褐灰	少	多	少	少	並	孔径14mm	F561
87	34	SD140C	仮水北	土師器 小壺		8	(33.0)	54	56	底12	ミガキ	ナデ		淡橙	淡橙		少	少	少	並		M257
87	35	SD140C	仮水北	土師器 小壺	67	15	63.0	60	74	口6	ハケ後ナデ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	少	少	少	並		M255
87	36	SD140C	仮水北	土師器 小壺カ		32	(31.0)			底12	ハケ	ケズリ	ナデ	にぶい黄橙	橙		並		並	並		F557
87	37	SD140C	仮水北	土師器 ミニチュア	21	13	27.0		34	口2	ナデ	ナデ・マメツ		にぶい橙	灰白		少	少	少	並	外面黒斑，底部黒斑	M256
88	1	SD140D	仮水北	土師器 甕	262		(143.0)	216	280	口1	ナデ・ハケ	ナデ・マメツ・ケズリ		浅黄橙	灰白		並		並	並	外面スス付着	T659
88	2	SD140D	仮水北	土師器 甕	128		(54.0)	107		口2	ナデ・マメツ	マメツ・ハクリ		淡黄橙	淡黄橙	少	多		並	並	外面一部スス付着	T646
88	3	SD140D	仮水北	土師器 甕	152		(58.0)	128		口2	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ		灰白	灰白	少	並		少	並	外面スス付着・一部黒斑	T645
88	4	SD140D	仮水北	土師器 底部		52	(45.0)			底12	マメツ	マメツ	マメツ	橙	橙	多	並		並	並	底部が三角形状に変形	T642
88	5	SD140D	仮水北	土師器 壺	116		(79.0)	100	138	口3	ミガキ	ミガキ・ナデ・ケズリ		灰白	灰白		並	少	少	並		T644
88	6	SD140D	仮水北	土師器 甕	138		(101.0)	110		口3	ハクリ	ハクリ		浅黄橙	にぶい黄橙	並	並		並	並		T656
88	7	SD140D	仮水北	土師器 甕	168		(76.0)	134		口2	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並		T647
88	8	SD140D	仮水北	土師器 甕	146		(118.0)	106	172	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並		少	並	外面スス付着	T654
88	9	SD140D	仮水北	土師器 甕	166		(63.0)	138		口4	ナデ	ナデ・マメツ		淡黄	浅黄橙	少	多		少	並		T655
88	10	SD140D	仮水北	土師器 壺	156		(46.0)	85		口12	ハクリ	ハクリ・ミガキ		淡黄橙	淡黄橙	少	並	少	多	並		T651
88	11	SD140D	仮水北	土師器 壺			(65.0)	224		頸1	ナデ	ナデ		淡黄橙	淡黄橙		多	並	並	並		T650
88	12	SD140D	仮水北	土師器 壺	228		(87.0)	110		口12	ハケ後ナデ	ナデ・ハケ後ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並		T648
88	13	SD140D	仮水北	土師器 壺	242		(58.0)			口2	ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並	内面一部黒斑	T657
88	14	SD140D	仮水北	土師器 壺	138		(66.0)	84		口2	マメツ	マメツ		橙	橙	少	少	少	少	並		T653
88	15	SD140D	仮水北	土師器 壺	106		(40.0)			口4	ハケ後ナデ	ナデ		灰白	灰白	少	並		少	並		T652
88	16	SD140D	仮水北	土師器 高杯		116	(95.0)			底5	ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ・ハケ		にぶい橙	にぶい橙		少	少	並	並		S459
88	17	SD140D	仮水北	土師器 器台	94		(50.0)	34		口8	ミガキ・マメツ	ミガキ・ナデ・マメツ		明褐灰	明褐灰	少	並		少	並		S458
88	18	SD140D	仮水北	土師器 装飾器台	受140		(68.0)			受3	ミガキ・ハケ	ミガキ		赤褐	にぶい黄橙		少		少	並	外面赤彩，透かし穴2残	S462

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（6）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
88	19	SD140D	仮水北	土師器 脚部		58	(37.0)	34		底8	ナデ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並		S460
88	20	SD140D	仮水北	土師器 小壺	98	20	75.0	65	80	口6	ナデ・ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	淡黄橙	淡黄橙		少	少	少	並	外面一部黒斑	T649
88	21	SD140D	仮水北	土師器 有孔鉢		44	(44.0)			底12	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	並	並	少	少	並	孔径14mm	T643
88	22	SD140D	仮水北	土製品 土錘	46		20.0							灰白	灰白	少	並	少	少	並	11.3g	S461
88	23	SD140D 北畦6	仮水北	土師器 甕	157		(58.0)	132		口2	ナデ・マメツ	マメツ・ケズリ		橙	褐灰	並	多	少	少	並		F548
88	24	SD140表層	仮水北 I17	土師器 甕	158		(109.0)	128	228	口2	マメツ・ハケ	マメツ・ケズリ		にぶい橙	浅黄橙	少	多		多	並	外面スス付着	M231
88	25	SD140表層	仮水北 I・H18	土師器 底部		64	(35.0)			底12	ハケ	ナデ		淡赤橙	浅黄橙	少	並	少	少	並		M229
88	26	SD140表層	仮水北 I・H18	土師器 壺	115		(39.0)	95		口1以下	ナデ・ミガキ	マメツ・ナデ		にぶい橙	灰白		少			並	外面赤彩	M234
88	27	SD140表層	仮水北 I・H18	土師器 壺	174		(36.0)	114		口2	ハケ	ハケ		橙	灰白	少	多	少		並	口縁部連結山形文	M230
88	28	SD140表層	仮水北 I・H18	土師器 蓋			(46.0)	ツマミ 27		ツマミ 12	マメツ・ハクリ・ミガキ	ケズリ・マメツ		淡橙	淡橙		少	少	少	並	外面赤彩	M238
88	29	SD140表層	仮水北 I17	土師器 ミニチュア			(29.0)	34	44	胴2		ナデ		灰褐	褐灰		少	少		並	外面下部スス付着 沈線山形文・斜線文	M235
88	30	SD140表層	仮水北 I・H18	土師器 ミニチュア			(24.0)		60	口7	ナデ	ナデ		灰黄	灰黄		少		少	並		M237
88	31	SD140表層	仮水北 ?	土師器 ミニチュア	42	30	28.0		50	口1	ナデ	ナデ		暗赤灰	赤黒		並	少	少	並	外面下部スス付着	M236
88	32	SD140表層	仮水北 I・H18	陶器 碗	120		(27.0)			口1				鉄釉	灰白							M233
88	33	SD140表層	仮水北 I・H18	陶器 すり鉢		119	(40.0)			底2			板目跡か	青灰	青灰		少	少		並	珠洲焼	M232
89	1	SD141	仮水北 H・I17	土師器 甕	181		(56.0)	144		口1	ハクリ	ハクリ		橙	橙		並	少	少	不	口縁部擬凹線6条	Q5
89	2	SD141	仮水北 H・I17	土師器 甕	166		(53.0)	128		口1	ハケ後ナデ・ハケ	ハケ		浅黄橙	にぶい黄橙		並		少	並		Q4
89	3	SD142	仮水北	土師器 甕		40	120.0		252	底4	ハケ	ケズリ	ナデ	褐灰	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	内外面スス付着	N43
89	4	SD142	仮水北	土師器 甕	200		(67.0)	169		口3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・ケズリ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	多	並	少	少	並	外面スス付着	N41
89	5	SD142	仮水北 I17	土師器 甕	156		(51.0)	142		口2	ナデ・ハケ・ハクリ	ナデ・ハケ		明褐灰	明褐灰		多	少	並	並	内外面スス付着	N46
89	6	SD142	仮水北	土師器 底部		60	(33.0)			底3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐		並	少	少	並		N44
89	7	SD142	仮水北 H・I17	土師器 底部		58	(36.0)			底10	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	ナデ	灰白	黄灰		並	少	少	並	外面底部黒斑	N48
89	8	SD142	仮水北	土師器 底部		32	(53.0)		109	底12	マメツ	マメツ	マメツ	橙	橙		並		少	並		N45
89	9	SD142	仮水北 H・I17	土師器 底部		28	(52.0)		117	底6	マメツ・ナデ	ナデ・マメツ	ナデ	にぶい橙	暗灰		少	少	少	並		N47
89	10	SD142	仮水北 H・I17	土師器 壺	124		(20.0)			口2	マメツ・ミガキ	マメツ・ミガキ		赤	赤		少	少	少	並	内外面赤彩 外面棒状浮文3残	N51
89	11	SD142	仮水北	土師器 器台	132		(56.0)	34		口7	マメツ・ハケ	マメツ・ハケ・ナデ		にぶい橙	褐灰	少	並	少	並	並		N42
89	12	SD142	仮水北 H・I17	土師器 器台		128	(83.0)			底3	マメツ	マメツ		灰白	浅黄橙		少	少	少	並	透かし穴上段2残・下段2残（ともに4個中），外面黒斑	N49
89	13	SD142	仮水北 H・I17	土師器 鉢	192		(97.0)	162		口2	ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ		にぶい黄橙	灰黄褐		並	並		並		N50
89	14	SD142	仮水北 I17	土師器 小壺	80	21	85.0	75	95	口1以下	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	少	並	内外面黒斑，外面スス付着	N40
89	15	SD143	仮水北 H18	弥生土器 甕			(31.0)			口1以下	ナデ・ハケ	ハケ		にぶい橙	浅黄橙	少	少	少	少	並	口縁部キザミ	F569
89	16	SD143	仮水北 H18	弥生土器 底部		61	(62.0)			底8	ハケ	ケズリ	ナデ	灰白	褐灰	並	多	並	並	並		F567
89	17	SD143	仮水北 H17	弥生土器 壺			(26.0)			口1以下	ナデ	ナデ・ハケ		灰白	灰白	並	並	少	少	並	口縁部斜線文	F568
89	18	SD143	仮水北 H18	弥生土器 壺			(143.0)	108	190	胴5	ハケ・ナデ	ナデ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙		並		並	並	外面波状文・流水文・直線文	F570
89	19	SD148	仮水北	土師器 甕	179		(65.0)	156		頸1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		橙	橙	多	並		多	並	山陰系 外面スス付着	Q10
89	20	SD148	仮水北 H18	土師器 壺	122		(59.0)	100		口2	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		明赤褐	橙	多	並	少	並	不		Q9
89	21	SD150A	仮水中	土師器 甕	218		(43.0)	190		口1	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい褐	少	少	少		並	口縁部擬凹線4条	M271
89	22	SD150A	仮水中	土製品 土玉	(26)	34								黄灰	にぶい黄橙		少	少	少	並	孔径6mm，22.89g	Q15
89	23	SD150B	仮水中	縄文 鉢	116		(44.0)			口3	ナデ	ナデ		黒褐	黄灰		並			並	口縁部列点刺突文	M267
89	24	SD150B	仮水中	土師器 甕	188		(68.0)	156		口10	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	にぶい橙		並			並	口縁部擬凹線6条	M263
89	25	SD150B	仮水北	土師器 甕	180		(53.0)	150		口2	マメツ	マメツ		橙	明赤褐		並		少	並	口縁部擬凹線4条	M266
89	26	SD150B	仮水北	土師器 甕	218		(46.0)	170		口1	ナデ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	口縁部擬凹線8条 外面一部スス付着	S480
89	27	SD150B	仮水北	土師器 甕	306		(103.0)	262		口8	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並	口縁部擬凹線10条，指頭圧痕 内面工具痕，内外面スス付着	F645
89	28	SD150B	仮水中	土師器 甕	196		(81.0)	155		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	並		並	並	口縁部擬凹線8条 外面スス付着	S479
90	1	SD150B	仮水中	土師器 甕	202		(120.0)	156	195	口1	ハケ	ハケ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		並	並	口縁部擬凹線6条 外面黒斑・スス付着	S474
90	2	SD150B	仮水中	土師器 甕	198		(70.0)	178		口5	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ・ハケ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		並	並	外面一部黒斑	S471
90	3	SD150B	仮水中	土師器 甕	264		(76.0)	262		口1以下	ナデ・ハケ	ハクリ・ハケ		灰白	灰白		並	少		並		M268
90	4	SD150B	仮水中	土師器 甕	134		(135.0)	117	172	口2	マメツ・ハケ	マメツ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		多	並		S470
90	5	SD150B	仮水中	土師器 壺カ			(76.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		明褐灰	にぶい橙	少	少	並	少	並	内面一部汚れ	S468
90	6	SD150B	仮水中	土師器 壺底部		25	(23.0)			底12	ミガキ	ミガキ	ミガキ・ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙			並	並	並	内面一部黒斑	S467
90	7	SD150B	仮水中	土師器 高杯	160		(45.0)			口6	ミガキ	ハケ後ミガキ		灰白	灰白		並		少	並	内外面赤彩	T670
90	8	SD150B	仮水中	土師器 高杯	224		(90.0)			口9	マメツ	ミガキ・マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	多		並	並	外面黒斑	T666
90	9	SD150B	仮水中	土師器 器台	102		(63.5)	32		底9	ミガキ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並		T663
90	10	SD150B	仮水中	土師器 器台		118	(90.0)	40		底7	ミガキ	ミガキ・ナデ・ハケ後ナデ		浅黄橙	灰白		少	少	並	並		T661
90	11	SD150B	仮水中	土師器 器台	221		(53.0)			口2	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		浅黄橙	浅黄橙		並		並	不		Q21
90	12	SD150B	仮水中	土師器 装飾器台		遺 164	(45.0)			遺3	ミガキ	ミガキ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙		少	少	多	並	SD150D 仮水中 P17と接合	Q23
90	13	SD150B	仮水中	土師器 蓋	ツマミ 38		(43.0)	26		ツマミ 12	ミガキ	ミガキ		灰	にぶい橙		並	並		並	外面黒斑	Q13
90	14	SD150B	仮水中	土師器 蓋	ツマミ 46		(44.0)	42		ツマミ 6	ハケ後ナデ	ハケ		にぶい黄橙	浅黄橙		並	並		並		Q14
90	15	SD150B	仮水中	土師器 鉢	125	18	39.0		129	ほぼ完形	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰		多		多	並		Q12
90	16	SD150B	仮水中	土師器 鉢	128	40	77.0			口4	マメツ	マメツ	ナデ	淡橙	にぶい橙		少		少	並		M261
90	17	SD150B	仮水中	土師器 鉢	85	28	72.0			底12	ハケ・ケズリ	ハケ後ナデ	ナデ	淡黄	浅黄橙		並	並	並	並		Q22
90	18	SD150B	仮水中	土師器 小甕	110		(59.0)	84	92	口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並		S481
90	19	SD150B	仮水中	土師器 脚部		116	(43.0)	36		底7	ミガキ後ナデ・ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		並	並		Q19

第8表　08 土器・陶磁器・土製品観察表（7）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
90	20	SD150B	仮水中	土師器 脚部		92	(31.0)	39		底12	ハケ・ハクリ	ハクリ		浅黄橙	橙	少	並		多	不		Q20
90	21	SD150C	仮水中	土師器 甕	198		(62.0)	160		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・マメツ		浅黄橙	灰白	少	少	少	少	並	口縁部擬凹線10条	M258
90	22	SD150C	仮水中	土師器 甕	166		(96.0)	124		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	S475
90	23	SD150C	仮水中	土師器 甕	172		(58.0)	155		口5	マメツ	マメツ・ケズリ		橙	明赤褐		並	少	少	並	口縁部擬凹線4条以上	M260
90	24	SD150C	仮水中	土師器 甕	170		(109.0)	152	188	口2	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	並		少	並	口縁部擬凹線6条 外面一部スス付着	S477
90	25	SD150C	仮水中	土師器 甕	178		(55.0)	162		口3	ナデ	マメツ		橙	橙	少	多	少	少	並	口縁部擬凹線5条、口縁部外面スス付着、外面黒斑	M273
90	26	SD150C	仮水中	土師器 甕	130		(118.0)	108	126	口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並	外面スス付着	S476
90	27	SD150C	仮水中	土師器 甕	166		(98.0)	139	183	口2	マメツ	マメツ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並		S473
90	28	SD150C	仮水中	土師器 甕	204		(75.0)	168		口3	マメツ	マメツ・ケズリ		橙	淡橙	少	並		少	並		M262
90	29	SD150C	仮水中	土師器 甕	138		(48.0)	113		口2	マメツ	マメツ		赤橙	明褐灰	少	並		少	並		M274
90	30	SD150C	仮水中	土師器 鉢	122		(85.0)	120	130	口1	ナデ・ハケ・ケズリ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並	外面スス付着	S478
91	1	SD150C	仮水中	土師器 壺	168		(58.5)			口1	ミガキ	ハケ後ミガキ		灰白	灰白	少	並		少	並	内外面赤彩	T667
91	2	SD150C	仮水中	土師器 壺	118		(65.0)	73		口1	ミガキ	ミガキ		淡橙	淡橙	少	並	少	少	並	内外面赤彩	T668
91	3	SD150C	仮水中	土師器 壺	106		(49.0)	56		口5	ハケ・マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並		S472
91	4	SD150C	仮水中	土師器 壺	58		(36.0)			口2	ハケ・ナデ	ナデ		明褐灰	褐灰	少	少			並	外面沈線文・斜線文	S469
91	5	SD150C	仮水中	土師器 装飾器台			(39.0)				マメツ	ミガキ・マメツ		淡橙	淡橙		少		少	不	窓1残	Q18
91	6	SD150C	仮水中	土師器 小壺	98		(52.0)	98	102	口1	マメツ・ミガキ	ミガキ		浅黄橙	浅黄橙		少		少	並	外面沈線文・斜線文	T671
91	7	SD150C	仮水中	土師器 有孔鉢		28	(34.0)			底5	ハケ	マメツ	ハケ・ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	孔径10mm、外面一部黒斑	S466
91	8	SD150C	仮水中	土師器 ミニチュア	87	42	28.0			口7	ハケ	ハクリ	ナデ	灰	灰		多			不		Q17
91	9	SD150D	仮水中	土師器 甕	206		(52.0)	166		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	淡橙		並		少	並	口縁部擬凹線9条	M270
91	10	SD150D	仮水中	土師器 甕	168		(75.0)	140		口1以下	マメツ	マメツ		橙	橙	少	多		少	並	口縁部擬凹線3条以上	M275
91	11	SD150D	仮水中	土師器 甕	146		(74.0)	135	135	口3	マメツ	マメツ		にぶい赤褐	灰赤	少	多	少		並		M264
91	12	SD150D	仮水中	土師器 甕	140		(48.0)	120		口3	マメツ	マメツ		赤橙	浅黄橙	少	少		少	並		M272
91	13	SD150D	仮水中	土師器 壺	158		(42.0)			口1	ミガキ	ミガキ		淡橙	淡橙		並	少	並	並	内外面赤彩	T669
91	14	SD150D	仮水中	土師器 壺	214		(59.0)			口1以下	ナデ・ハケ・マメツ	マメツ		橙	淡橙	少	並		少	並		M259
91	15	SD150D	仮水中	土師器 高杯カ	236		(75.0)	160	150	口1以下	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		灰褐	灰白	少	並	少		並	内外面ハクリ	Q27
91	16	SD150D	仮水中	土師器 脚部		94	(43.0)	32		底2	ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		灰白	にぶい黄橙	少	少	並	並	並	外面赤彩	T662
91	17	SD150D	仮水中	土師器 装飾器台		透 160	(55.0)			透2	マメツ	マメツ		橙	橙		少	少	並	不	窓2残	Q24
91	18	SD150D	仮水中	土師器 器台			(99.0)	35		頸12	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ・ハケ後ナデ		灰白	浅黄橙	少	並	少	並	並	透かし穴3個中3残（径13mm）	T665
91	19	SD150D	仮水中	土師器 鉢カ	168		(66.0)			口3	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		灰白	浅黄橙		並	少	並	並	内外面赤彩	T660
91	20	SD150D	仮水中	土師器 鉢	138		(62.0)	102	101	口3	ミガキ	ミガキ		灰黄褐	にぶい黄橙		少	少	少	並	外面黒斑	M269
91	21	SD150D	仮水中	土師器 脚部		96	(35.0)			底11	ハケ・ミガキ・ハクリ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙	少	並	少	並	並		S463
91	22	SD150D	仮水中	土師器 脚部		92	(29.0)			底4	ミガキ・マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙	少	並		少	並		S465
91	23	SD150D	仮水中	土師器 脚部		58	(22.0)	33		底6	ミガキ	ミガキ		にぶい橙	にぶい橙		並	少		並	内面黒斑	S464
91	24	SD150D	仮水中	土師器 ミニチュア	45	9	66.0		69	口1	ハケ・マメツ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	並	多	少		不	外面黒斑	Q28
91	25	SD150D	仮水中	土製品 土玉	36	34								褐灰	褐灰		少	少	少	並	孔径6mm、26.63g	Q16
91	26	SD150E	仮水中	土師器 甕	170		(62.0)	140		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		淡赤橙	灰白		並	少		並	口縁部擬凹線10条 外面黒斑	M265
91	27	SD150E	仮水中	土師器 高杯		138	(86.0)	36		底5	マメツ	マメツ		淡橙	にぶい橙		並		多	並	透かし穴3個中2残（径13mm） 底部歪み	T664
91	28	SD150E	仮水中	土師器 高杯		133	(107.0)	35		頸12	ミガキ・マメツ・ハケ	マメツ・ハケ		浅黄橙	橙	少	並		多	並	透かし穴4残（径10mm）	Q26
91	29	SD150E	仮水中	土師器 装飾器台		透 143	(23.0)			透1	マメツ	マメツ		橙	橙					不	窓1残	Q25
91	30	SD150E	仮水中	土師器 脚部			(23.0)			底1以下	マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙		少		少	並	内外面赤彩、外面沈線・斜線文・分離山形文	T672
91	31	SD150表層	仮水中 O17	土師器 甕	178		(51.0)	147		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	並	並		少	並	口縁部擬凹線2～5条 外面一部スス付着	F572
91	32	SD150表層	仮水中 O17	土師器 壺	172		(36.0)	98		口6	ハケ後ナデ	ナデ・マメツ		にぶい黄橙	にぶい橙		並	並	並	並		T609
91	33	SD150表層	仮水中 P17	土師器 壺	194		(64.0)	126		口2	マメツ	マメツ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙	並	並	少	少	並		F573
91	34	SD150表層	仮水中 O・R17	土師器 鉢	152		(47.0)	107	101	口2	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少	並	並		T604
91	35	SD150表層	仮水中 O・R17	土師器 鉢			(34.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		浅黄橙	にぶい褐		少	少		並	外面赤彩・直線文・分離山形文	T605
91	36	SD150・SD151表層	仮水中 R・S16	土師器 把手			(39.0)				マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙		少		並	並	孔径7mm	F580
91	37	SD150・SD151表層	仮水中	土師器 装飾器台			(35.0)				ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	浅黄橙		少	少	少	並		F579
91	38	SD150・SD151表層	仮水中 R・S16	土師器 蓋	ツマミ 20	86	36.0			口1以下	ミガキ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白		多		少	並		F578
92	1	SD151上層	仮水中	土師器 甕	194		(66.0)	156		口2	ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白	少	並			並	口縁部擬凹線9条	M228
92	2	SD151表層	仮水中 S16	土師器 甕	193		(54.0)	156		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白		並	少	並	並	口縁部擬凹線7条	F574
92	3	SD151表層	仮水中 S16	土師器 高杯カ		128	(27.0)			底2	ミガキ	ハケ・ナデ		赤	灰白		少		少	並	外面赤彩	F575
92	4	SD151表層	仮水中 S16	土師器 高杯カ			(14.0)			底1以下	ミガキ	ハケ		赤橙	灰白		少	少	少	並	外面赤彩・直線文・斜線文	F577
92	5	SD151表層	仮水中 S16	土師器 高杯カ			(33.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		橙	灰白		少	並	少	並	外面赤彩、外面直線文・斜線文	F576
92	6	SD156	仮水北	土師器 装飾器台			(39.0)				ミガキ	ミガキ		橙	橙	少	並	少	多	不	窓2残	Q11
92	7	SD170	仮水北	土師器 無台椀		56	(25.0)			底7	ナデ	ミガキ・ナデ	回転糸切痕	灰白	灰白		少	少		不		Q8
92	8	SD170	仮水北	土師器 有台皿	139	67	34.0			口2	ナデ	マメツ	ナデ	橙	にぶい橙		並	並	多	並	貼り付け高台	Q6
92	9	SD170	仮水北	土師器 有台皿			(28.0)				ナデ	ナデ		浅黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並		Q7
92	10	SD174+SD150	仮水中	土製品 土玉	31	33	30.0							灰黄	灰黄				少		外面黒斑	N56
92	11	SD180	仮水中	縄文 鉢			(47.0)			口1以下				褐灰	褐灰		少	少		並		M220
92	12	SD180	仮水中	縄文 鉢			(33.0)			口1以下	条痕			褐灰	黒褐		少	並		並	内外面スス付着	M221
92	13	SD180	仮水中	縄文 鉢底部		86	(44.0)			底5	条痕	ナデ	網代痕	にぶい橙	灰白	少	多	並		並		M217

第8表　08土器・陶磁器・土製品観察表（8）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
92	14	SD180	仮水中	縄文 鉢底部		112	(29.0)			底3	条痕	ナデ	網代痕	橙	褐灰		少			並		M218
92	15	SD180	仮水中	縄文 鉢底部		78	(24.0)			底4	マメツ		網代痕	灰白	褐灰		少	多	少	並		M219
92	16	SD188	仮水南 AD12	土師器 甕	316		(88.0)	288		口3	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		橙	橙		多	少	並	並	口縁部擬凹線11条 外面黒斑	N57
92	17	SD188	仮水南 AD12	土師器 甕	186		(64.0)	158		口5	ナデ	ナデ・ケズリ		暗灰	にぶい黄橙		並	並	少	並	口縁部擬凹線7条 内外面スス付着	N58
92	18	SD188	仮水南 AB13	土師器 底部		48	(27.0)			底9	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰白	少	並	少		並	外面・底部黒斑	N60
92	19	SD188	仮水南 AD12	土師器 蓋	ツマミ33	102	47.0			底12	ミガキ・マメツ	ナデ		橙	浅黄橙		並	少	多	並		N63
92	20	SD188	仮水南 AB13	弥生土器 台付椀		70	(22.0)			底3	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰白		並		少	並		N61
92	21	溝上包含層	西側北	弥生土器 甕	182		(150.0)	164	226	口12	ハケ	ハケ		淡橙	淡橙	並	多	少	少	並	T191-bと同一か	T191-a
92	22	溝上包含層	西側北	弥生土器 甕		72	(76.0)			底12	ハケ	ハケ		淡橙	淡橙	並	多	少	少	並	T191-aと同一か	T191-b
92	23	溝上包含層	西側北	弥生土器 底部		90	(81.0)			底5	マメツ	マメツ	マメツ	淡桃褐	淡褐	多	多		並	並		T190
92	24	包含層	西側北	弥生土器 底部		50	(55.0)			底1	ハケ	ナデ		淡褐	淡褐	並	多		少	並		T189
92	25	遺構外	仮水北	須恵器 蓋	116		(36.0)			口1	ナデ	ナデ		灰	灰白		少			並		T684
92	26	遺構外	仮水北	陶器 鉢	270		(50.0)			口2	ナデ	ナデ		灰白	灰白		並	少		並	珠洲焼	T685
92	27	遺構外	仮水北	陶器 鉢			(30.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰	灰		少	少		並	珠洲焼	T686
92	28	遺構外	仮水北	陶器 不明			(39.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰	灰		少		少	並	珠洲焼、外面・口唇部波状文	T687
92	29	遺構外	仮水北	陶器 平椀			(23.0)			口1以下	ナデ	ナデ		灰白	浅黄					並	古瀬戸、内外面灰釉	T683
92	30	遺構外	仮水北	陶器 ミニチュア	24		(28.0)	24	54	口4	ナデ	ナデ		灰白	灰オリーブ		少			並	古瀬戸、外面灰釉	T682
92	31	遺構外	仮水北 K17・18	土製品 土錘	44	16	11.0							浅黄橙	浅黄橙		多		少	並	10.41g	T688

第9表　08木製品観察表

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種別	口（長）	底（幅）	高（厚・径）	樹種	木取	備考	実測No.
93	1	P568	東仮溝	板状	(138)	(213)	(50.0)	針	板目		N79
93	2	P596	仮水北	板状	(153)	(67)	(21.0)	針	辺材		T702
93	3	P597	仮水北	棒状	(174)	32	33.0	針	辺材		ET121
93	4	P719	仮水北	板状	(135)	(73)	(27.0)	針	辺材		T703
93	5	SK90	仮水北	織機カ	(198)	23	30.0	広	辺材	穿孔1ヵ所有	ET120
93	6	SK92	仮水北	棒状	(290)	33	26.0	広	芯持		ET119
93	9	SK106 SK108	仮水南	不明	(289)	(67)	(17.0)	広	辺材		ET123
93	10	SK107	仮水南	板状	361	49	19.0	針	辺材		N80
93	11	SK107	仮水南	不明	(227)	91	37.0	針	辺材		N81
93	12	SK107	仮水南	棒状	(188)	35	37.0	広	芯持		ET124
93	13	SK107	仮水南	不明	(197)	48	25.0	針	辺材		ET122
93	14	SK107	仮水南	棒状	(194)	34	33.0	広	芯持		N83
93	15	SK107	仮水南	杭	(214)	44	35.0	広	辺材		N82
94	1	SK107 SK108	仮水南	不明	(338)	(113)	(64.0)	広カ	辺材		ET126
94	2	SK107 SK108	仮水南	杭	(240)	45	43.0	広	芯持		ET125
94	3	SK109	仮水南	板状	(443)	(86)	(36.0)	広カ	不明		F625
94	4	SK109	仮水南	杭	(207)	48	43.0	広	芯持カ		F626
94	5	SD125-127間 畦2・3間	東仮溝	杭	640	158	54.0	広	芯持		M110
94	6	SD135	東仮溝	杭	1050	90	66.0	広	芯側	No.3	T265
94	7	SD135	東仮溝	杭	(403)	68	57.0	針	辺材	No.1	Q1
94	8	SD135	東仮溝	杭	(453)	166	18.0	針	辺材	No.6	T704
94	9	SD135	東仮溝	杭	(309)	58	32.0	広	辺材	No.7	ET129
94	10	SD135	東仮溝	杭	(219)	49	38.0	広	芯持	No.7	ET130
94	11	SD135	東仮溝	杭	(250)	53	41.0	広	辺材	No.7	ET131
94	12	SD135	東仮溝	杭	(108)	46	37.0	広	芯持カ	No.7	F632
94	13	SD135	東仮溝	杭	(125)	(35)	22.0	広	芯持カ	No.7	F631
94	14	SD135	東仮溝	杭	(111)	34	30.0	広	芯持	No.7	F633
94	15	SD135	東仮溝	杭	(130)	39	36.0	広	芯持	No.7	F630
95	1	SD135	東仮溝	杭	(185)	63	39.0	広	芯持カ	No.7	F627
95	2	SD135	東仮溝	杭	(226)	70	(22.0)	広	芯持カ	No.7	F628
95	3	SD135	東仮溝	杭	(185)	66	(17.0)	広	芯持カ	No.7	F629
95	4	SD135	東仮溝	杭	(161)	45	43.0	広	芯持	No.7	ET128
95	5	SD135	東仮溝	杭	(67)	22	13.0	広	辺材	No.7	F635
95	6	SD135	東仮溝	杭	(101)	23	21.0	広		No.7	F634
95	7	SD135	東仮溝	杭	(373)	38	39.0	広	芯持	No.7	ET127
95	8	SD135	東仮溝	杭	(555)	89	31.0	広	辺材	No.7	F211
95	9	SD135	東仮溝	杭	433	86	40.0	広	辺材	No.7	T269
95	10	SD135	東仮溝	杭	460	67	48.0	広	芯去	No.7	M116
95	11	SD135	東仮溝	杭	358	78	26.0	広	辺材	No.7	ET48
95	12	SD135	東仮溝	杭	375	56	47.0	広	辺材	No.7	M117
95	13	SD135	東仮溝	杭	(128)	36	34.0	広	芯持	No.7	M118
95	14	SD135	東仮溝	杭	(83)	38	38.0	広	芯持	No.7	T272
95	15	SD135	東仮溝	杭	(156)	64	28.0	広		No.7	T270
95	16	SD135	東仮溝	杭	(150)	45	43.0	広	芯持	No.7	T271
95	17	SD135	東仮溝	杭	(360)	92	27.0	針	辺材	No.8	N84
95	18	SD135	東仮溝	杭	(193)	52	27.0	広	辺材	No.8・9周辺	N85
95	19	SD135	東仮溝	杭	(185)	61	29.0	広	芯持	No.8・9周辺	N86
95	20	SD135	東仮溝	杭	(140)	40	34.0	広	辺材	No.8・9周辺	N87
95	21	SD135	東仮溝	杭	(139)	37	34.0	広	辺材	No.8・9周辺	N88
95	22	SD137西	東仮溝	杭	(282)	46	45.0	広	芯持		N78
95	23	SD140	仮水北	杭	(583)	52	53.0	広	辺材		T701

第10表　08井戸枠材計測表

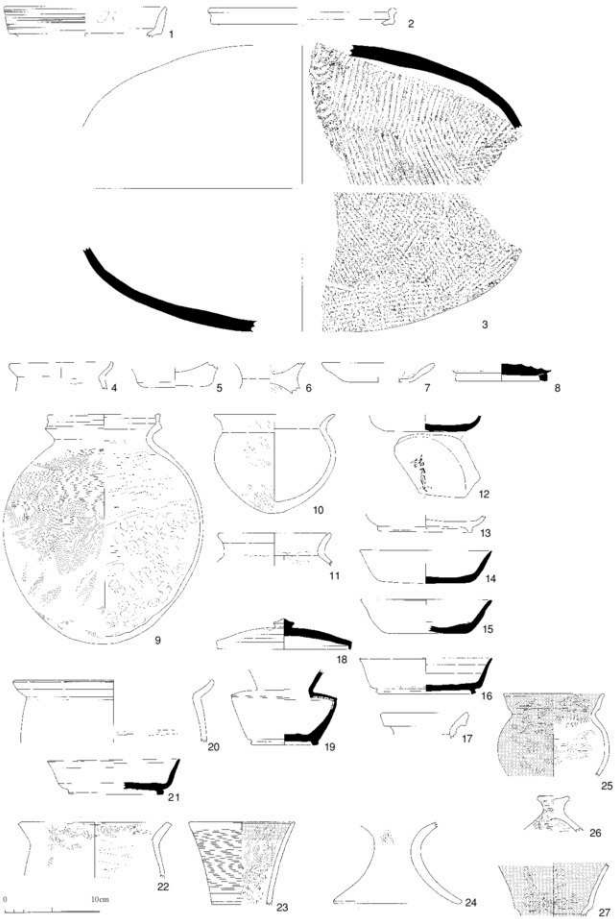
（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種別	長	幅	厚	樹種	木取	備考	実測No.
93	7	SK92	仮水北	横板	1005	144	34	針	柾目	上段	M109
93	8	SK92	仮水北	横板	1390	136	220	針	辺材	下段	S206

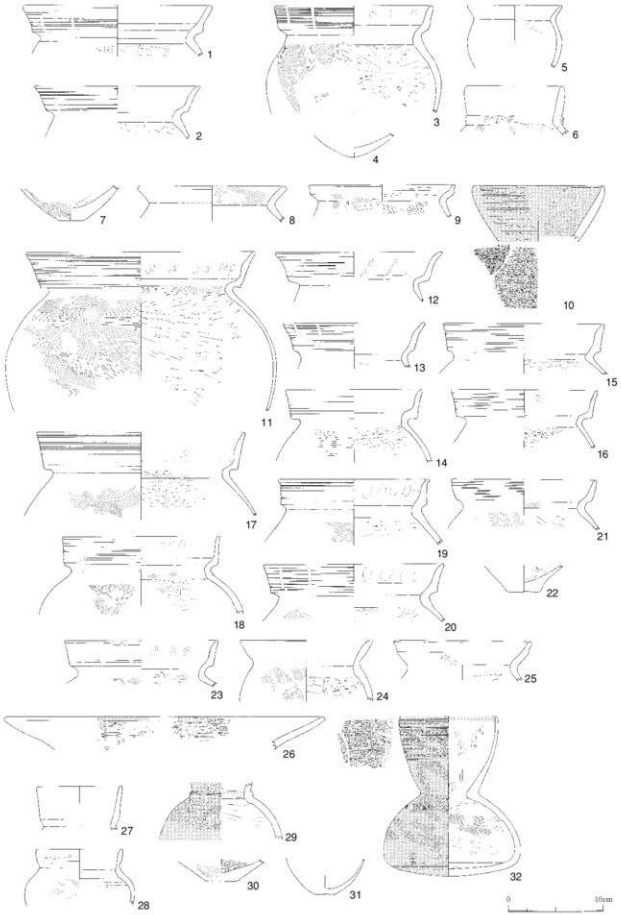
第11表　08 石製品観察表

(単位：mm)

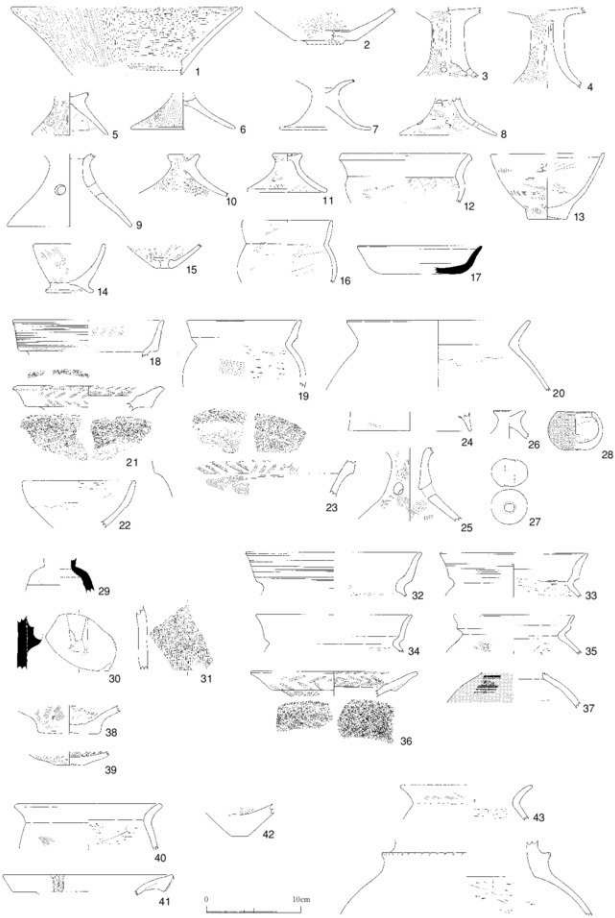
図版No.	No.	遺構	地区	器種	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	重量(g)	色調	備考	実測No.
96	1	SK106	仮水南	磨製石斧	39	28	9.0	15.63	灰		F537
96	2	SK109	仮水南	磨製石斧	(59)	48	29.0	110.00	灰白		E300
96	3	SD150D	仮水中	磨製石斧	65	45	17.0	84.00	オリーブ灰		T673
96	4	P630	仮水北	石棒カ	(81)	(34)	(17.0)	58.43	灰		F586
96	5	SK105 SK106	仮水南	石鏃	21	11	4.0	0.87	灰白	SK106から石材も出土している	F532
96	6	SK106	仮水南	石鏃	24	18	3.0	1.34	灰	SK106から石材も出土している	F538
96	7	SK109	仮水南	石鏃	29	22	3.0	2.45	暗灰		E301
96	8	SD140A	仮水北	石核	34	27	20.0	20.57	緑灰		F602
96	9	SK89	仮水北	剥片	47	73	14.0	35.00	灰		M214
96	10	SK89	仮水北	剥片	36	20	16.0	11.90	緑灰		M212
96	11	SK108	仮水南	剥片	50	30	10.0	17.55	黒褐	SK109と接合	E303
96	12	SD140B	仮水北	剥片カ	23	14	10.0	3.31	緑灰		T641
96	13	SD140C	仮水北	剥片	36	28	18.0	9.43	灰		F562
96	14	SD150B	仮水中 P17 表層	剥片	34	24	12.0	11.11	明緑灰		T610
96	15	SD150B	仮水中	剥片	48	26	5.0	9.22	明緑灰		T676
96	16	SD150C	仮水中	軽石	54	43	28.0	19.78	灰白		T675
96	17	SD17	東仮溝	砥石	(53)	48	14.0	48.10	灰白		N8
96	18	SD140A	仮水北	砥石	62	31	23.0	69.15	灰黄褐		F601
96	19	SD142	仮水北 H・I17	砥石	(50)	37	31.0	87.24	灰白		N52
96	20	SD150A	仮水中	砥石	(31)	31	(13.0)	21.53	黄灰		T677
96	21	包含層	仮水北 I・H18	砥石	44	(30)	1.7	37.27	灰黄		F600
97	1	SD40	仮水南 Y14	砥石	(99)	78	27.0	440.00	灰黄		N12
97	2	SD140C	仮水北	砥石	(165)	76	60.0	870.00	にぶい黄橙		N69
97	3	SD150B	仮水中	砥石	(92)	32	32.0	131.00	にぶい黄橙		T674
97	4	SD150・SD151表層	仮水中	磨製石斧	(100)	63	18.0	145.00	灰白		F581
97	5	SD140B	仮水北	打製石斧	(60)	76	32.0	210.00	灰白		F598
97	6	SD140D	仮水北	打製石斧	(78)	65	27.0	185.00	灰黄		N66
97	7	SD140畦2	仮水北	打製石斧	161	96	21.0	370.00	灰白		F546
97	8	SD150D	仮水中	石錘	(116)	80	57.0	650.00	灰白		T680
97	9	SD143	仮水北 H18	敲石	(88)	60	48.0	295.00	白		F571
97	10	SD140B	仮水北	敲石	120	88	46.0	715.00	灰白		F597
97	11	SK105 SK106	仮水南	凹石	(125)	58	31.0	190.00	灰白		F539
97	12	SK106 SK108	仮水南	凹石	(45)	79	36.0	145.00	灰白	側面にも凹有	F515
97	13	SD140D	仮水北	凹石カ	52	93	22.0	160.00	灰白	凹み部分外縁に工具痕か	N65
98	1	SK109	仮水南	凹石	(77)	72	32.0	204.00	灰白		E299
98	2	SD135①	東仮溝	凹石	(74)	69	29.0	174.00	灰白		T617
98	3	SD140C	仮水北	凹石	135	105	40.0	875.00	灰白		N67
98	4	SD189	仮水南 AD12	凹石	105	78	43.0	535.00	灰白		N64
98	5	SD140C	仮水北	すり石カ	(149)	128	38.0	900.00	灰白		N68
98	6	SD140C	仮水北	すり石	205	89	44.0	1345.00	灰白		N70
98	7	SD150E	仮水中	すり石	166	149	41.0	1640.00	灰白		T679
98	8	SD150D	仮水中	すり石カ	(198)	103	62.0	1575.00	灰白		T681
98	9	SK106 SK108	仮水南	不明	(81)	94	39.0	310.00	灰白		F516



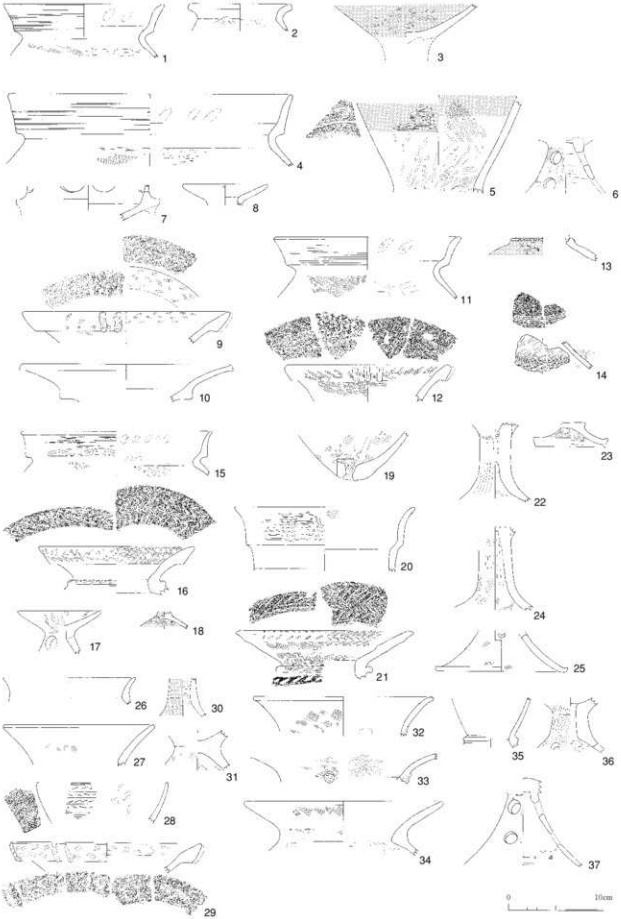
第99図　P764（1～3）、P786（4）、P874（5）、P916（6）、P926（7）、P927（8）、SE08（9）、SE08上層（10・11）、SE09下層（12・13）、SE09（14～19）、SK116畦（20）、SK116（21）、SK120（22・23）、SK127（24）、SK128（25・26）、SK132（27）出土遺物（S=1/4）



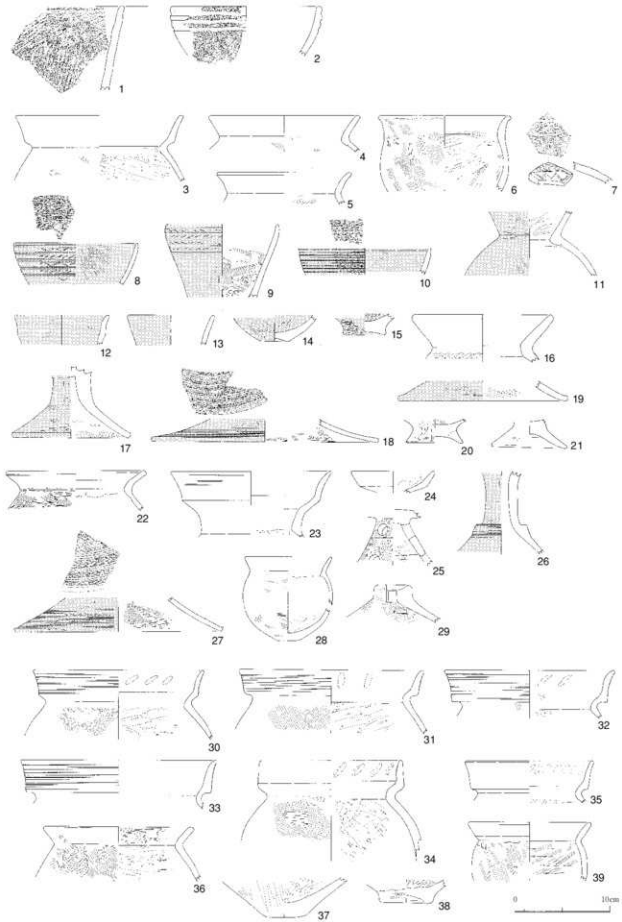
第100図　SD142（1）、SD163下層（2）、SD190下層（3～6）、SD190膨らみ下層（7）、SD190膨らみ上層（8～10）、SD190（11～32）（S=1/4）



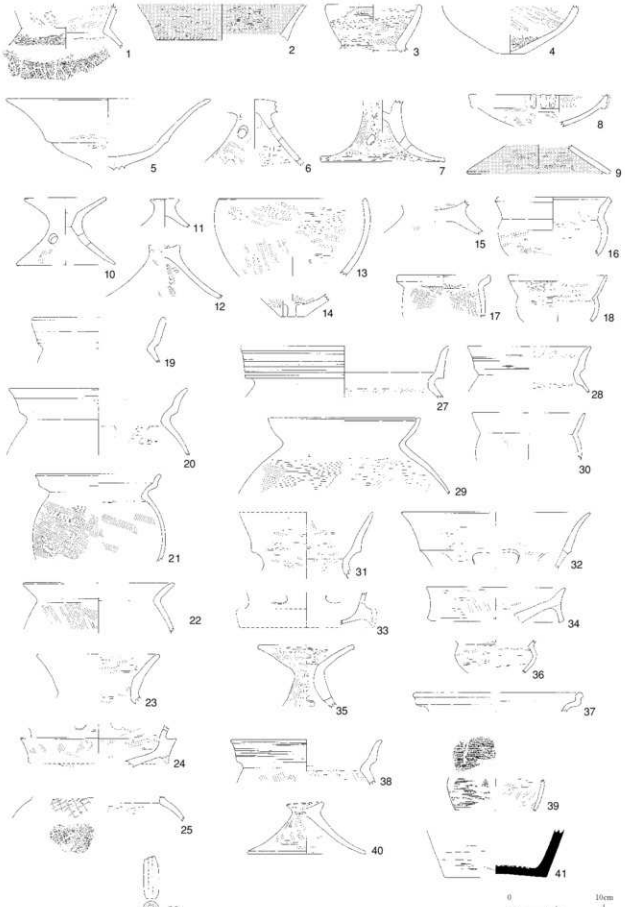
第101図　SD190（1～17）、SD190・SD192間（18～27）、SD190・SD192合流（28）、SD191（29～31）、SD192（32～37）、SD192テラス（38・39）、SD192西端（40・41）、SD192（B）（42）、SD192（C）（43・44）出土遺物（S=1/4）



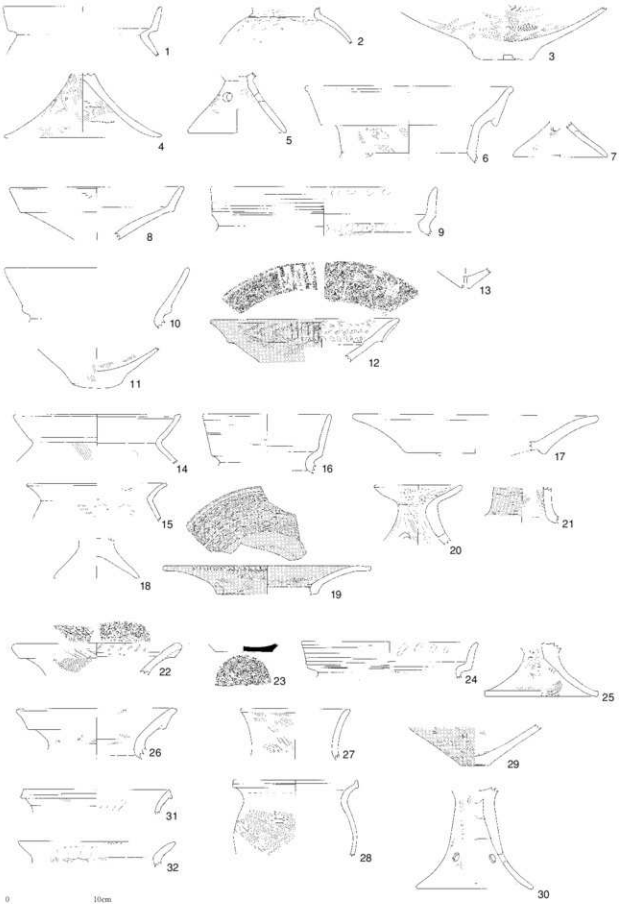
第 102 図　SD192（D）（1～3）、SD192（E）（4～8）、SD192（F）（9・10）、SD192（G）（11～14）、SD192（I）（15～18）、SD192（J）（19）、SD192（K）（20・21）、SD192（L）（22・23）、SD192（M）（24・25）、SD190・SD192 間砂層（26～31）、SD192 上層（32～36）、SD192 上面（37）出土遺物（S=1/4）



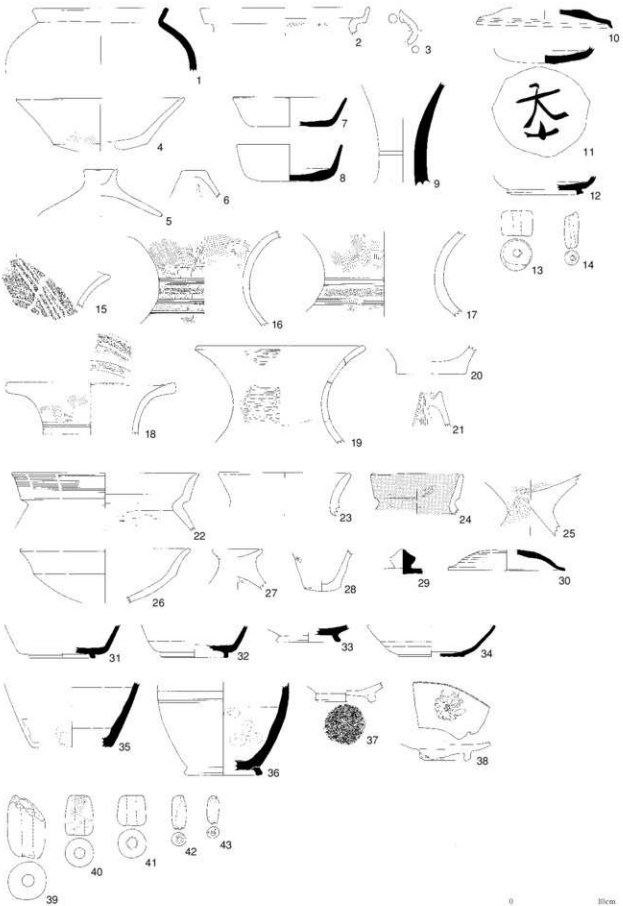
第 103 図　SD195 最深底（1・2）、SD195 最下層（3～21）、SD195 下層・最下層間（22～29）、SD195 下層（30～39）出土遺物（S=1/4）



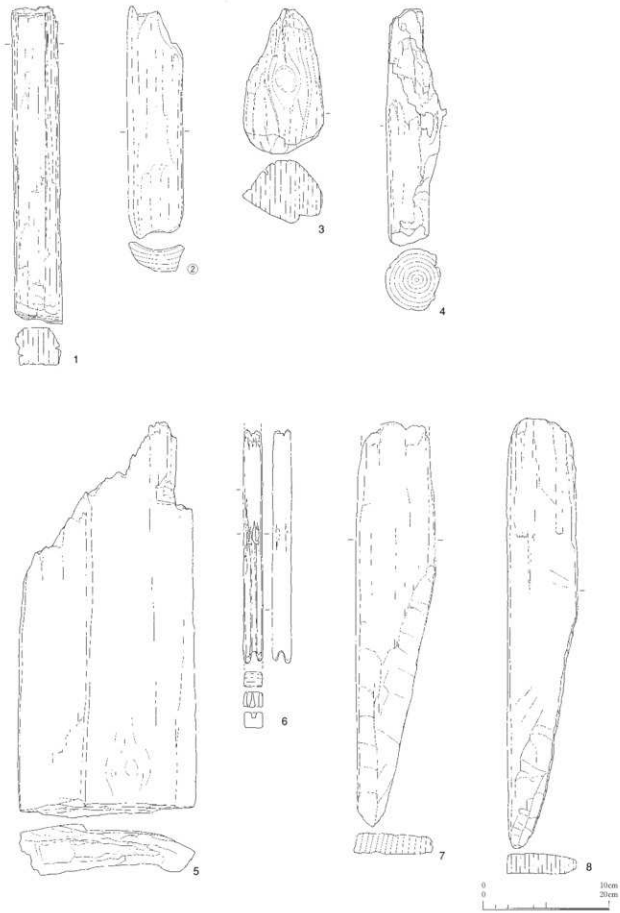
第 104 図　SD195 下層（1～18）、SD195 中層（19）、SD195 上層・中層（20～24）、
SD195 上層（25～37）、SD195（38～41）出土遺物（S=1/4）



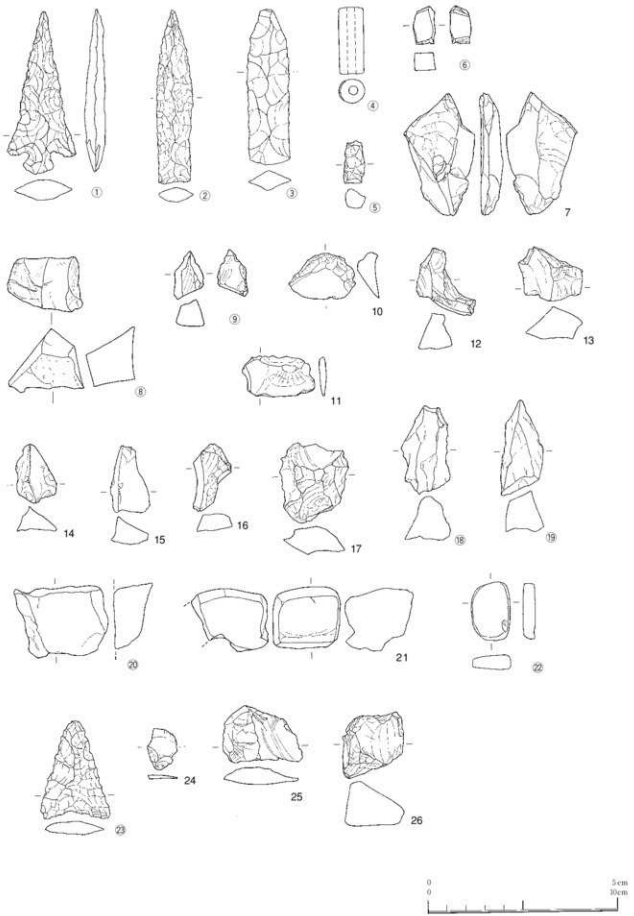
第105図　SD195-1層（1～5）、SD195グループA（6・7）、SD195グループC（8）、SD195グループD（9）、SD195西端（10～13）、SD194（14～21）、SD199（暗渠）（22）、SD206（23）、SD210（24・25）、SD212（26）、SD213東端（27）、SD213上面（28・30）、SD217（31）、SD222（32）出土遺物（S=1/4）



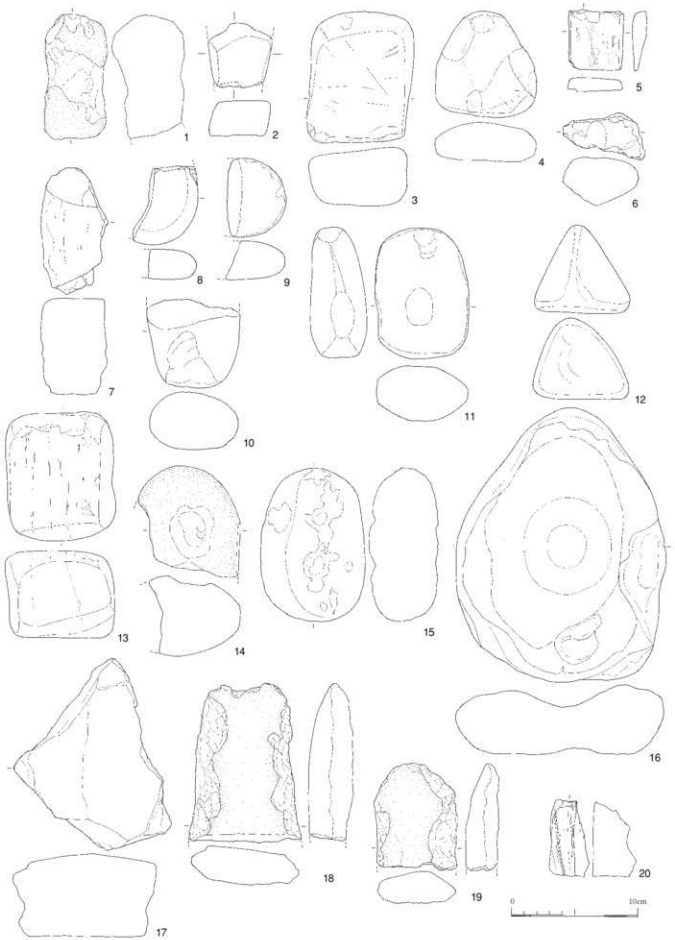
第106図　SD214（1～3）、SD214東端（4～9）、SD214西端（10～14）、SD215西岸（15）、SD215（16～21）、包含層（22～43）出土遺物（S=1/4）



第107図　P765 (1)、P882 (2)、P900 (3)、P904 (4)、P930 (5)、SK122 (6)、
SD195 最深部 (7・8) 出土遺物 (S=1/6、○数字は S=1/3)



第108図　09年度（1～22）、10年度（23～26）出土石製品（S=1/2、○数字はS=1/1）



第109図　09年度（1～17）、10年度（18～20）出土石製品（S=1/3）

第12表　09 土器・陶磁器・土製品観察表（1）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類 器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	針	赤	焼成	備考	実測No.
99	1	P764		土師器 甕	172		(32.0)			口1	マメツ	ナデ		灰白	にぶい橙		並	少	並	並	口縁部擬凹線9条、外面黒斑	M281
99	2	P764	T12	土師器 鍋カ			(19.0)			口1以下	マメツ	マメツ		灰白	灰白		多			並		M282
99	3	P764	T12	須恵器 横瓶			(300.0)				タタキ			灰	灰	少	少			並	接合する82片＋小片4	M283
99	4	P786	T12	土師器 小甕	110		(29.0)	93		口2	マメツ	マメツ		橙	淡赤橙		並	少		並		M287
99	5	P874	S12	土師器 底部		60	(27.0)			底3	マメツ	マメツ		黒褐	黄灰		少	多	少	並		M286
99	6	P916		土師器 高杯カ			(34.0)	58		頸12	マメツ	マメツ		橙	にぶい赤橙	少	多		並	並		M280
99	7	P926		土師器 皿	118	62	21.0			口3	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		橙	にぶい橙		並			並		M290
99	8	P927		須恵器 有台杯		98	(19.0)			底11	ナデ	ナデ	回転糸切り後ヘラ起こし	青灰	暗青灰	少	少			並	高松産	M279
99	9	SE08	I7	土師器 甕	116	10	241.0	104	212	口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		黄橙	黄橙	少	並		少	良	外面黒斑・スス付着 内面工具痕、末産	F654
99	10	SE08上層	D17	土師器 小甕	126	18	104.0	110	128	口1	ミガキ・マメツ	ナデ		灰白	にぶい黄橙	少	少		少	並		F655
99	11	SE08上層	D17	土師器 甕	116		(35.0)	106		口1	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		少		少	並		F656
99	12	SE09下層	A17	須恵器 無台杯		88	(17.0)			底4	マメツ	ナデ	ナデ	灰白	灰黄		少			並	外面底部墨書「諸刀自女」	E371
99	13	SE09下層	A17	須恵器 有台杯		96	(14.0)			底10	マメツ	マメツ	マメツ	浅黄橙	灰白		並		並	並		E366
99	14	SE09	A17	須恵器 無台杯	139	100	36.0			底6	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ	ヘラケズリ後ナデ	灰白	灰白		多		多	不	高松産	E369
99	15	SE09	A17 西端	須恵器 無台杯	138	84	36.0			底4	ナデ	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	灰白	灰白	並	少			並	生焼け、外面1部スス付着 高松産	E368
99	16	SE09	A17 西端	須恵器 有台杯	140	98	38.0			底6	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白	灰白		少			並	高台内墨痕（転用硯か） 辰口産	E365
99	17	SE09	A17 西端	土師器 杯	88		(27.0)	66		口2	ナデ	ナデ		灰黄褐	にぶい黄橙		並		並	並	高松産	E367
99	18	SE09	A17 西端	須恵器 蓋	ツマミ 22	140	32.0			体4	ケズリ後ナデ	ナデ		灰	灰白		多			並	蓋の内側墨痕、末産 外面暗灰	E364
99	19	SE09	A17	須恵器 広口瓶		72	80.0	60	肩112	底12	ナデ	ナデ・ケズリ		灰	灰	少	並			並	外面自然釉 底部粘土カス付着、高松産	E370
99	20	SK116畦	A18	土師器 甕	208		(67.0)	182	196	口1	ナデ・ハクリ	ナデ・ハケ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	外面スス付着、内面焼痕	Q14
99	21	SK116	A18	須恵器 有台杯	138	101	(38.0)			底3	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	青灰	灰		並			並	高台畳付摩耗	Q11
99	22	SK120	C18	弥生土器 甕	154		(59.0)	136		口3	ハケ後ナデ	ハケ・ナデ		にぶい橙	にぶい黄橙	少	少	少	少	並	外面スス付着	Q18
99	23	SK120	C18	弥生土器 壺	110		(88.0)			口1		ミガキ		浅黄橙	にぶい黄橙		少	少		良	内面赤彩・スス付着 口縁部擬凹線24条 SD213C17・18上面と接合	Q19
99	24	SK127		土師器 器台		131	(86.0)	49		底7	ミガキ・マメツ	ハケ・マメツ		橙	橙	多	並	少	並	不		Q17
99	25	SK128		土師器 小壺	105		(88.0)	88	118	口2	ミガキ・ハケ後ミガキ	ミガキ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙	並	少		少	並	内外面赤彩	Q16
99	26	SK128		土師器 蓋	ツマミ 34		(37.0)	22		頸12	ミガキ	ミガキ	ナデ	灰褐	黄灰		少	並	少	並		Q15
99	27	SK132		土師器 壺			(56.0)			頸2	ミガキ	ミガキ・ナデ		赤	赤		少	並	少	並		Q20
100	1	SD142	F18	土師器 甕	194		(54.0)	161		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		明赤褐	橙		少	少		並	口縁部擬凹線9条	M304
100	2	SD163下層	S12	土師器 甕	174		(50.0)	134		口1以下	ナデ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白		多		多	並	口縁部擬凹線6条 外面スス付着	E426
100	3	SD190 下層 D8	T11	土師器 甕	164		(114.0)	142	184	口4	ナデ・ハケ・ハクリ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	浅黄橙	少	多		少	並	口縁部擬凹線10条 外面スス付着	M296
100	4	SD190 下層 D8	T11	土師器 底部		4	(25.0)			底12	マメツ	マメツ		橙	淡橙		少		並	並	M297と同一か	M298
100	5	SD190 下層 D8	T11	土師器 小甕	98		(66.0)	86	100	口3	マメツ・ハクリ	ケズリ・マメツ		橙	淡橙		少		並	並	M298と同一か	M297
100	6	SD190 下層 D8	T11	土師器 壺	100		(51.0)	104		口4	ナデ・ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		灰白	灰白	少	並	並	少	並	外面キザミ	M295
100	7	SD190 膨らみ下層 畦6・7間	T11	土師器 底部		26	(38.0)			底12	ハケ	ケズリ	板目跡	にぶい赤褐	赤灰		少		少	並	内外面スス付着	M302
100	8	SD190 膨らみ上層	T11	土師器 甕	150		(38.0)	133		口2	マメツ	ハケ・マメツ		褐	にぶい褐		少	少	少	並		M299
100	9	SD190 膨らみ上層	T11	土師器 甕	152		(35.0)	134		口1	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙		並	多		並		T722
100	10	SD190 膨らみ上層	T11	土師器 壺	136		(59.0)			口2		ミガキ		灰白	灰白		少	並	少	並	内外面赤彩、外面直線文・斜線文・分離山形文 SD195最下層 T11・12と接合	M300
100	11	SD190	S12D8	土師器 甕	240		(168.0)	194	293	口9	ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		並			並	口縁部擬凹線12条 外面スス付着	T714
100	12	SD190	T・U12	土師器 甕	174		(53.0)	125		口1	マメツ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	褐灰		多	多	多	並	口縁部擬凹線8条	E374
100	13	SD190	R～T13・12	土師器 甕	148		(48.0)	112		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	浅黄橙		並		並	並	口縁部擬凹線8条	T741
100	14	SD190	S12	土師器 甕	142		(77.0)	113		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		多		並	並	口縁部擬凹線4条	T738
100	15	SD190	T11D5	土師器 甕	170		(53.0)	148		口2	ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並	口縁部擬凹線6条	T715
100	16	SD190	S12	土師器 甕	152		(61.0)	122		口1以下	ナデ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		並		少	並	口縁部擬凹線6条	T734
100	17	SD190	R13 S12・15	土師器 甕	218		(92.0)	186		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		少	並	口縁部擬凹線12条 外面スス付着	TM3
100	18	SD190	T・S12	土師器 甕	166		(87.0)	147		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		赤灰	にぶい橙		並	少	少	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	M294
100	19	SD190	T・S12	土師器 甕	158		(69.0)	143		口4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい赤褐	橙		並		多	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	M293
100	20	SD190	T・S12	土師器 甕	190		(61.0)	190		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	少	少	少	少	並	口縁部擬凹線8条	M292
100	21	SD190	S12	土師器 甕	152		(52.0)	128		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ミガキ		浅黄橙	にぶい黄橙	並	並	少	少	並	口縁部擬凹線6条	T743
100	22	SD190	T・U12	土師器 底部		34	(29.0)			底12	マメツ	ハケ		浅黄橙	明黄褐	少	多	並		並		E372
100	23	SD190	R～S	土師器 甕	160		(49.0)	134		口1	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ハケ・ケズリ・マメツ		褐灰	にぶい橙		並		少	並	口縁部擬凹線 外面スス付着	T742
100	24	SD190	R～S	土師器 甕	138		(64.0)	112	140	口2	ナデ・ハケ・マメツ	ナデ・ケズリ・マメツ		橙	橙		並	少	少	並	外面黒斑	T739
100	25	SD190	T11D5	土師器 甕	140		(41.0)	116		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		淡黄	淡黄	少	並	並	並	並		T716
100	26	SD190	S12	土師器 壺			(36.0)			口1以下	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	良	内外面赤彩	T736
100	27	SD190	R～T13・12	土師器 壺	88		(40.0)	76		口3	マメツ	ナデ・マメツ		橙	にぶい橙	少	並		並	並		T740
100	28	SD190	T・S12	土師器 壺	90		(59.0)	84	116	口1	ミガキ	ナデ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	少	並	SD190膨らみ上層と接合 外面一部スス付着	M301
100	29	SD190	T11D4	土師器 壺			(60.0)	62	130	頸6	ハケ後ミガキ	ミガキ・ケズリ後ナデ		浅黄橙	浅黄橙		少	多	少	並	外面赤彩・キザミ	T717
100	30	SD190	R～S	土師器 底部		32	(24.0)			底12	ミガキ	ハケ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	並	少	並	外面一部黒斑	T732

第12表　09 土器・陶磁器・土製品観察表 (2)

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調(釉色調)	内面色調(素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
100	31	SD190	R～T13・12	土師器 坏		21	(38.0)			底12	マメツ	マメツ・ハクリ		にぶい橙	褐灰		少	少	少	並	底部凹み有	N104
100	32	SD190	T11	土師器 細頸壺	100	42	168.0	60	144	口11	ハケ・ミガキ	ミガキ・ナデ・ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	浅黄橙	浅黄橙		少	並	少	並	外面赤彩・口縁部直線文・綾杉文・斜線文	T713
101	1	SD190	R13D1	土師器 高杯カ	242		(71.0)			口8	ミガキ	ミガキ		浅黄橙	浅黄橙		少	多	少	並	外面一部黒斑 内面接合するための加工痕	T718
101	2	SD190	R～T13・12	土師器 高杯			(38.0)	38			ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	多		良	頸部の接合部に加工痕	T737
101	3	SD190	S12	土師器 高杯			(75.0)	34			ミガキ	ナデ		にぶい橙	灰白		少	少	少	良	透かし穴3残	N102
101	4	SD190		土師器 高杯			(85.0)	34			マメツ・ミガキ	マメツ・ナデ		灰白	にぶい橙	少	多	少	少	並		N101
101	5	SD190	T・U12	土師器 脚部		80	(45.0)	32		底11	ミガキ	ケズリ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		並	並		E376
101	6	SD190	R～T13・12	土師器 脚部		110	(30.0)			底8	マメツ・ミガキ	マメツ		にぶい黄橙	にぶい橙		少	少	並	並		N105
101	7	SD190	R12・13	土師器 高杯		96	(53.0)	28		底3	マメツ	マメツ	マメツ	褐灰	褐灰		並	少	並	並		N100
101	8	SD190	T・U12	土師器 脚部		102	(40.0)			底4	ミガキ	ケズリ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並	並	並	透かし穴3残	E377
101	9	SD190	R～S	土師器 器台		132	(77.0)	43		底2	マメツ	ハクリ・マメツ		にぶい橙	浅黄橙	少	多	並	並	並	外面黒斑、透かし孔3残	N103
101	10	SD190	T12	土師器 蓋	ツマミ30		(44.0)	26		ツマミ10	ミガキ	ミガキ		浅黄橙	浅黄橙	少	少	少	少	並		T735
101	11	SD190	T・S12	土師器 蓋	ツマミ30	82	41.0			底2	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		橙	橙		少	少	少	並		M289
101	12	SD190	T・S12	土師器 鉢	134		(52.0)	122	126	口2	ナデ・マメツ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰黄褐	にぶい黄橙		少	少	少	並	外面黒斑	M291
101	13	SD190	R13 S12・15	土師器 鉢	120	42	70.0			口7	ハケ後ナデ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	並	少	並	SD190R～T13・12と接合 外面黒斑	N99
101	14	SD190	T・S12	土師器 鉢	74	46	52.0			口36	ハケ	ナデ	ハケ	橙	にぶい赤褐		少	少		並	SD210T11と接合、外面黒斑	M288
101	15	SD190	R～T13・12	土師器 有孔鉢		16	(26.0)			底10	ハケ・マメツ	ナデ・マメ		橙	橙		多		並	並	孔径8mm	T733
101	16	SD190	T・U12	土師器 小壺	94		(68.0)	86	105	口22	ミガキ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		多		並	並		E375
101	17	SD190	T・U12	須恵器 無台杯	132	88	30.0			底2	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	黄灰	灰白		少			並	末産か	E373
101	18	SD190・192間	T12	土師器 甕	158		(40.0)	125		口1	ナデ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙		並	並	少	並	口縁部擬凹線10条・工具痕	T727
101	19	SD190・192間	T12	土師器 甕	120		(71.0)	100	131	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	にぶい橙	少	多	少	並	並	外面スス付着	T723
101	20	SD190・192間	T12	土師器 甕	190		(74.0)	170		口3	マメツ	マメツ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	多	多	少	並	並	被熱、口縁内部自然釉・降灰 加賀焼か	T726
101	21	SD190・192間	T12	土師器 坏	152		(26.0)			口2	ナデ	ナデ		灰白	浅黄橙	並	並	少	少	並	内外面斜線文 暗⑥	T729
101	22	SD190・192間	T12	土師器 鉢カ	116		(55.0)			口2	ナデ	ミガキ		浅黄	浅黄橙		並	少	少	並		T721
101	23	SD190・192間	T12	土師器 坏			(40.0)			口1	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ		浅黄橙	にぶい黄橙		少	少	少	並	内外面斜線文 SD195上層含む	T720
101	24	SD190・192間	T12	土師器 装飾器台		透128	(20.0)			透2	ミガキ・マメツ	ナデ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	少	並	外面黒斑	T719
101	25	SD190・192間	T12	土師器 器台			(77.0)	38		頸12	ハケ	ナデ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙	少	多	多	並	並	暗⑥より南 透かし穴3残、孔径12mm	T730
101	26	SD190・192間	T12	土師器 蓋	ツマミ32		(30.0)			ツマミ12	マメツ	ナデ		にぶい褐	黄灰	並	多	少	少	並		T725
101	27	SD190・192間	T12	土製品 土錘	38	37								灰白	灰白		少		少	並	外面黒斑 孔径9mm、重さ38.45g	T724
101	28	SD190・192合流	T12	土師器 ミニチュア	36	20	40.0		58	口5	ミガキ	ナデ・ミガキ	ミガキ	浅黄橙	橙		少	並		並	外面赤彩	T728
101	29	SD191		須恵器 瓶			(37.0)	32		頸6	ナデ	ナデ		灰	灰白		少			並		M315
101	30	SD191	S12	須恵器 双耳瓶			(57.0)							灰	灰		少			並		M314
101	31	SD191	S12	陶器 甕			(67.0)							にぶい橙	にぶい橙	少	少		並	並	加賀焼	M313
101	32	SD192	S12	土師器 甕	186		(47.0)	148		口1	ナデ	ナデ後ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		多		並	並	口縁部擬凹線8～10条 外面スス付着	E378
101	33	SD192	S12	土師器 甕	156		(47.0)	126		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		多		多	並	口縁部擬凹線4条	E380
101	34	SD192	S12	土師器 甕	162		(39.0)	136		口1	マメツ・ハクリ	マメツ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多	少	多	並		E379
101	35	SD192	S12	土師器 甕	128		(41.0)	108		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並	並	並	外面スス付着	E381
101	36	SD192	S12	土師器 坏	172		(26.0)			口1	ナデ・ハケ	ナデ		灰白	にぶい黄橙		少		少	並	内外面キザミ	E386
101	37	SD192	S12	土師器 坏			(38.0)							灰白	にぶい黄橙		並		並	並	外面赤彩	E382
101	38	SD192テラス	S12	土師器 底部		66	(30.0)			底12	ハケ・ケズリ	ハケ		灰白	黒		少	少		並	内面黒斑	E385
101	39	SD192テラス	S12	土師器 底部		26	(15.0)			底12	ミガキ	ハケ	ミガキ	灰白	褐灰		少	少		並	内面黒斑	E384
101	40	SD192西端	S12	土師器 甕	156		(49.0)	132		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		多		少	並		E387
101	41	SD192西端	S12	土師器 坏	176		(22.0)			口1	マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい褐		少	少	少	並	口縁部外面棒状浮文2残	E388
101	42	SD192(B)	S12	土師器 底部		17	(34.0)			底12	ハケ	ケズリ		橙	褐灰	並	多		少	並	内面黒色付着物	F664
101	43	SD192(C)	S12	土師器 甕	137		(34.0)	112		口2	マメツ	マメツ・ハケ・ケズリ		灰褐	黒褐		並	少		並		F666
101	44	SD192(C)	S12	土師器 坏			(79.0)	150			ナデ・マメツ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	浅黄橙	少	多	少	並	並	外面キザミ	F665
102	1	SD192(D)	S12	土師器 甕	168		(56.0)	130		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	橙	少	並	少		並	口縁部擬凹線6～7条 外面スス付着	F667
102	2	SD192(D)	S12	土師器 小甕	106		(29.0)	90		口2	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白	少	並	少	少	並		F669
102	3	SD192(D)	S12	土師器 高杯			(59.0)				ミガキ	ミガキ		橙	橙		少	並	少	並	内外面赤彩、外面スス付着	F668
102	4	SD192(E)	S12	土師器 甕	296		(67.0)	264		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	にぶい橙	少	多	少	少	並	口縁部擬凹線8条	F662
102	5	SD192(E)	S12	土師器 坏			(103.0)				ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	並		並	内外面赤彩、外面直線文・斜線文・分離山形文	F660
102	6	SD192(E)	S12	土師器 高杯			(58.0)				ミガキ	ケズリ		にぶい黄橙	灰白		少	少		並	透かし穴5残	F659
102	7	SD192(E)	S12	土師器 装飾器台			(38.0)				マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙		並		多	並	窓2残	F658
102	8	SD192(E)	S12	土師器 器台	90		(23.0)			口4	マメツ	マメツ		橙	にぶい橙		並	並	並	並		F661
102	9	SD192(F)	S12	土師器 坏	216		(34.0)			口2	マメツ・ハケ	マメツ		浅黄橙	褐灰	並	多	並	少	不	内外面キザミ、口縁部外面棒状浮文2残、内面黒斑、SD192(J)と同一	F671
102	10	SD192(F)	S12	土師器 坏	220		(40.0)			口1	マメツ	マメツ		橙	褐灰	並	多	少	並	並		F670
102	11	SD192(G)	S12	土師器 甕	194		(65.0)	152		口2	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ		橙	橙		多	少	並	並	口縁部擬凹線・スス付着	Q30
102	12	SD192(G)	S12	土師器 坏	168		(39.0)			口1	ハケ後ナデ	ナデ		にぶい黄橙	明黄褐	少	並	並	少	並	口縁部内外面キザミ、外面口縁部棒状浮文3残、SD190T・S12と接合	Q31
102	13	SD192(G)	S12	土師器 坏			(25.0)	68		頸1	ミガキ	ナデ		にぶい橙	浅黄		並	少	少	並	外面赤彩・キザミ	Q32
102	14	SD192(G)	S12	土師器 脚部			(29.0)				ミガキ	ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	並	少	並	外面赤彩・直線文・綾杉文	Q33
102	15	SD192(I)	T・S12	土師器 甕	200		(47.0)	177		口1以下	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	並	少	並	口縁部擬凹線 外面スス付着	Q36

第12表　09 土器・陶磁器・土製品観察表（3）

（単位：cm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	現況最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	釉	彩	骨	赤	焼成	備考	実測No.
102	16	SD192(4)	T・S12	土師器 皿	162		(51.0)	92		口6	ナデ	ナデ		橙	橙	並	少	少	不		口縁部内外面キザミ 外面頸部ヘザミ	Q37
102	17	SD192(4)	T・S12	土師器 皿	87		(46.0)	31		頸9	ミガキ・マメツ	ミガキ・マメツ		橙	にぶい黄橙	少	少	少	並		透かし穴3残	Q35
102	18	SD192(4)	T・S12	土師器 皿			(18.0)	14		頸6	ミガキ	ミガキ		にぶい橙	にぶい黄橙	並	少	少	並		外面赤彩	Q34
102	19	SD192(J)	T・S12	土師器 有孔鉢	26	(53.0)				底12	ハケ	ハケ・ケズリ		橙	明赤褐	並	少	少	不			Q25
102	20	SD192(K)	T12	土師器 皿	187		(68.0)	149		口1	マメツ	ハケ→ケズリ→マメツ		明赤褐	にぶい赤褐	多	並	並	並		口縁部細目線10条	Q29
102	21	SD192(K)	T12	土師器 皿	177		(51.0)	88		口1	ハケ後ナデ	ナデ→ハケ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	並		並		口縁部内外面キザミ1	Q27
102	22	SD192(L)	T12	土師器 高杯			(83.0)	34		頸12	ミガキ→ハケ→ケズリ	ハケ後ナデ→ケズリ		淡黄	明褐		ツ	多	不			Q22
102	23	SD192(L)	T12	土師器 高杯	ツマミ 26	73	26.0	25		底7	ミガキ・ナデ	ミガキ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい橙	少	並	並	並		透かし穴4残	Q21
102	24	SD192(M)	T12	土師器 高杯			(83.0)	34		頸12	ミガキ	ナデ・ハケ		にぶい黄橙	橙	並	少	並	並			Q23
102	25	SD192(M)	T12	土師器 脚部		140	(42.0)			底3	ハケ→ミガキ→マメツ	ハケ→ミガキ→マメツ		浅黄橙	赤橙	並	並	並	並	透かし穴4残		Q24
102	26	SD190・192間土層	T12	土師器 皿	138		(30.0)	125		口2	マメツ	マメツ		灰褐	灰褐	多	少	少	不			F682
102	27	SD190・192間土層	T12	土師器 皿	156		(42.0)			口2	ハケ・ナデ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少		並	並			F678
102	28	SD190・192間土層	T12	土師器 皿			(43.0)			口1 以下	ナデ	ミガキ		暗赤灰	褐灰	少	並	少	並			F681
102	29	SD190・192間土層	T12	土師器 皿	197		(31.0)			口2	ナデ	マメツ		浅黄橙	黄灰	並	並	少	並		口縁部外面棒状浮文3残 口縁部内外面キザミ	F684
102	30	SD190・192間土層	T12	土師器 鉢			(41.0)				ミガキ	ケズリ・ナデ		赤褐	灰褐	少	少	少	並		外面赤彩	F680
102	31	SD190・192間土層	T12	土師器 脚部			(44.0)	49			ハケ・ナデ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多	少	並			F677
102	32	SD192上層	S・T12	土師器 皿	186		(41.0)			口2	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	灰白	少	少	少	並			F673
102	33	SD192上層	S・T12	土師器 皿			(32.0)				ハケ・ミガキ	ミガキ		黒褐	黒褐		少	少			外面ボタン状浮文1残	F676
102	34	SD192上層	S・T12	土師器 皿	206		(58.0)	134		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		褐灰	にぶい橙	少	並	少				F674
102	35	SD192上層	S・T12	土師器 皿			(53.0)	50			マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	少	少	並			F675
102	36	SD192上層	S・T12	土師器 鉢			(58.0)	37			ハケ・ミガキ	ミガキ・ハケ		にぶい橙	にぶい橙	少	多	並	並		透かし穴3残	F672
102	37	SD192上層	T12	土師器 高杯			(94.0)	32			ミガキ	マメツ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	少	並		透かし穴4残	F683
103	1	SD195 最底面	T12	縄文 浅鉢			(88.0)			口1 以下	条痕			黄灰	黄灰	多	並		並		外面横引き沈線文	F753
103	2	SD195 最底面	T12	縄文 浅鉢	154		(52.0)			口1				灰白	灰白	少	多	少	並		外面横引き沈線文	F752
103	3	SD195 最下層	T11・12	土師器 甕	174		(69.0)	143		口5	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ケズリ		灰黄褐	にぶい黄橙	少	少	少	並		外面一部スス付着 SD195下層 T11・12と接合	M342
103	4	SD195 最下層	T11・12	土師器 甕	154		(39.0)	137		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		赤褐	にぶい橙		少	少	並			M345
103	5	SD195 最下層	T11	土師器 鉢	140		(34.0)	120		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		橙	にぶい橙		並		少			M340
103	6	SD195 最下層	T11・12	土師器 皿	136		(80.0)	128	136	口5	ハケ	ハケ後ナデ→ケズリ		灰黄	灰白		多	少	少		外面スス付着	T761
103	7	SD195 最下層	T12	土師器 皿			(24.0)							灰白	灰白	少	並	少	少		外面沈線文 内彩竹管文・山形文・鋸歯文	T756
103	8	SD195 最下層	T11・12	土師器 皿	129		(44.0)			口1	ナデ	ミガキ		浅黄橙	にぶい橙		少	少	並		内外面赤彩 内面直線文・斜線文・鋸歯文・分離山形文	Q72
103	9	SD195 最下層	T11・12	土師器 皿	118		(72.0)			口3	ミガキ・ハケ→ケズリ	ナデ・ハケ→ハケ→ケズリ		赤橙	浅黄橙	少	少		並		外面赤彩・直線文・斜線文	M343
103	10	SD195 最下層	T11・12	土師器 皿	138		(27.0)			口1		ミガキ		灰白	灰白	少	少		並		内外面赤彩 外面直線文・鋸形文	M349
103	11	SD195 最下層	T11	土師器 皿			(68.0)	65		頸12	ミガキ	ミガキ・ナデ		にぶい橙	浅黄橙	少	少	少	並		外面赤彩	M337
103	12	SD195 最下層	T11・12	土師器 有孔鉢	100		(31.0)			口1	ミガキ・マメツ	ハケ・マメツ		灰褐	灰白	少	並		並		内外面赤彩	M348
103	13	SD195 最下層	T11・12	土師器 皿	90		(31.0)			口2	マメツ	ナデ		赤	橙		並	少	少		外面赤彩	M341
103	14	SD195 最下層	T11	土師器 脚部		26	(28.0)			底12	ミガキ	ミガキ		赤	赤橙		少	少	並		内外面赤彩	M338
103	15	SD195 最下層	T11・12	土師器 脚部		46	(22.0)			底7	ミガキ	ミガキ		赤	橙	少	並	多	並		内外面赤彩	Q71
103	16	SD195 最下層	T11・12	土師器 高杯	144		(50.0)	106		口2	マメツ	マメツ		淡橙	褐灰	少	並		少			M346
103	17	SD195 最下層	T12	土師器 高杯		120	(74.0)	40		底3	ミガキ・マメツ	ハケ		明褐灰	灰褐	少	並	少	並		外面赤彩 SD195下層と接合	M339
103	18	SD195 最下層	T11・12	土師器 高杯		238	(24.0)			底1	ミガキ	ハケ・ナデ		橙	にぶい橙	少	少	少	並		外面赤彩・直線文・斜線文・分離山形文	M344
103	19	SD195 最下層	T11・12	土師器 甕		178	(21.0)			底1	ハケ後ミガキ	ハケ		灰白	明褐灰	少	少	少	並		外面赤彩	M347
103	20	SD195 最下層	T11	土師器 脚部	58	(35.0)	42			底1	ミガキ	ミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	少	少	少	並		外面底部黒斑	T757
103	21	SD195 最下層	T11・12	土師器 脚部		78	(31.0)	34		底12	ミガキ・マメツ	ナデ・マメツ		灰白	灰白	少	並	少	並			T760
103	22	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 皿	142		(43.0)	117		口2	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙		少	少	並		外面一部スス付着	E429
103	23	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 皿	168		(70.0)	105		口3	マメツ	マメツ・ケズリ		浅黄橙	灰白	多	並	少	並	不	口縁部細目線4条以上	F740
103	24	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 鉢	86		(23.0)			口3	ハケ→マメツ	ミガキ・マメツ		にぶい橙	にぶい橙		並	並	並			E430
103	25	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 高杯			(59.0)	34		頸12	ミガキ	ミガキ・ケズリ		灰黄褐	灰黄褐	多	並	並	並		透かし穴3残	E428
103	26	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 鉢			(87.0)	34			ミガキ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	少	並		外面赤彩	F737
103	27	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 高杯			(36.0)				ミガキ	ハケ		赤	灰白		少	少	並		外面赤彩・直線文・鋸形文・斜線文	F736
103	28	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 小壺	90	22	(89.0)	80	95	口1	ハケ・ナデ・マメツ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少	少		内面工具痕	F739
103	29	SD197下層 最下層部	S12・11	土師器 皿	ツマミ 31		(39.0)			ツマミ 12	ハケ・ナデ	ナデ・ハケ		浅黄橙	浅黄橙		多	少	少			F735
103	30	SD197下層	T12	土師器 皿	178		(73.0)	154		口7	ハケ後ナデ	ナデ・ケズリ		橙	浅黄橙		並	少	並		口縁部細目線7条	Q64
103	31	SD197下層	U11・10	土師器 皿	192		(67.0)	166		口1 以下	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ→ケズリ		浅黄橙	浅黄橙	多	多		少		口縁部細目線7条 外面スス付着	Q69
103	32	SD197下層	U11・10	土師器 皿	177		(51.0)	142		口2	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ→ケズリ		浅黄橙	橙	少	並	少	不		口縁部細目線8条 外面スス付着	Q68
103	33	SD197下層	U11・12	土師器 皿	203		(51.0)	174		口2	ナデ・ハケ	ハケ		浅黄橙	にぶい橙	並	多	少	多			Q67
103	34	SD197下層	T12	土師器 皿	147		(106.0)	135		口6	ハケ後ナデ	ナデ・ケズリ		明赤褐	橙	並	並	並	少		SD195下層・最下層部 S12・11と接合、外面スス付着	Q70
103	35	SD197下層	T12	土師器 皿	130		(45.0)	110		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		多	少	少		外面スス付着	E418
103	36	SD197下層	U11・12	土師器 皿	151		(57.0)	136		口1 以下	ハケ後ナデ	ハケ・ケズリ		にぶい黄橙	浅黄橙	並	少	少	少		外面一部スス付着	Q66
103	37	SD197下層	T11・12	土師器 底部		42	(42.0)			底12	ハケ・ミガキ	ケズリ		にぶい黄橙	黄灰	並	並	少	並		外面底部黒斑	Q65
103	38	SD197下層	T12	土師器 底部		57	(25.0)			底12	ハケ後ナデ	ハケ		赤橙	黒	少	多	並	並		内面黒斑、外面スス付着	Q54
103	39	SD197下層	T12	土師器 皿	127		(62.0)	108	122	口1 以下	ハケ後ナデ	ナデ・ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	多	少		外面スス付着	Q55
104	1	SD197下層	T12・13	土師器 皿			(49.0)	94		頸4	ミガキ・ハケ	ミガキ・ケズリ		褐灰	にぶい黄橙		並	並	少		外面格子文	E422

第12表 09土器・陶磁器・土製品観察表（4）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測No.
104	2	SD195下層	T12	土師器 坏			(38.0)			頸1以下	ミガキ	ミガキ		橙	赤橙		少	少		並	内外面赤彩、外面キザミ	E441
104	3	SD195下層	T11・12	土師器 坏	98		(50.0)	68		頸12	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ		浅黄	浅黄		多	少	多	並		E419
104	4	SD195下層	T11・12	土師器 底部		29	(51.0)			底6	ナデ	ケズリ・ハケ		にぶい橙	灰		並	並	少	並	外面スス付着	E421
104	5	SD195下層	U11・12	土師器 高杯	214		(74.0)			口3	ミガキ・マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙	少	少		多	並	SD195(グループC・D)U11・12、SD195-1層と接合	M336
104	6	SD195下層	T11・12	土師器 高杯			(71.0)	36		頸12	ミガキ	ハケ		黄橙	浅黄橙		並	並	並	並	杯部内面スス付着 透かし穴3残	E423
104	7	SD195下層	S・T12	土師器 高杯		131	(66.0)	40		底7	ミガキ	ケズリ		灰白	灰黄		少	少		並	透かし穴2残	E424
104	8	SD195下層	T11・12	土師器 器台	144		(33.0)			口1	ナデ・ミガキ	ミガキ		橙	橙		並	少	少	並	口縁部外面棒状浮文2残	Q61
104	9	SD195下層	T12	土師器 蓋		149	(31.0)			底1	ミガキ	ミガキ		赤	にぶい橙		並	少		並	内外面赤彩 口縁部スス付着	Q62
104	10	SD195下層	D9・T11	土師器 器台	86	104	71.0	35		底9	ミガキ	ハクリ		橙	橙		多	並	多	並	透かし穴3残	E425
104	11	SD195下層	T11・12	土師器 蓋	ツマミ30		(30.0)	22		頸12	マメツ	マメツ		灰黄褐	にぶい黄橙		多	並	多	並		E417
104	12	SD195下層	T12	土師器 蓋	ツマミ32		(52.0)			ツマミ12	ミガキ・マメツ・ハクリ	ハケ・マメツ・ハクリ		橙	橙	少	並	少	並	並		Q55
104	13	SD195下層	T11・12	土師器 鉢	155		(82.0)		165	口3	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並	少	少	並	SD195最下層T11、SD195下層・最下層間S12・11と接合	Q69
104	14	SD195下層	T11・12	土師器 有孔鉢		26	(24.0)			底12	ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		少	並	孔径9mm	E416
104	15	SD195下層	T12	土師器 台付鉢カ			(34.0)	66		頸12	ハケ	ミガキ・ナデ		灰白	灰	多	多		少	並		Q67
104	16	SD195下層	T11・12	土師器 小甕	116		(64.0)	108	116	口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		淡黄	浅黄		並		多	並		E420
104	17	SD195下層	U11・12	土師器 小甕	96		(45.0)	84	88	口1以下	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙	浅黄橙	少	並	少	少	並		Q65
104	18	SD195下層	T11・12	土師器 小坏	103		(49.0)	84	88	口2	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ		にぶい橙	にぶい橙		少	少	少	並		Q60
104	19	SD195中層	T11・12	土師器 甕	138		(48.0)	118		口2	ナデ	ナデ		にぶい橙	灰白		多		並	並	口縁部擬凹線	E393
104	20	SD195上層・中層	T11・12	土師器 甕	188		(70.0)	151		口1以下	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ・ケズリ		にぶい黄橙	浅黄橙	多	多		多	並	口縁部擬凹線5条	E399
104	21	SD195上層・中層	T11・12	土師器 甕	129		(92.0)	104	140	口3	ハケ	ハケ後ナデ		にぶい赤橙	浅黄橙	少	少	少	少	並	外面スス付着	Q63
104	22	SD195上層・中層	T11・12	土師器 甕	160		(53.0)	130		口2	マメツ・ハケ	マメツ		灰白	褐灰		多	少	多	並	内外面黒斑	E397
104	23	SD195上層・中層	T11	土師器 坏	125		(53.0)	84		口5	ナデ	ミガキ・ナデ・ハケ		浅黄橙	黒褐		並	少	並	並		F736
104	24	SD195上層・中層	T11・12	土師器 装飾器台			(44.0)				ミガキ・ナデ・ケズリ	ハケ後ミガキ		にぶい橙	にぶい橙	少	並			並	窓1残	E398
104	25	SD195上層	T11	土師器 坏			(24.0)				ハケ・ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	多	並	外面格子文・スス付着、SD195最下層(T11・12)と同一物	F696
104	26	SD195上層	T11	土製品 土錘	45	16								淡黄	淡黄		並			並	孔径5mm、重さ12.73g	F694
104	27	SD195上層	U11・12	土師器 甕	218		(55.0)	190		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	浅黄橙	少	多	少	多	並	口縁部擬凹線10条	F702
104	28	SD195上層	T11・12	土師器 甕	129		(49.0)	108		口3	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	並	少	少	並	口縁部擬凹線	F697
104	29	SD195上層	U11・12	土師器 甕	159		(80.0)	129		口3	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白		多	少	少	並	外面スス付着	F701
104	30	SD195上層	T11	土師器 小甕	118		(50.0)	102	113	口1	ハケ・ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		灰白	灰白	少	多		少	並		F695
104	31	SD195上層	T11・12	土師器 坏	(142)		(70.0)	89		口2	ミガキ	ミガキ・ケズリ・ハクリ		にぶい橙	灰白		少	少	少	並		F685
104	32	SD195上層	U11・12	土師器 装飾器台			(60.0)			口1	ミガキ・ハクリ	ミガキ・ハクリ		にぶい黄橙	灰白		並	少	少	並	窓2残	F700
104	33	SD195上層	T11・12	土師器 装飾器台			(38.0)							浅黄橙	浅黄橙		少	少	少	並	窓1残	F686
104	34	SD195上層	U11・12	土師器 器台			(38.0)				ミガキ	ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	並		少	並		F699
104	35	SD195上層	U11・12	土師器 器台	98		(66.0)	31		口7	ミガキ	ミガキ・ナデ		暗黄褐	暗黄褐		少	並	少	並	透かし穴4残	F698
104	36	SD195上層	U11・12	土師器 小型土器			(35.0)	80	86		ミガキ	ナデ・ミガキ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少		少	並		F687
104	37	SD195上層	T11・12	土師器 鍋カ	(170)		(20.0)			口1	ナデ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並		少	並		F688
104	38	SD195	U11・12	土師器 甕	157		(48.0)	134		口3	ナデ・ハクリ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	多	並	少	少	並	口縁部内面スス付着 口縁部擬凹線8条	F689
104	39	SD195	S・T12	土師器 坏			(39.0)				ミガキ	ミガキ		赤	赤		少		少	並	内外面赤彩 外面沈線文・斜線文	F691
104	40	SD195	S・T12	土師器 蓋	ツマミ4	125	54.0			口1以下	ミガキ	ミガキ・ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	並	並	並		F692
104	41	SD195	U10・11	須恵器 瓶		108	(50.0)			底4	ケズリ	ナデ・ハクリ		灰白	灰白	少	並			並		F690
105	1	SD195 1層	U11・12	土師器 甕	168		(52.0)	139		口2	マメツ・ハクリ	マメツ・ハクリ		にぶい橙	橙	多	多	少	多	並		E391
105	2	SD195 1層	U11・12	土師器 坏			(40.0)	70			ケズリ・ナデ・ミガキ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		少	並		F693
105	3	SD195 1層	U11・12	土師器 底部		62	(56.0)			底11	ミガキ	ハケ		にぶい橙	灰		多	少	少	並		E394
105	4	SD195 1層	U11・12	土師器 高杯		166	(67.0)			底1	ミガキ	ハケメ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少	少	並		E390
105	5	SD195 1層	U11・12	土師器 器台		104	(64.0)	30		底4	ミガキ	ケズリ・ナデ		灰白	にぶい黄橙	少	並		多	並	透かし穴1残	E392
105	6	SD195 グループA	U11・12	土師器 坏	214		(80.0)	142		口3	ナデ・ハケ	ナデ・マメツ・ハクリ		にぶい橙	にぶい橙	少	少		少	並		M329
105	7	SD195 グループA	U11・12	土師器 器台カ		98	(37.0)			底3	ハケ	マメツ		にぶい橙	浅黄橙		並		少	並	透かし穴1残	M328
105	8	SD195 グループC	U11・12	土師器 器台	180		(56.0)			口3	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		橙	橙		多			並		M330
105	9	SD195 グループD	U11・12	土師器 甕	236		(52.0)	224		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		橙	橙	少	少		少	並	口縁部擬凹線6条・スス付着、SD195グループCと接合	M327
105	10	SD195西肩	S12	土師器 坏	192		(64.0)	140		口1	ナデ・マメツ	マメツ		淡橙	淡橙		少	少	少	並	外面スス付着	M334
105	11	SD195西肩	S12	土師器 底部		52	(43.0)			底12	ハケ・マメツ	ハケ・マメツ		橙	暗灰	少	多	並	少	並	外面底部に刻印か	M333
105	12	SD195西肩	S12	土師器 坏	196		(46.0)			口2	ミガキ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少		並	内外面綾杉文、外面口縁部棒状浮文、外面赤彩	M331
105	13	SD195西肩	S12	土師器 有孔鉢		9	(22.0)			底12	マメツ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙		多		並	並	孔径4mm	M332
105	14	SD194	V11	土師器 甕	174		(53.0)	136		口3	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい橙	灰白		並		少	並		M310
105	15	SD194	U11	土師器 甕	146		(40.0)	118		口2	ナデ・ハケ・マメツ	ハケ・ケズリ・マメツ		灰白	灰白	少	少		並	並		M312
105	16	SD194		土師器 坏	132		(62.0)	100		口2	マメツ	マメツ・ナデ		にぶい橙	にぶい橙		多		多	並	口縁部擬凹線6条以上	M307
105	17	SD194	U11	土師器 坏	256		(41.0)			口1	マメツ	マメツ		灰白	灰黄褐		少	少	少	並		M311
105	18	SD194	T11	土師器 脚部		90	(43.0)	37		底3	ハクリ・マメツ	マメツ		淡赤橙	橙	少	並	多		並		M309
105	19	SD194	T11	土師器 坏	218		(30.0)			口2	ミガキ	ミガキ		灰白	灰褐		少	並		並	外面キザミ、内面沈線文・分離山形文、内外面赤彩	M305
105	20	SD194	U11	土師器 器台	90		(62.0)	41		口12	ミガキ	ミガキ		にぶい褐	にぶい褐		少	少		並	透かし穴1残	M306
105	21	SD194	T11	土師器 坏			(38.0)	60		頸12	ミガキ	ハケ・ナデ・ケズリ		灰白	褐灰		少	並		並	外面赤彩	M308

第12表　09 土器・陶磁器・土製品観察表（5）

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種類器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調（釉色調）	内面色調（素地色調）	礫	砂	針	赤	焼成	備考	実測No.
105	22	SD199暗渠	S12	土師器 杯	170		(33.0)			口1以下	ハケ	ハケ		橙	橙		少	少	少	並	口縁部内外面キザミ	M326
105	23	SD206	U・V10	須恵器 無台椀		60	(10.0)			底6	ナデ	ナデ	回転糸切り	灰	灰		少			並	内面スス付着	M325
105	24	SD210	T11	土師器 甕	184		(37.0)	150		口1	ナデ	ナデ・ケズリ		明褐灰	にぶい橙	少	並	少	少	並	口縁部擬凹線8条、外面スス付着、SD190膨らみ下層 T11と接合	M322
105	25	SD210	T11	土師器 高杯		118	(56.0)	36		底2	ミガキ・ナデ	ミガキ・ハケ		橙	橙		少	少	少	並	SD190・192間 T12と接合	M323
105	26	SD212	D18・17	土師器 杯	160		(62.0)	102		口1以下	ナデ・ハケ	ハケ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	少	多	少	並		M324
105	27	SD213東端	C18	土師器 杯	113		(53.0)	91		口2	ハケ後ナデ	マメツ		浅黄橙	橙		並	並	少	不	外面スス付着	Q44
105	28	SD213上面	C17	土師器 甕	129		(81.0)	109	130	口3	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい橙	にぶい黄橙		並	少		並	外面スス付着	Q48
105	29	SD213	C17	土師器 底部		30	(43.0)			底6	ミガキ	ハケ後ナデ	ミガキ	浅黄橙	灰白		少		少	並	外面赤彩	Q43
105	30	SD213上面	C18	土師器 高杯		124	(160.0)	41		底1	ミガキ	ナデ		橙	赤橙	少	並	並		並	透かし穴4残	Q49
105	31	SD217	C17・18	土師器 甕	153		(26.0)			口1	ハケ	ハケ		にぶい橙	にぶい橙	少	並	少	少	並		Q50
105	32	SD222	AE8	土師器 甕	164		(26.0)	136		口1	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		にぶい橙	浅黄橙	少	並	少	少	並	外面スス付着	Q45
106	1	SD214	B17・18	須恵器 杯	138		(68.0)	132		口1	ナデ	ナデ		灰白	青灰	並	並			並		Q46
106	2	SD214	B17・18	土師器 甕	177		(29.0)	151		口1	ナデ	ハケ後ナデ		にぶい黄橙	にぶい橙		少	少	少	並	外面スス付着	Q47
106	3	SD214	B17・18	土師器 把手	37	19	7.0							褐灰	褐灰		少		並	並		E408
106	4	SD214東端	B18	土師器 高杯カ 壺カ	178		(56.0)			口1以下	マメツ・ハケ	マメツ		にぶい橙	にぶい橙	少	多		多	並	内面スス付着	E415
106	5	SD214東端	B18	土師器 蓋	ツマミ36		(51.0)			ツマミ12	マメツ	マメツ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並		少	並		E414
106	6	SD214東端	B18	土師器 蓋	28		(20.0)			口12	マメツ	マメツ・ケズリ		灰白	灰白	少	並		少	並		E413
106	7	SD214東端	B18	須恵器 無台杯	118	92	31.0			底2	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	暗オリーブ灰	灰白		少			並	高松産	E411
106	8	SD214東端	B18	須恵器 無台杯	110	90	39.0			底12	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰	灰		多			並	高松産	E410
106	9	SD214東端	B18	須恵器 瓶カ			(119.0)	50		頸12	ナデ	ナデ		灰白	灰白		少			並	外面降灰、内面自然釉、末産	E412
106	10	SD214西端	B17・18	須恵器 蓋		142	(19.0)			底4	ナデ	ナデ		灰白	灰白		並			並	内面降灰、南加賀産	E405
106	11	SD214西端	B17・18	須恵器 無台杯		96	(17.0)			底12	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白		並			並	外面底部墨書有	E409
106	12	SD214西端	B17・18	須恵器 有台杯		80	(20.0)			底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰白	少	少			並	高台内墨痕（転用硯か） 高松産	E404
106	13	SD214西端	B17・18	土製品 土錘	27	33								灰白	灰白		少		少	並	孔径8mm、重さ27.45g	E406
106	14	SD214西端	B17・18	土製品 土錘	39	15								浅黄橙	浅黄橙					並	孔径5mm、重さ7.61g	E407
106	15	SD215西岸	A17・18	縄文 不明			(33.0)							にぶい黄橙	にぶい黄橙	少	多		少	並		T751
106	16	SD215	A18	弥生土器 壺			(100.0)	96		頸7	ハケ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	少	並	並	少	並	外面簾状文・直線文・波状文	T748
106	17	SD215	A18	弥生土器 壺			(89.0)	126		頸3	ハケ後ナデ・ハケ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙	並	並	少	少	並	外面直線文・波状文	T749
106	18	SD215	A18	弥生土器 壺	174		(56.0)	100		口2	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙		並	並	並	並	外面沈線文 内面沈線文・波状文	T746
106	19	SD215	A18	弥生土器 壺	174		(103.0)	100		口1	ナデ・ミガキ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		並	少		並	外面一部スス付着	T747
106	20	SD215	A18	弥生土器 底部		72	(31.0)			底12	ナデ	ナデ	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	並	並	少	少	並	外面一部黒斑	T744
106	21	SD215	A18	土師器 蓋カ	ツマミ20		(41.0)			ツマミ12	ミガキ	ナデ		灰黄	灰黄	少	並	少	少	並	外面黒斑	T745
106	22	包含層	U11・12	土師器 甕	198		(61.0)	163		口1	ナデ	ナデ・ケズリ		橙	浅黄橙	少	少			並	口縁部擬凹線8条	M351
106	23	包含層	S12・T11	土師器 杯	136		(46.0)	114		口2	ナデ・マメツ	ナデ・マメツ		橙	橙	少	並	少		並		M354
106	24	包含層	E17・18	土師器 杯	94		(43.0)	80		口2	ミガキ	ミガキ		灰白	灰白		少		少	並	内外面赤彩	M356
106	25	包含層	T11	土師器 高杯			(66.0)	48		頸12	ミガキ	ミガキ・ナデ		浅黄	灰白		少	並	並	並		T770
106	26	包含層	T11・U11	土師器 高杯	178		(67.0)			口2	マメツ	マメツ		浅黄橙	浅黄橙		並	並	並	並		T769
106	27	包含層	U・V10・11	土師器 蓋	ツマミ51		(42.0)	40		ツマミ3	ナデ	ハケ後ナデ		浅黄橙	浅黄橙		少	少	少	並		M355
106	28	包含層	C17・18	土師器 小型土器		49	(44.0)			底12	ナデ・ハケ	ナデ		浅黄橙	浅黄橙		少		少	並		M352
106	29	包含層	A17・18	須恵器 蓋	ツマミ26		(26.0)			ツマミ12				灰	灰		少			並	末産	E432
106	30	包含層 遺構直上	T11	須恵器 蓋		122	(22.0)			底2	ナデ	ナデ		灰白	灰白	少	少			並	高松産	T764
106	31	包含層	A17・18	須恵器 有台杯		70	(36.0)			底1	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	少	並			並	高松産	E434
106	32	包含層 遺構直上	U11・12	須恵器 有台杯		72	(40.0)			底2	ナデ	ナデ	ナデ	褐灰	灰褐	少	多			並	高松産	T767
106	33	包含層	U10・11	須恵器 有台杯		68	(19.0)			底4	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰		多			並	高松産	E433
106	34	包含層	A17・18	須恵器 無台杯	134	70	34.0			口1	ナデ	ナデ	ヘラ切り後ナデ	灰白	灰白	少	並			並	高松産	T765
106	35	包含層 遺構直上	U11・12	須恵器 瓶カ		84	(69.0)			底2	ナデ	ナデ	ナデ	灰	灰	少	少			並		T766
106	36	包含層	B17・18	須恵器 瓶		83	(100.0)		138	底5	タタキ後ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	多			並	南加賀産	T768
106	37	包含層	T11	土師器 有台椀		64	(21.0)			底12	ナデ	マメツ	回転糸切り	にぶい黄橙	にぶい黄橙		少	少		並	末産	M353
106	38	包含層	B17・18	磁器 碗カ		54	(21.0)			底12				青磁釉	オリーブ灰	少				並	漆継ぎ、見込型押し 中国青磁	Q74
106	39	包含層	T11・12	土製品 土錘	66	40								浅黄	浅黄		並			並	孔径13mm、重さ91g	E439
106	40	包含層	Z17・18	土製品 土錘	42	30								浅黄橙	淡赤橙		少	少		並	孔径11mm、重さ30.79g	E438
106	41	包含層	B17・18	土製品 土錘	32	30								にぶい黄橙	にぶい黄橙		少		並	並	孔径11mm、重さ20.51g	E440
106	42	包含層	S12・T11	土製品 土錘	36	15								灰黄褐	灰黄褐		少			並	孔径5mm、重さ9g	M357
106	43	包含層	U10・11	土製品 土錘	30	13								にぶい橙	にぶい橙	少	並			並	孔径5mm、重さ3.5g	M358

第13表　09木製品観察表

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	種別	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	樹種	木取	備考	実測No.
107	1	P765	S12	柱ヵ	(505)	72	60.0	針			N75
107	2	P882	C18	舟形	(185)	44	17.0	広	辺材	未製品ヵ	N77
107	3	P900	B18	柱根	(230)	126	100.0	針			N76
107	4	P904	B18	柱ヵ	(376)	(90)	(98.0)	針	芯持		T699
107	5	P930		板状	(627)	283	75.0	針	板目		F733
107	6	SK122	AE8	部材	(370)	31	24.0	針	辺材		F616
107	7	SD195 最深部		杭	644	126	32.0	針	辺材	杉	F734
107	8	SD195 最深部		杭	684	111	32.0	針	柾目	桧	T758

第14表　09石製品観察表

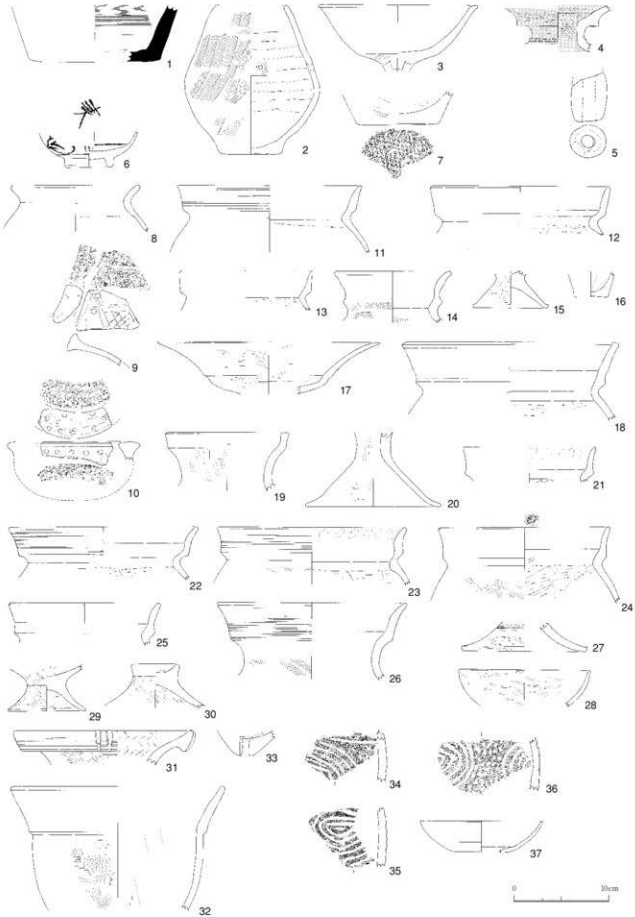
（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	器種	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	重量(g)	色調	備考	実測No.
108	1	SD195下層 畦7より南	T12	石鏃	43	18	5.0	2.32	浅黄		T759
108	2	包含層 遺構直上	B17・18	石鏃	46	9	4.0	1.74	灰		F741
108	3	包含層	A17・18	石鏃	(42)	10	5.0	2.50	灰		M350
108	4	SD195 最下層	T11	管玉	17	6		1.20	明緑灰	孔径2.5mm	T755
108	5	包含層	B18	管玉 未製品	11	5	5.0	0.50	緑灰		E435
108	6	SK116	A18	未製品	10	6	4.7	0.39	緑灰		Q13
108	7	SD213 上面	C18	石核	65	37	12.0	20.42	灰		Q51
108	8	P888	C18	剥片	17	20	13.0	4.00	緑灰		M285
108	9	SK116	A18	剥片	12	8	7.0	0.58	緑灰		Q12
108	10	SD195 1層	U11・12	剥片	36	24	9.0	7.21	灰		E395
108	11	包含層	22-F17・18	剥片	21	39	4.0	3.73	灰		E431
108	12	包含層	C17・18	剥片	35	32	18.0	14.58	緑灰		F745
108	13	包含層	B17・18	剥片	35	31	16.0	14.70	オリーブ灰		F744
108	14	包含層	C17・18	石核	31	21	14.0	7.00	緑灰		M359
108	15	包含層	C17・18	剥片	34	20	13.0	8.77	オリーブ灰		T771
108	16	包含層	D17・18	剥片	37	19	9.0	6.21	緑灰		F746
108	17	包含層	A17・18	剥片	42	35	14.0	18.88	明緑灰		F742
108	18	包含層	U11・12	剥片	22	12	11.0	2.95	明緑灰		F747
108	19	包含層 遺構直上	U11・12	剥片	26	10	10.0	2.42	明緑灰		F748
108	20	包含層	A17・18	剥片	18	24	10.0	7.11	明緑灰		E437
108	21	SD195下層 (SD192)	T11	不明	40	33	32.0	65.50	灰		E427
108	22	SD195 最下層	T11	不明	15	10	3.0	1.08	明緑灰		T754
109	1	SD195 1層	U11・12	石錘ヵ	98	49	57.0	355.00	明黄褐		E396
109	2	P888	C18	砥石	(52)	51	28.0	111.92	灰白	砥面4ヵ所	M284
109	3	SD192 テラス	S12	砥石	(94)	80	46.0	714.00	灰		E389
109	4	SD195 グループC	U11・12	砥石ヵ	84	80	31.0	330.00	明オリーブ灰		M335
109	5	SD195 下層	T12	砥石	(48)	43	11.5	30.65	灰白		T762
109	6	SD213	C18	砥石	(37)	(65)	(38.0)	72.78	黄灰		Q52
109	7	SD216	ZZA17・18	砥石	100	51	76.0	565.00	灰白		T750
109	8	SD195 下層	T12	敲石ヵ	(61)	(39)	24.0	109.21	灰白		T763
109	9	SD192(K)	T12	敲石	(47)	63	31.0	120.00	灰黄褐		Q29
109	10	SE08	D18	敲石ヵ	(71)	73	46.0	300.00	灰		F657
109	11	SE08 上層	D17	すり石	104	73	45.0	540.00	にぶい黄橙		F653
109	12	SD192(E)	S12	すり石ヵ	70	75	64.0	330.00	灰白		F663
109	13	SD190・192間		すり石ヵ	103	85	71.0	1130.00	明オリーブ灰	畦6より南	T731
109	14	SD191 畦	S12	凹石	(88)	(81)	64.0	586.00	灰		M303
109	15	SD217	C17・18	凹石	122	83	58.0	715.00	灰赤		Q53
109	16	SD190	T12	凹石	168	165	55.0	2800.00	灰白		N98

第15表　10石製品観察表

（単位：mm）

図版No.	No.	遺構	地区	器種	口(長)	底(幅)	高(厚・径)	重量(g)	色調	備考	実測No.
108	23	SD260	11区	石鏃	24	18	3.0	1.22	黄灰		F718
108	24	SD261	11区	剥片	22	15	2.0	0.80	明緑灰		M318
108	25	SD247ヵ	10区	剥片	42	29	9.0	10.70	暗灰		E403
108	26	P951ヵ	9区	剥片	27	31	24.0	29.37	明オリーブ灰		F704
109	18	SD260	11区	打製石斧	(126)	(88)	35.0	560.00	灰白		F711
109	19	遺構外	14区	打製石斧	(84)	(64)	25.0	200.00	灰白		F707
109	20	SD260	11区	砥石	(60)	(31)	(34.0)	61.53	灰		F717



第110図　P955（1）、SK135（2）、SK145（3）、SD238（4・5）、SD241（6）、SD250（7）、SD257（8）、SD260（9～17）、SD260B（18）、SD260西側（19・20）、SD260南（21～30）、SD261（31・32）、SD262（33）、SX10（34・35）、遺構外（36・37）出土遺物（S=1/4）

第16表　10 土器・陶磁器・土製品観察表

（単位：mm）

年度	No.	遺構	地区	種類 器種	口・長	底・幅	高・厚・径	頸	胴部 最大径	遺存度	外面調整	内面調整	底部調整	外面色調 (釉色調)	内面色調 (素地色調)	礫	砂	骨	赤	焼成	備考	実測 No.
110	1	P955キ	9区	須恵器 底部		138	(60.0)			底2	ナデ	カキメ・ナデ		灰白	灰白	少	少			並		F703
110	2	SK135	5区	土師器 無頸壺	74	66	157.0		143	口1	ハケ後ナデ	ナデ		赤橙	にぶい赤褐	少	並			並	内外面スス付着、穿孔1残	Q42
110	3	SK145	11区	土師器 高杯	164		(71.0)			口1 以下	ミガキ・マメツ	マメツ		橙	橙	少	並	少	多	不		Q41
110	4	SD238 周辺	10区	土師器 壺			(49.0)	54		頸6	ミガキ	ミガキ・マメツ		橙	淡橙		少	少		並	内外面赤彩・キザミ	M320
110	5	SD238 周辺	10区	土製品 土錘	38	(50)								灰白	灰白		並		少	並	孔径13mm、重さ50.97g	M321
110	6	SD241キ SD239キ SD238キ	10区	磁器 碗		49	(37.0)			底12				透明釉・染付	灰白						見込ハリ目3・圏線1条	E402
110	7	SD250	10区	縄文 底部		80	(35.0)			底4	条痕	ケズリカ	網代痕	橙	明褐灰	少	並	多		並		M319
110	8	SD257キ	11区	土師器 甕	134		(49.0)	117		口2	ハクリ	ハクリ		にぶい黄橙	灰白	多	多		多	並	外面スス付着	E401
110	9	SD260	11区	土師器 手あぶり	70		(35.0)				ナデ	マメツ		淡黄橙	淡黄橙	並	少	少	並	並	F716と同一か 外面線刻・竹管文	F715
110	10	SD260	11区	土師器 手あぶり	70		(25.0)							灰白	灰白	少	並	少	並	並	F715と同一か 竹管文、外面黒斑	F716
110	11	SD260	11区	土師器 甕	192		(71.0)	169		口3	ナデ・ハクリ	ハクリ		にぶい橙	橙	並	多	少	少	並	口縁部擬凹線6条以上 外面黒斑	F719
110	12	SD260	11区	土師器 甕	186		(52.0)	164		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙	少	並	少	少	並	外面スス付着	F708
110	13	SD260	11区	土師器 甕	138		(42.0)	125		口2	ナデ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	にぶい橙		並	少	少	並	外面スス付着	F712
110	14	SD260	11区	土師器 壺	120		(54.0)	95		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		灰白	灰白	並	並	少	少	並	内面黒斑	F714
110	15	SD260	11区	土師器 脚部		77	(34.0)	30		底4	ミガキ	ナデ		灰白	灰白		並	少	少	並	甑に転用か	F713
110	16	SD260	11区	土師器 ミニチュア		36	(28.0)			底12	ナデ	ケズリ・ハクリ		灰白	灰白		多		少	並	外面黒斑	F710
110	17	SD260	11区	土師器 高杯	234		(55.0)			口1	ミガキ・ハクリ	ミガキ・ハクリ		灰白	灰白		並		並	並		F709
110	18	SD260B	11区	土師器 甕	220		(82.0)	185		口1	ナデ・ハクリ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白	少	多		少	並		F722
110	19	SD260 西側	11区	土師器 壺	120		(62.0)	95		口2	ナデ・ミガキ	ナデ		灰白	灰白	少	並		少	並		F721
110	20	SD260 西側	11区	土師器 脚部		143	(78.0)	36		底1	ミガキ	ナデ		にぶい橙	浅黄橙		少	少	少	並		F720
110	21	SD260南	11区	土師器 甕	137		(38.0)			口2	ナデ	ナデ・ハケ		灰白	灰白	少	並	少	少	並	外面スス付着、内面黒斑	F725
110	22	SD260南	11区	土師器 甕	198		(57.0)	160		口2	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		浅黄橙	浅黄橙		多		並	並	口縁部擬凹線7条 外面スス付着	F732
110	23	SD260南	11区	土師器 甕	196		(56.0)	180		口6	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい黄橙	褐灰		並	少	少	並	口縁部擬凹線4~5条 内外面黒斑、外面スス付着	F726
110	24	SD260南	11区	土師器 甕	178		(80.0)	163		口4	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		灰白	灰白	少	並	少	並	並	内面指圧痕	F729
110	25	SD260南	11区	土師器 甕	156		(45.0)			口2	ナデ	ナデ		褐灰	灰白		少		少	並	外面スス付着	F731
110	26	SD260南	11区	土師器 壺	198		(81.0)	142		口3	ナデ・ハケ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	並	並	少		並	口縁部黒斑 口縁部擬凹線7~10条	F723
110	27	SD260南	11区	土師器 脚部		130	(30.0)			底1	ミガキ	ナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙		少		少	並	外面キザミ	F724
110	28	SD260南	11区	土師器 鉢	137		(39.0)			口3	ミガキ	ミガキ		灰白	灰白		少	少		並		F728
110	29	SD260南	11区	土師器 台付鉢		81	(49.0)	41		底5	ミガキ	ミガキ		灰白	灰白		並	並		並		F730
110	30	SD260南	11区	土師器 蓋	ツマミ 47		(46.0)	47		ツマミ 10	ミガキ	ミガキ		浅黄橙	浅黄橙		少	少	少	並		F727
110	31	SD261	11区	土師器 壺	184		(36.0)			口2	ハケ・ミガキ	マメツ		橙	にぶい橙	少	少		少	並	口縁部内面キザミ 口縁部外面棒状浮文2残	M317
110	32	SD261	11区	土師器 鉢	222		(131.0)	180		口1	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ		にぶい橙	浅黄橙	少	並		少	並		M316
110	33	SD262	11区	土師器 有孔鉢		12	(26.0)			底12	マメツ	ケズリ		橙	橙	並	多		多	並	孔径9mm	E400
110	34	SX10	5区	縄文 不明			(46.0)							浅黄橙	黒褐	並	並			並	内面スス付着、外面沈線文	Q39
110	35	SX10	5区	縄文 不明			(63.0)							浅黄橙	灰黄		並			並	外面スス付着・沈線文	Q40
110	36	遺構外 検出時	5区	縄文 鉢			(54.0)							褐灰	にぶい黄橙		並			並	外面沈線文・刺突文	F705
110	37	遺構外	11区	土師器 無台椀	128	60	33.0			口3	ナデ	ナデ	ナデ	灰白	灰白	少	少		少	並		F706

第５章　自然科学分析

第１節　直江遺跡群出土木製品の樹種

１．試料

試料は、古墳時代中期（５世紀）の横杵１点と井戸枠３点の合計４点である。このうち、横杵は身と柄の２点の部品で構成されている。また、井戸枠２には井戸枠本体に付属材が２点ある。各部品ごとに樹種同定を実施するため、合計点数は７点である。

２．分析方法

各木製品を観察し、端部等の目立たない場所から剃刀を使って木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の徒手切片を直接採取する。試料番号4,5,7の３点については、接合部品があるため、遺物表面に採取痕を残さないために接合面内から木片をブロックで採取し、木片から３断面の切片を作成する。切片はガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、各樹種の木材組織の配列の特徴については、林（1991）、伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

３．結果

樹種同定結果を表１に示す。木製品は、横杵の身が常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属、他は全て針葉樹のスギに同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

表１　直江遺跡群の樹種同定結果

番号	遺物名	部位	備考
1	横杵	身	コナラ属アカガシ亜属
2	横杵	柄	スギ　第61図1
3	井戸枠1	本体	スギ　第65図1
4	井戸枠2	本体	スギ　第67図2
5	井戸枠2	付属材	スギ　第67図2
6	井戸枠3	本体	スギ　第68図2
7	井戸枠2	付属材	スギ　第67図1

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

・コナラ属アカガシ亜属（*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*）　ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

引用文献

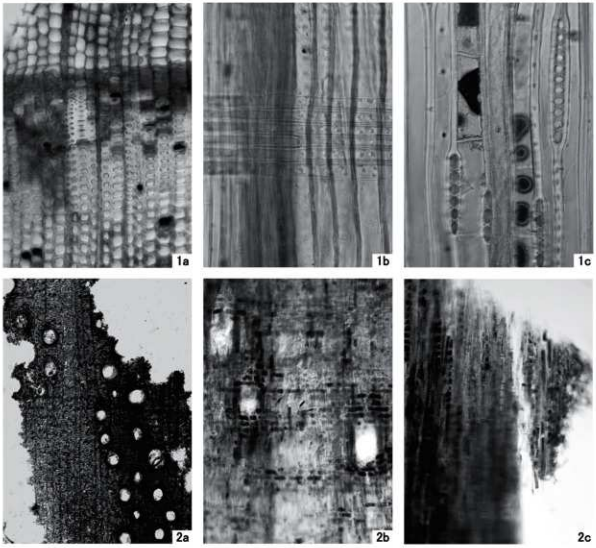
林　昭三，1991，日本産木材　顕微鏡写真集．京都大学木質科学研究所．

伊東　隆夫，1995，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ．木材研究・資料，31，京都大学木質科学研究所，81-181．

伊東　隆夫，1996，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ．木材研究・資料，32，京都大学木質科学研究所，66-176．

伊東　隆夫，1997，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ．木材研究・資料，33，京都大学木質科学研究所，83-201.
伊東　隆夫，1998，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ．木材研究・資料，34，京都大学木質科学研究所，30-166.
伊東　隆夫，1999，日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ．木材研究・資料，35，京都大学木質科学研究所，47-216.
Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E.（編），2006，針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東　隆夫・藤井　智之・佐野　雄三・安部　久・内海　泰弘（日本語版監修），海青社，70p.［Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E.（2004）*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*］.
島地　謙・伊東　隆夫，1982，図説木材組織．地球社，176p.
Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E.（編），1998，広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト．伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩（日本語版監修），海青社，122p.［Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

図版 1　直江遺跡群の木材



1. スギ(試料番号2)
2. コナラ属アカガシ亜属(試料番号1;身)
　a：木口，b：柾目，c：板目

300 μm:2a
200 μm:1a,2b,c
100 μm:1b,c

第２節　鳥帽子および漆器皿の塗膜分析

藤根　久・竹原弘展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

金沢市直江遺跡群は、金沢市直江町地内に所在する縄文時代～中世にかけての遺跡である。調査では、直江北遺跡の 13 世紀頃の土坑から烏帽子（第 92 図 32）、直江中遺跡の 13～14 世紀頃の井戸から漆器皿（金沢市文化財紀要 266『直江中遺跡』第 27 図 191）が出土した。

ここでは、烏帽子および漆器皿の塗膜薄片を作製し光学顕微鏡による塗膜構造の観察、赤外分光分析による漆の確認、元素分析を行った。なお、漆器皿の木胎は、樹種同定を行っている（樹種同定の項を参照）。

２．試料と方法

試料は、直江北遺跡 SK92 から出土した烏帽子と直江中遺跡 SE10 から出土した漆器皿の各１試料である（表１）。なお、烏帽子は、直交する２断面について観察した。試料は、製品から直接２㎜角程度の塗膜部分を採取し、エポキシ樹脂で包埋し厚さ 20μm 前後の塗膜薄片を作製した。塗膜薄片は、光学顕微鏡による観察とＸ線分析を行った。また、塗膜の一部を用いて赤外分光分析を行い漆かどうかの確認を行った。

表１　塗膜分析を行った漆器と分析の詳細

試料№	遺跡名	地区	遺構	器種	木取り	樹種	法量（㎜）	年代	備考
1	直江北遺跡	仮水北	SK92	烏帽子	－	－	長さ 240×幅 200×厚さ 1-3	13 世紀頃	
2	直江中遺跡	東側	SE10	漆器皿	横木取り	トチノキ	口径 90×器高 16	13・14 世紀頃	轆轤目あり

Ｘ線分析は、走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900 LV、以後 SEM）による反射電子像の観察および付属するエネルギー分散型Ｘ線分析装置（同 JED-2200）による定性・簡易定量分析を行った。なお、測定した元素は、炭素（C）、アルミニウム（Al）、ケイ素（Si）、硫黄（S）、塩素（Cl）、カリウム（K）、カルシウム（Ca）、鉄（Fe）である。

赤外分光分析は、手術用メスなどを用いて 0.2㎜角程度を薄く削り取った後、押しつぶして厚さ１㎜程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に挟んで、油圧プレス器を用いて約７トンで加圧整形した。測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光㈱製 FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。

３．結果

以下に、烏帽子および漆器皿の塗膜薄片の光学顕微鏡観察による塗膜構造、Ｘ線分析結果、赤外分光分析結果について述べる。

№ 1a：烏帽子（a 断面）

繊維部分は欠落し、繊維の周辺部に相当する部分は黒色層が見られた。塗膜層は c1～c3 の３層である。塗膜 c1 層および c3 層は透明の明黄褐色を呈し、c2 層はやや濁りが見られた（図版 1）。Ｘ線分析では、炭素（C）の含有量がやや高い（図版 2、表 2）。塗膜 c3 層の赤外分光分析では漆成分のウルシオールが確認された（図 1）。

№ 1b：烏帽子（b 断面）

a 断面同様、繊維部分は欠落していた。塗膜層は c1～c3 の３層である。塗膜 c1 層および c3 層は透明の明黄褐色を呈し、c2 層はやや濁りが見られた（図版 1）。Ｘ線分析では、炭素（C）の含有量

がやや高い。なお、繊維部のa層はケイ素（Si）が多く含まれていたが、混入した土成分と考えられる（図版2、表2）。

№2：漆器皿

塗膜構造は、木胎（a層：トチノキ）、下地（b層）、塗膜（c1層・c2層）である。下地は、4μm以下の黒色粒子からなる炭粉であった。塗膜c1層は透明の明黄褐色を呈し、c2層は透明の赤褐色を呈する。塗膜c3層の赤外分光分析では漆成分のウルシオールが確認された（図1）。X線分析では、c1層において鉄（FeO）が16.93%、カルシウム（CaO）が4.02%であった。また、c2層において鉄（FeO）が20.35%、カルシウム（CaO）が2.04%であった（図版2、表2）。

表2　烏帽子および漆器皿の点分析結果（単位：%）

試料№	対象位置	ポイント	C	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	Cl	K_2O	CaO	FeO	合計
1	断面a	①	95.48	1.51	0.84	1.80	−	−	0.36	−	99.99
		②	97.18	0.74	0.89	0.92	−	−	0.27	−	100.00
		③	94.03	0.72	1.38	1.72	−	−	0.96	1.19	100.00
	断面b（断面aと直交）	①	76.60	3.50	9.07	4.54	−	−	2.20	4.09	100.00
		②	85.92	1.78	8.52	1.84	−	0.22	0.66	1.06	100.00
		③	19.39	13.27	56.35	1.04	0.48	1.09	0.81	7.57	100.00
2	内面塗膜	①	64.93	2.60	0.94	9.13	−	−	2.04	20.35	99.99
		②	70.04	3.37	0.26	5.37	−	−	4.02	16.93	99.99
		③	82.60	2.72	0.37	3.11	−	−	1.75	9.45	100.00

なお、図1に、生漆とともに、烏帽子および漆器皿の赤外吸収スペクトル図を示す。縦軸は透過率（%R）、横軸が波数（Wavenumber（cm^{-1}）；カイザー）である。なお、スペクトルは、ノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す。表3には、生漆の吸収位置とその強度を示す。

表3　生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収№	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

4．考察

烏帽子は、肉眼では黒色を呈し、平織り構造が見られた。塗膜薄片において最大130μmの厚さからなる。塗膜薄片の観察では、2断面とも繊維部分は欠落し、漆膜のみ残存していたため、素材は不明であった。c1層～c3層が観察され、ウルシオールが検出されたことから、塗膜は3層漆塗りと推定される。塗りには顔料を含まない漆が使用されていた。

一方、漆器皿の内側塗膜は黒色を呈する。塗膜薄片の観察では、最大4μm以下の炭粉を用いた下地層が認められ、c1層およびc2層が観察され、ウルシオールが検出されたことから、2層漆塗りと推定された。なお、X線分析において鉄分に若干の違いが認められた（表4）。鉄分を少量混合した黒色漆が使用されていると考えられる。

表4　烏帽子および漆器皿の塗膜構造と成分

分析№	器種	塗膜分析試料採取位置	塗膜観察および元素分析結果		
			塗膜構造	下地層	顔料等
1	烏帽子	a断面，b断面	c1層～c3層	−	なし
2	漆器皿	内側塗膜	c1層・c2層	炭粉（4μm以下）	鉄分

5．おわりに

金沢市直江遺跡群から出土した13世紀頃の烏帽子および13～14世紀頃の漆器皿について塗膜分析を行った。その結果、烏帽子は顔料を含まない漆の3層塗りであった。なお、繊維部分は欠落していたため、素材の同定はできなかった。また、漆器皿は、最大4μm以下の炭粉を用いた下地層が認められた。塗膜は2層漆塗りであり、鉄分に若干の違いが認められた。鉄分を含む黒色漆と推定される。

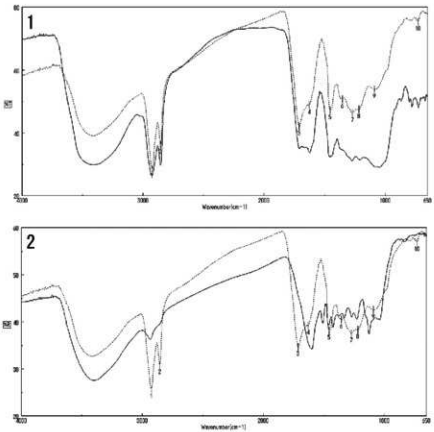
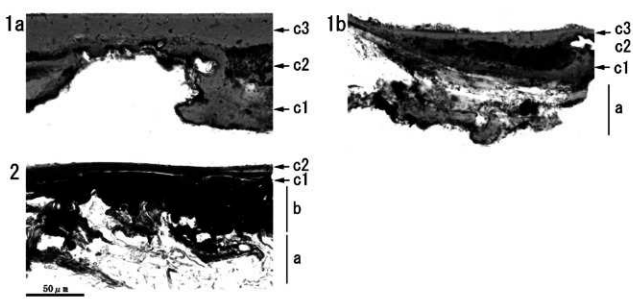
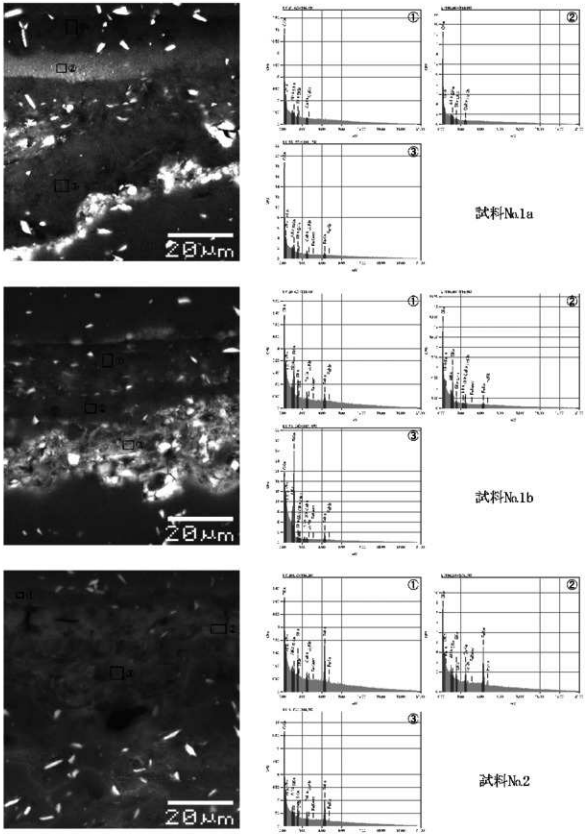


図1　烏帽子および漆器皿の塗膜の赤外分光スペクトル図（縦軸は透過率、横軸が波数を示す）
実線：試料、点線：生漆（Noは主な吸収位置）、Noは試料番号に対応する



図版1　烏帽子および漆器皿の塗膜写真と塗膜層（a：繊維または木胎，b：下地層，c：塗膜層）
1a．烏帽子（断面a）　1b．烏帽子（断面b；断面aと直交）　2.漆器皿（内側）



図版２　漆塗製品の SEM 反射電子像および X 線分析スペクトル図

第3節　木製品の樹種同定

藤根　久・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1．はじめに

ここでは、金沢市直江町地内に位置する直江中遺跡から出土した13～14世紀頃の漆器皿（金沢市文化財紀要266『直江中遺跡』第27図191）と直江北遺跡から出土した13世紀頃の木簡（第59図18）の樹種同定を行った。なお、漆器皿では塗膜分析が行われている（塗膜分析の項参照）。

2．試料と方法

木材試料は、直江中遺跡東側地区の井戸（SE10）から出土した轆轤目が顕著に残る漆器皿と直江北遺跡支線南地区の井戸（SE05）から出土した墨書痕がある木簡の各1試料である（表1）。

試料は、木取りを観察した後、木材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）について、剃刀を用いて薄い切片を直接剥ぎ取り、ガムクロラールで封入して、永久プレパラートを作製した。作製したプレパラートは、光学顕微鏡で木材組織を観察・同定した。プレパラートはパレオ・ラボで保管されている。

3．結果および考察

同定の結果、漆器皿は落葉広葉樹のトチノキ、木簡は常緑針葉樹のスギであった（表1）。

中世の漆器には、全国的にみてブナやトチノキ、ケヤキ、トネリコ属などがよく用いられることが知られている（山田，1983）。本遺跡で漆器皿に使用されていたトチノキは素材が均質なため容器の製作に適している。

スギは木理が通直で、割裂性に優れる軟質の針葉樹材であり、材を割り出して板を得るのに適している。また切削加工も容易であることから木簡に用いられたと推察される。検討をおこなった製品は材質にみあった樹種選択がなされていることが確認された。

表1　漆器および木簡の樹種同定結果

試料No	遺跡名	地区	遺構	器種	木取り	備考	樹種	年代	調査年度
2	直江中遺跡	東側	SE10	漆器皿	横木取り	口径90mm，器高16mm，塗膜分析	トチノキ	13･14世紀頃	2008年度調査
3	直江北遺跡	支線南	SE05	木簡	板目	長さ202×幅27×厚さ4mm	スギ	13世紀頃	2007年度調査

以下に、同定根拠とした材組織の特徴を記載し、材の3方向の組織写真を提示した。

(1)スギ　*Cryptomeria japonica* D.Don　スギ科　図版1　1a-1c（№3）

仮道管・放射柔細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。晩材の量が多く、晩材の仮道管の壁は極めて厚い。樹脂細胞は年輪の後半に散在する。分野壁孔は大きく、孔口が水平に大きく開いたスギ型で1分野に2個ある。

スギは、本州以南の暖帯から温帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。材は、やや軽軟で加工は容易である。

(2)トチノキ　*Aesculus turbinata* Blume　トチノキ科　図版1　2a-2c（№2）

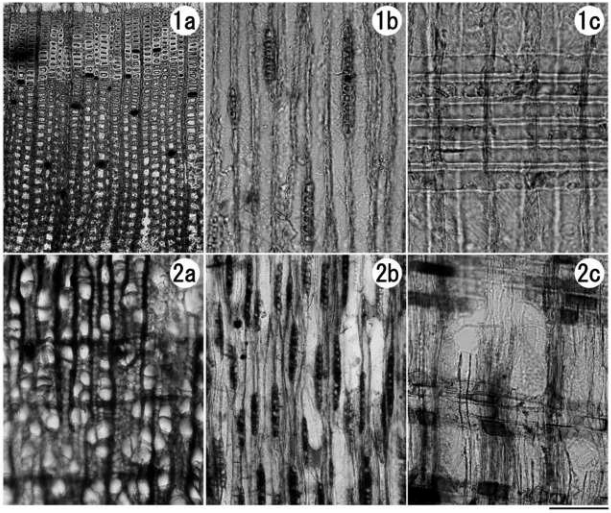
小型～中型の道管が単独または2～数個が複合して散在する散孔材である。道管の壁孔は交互状に接合して配列、せん孔は単せん孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は、同性単列、4～10細胞高、層階状に配列し、道管と放射組織の壁孔はやや大きい。

トチノキは、北海道以南の温帯の谷間に生育する落葉高木である。材は、軽軟で緻密で加工し易く、

材面は絹系光沢があり、容器などによく利用される。

引用文献

山田昌久（1983）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成―用材から見た人間・植物関係史．植生史研究特別第1号：1-242.



図版1　木製品樹種の光学顕微鏡写真（a：横断面，b：接線断面，c：放射断面）
1a-1c．スギ（№3，a：200μm，b：100μm，c：50μm）
2a-2c．トチノキ（№2，a：200μm，b：200μm，c：100μm）

第6章　総　　括

当遺跡の調査では、縄文時代晩期から鎌倉・室町時代までの遺構と遺物を確認した。本報告のまとめとして各時代の遺跡の消長と遺物の特徴について述べる。

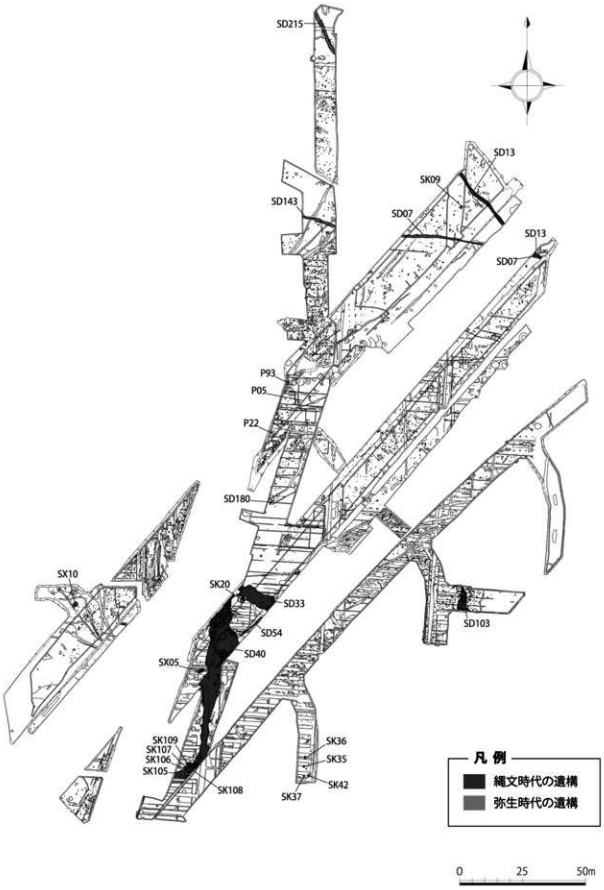
縄文時代　縄文時代の遺物が最も集中する地点はSD40及びSD33の周辺である。SD40は縄文時代晩期の段階では河川として機能しており、川底から縄文土器が出土している。河川に対して投棄したものが出土している様とみられ、特に左岸に集中する。SD33はSD40に合流する浅い溝とみられ、溝のほぼ全域から縄文土器が出土している。近辺に集落の存在が想定されるが、建物跡は確認していない。西側区及び15区、西仮溝区などを縦貫するSD13は最も東に位置する縄文時代の溝である。SD103はSD33と同様、浅く広範囲にわたり土器が出土している。

国内の縄文時代晩期の遺跡の調査で低湿地あるいは水場などから多数の遺物、特に、木製品や漆塗り製品などの出土が相次いでいるが、当遺跡ではそれらを確認していない。しかし、SD40から出土する深鉢は、主に斜め条痕文を器面に施す下野式期の遺物がほとんどで、器面の表裏に炭化物、いわゆる土器に付着する「おこげ」が当時のまま付着しており、当市中屋サワ遺跡から出土した土器の様相と酷似する。中屋サワ遺跡は縄文時代後期終末から晩期終末にかけて展開した縄文時代の集落とされており、当遺跡より存続期間が長い。この遺跡の調査でも河川跡が確認されており、土器のほとんどは炭化物が付着した状態で出土している他、木製品、漆塗り製品も豊富に出土している。両遺跡の最大の違いは河川の堆積土砂にある。中屋サワ遺跡の堆積土砂は粘性が高く、空気の遮断に適した土砂が河川上層まで累々と堆積し、植物遺体もかなりの厚さを持ち確認することができた。これに対し、当遺跡の堆積土砂はシルト質または砂質土が主体で、空気の遮断は高いものではない。このため、木製遺物など腐食に弱い遺物は失なわれていると考えられる。SD40の上層面より開口部を持つ土坑、SK107～SK109などは河川脇に設けられた土坑群で、縞状に土砂が堆積することから堅果類の処理施設と考えたい。

枝4区の南東端で検出した土坑群には縄文時代晩期の土器が出土しており、遺構の規模は当市新保本町チカモリ遺跡で発見された環状木柱列に類似する。当該期の建物については竪穴住居から竪穴を形成しない建物へと推移するとされ（布尾2013）、亀甲型に柱を配置するものや、6本柱のもの、また環状に柱を有するものなどが検討されており、SK35、SK36、SK42などは亀甲型建物あるいは環状木柱列に類する建物跡の可能性がある。（以上、谷口）

弥生時代　弥生時代の主な遺構は仮水北区SD143・1区SD215が弥生時代中期前半に属し、仮水南区のSD40左岸に位置するSK105・SK106と西側区SK09・SD07は弥生時代中期後半頃に属する。1区のSD215は遺跡の最北端に位置する溝であり、古墳時代の遺構が集中する支線区や仮水北区、中区などと比較すると海抜高がやや低い地点にあり、建物跡などは確認していない。この溝がある調査区以北で遺跡は確認されておらず、弥生時代中期の集落の様相は不明である。これらの遺構から出土した弥生時代中期の土器は古墳時代と比較するとその量はごく僅かである。金沢市内の当該期の遺跡としては中期前半が矢木ジワリ遺跡、寺中遺跡、中期後半が磯部運動公園遺跡、西念・南新保遺跡、戸水B遺跡などがある。

後期の遺構には東側区SK20、終末期には東側区SD54があるが、これら遺構の周囲にも同時期の建物跡などは確認されていない。このように弥生時代の遺構は点在するが、集落域が確認されない要因としては、①弥生時代の生活面（遺構面）が削平を受け消滅し、深い溝のみが残存した、②集落が



第 116 図　主要遺構変遷図（縄文時代・弥生時代）（S=1／1,500）

調査地点の外に展開している、などの理由が考えられる。集落域を当遺跡に隣接する鞍月運動公園や問屋団地側など未調査地点に求めて弥生時代の生活域を考えると広範囲に及ぶものと推測される。

（以上、楠・谷口）

古墳時代　古墳時代前期初頭の遺構は建物跡・溝・土坑・井戸など多岐に及び、最も多く確認している。この中で特徴的な事象として溝の南西側に建物や土坑群が展開する傾向があげられる。仮水北区のSD142及びSD140は軸を南西方向に持つ溝であり、これを境に北側は低地化している。溝の南西微高地側に建物や井戸などがあり、集落域としている。またSB21とSB26はSD140の流れに対し、建物軸をそろえており、建物の向きが溝の影響を受けている。仮水北区及び4区で建物跡と井戸状土坑・溝・ピットなどが集中しており、集落域を形成しているものと考えられる。

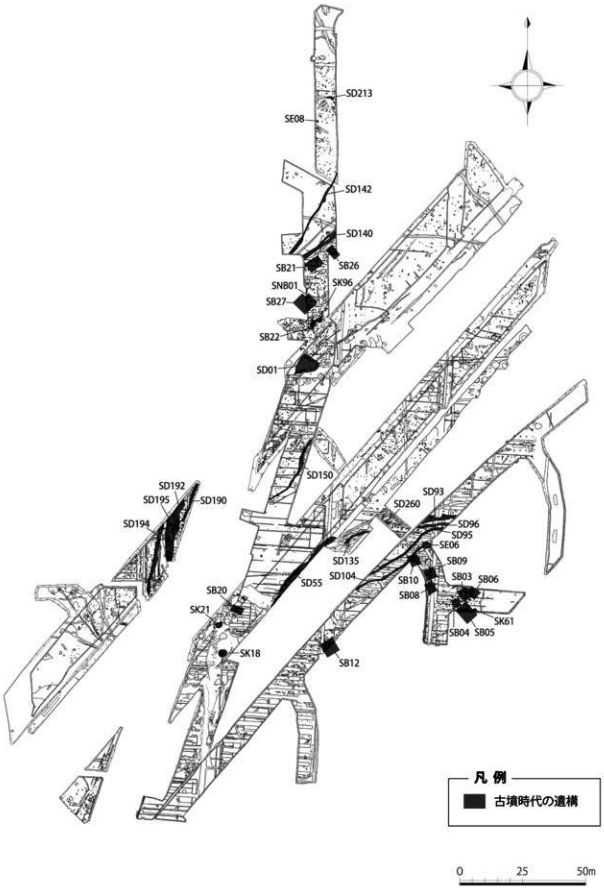
また、東側区端に位置するSD55とSD135、支線中区のSD96は大きく円弧を描くひとつの溝とみることができる。この溝の南北では遺構の量に大きな差が生じている。溝の南側にある枝2区及び3区では北西方向に軸をそろえる南北建物群がある。建物相互に切合いがあり、建替等が想定される。SB03は布掘建物でいわゆる倉庫型建物跡と考えられる。このほか、SB06やSB09などは梁桁がほぼ同じ間隔をもつ田の字に柱を配する総柱建物となっている。これにSB08やSB10などの梁が長い側柱建物が伴い、集落を構成している。また、ピットも集中し、溝や土坑からも土師器類が多く出土していることから、溝の南側に集落域が展開しているといえよう。この傾向は北に位置する4区及び仮水北区の遺構集中地点についても同様である。

2区及び6区では南北方向に流れるSD190・SD194・SD195の3条の溝がある。このうち、SD194は古墳時代前期前葉の溝で、仮水北区に位置するSD142と幅や深さが酷似しており、同一の溝とみることができる。遺跡の北側にある鞍月運動公園に溝は延伸しているとみられる。この溝群の西側には古墳時代の遺構は確認されていない。少し離れた東側区には布掘建物であるSB20や井戸状遺構のSK21もあるため、調査区間の地区に集落域が展開することが予測される。

このように古墳時代の遺構が集中する地点は概ね3箇所にあることがわかる。それぞれが独立した集落であるのか、大きな集落のうち分散して機能していたものかは定かではない。それぞれの集落には必ず溝があり、集落域が展開することが共通している。

遺物は古墳時代前期から中期までの土師器と須恵器が出土しているが、須恵器は極少量である。時期別の遺物量では、前期初頭に属する土器が多く、次いで前期前葉から中葉のものがつづき、前期後葉段階は少なくなる。前期の土器の変遷は、前期初頭から前葉は各地域から外来系土器を受容する時期であり、当遺跡でも数多く出土している。当該期は弥生時代終末期の在来土器である月影式系の甕・壺・高杯・器台類など色濃く残るが、東海系の加飾（いわゆるパレススタイル）壺、近江系の受口状口縁の甕と粗製の「く」の字状口縁甕（いわゆる長浜甕）、畿内庄内式系の甕、山陰系の甕などがある。前期前葉は在来系土器が衰退する一方で引き続き山陰系の甕・壺、東海系の加飾壺などがあるほか、畿内布留式系の甕・高杯・鉢などの精製器種が出現・定着し、前期後葉まで引き継がれる。

当遺跡の最大の特徴は加飾された壺・高杯が数多く出土（28点出土）している点である。赤彩された口縁部外面に直線文の間を斜線文・分離山形文・羽状文で施文するパレススタイルの壺に類似する文様が小型・中型高杯（杯部と脚裾部外面に施文）を主体とするほか内湾口縁長頸壺（いわゆる瓢壺）・二重口縁壺などにも採用されており、出土点数では石川県内では最多である。県内では白山市浜相川・相川新遺跡、金沢市上荒屋遺跡と南新保D遺跡などで1遺跡から複数の加飾高杯が出土しており、特定の遺跡に集中する傾向がある（安1993）。当遺跡は小型・中型高杯の例が多いことは同



第 117 図　主要遺構変遷図（古墳時代）（S=1／1,500）

様であるが、壺類にまで施文された例が少数あり特筆される。

奈良・平安時代　奈良・平安時代の遺構は古墳時代の集落域とほぼ重複する。中でも4区及び仮水北区での遺構集中地点と支線中区で遺構を数多く確認している。6区SB28・SB29・SB30の建物跡は南西に隣接するSD206の軸と平行であり、建物と区画溝との関係にあるものとみられる。また西側南区SD24は南側で直角に曲がる溝で、ほぼ方位と合致しており、SB28などの建物群を囲む目的で設けられた区画溝であろう。

このほか、1区SD214や枝3区SD110、枝4区SD73、東仮溝区SD130などは、隣接域に明確な古代の遺構は検出されていないが、東西溝あるいは南北溝であり、条里溝と推定される。

遺物は9世紀中頃から11世紀にわたる須恵器、土師器などが出土している。須恵器の生産地は高松産が多く、次いで金沢末産で占められており、少量の辰口産と南加賀産が補完している。器種からみると須恵器の食膳具は高松産が、貯蔵具類に金沢末産が多い傾向がある。墨書土器は「千」「口」「本」「諸刀自女」「□（歌か）」の5点が出土しており、当該期の遺跡では出土量は少ない。時期は9世紀中頃に属し、須恵器無台杯・盤の底部外面に記されている。なお、硯の出土は無く、転用硯（須恵器杯・杯蓋・盤など）のみである。　（以上、楠・谷口）

平安時代末・鎌倉・室町時代　当該期の遺構はそれほど多くないが、特徴的なものが定量出土している。

平安時代末から鎌倉時代初頭頃の遺構として支線北区の総柱建物SB02がある。4間×5間以上の大型総柱建物の南西3分の1を検出しているとみられる。柱穴から白磁の瓶類が出土しており、建物規模が大きいことからも、居館クラスの建物が想定される。周辺では直江ボンノシロ遺跡の川跡から同時期の白磁が出土している。また、大友西遺跡では同時期の居宅跡が見つかっている。

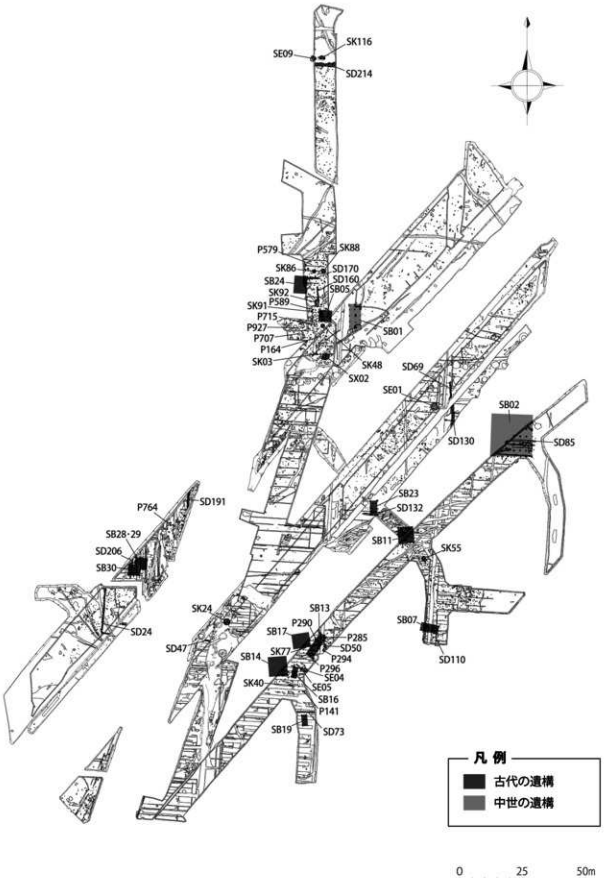
鎌倉時代の遺構として鳥帽子が出土した仮溝北区SK92がある。方形土坑であり、北側に溝が延びているが用途は不明である。鳥帽子は完形品に近く、県内では白山市ゴウデン遺跡で見つかった墓跡から出土している。また、支線中区の井戸跡SE04・SE05が鎌倉時代であり、呪符木簡が出土している。呪符木簡の墨は失われているが、墨書きの部分が盛り上がって残っている。一定期間屋外に吊り下げ、もしくは打ちつけるなどしていたのであろう。当該期には直江中遺跡で掘立柱建物と井戸、川、直江南遺跡で井戸、直江ニシヤ遺跡で井戸、直江ボンノシロ遺跡で川が見つかっており、活動の痕跡が広範囲に広がる時期である。

以上、当該期の遺構・遺物はあまり目立たないが、白磁の瓶類を伴う大型建物や鳥帽子、呪符木簡など当時の人々の営みが感じられる遺構・遺物が見つかっている。　（以上、向井）

参考文献

布尾和史 2013『北陸の縄文世界　御経塚遺跡』新泉社

安英樹 1993「北陸の有文高杯について」『松任市浜相川・相川新遺跡』石川県立埋蔵文化財センター



第 118 図　主要遺構変遷図（古代・中世）〔S=1／1,500〕